

教育 (教授法・学習指導)

Table with 12 columns: Author, Title, Format, Price, Pages, Publisher, Date, and Description. Includes entries for '河野伊三郎 學習指導法の體系' and '宇野誠一 學習合理化的原理と實際'.

教育 (修身教育)

Table with 12 columns: Author, Title, Format, Price, Pages, Publisher, Date, and Description. Includes entries for '朝日文彦 算術・理科の實地授業の準備' and '菊地秀男 綴方と地理の實地授業の準備と指導'.

國語教育

原田直茂	讀方教育の本領	布函菊 裝入判	567	四、二〇 一八	日黒書店	月六	▲讀み方教育の變遷、讀み方教育の使命、言 語の本質と其の陶冶、讀むことの意義、讀み 方指導の根柢外七章。
田村信道	使命國語教育の本義	布函菊 裝入判	384	二、二〇 二二	盛文館	月一	▲國語教育の本質的使命を説いたもので、國 語教育の趨勢、讀方教育の基調、讀方の成績 考査外十章。
田上新吉	力の讀方教育	布函菊 裝入判	644	四、五〇 二四	日黒書店	月九	▲過去二十年間に於ける著者の體験録で、意 義及び目的論、教材觀、兒童教師及び環境論 方法論の四篇。
奥野庄太郎	心理的讀方の實際	洋函菊 布入判	421	三、〇〇 一八	文化書房	月九	▲確實性のある讀方への新らしき公開で、轉 回篇、心理篇、組織篇、生活篇、實際篇の五 篇より成る。
千葉春雄	生活に即く讀み方	布函菊 裝入判	405	二、六〇 一三	厚生閣	月五	▲低學年研究の新しい狀勢、低學年の範圍、 の讀み方外七項。生活に即く讀み方、合科化 の讀み方外七項。
守屋貫秀	讀方成績考査法要領	洋函菊 布入判	412	二、五〇 一八	郁文書院	月八	▲讀方成績考査法の具體的研究で、讀方教育 の現實相、讀方成績考査法概説、各學年讀方 考査問題例等三篇。
宮川菊芳	讀方科教育問答	布函菊 裝入判	369	二、〇〇 二三	厚生閣	月二十	▲實際家の最も疑問とせる讀方科教育に就て の問題に關する解答せるもので、主として目的と本 質に關する問題外三部門に分け收む。
神保格	國語讀本の發音とアクセント —尋常一學年—	布函菊 裝入判	115	一、五〇 二二	厚生閣	月三	▲尋一國語讀本の語句に就き現代東京語の發 音とアクセント外二項。
神保格	國語讀本の發音とアクセント —尋常二學年—	布函菊 裝入判	170	一、八〇 一八	厚生閣	月四	▲尋常二學年卷三國語讀本及び卷四の各課に 互つての發音とアクセントを説述せるもので、 發音及びその表記其他。

東京文理科大学教授 神保格	國語讀本の發音とアクセント —尋常三學年—	布函菊 裝入判	195	一、九〇 一八	厚生閣	月四	▲尋三國語讀本の語句に就き現代東京語の發 音とアクセント外二項。
東京文理科大学教授 神保格	國語讀本の發音とアクセント —尋常四學年—	布函菊 裝入判	109	二、〇〇 二二	厚生閣	月六	▲尋常四學年國語讀本の語句に就き現代東京語 の發音とアクセント外二項。
東京文理科大学教授 神保格	國語讀本の發音とアクセント —尋常五學年—	布函菊 裝入判	262	二、一〇 一八	厚生閣	月五	▲尋五國語讀本の語句に就き現代東京語の發 音とアクセント外二項。
東京文理科大学教授 神保格	國語讀本の發音とアクセント —尋常六學年—	布函菊 裝入判	160	二、二〇 一八	厚生閣	月七	▲尋六國語讀本の語句に就き現代東京語の發 音とアクセント外二項。
初等教育研究會編	高等小學國語讀本文字 語句の讀方及び解釋	並菊 裝入判	377	九、五 四	培風館	月五	▲高等小學國語讀本の語句に就き現代東京語の發 音とアクセント外二項。
友納友次郎	高等小學讀本の韻文の解説と其取扱 —一般用—	洋函菊 布入判	316	二、五〇 二二	株明治圖書	月二	▲高等小學讀本の韻文に鑑賞及び取扱の方法 を説いたもので、昭憲皇太后御歌、太田道灌 海の朝外廿四課。
友納友次郎	高等小學讀本の韻文の解説と其取扱 —女子用—	洋函菊 布入判	326	二、五〇 二二	株明治圖書	月三	▲高等小學女子用讀本の韻文の解説と其取扱 を述べたもので、昭憲皇太后御歌、海の朝、 春晴千里外廿六課を收む。
小學校教材研究會	農村用讀方科教授細目 —高等科卷一—	並菊 裝入判	81	六、〇 四	廣文堂	月九	▲高一農村用讀本の各教材を時間、要旨、準 備、要項、教授上の注意及び備考に分つて細 説したものである。
小學校教材研究會	農村用讀方科教授細目 —高等科卷二—	並菊 裝入判	82	六、〇 四	廣文堂	月九	▲高二農村用讀本の各教材を時間、要旨、準 備、要項、教授上の注意及び備考に分つて細 説したものである。
小學校教材研究會	農村用讀方科教授細目 —高等科卷三—	並菊 裝入判	82	六、〇 四	廣文堂	月九	▲高三農村用讀本の各教材を時間、要旨、準 備、要項、教授上の注意及び備考に分つて細 説したものである。

教育 (綴方・書方教育)

小學校教材研究會 農村用讀方科教授細目 並 菊 82 廣 文 堂 月 九

▲高四農村用讀本の各教材を時間、要旨、準備、要項、教授上の注意及び備考に分つて細説。

綴方・書方教育

奥野庄太郎	綴方指導の原理と其實際	洋四六判	348	二、三〇	文化書房	月七	▲兒童の綴力、綴方の意義、指導の根柢、教授の實際等四章にて論述。附録英米兒童綴力文例。
川口半平	生活綴方指導の新路	布四六判	306	一、五〇	寶文館	月六	▲綴方教育の種々相、新時代の綴方教育、わが歩める道、綴方の實際問題、綴方の教授、成績の處理外二章。
千葉春雄	綴方科教育問答	布四六判	343	二、〇〇	厚生閣	月四	▲もつとも疑義とされ易い問題二百問に對し、目的、教材、方法、その他に四分して解答を與へたもの。
志垣寛	最近の文學と綴り方教育	上四六判	257	一、八〇	厚生閣	月十	▲最近文學と綴り方教育(最近文學の棟相外六章)の評價について(外五章)。
千葉春雄	綴り方教科の施設と經營	並 菊 判	361	一、九〇	厚生閣	月十	▲綴り方教育の施設と經營―富原義徳、綴り方經營―大富一五郎外四篇。
東京豊島師範 綴方研究部編	生活綴方指導の實際	洋四六判	344	二、四〇	教育實際社	月四	▲綴り方指導の原理、綴り方指導の實際の組織外二章。
東京豊島師範 綴方研究部編	生活綴方指導の實際	洋四六判	337	二、四〇	教育實際社	月四	▲綴り方指導の原理、綴り方指導の實際の組織外二章。
秋田喜三郎	課程綴方學習指導書	洋四六判	234	二、〇〇	式合資會社	月十	▲綴り方學習課程章論、綴り方學習課程の根據、綴り方學習指導の實際等外數項。

教育 (數學教育)

數學教育

成城學園副學 石井 掬	數學教育論	洋四六判	200	一、〇〇	玉川學園	月六	▲數學教育の本質と使命(數學教育の價值及び目的外二章)方法論(教材選擇の方針外一章)附數學教育講話其他。
奈良女子高等師範學校 教諭等副學 田中 太郎	小學校に於ける私の數學教育	洋四六判	423	二、九〇	明治圖書	月二	▲算術教育の目的、指導方法上の根據、實際的指導法、算術科の重要問題、幾何の創作的指導法外二章。
稻次 精一	代數の教授法及問題詳解	青四六判	399	一、九〇	モナス	月十	▲高等科一、二、三學年の代數學に就て詳解せるもので、一次方程式、平方根、比例式、負數、整式其他。
岩下吉衛	幾何の教授法及問題詳解	青四六判	411	一、九〇	モナス	月十	▲高等小學算術書の幾何圖形に關する問題全部に互に其の幾何學的根據を示して説明せるもの。
高木佐加枝	高等小學算術教科書解説	洋四六判	295	二、〇〇	大同館	月二十	▲高等小學一學年の算術書を解説せるもので、整數、小數、分數、代數式、外一篇。

現代綴方學習指導案

東京高等師範學校前副學 水戸部 寅松	書方科教育問答	布四六判	180	二、〇〇	厚生閣	月三	▲綴り方科問題に對しての疑問を明らかにせるもので、課程案について、毛筆の教材について、書方用具について外六編。
小川 早苗	書方教材及精説	洋 菊 判	84	一、〇〇	教育研究會	月四	▲小學校書方手本の教材を各方面から簡明に解説して教授の要點を明示したるもの。
東京青山師範教諭 齋藤 梅雄	硬新書方教育精義	洋四六判	474	三、五〇	式合資會社	月五	▲書方教授の變遷、新書方教育の建設、新書方教育と教授要旨、毛筆硬筆何れが主か、毛筆書方の指導硬筆の指導外十項。

教育 (歴史教育)

東京高等教育 稲次 静一	一、二、三 高等科 代数の教授法及 問題詳解	洋四六 布入判	410	一、九〇 一、九六	モ ナス	月十	▲新算術教科書に基ける高等小學代数の最も ▲新なる教授法と問題の詳解をせる算術教育 書なり。
-----------------	------------------------------	------------	-----	--------------	---------	----	--

歴史教育

東京文理科大学教授 栗田 元次	國史教育原論	布四六 裝入判	478	三、八〇 一、八	同文書院	月五	▲國史教育の使命、國民性の本質、國體思想 ▲國史の時代觀、誤り易き史實の解釋、第二章に て論述。附録國史書目解題。
東京高等師範學校訓導 大久保 馨	國史教育問答	布四六 裝入判	270	二、〇〇 二、二	厚生閣	月三	▲もつとも疑義とされ易い問題に對し、蘊著あ いる研究諸家の解答を收めたもので、目的につ いて、教材觀について外三篇。
鳥取女子師範學校教諭 友田 虎好	新國史教育論	洋四六 布入判	441	二、五〇 二、二	文化書房	月一十	▲緒論(三章)目的論(國史教育の本質、國 ▲國民意識)の進歩(外四章)にて論述。
東京高等師範學校訓導 山田 義直	新時代の國史教育	洋四六 布入判	16	一、〇〇 〇	同文書房	月三	▲常に人生の底流に力強く生活の方向や構成 の支配してある歴史の教育に就て論述せるも ので、歴史教授の原據外一章。
東京高等師範學校訓導 三浦 喜雄	日本精神の一貫と國史教育	洋四六 布入判	394	二、七〇 二、二	目黒書店	月四	▲日本精神の意義、固有思想の時代、固有精 神と佛思想との交錯時代、同化思想と歐米 思想との交錯時代、第二章にて論述。
東京高等師範學校訓導 本條 録治	國史挿繪の解説と 其の取扱	布四六 裝入判	317	二、三〇 一、八	寶文館	月二十	▲高等小學校國史教科書本文から出發して挿繪 ▲神武天皇其他。
東京高等師範學校訓導 大久保 馨	國史新補充教材精説	洋四六 布入判	473	三、〇〇 二、二	株式會社書	月三	▲毎時の教授指導案の形をとり直ちに授業に ▲神より第卅二後奈良天皇迄。
東京高等師範學校訓導 新井 順一郎	國史新補充教材精説	洋四六 布入判	389	二、〇〇 二、二	大同館	月二	▲高等小學校教科書の該當章を主としてこれに ▲尋常小學校教科書の該當章を主としてこれに ▲尋常小學校教科書の該當章を主としてこれに ▲尋常小學校教科書の該當章を主としてこれに

教育 (地理教育)

女子師範教授 依田 豐	地理教育概論	上四六 裝入判	371	二、九〇 二、二	株式會社書	月二	▲地理學の發達を記述し、地人の相關につきて ▲の古來諸學者の說を擧げ批判を加へ且教授の ▲實際を述べたもの。
成城高等學校教授 中山 貞治	地理教育の新經營	布四六 裝入判	332	二、〇〇 二、二	南光社	月十	▲科學としての地理學、基礎的地理概念體驗 ▲の諸相外一章。附録一篇。
成城高等學校訓導 仲原 善忠	最近歐米地理教育の實際	洋四六 布入判	344	二、六〇 二、二	株式會社書	月三	▲フランスの地理教育、イギリスの地理教育 ▲ドイツの地理教育、ソヴェエツトロシアの地 ▲理教育外二章。
文部省地理調査前駐託 高橋 勝	新地理書挿畫解説	洋四六 布入判	474	二、九〇 二、二	株式會社書	月五	▲地理教授上描寫すべき略圖の表現法に就 ▲て論述せるもので、略圖描法論、直接自然形 ▲描法外三章。
尋常小學校訓導 香川 幹一	略地圖描法	洋四六 布入判	121	一、〇〇 〇	古今書院	月十	▲現行尋常小學校地理書卷一、卷二各兒童用 ▲の地圖を解説せるもので、日本、關東地方、北 ▲海道地方外十九章。
尋常小學校訓導 三木 英太郎	地人一體的研究	洋四六 布入判	451	二、九〇 二、二	株式會社書	月三	▲地理科に於ける人文と自然とが如何に密接 ▲に關聯しあつてあるかを研究論述せるもので ▲第一日本より第九州地方迄。
尋常小學校訓導 西 龜正夫	小學地理教材と教授法	洋四六 布入判	206	二、一〇 二、二	厚生閣	月六	▲修正せられた國定尋常小學校地理書の本文を ▲縮小し、主要教材の補説挿繪の解釋其他を收め ▲たもの。修正版。
尋常小學校訓導 鶴居 滋一	尋五の地理教育	洋四六 布入判	491	二、九〇 二、二	株式會社書	月三	▲指導要旨、學習環境、指導要項、參考補説 ▲した尋五の地理教育案。

教育 (理科教育)

東京高等師範訓練所 限江信光	我地理教育の實際 — 尋六の部 —	洋四六判 布入判	628	三、五〇 — 三 —	同文書院	月九	▲今回修正された尋常小學地理書第六學年用 の教材解説を主として述べたもので、北海道 地方、樺太地方外十三篇。
東京女子高等師範學校教授 堀實	堀實 地理科教授 — 歐米の理科教育 —	洋四六判 布入判	735	三、八〇 — 一八 —	中文館	月二	▲昭和三三年に改訂された文部省著高等小學 地理書三年用の教材を解説せるもので、農業 林業外九章。
東京府豊島師範 學校附屬小學校編 堂東傳	吾が校の理科教育 教育實際問答書	洋四六判 布入判	372	三、三〇 — 一八 —	株式會社書	月三	▲東京府豊島師範附屬小學校の理科教育の根 本方針、理科教育の實際、設備其他に互つて 述べたもの。
東京高等師範學校 關原吉雄	理科教育問答 — 理科環境の 新經營法 —	布四六判 裝入判	247	二、〇〇 — 二二 —	厚生閣	月五	▲もつとも疑義とされ易い問題に對し蘊蓄あ る研究諸家の解答を収めたもので、教科書並 に教科書材について外八章。
勝崎猪之助	獨りから攻め込む理科資料	洋四六判 布入判	815	四、八〇 — 二四 —	文林堂	月一	▲理科教授に於ける審美的方面を主とし科學 的方面を副として記述したもので、前中後の 三編より成る。
東京高等師範學校訓導 橋本爲次	尋五理科教育の實際	洋四六判 布入判	466	二、八〇 — 二二 —	同文書院	月七	▲尋五の理科書第一課花崗岩より第五十一課 指導上の工夫及び教材參考等にて記述す。

教育 (圖畫・手工教育)

東京女子高等師範教授 堀七藏	理科教育の眞髓	洋四六判 布	436	二、八〇 — 一四 —	同文書院	月五	▲小學理科教育の本質、小學理科教育の方法等 を講述。
東京府豊島師範學校主事 二階源市編	尋常 修正理科書解説 — 尋五 —	洋四六判 布入判	505	二、九〇 — 二二 —	株式會社書	月四	▲花崗岩、土と岩石其他尋五の理科書四十九 課に互り主眼點及相互關係、準備、教材解説 設問事項其他より詳説す。
奈良女子高等師範學校訓導 大浦茂樹	高等 理科學習指導案 — 高 —	洋四六判 布入判	504	二、八〇 — 二二 —	株式會社書	月二	▲適材を文部省の理科書にとり高一の兒童に 最も適切な指導案を述べたもので、哺乳類 根のばたらき其他。
小堺宇市	圖畫の鑑賞教育	上四六判 裝入判	263	二、三〇 — 〇 —	三省堂	月五	▲理論(圖畫科鑑賞教育の要、藝術の意義と 資料外一章)に説話資料(日本畫の鑑賞と講話 資料外一章)にて論述。
東京高等師範學校訓導 大竹拙三	圖畫科教育問答 教育實際問答書	布四六判 裝入判	296	二、〇〇 — 二二 —	厚生閣	月四	▲最も疑義とされ易い圖畫科教育の問題に對 し、體系に研究諸家の解答を収めたもので、 指導體系について外五篇。
東京府豊島師範學校教授 萬富三	圖畫の學習	洋四六判 布入判	338	二、八〇 — 一八 —	大明堂	月四	▲寫生上のあらゆる注意及び圖案構成の實際 的根柢を要領を序列し又用器畫の中心的問題 を網羅せるもの。
上阪雅之助	畫の教育學	布四六判 裝入判	356	三、八〇 — 一八 —	刀江書院	月五	▲精神活動及文化創造の本質を説き更に圖畫 方計を明瞭にせるもの。
萬富三	黑板略畫	洋四六判 布入判	365	二、〇〇 — 一八 —	賣文館	月七	▲黑板略畫に就ての總説を收め描法篇にて描 出の認識要領其他を説き實例篇にて花卉類 類魚類其他の描き方を收む。
東京府立五中教諭 宮本幸恵	圖畫教育思潮批判	布四六判 裝入判	240	一、二〇 — 二二 —	教育研究會	月四	▲現代圖畫教育思潮の一々につき中正なる立 場より批判を試み、讀者をして正しき理解を 得しめんとしたものである。

教育 (圖畫・手工教育)

東京高等師範學校附屬 三 苦 正 雄	東京高等師範學校附屬 波 根 義 三	東京高等師範學校附屬 村 崎 香 三	東京高等師範學校附屬 大 竹 拙 三	東京高等師範學校附屬 大 竹 拙 三	東京高等師範學校附屬 三 森 連 象	石 野 隆	初等教育研究會編	東京高等師範學校附屬 山 田 義 郎	東京高等師範學校附屬 山 形 寛	奈良女子高等師範學校 横 井 曹 一
鑑賞指導の理論と實際	水彩畫を主とする高學年の圖畫	水彩畫を主とする高學年の圖畫	尋一の圖畫指導	尋一の圖畫指導	幼穉園や低學年の生活圖畫指導	歐米最近の圖畫手工	小學圖畫手工工業教授細目	文部省新手工教材解説 要目準據手工教材解説	教育實地問答集 手工科教育問答	尋私の手工教育指導
布四六 裝入判	洋四六 布入判	洋四六 布入判	布四六 裝入判	布四六 裝入判	上四六 裝入判	洋四六 布入判	並 菊 製 判	布四六 裝入判	布四六 裝入判	布四六 裝入判
306	408	408	364	428	264	333	321	340	288	172
二、九〇 三	二、九〇 三	二、九〇 三	二、五〇 三	二、八〇 三	二、六〇 三	二、三〇 八	一、七〇 八	二、九〇 三	二、〇〇 三	一、二〇 三
株明治會社書	株明治會社書	株明治會社書	南 光 社	南 光 社	厚 生 閣	日 東 書 院	培 風 館	株明治會社書	厚 生 閣	株明治會社書
月 七	月 五	月 五	月 四	月 五	月 五	月 一十	月 八	月 三	月 八	月 二
▲最近の圖畫教育思潮、圖畫教育の本道、圖畫科に於ける鑑賞教育、鑑賞の心理研究、鑑賞指導の目的外五章。	▲尋常五六年の圖畫教授を主として論述せるもので、圖畫教育と水彩畫、教材解説等二篇十八章。	▲理論篇と實際篇に分け各月に互つて參考教材を多數あげその指導法等も略述せるもので尋一圖畫一般指導の重點其他。	▲各學期の初めに指導題目と要旨、參考教材の題目を掲げた實際篇と理論篇の二篇にて尋二圖畫指導を論述。	▲圖畫教育者の實際的所要に基いて幼穉園及低學年の圖畫教育を論述せるもので、交叉を恐れる性質外廿九章。	▲歐米最近の圖畫手工教育の實狀に就て論述せるもので、歐米圖畫手工教育の新路、新生日本の圖畫手工外一編。科附手工教育は動く。	▲高等小學の圖畫科手工科及工業科の教授細目を収めたもの。	▲作業教育の立場より手工科の本質に即して箇々の教材を毎週毎時に配當して記述せるもので、尋三手工科の目的觀外二章。	▲もつとも疑義とされ易い手工科問題二百問に對し目的、教材、方法、その他に四分して解答を施せるもの。	▲子供の實際生活からその題材を取材して詳述せるもので、尋一手工教育の根本方針、尋一手工學習材料外三章。	▲一般小學校に實施し得る程度でその實際を詳述せるもので、尋二手工教育の根本方針、尋二手工學習材料外三章。

教育 (圖畫・手工教育)

奈良女子高等師範學校 横 井 曹 一	松 霜 岡 田 正 靜 雄 志	松 霜 岡 田 正 靜 雄 志	松 霜 岡 田 正 靜 雄 志	松 霜 岡 田 正 靜 雄 志	松 霜 岡 田 正 靜 雄 志	松 霜 岡 田 正 靜 雄 志	松 霜 岡 田 正 靜 雄 志	松 霜 岡 田 正 靜 雄 志	日 高 長 平	東京高等師範學校教授 阿 部 七 五 三 吉	早稻田大學 清 水 隆	矢 崎 好 幸
尋私の手工教育指導	手工指導書 尋常一學年	手工指導書 尋常二學年	手工指導書 尋常三學年用	手工指導書 尋常四學年	手工指導書 尋常五學年	手工工業製圖並製作法	手工工業製圖並製作法	木工製圖並製作法	木工工業製圖並製作法	作業工業 木材加工法	創作自在趣味の厚紙細工 手工教材	新手工 卵殼モザイクと カセツクス工藝
布四六 裝入判	並 菊 製 判	並 菊 製 判	並 菊 製 判	並 菊 製 判	並 菊 製 判	並 菊 製 判	並 菊 製 判	並 菊 製 判	洋四六 布入判	洋四六 布入判	並 菊 製 判	洋四六 布入判
186	144	137	150	152	222	126	366	366	33葉	204	204	204
一、二〇 三	一、五〇 八	一、五〇 六	一、五〇 八	一、五〇 八	二、〇〇 二	一、八〇 八	三、〇〇 八	三、〇〇 八	二、五〇 八	一、五〇 三	一、五〇 三	一、五〇 三
株明治會社書	厚 生 閣	厚 生 閣	厚 生 閣	厚 生 閣	厚 生 閣	厚 生 閣	培 風 館	培 風 館	三 友 社	教育研究會	教育研究會	教育研究會
月 一十	月 四	月 五	月 六	月 二十	月 九	月 一十	月 十	月 十	月 九	月 一十	月 九	月 一十
▲尋常二學年の手工材料を出来るだけ精選し教授者の參考に資せるもので、尋二手工教育の目標と其の指導の方針外五章。	▲尋常一學年の手工材料を出来るだけ精選し教授者の參考に資せるもので、尋一手工教育の目標と其の指導の方針外五章。	▲尋常三學年の手工材料を出来るだけ精選し教授者の參考に資せるもので、尋三手工教育の目標と其の指導の方針外五章。	▲尋常四學年の手工材料を出来るだけ精選し教授者の參考に資せるもので、尋四手工教育の目標と其の指導の方針外五章。	▲尋常五學年の手工材料を出来るだけ精選し教授者の參考に資せるもので、尋五手工教育の目標と其の指導の方針外五章。	▲尋常五學年の手工材料を出来るだけ精選し教授者の參考に資せるもので、尋五手工教育の目標と其の指導の方針外五章。	▲尋常五學年の手工材料を出来るだけ精選し教授者の參考に資せるもので、尋五手工教育の目標と其の指導の方針外五章。	▲尋常五學年の手工材料を出来るだけ精選し教授者の參考に資せるもので、尋五手工教育の目標と其の指導の方針外五章。	▲尋常五學年の手工材料を出来るだけ精選し教授者の參考に資せるもので、尋五手工教育の目標と其の指導の方針外五章。	▲尋常五學年の手工材料を出来るだけ精選し教授者の參考に資せるもので、尋五手工教育の目標と其の指導の方針外五章。	▲尋常五學年の手工材料を出来るだけ精選し教授者の參考に資せるもので、尋五手工教育の目標と其の指導の方針外五章。	▲尋常五學年の手工材料を出来るだけ精選し教授者の參考に資せるもので、尋五手工教育の目標と其の指導の方針外五章。	▲尋常五學年の手工材料を出来るだけ精選し教授者の參考に資せるもので、尋五手工教育の目標と其の指導の方針外五章。

教育 (體操・遊戲教育)

小瀬峰洋 學校舞蹈三十四講 菊判 141 一、〇〇六 厚生閣 月八

體操・遊戲教育

齋藤蕪雄 小學校遊戲競技 全教材とその指導 上四六判 218 一、八〇三 厚生閣 月五

水村玉 幼稚園に新しい 幼兒の遊ばせ方と學ばせ方 洋四六判 266 一、八〇三 高路社 月六

齋藤由理男 遊戯精選 洋四六判 170 一、〇〇八 玉川學園 月九

山崎博 於低學年に遊戯化教育 洋四六判 312 二、六〇三 教育實際社 月五

三浦ヒロ 行進遊戯 洋四六判 498 二、五〇三 一成社 月五

小原國芳編 體育の理論と實際 洋四六判 270 二、〇〇八 玉川學園 月八

松井三雄 體育心理學 洋四六判 268 二、五〇八 日黑書店 月十

西園規矩吉男 體育の基準に關する研究 洋四六判 320 二、〇〇八 日黑書店 月十

教育 (體操・遊戲教育)

吉田章信 體育全書 洋四六判 300 三、五〇八 都村有爲堂 月八

佐々木等 歐米體育の新傾向 布四六判 335 二、六〇三 明治會社 月五

水間一人 體操教育原論 洋四六判 212 二、〇〇三 北海出版社 月三

大谷武一 新しい體操への道 洋四六判 174 一、九〇三 日黑書店 月一十

體操・遊戲教育

眞行寺朗生 集團(合同)體操の方法と實際 洋四六判 287 一、三〇八 體育學會本 月十

三橋義雄 今日以後の日本の體操 洋四六判 322 二、五〇三 伊藤書房 月一

薄井祐二 小學校に於ける體育指導の根底とその實際 洋四六判 370 二、六〇三 明治會社 月五

白土志佐 最近運動會經營の實際 洋四六判 402 二、九〇三 教育實際社 月四

體操・遊戲教育

齋藤蕪雄 體育實際問答 布四六判 295 二、〇〇三 厚生閣 月五

川口英明 體操科學習指導案 布四六判 274 二、〇〇三 明治會社 月二

體操・遊戲教育

▲體操時間に行ひ得るやうな遊戯競技の實際
▲種目を深録せるもので、低、中、高學年の三
階級に分け收む。

▲遊戯の實際的調査を基礎材料として、低學年
に於ける遊戯化教育を論述せるもので、生活
態度即遊戯外廿章。

▲ダンスの史的考察、行進遊戯の理論、教授
なる解説並に實地指導法等。

▲理論篇(學校教育—澤柳政太郎外五篇)實
際篇(世界の學校體操—三橋義雄、國民體操
—松本稻穂外五篇)。

▲體育と心理學(二章)理想の體育(三章)運
動の發現(四章)運動の分解(三章)運動
の影響(三章)附録一篇。

體操・遊戲教育

▲歐米に於ける體育の施設其他に就いて説
いたもので、日本を出るまで、英吉利の小學校
の體育外百廿一章。

▲主として小學校に於ける體操教育に就いて論
述せるもので、民族的自覺と體育、目的論、
教材論外二篇。

▲新しい體操の發達、新しい體操の諸流派
(デルサート外十四章)新しい體操への道(新
體操の目標外九章)。

▲過去に於ける體験より各地に於ける集團體
操を組織的に系統的に敘述せるもので、運動
の實際外二章。

▲今日迄の日本の體操に對する將來的の擴充
現状外三章。

體操・遊戲教育

▲根本精神への復歸、小學校體育の目的と考
察、兒童の體育的知識、各種運動に對する好
惡とその理由外五章。

▲體育一般に對する本質並に運動會經營法、
補充教材、實際建設の記録等を説述せるもの
の。教科に對する研究諸家の解答を收めたも
の。

▲巻頭にその月に於ける體育指導の目標を述
べ、各月の始めにその月に於ける體育指導の
要領を記して參考とせるもの。

體操・遊戲教育

二二〇

二二〇

二二〇

二二〇

二二〇

體操・遊戲教育

二二〇

二二〇

二二〇

二二〇

二二〇

教育 (體操・遊戯教育)

川口英明	宮原義見	宮原義見	中島海	大谷武一	宮田覺造	藤村とよ	森本義一	森本義一	直田村太郎
體操科學習指導案 尋常科第四學年	現代體育教授法精義	新教授 根本的解説と細目	小學校體育	學校體育概論	學校體操の教授	學校體育論	學校教練	學校教練の實際	受體操科の教練參考
洋四六判 布入判	洋四六判 布	洋四六判 布	洋四六判 布入判	洋四六判 布入判	洋四六判 布入判	洋四六判 布入判	洋四六判 布入判	洋四六判 布入判	洋四六判 布入判
272	512	190	160	336	426	388	403	310	300
二、〇〇	三、八〇	一、二〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇	一、八〇
明治圖書	體育聯盟會	體育聯盟會	成社	成社	成社	成社	成社	成社	大明堂
月二	月二	月五	月一十	月二十	月一	月三	月四	月六	月一十
▲合理的に述べたもの。遊技及び體操の指導案	▲體育教授法、教授法の理想、教授法の一	▲要目上本能的教材尊重の理由、各教材の配	▲主として小學校體育の指導案、體操教授、	▲學校體育の課外指導、對抗競技、課外體操	▲學校體操の課外指導、對抗競技、課外體操	▲歸朝後の新著。第一編歐洲現時の體育狀況	▲先づ世界各國の學校教練の情勢を述べ、そ	▲學校教練の姉妹篇。主として教練の實地指	▲本書は最も難關とする諸法則の具體的説明

教育 (體操・遊戯教育)

眞行寺朗生	御園生貢	山内盤衛	綿引勝義	佐々木等	學校球技研究會編	學校球技研究會編	學校球技研究會編	德留忠義
運動會の準備と練習遊戯	歩法教授	應用タンプリング	方形ドツサボール 試合の要訣	球技指導法	學校球技全集 第三編	學校球技全集 第二編	學校球技全集 第一編	女子體育
洋四六判 布入判	洋四六判 布入判	洋四六判 布	洋四六判 布入判	洋四六判 布入判	洋四六判 布入判	洋四六判 布入判	洋四六判 布入判	洋四六判 布
24	221	156	284	347	412	410	406	500
八〇	一、五〇	一、二〇	一、五〇	二、五〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	一、三〇
體育學會本	體育聯盟會	體育聯盟會	體育學會本	成社	成社	成社	成社	敬文館
月九	月二	月一	月九	月八	月二十	月十	月九	月七
▲理論抜きに實際的運動會の準備法と練習遊	▲歩法解説、ダンス教授の理想、正式歩法、階	▲寫眞版百五十餘箇、應用體操の權威、初歩	▲ドツサボール試合の要訣を説述したもの。	▲球技の意義、目的、價值論、十章に亘る	▲ナインコートバスケット、ラグビー蹴球詳	▲フットボール、キックボール、インドアベ	▲フットボール、スローボール、他山田、	▲高等女學校での體育教科書であつて、あら

教育 (學校衛生・童話・童謡教育)

學校衛生

宮原義見	冬季學校體育 附合理的室內體操	洋面菊 布入判	12	二、八〇 一八	體育聯盟會 出版部	月二十	▲兒童運動場、野球場、陸上競技場、運動場的工事法と維持法、水泳場、體育指導の理論的研究と實際施工の好参考書。
------	--------------------	------------	----	------------	--------------	-----	--

富士川遊	教育病理學	洋面菊 布判	305	三、〇〇 一八	教育研究會	月七	▲多年の經驗を基に齒科衛生全般に亘つて記述した書で、兒童口腔診査法、學童口腔衛生施設外十種。
------	-------	-----------	-----	------------	-------	----	--

童話・童謡教育

長谷川信	劇とお話教育問答	布面四六判 裝入判	304	二、〇〇 二二	厚生閣	月十	▲劇とお話に關する疑義一百問に對し實際的資料に關する問題其他。目的に關する問題、▲今日教育界の際立つた現象の一つである詩教育の提唱に就て論述せるもので、童謡篇、▲兒童劇の創作法及び演出指導法とを説いたもので、總論篇、創作篇、演出篇、脚本集の四部より成る。
------	----------	--------------	-----	------------	-----	----	---

宮浦成芳	創作演出兒童劇の指導	上四六判 裝入判	317	二、三〇 二二	厚生閣	月一	▲簡單に短時間の練習で演出出来る文部省小學校唱歌を引用した兒童劇を収めたもので、桃太郎さん外十九篇。
------	------------	-------------	-----	------------	-----	----	--

長谷山峻彦	學藝會用兒童劇集	上四六判 裝入判	234	二、〇〇 二二	大正書院	月九	▲春の巻(胡蝶の夢外三篇)夏の巻(人形の森外三篇)秋の巻(瀧口入道外三篇)冬の巻(千鳥の曲外三篇)等を収む。
-------	----------	-------------	-----	------------	------	----	--

教育 (童話・童謡教育)

教育兒童劇會編	學校兒童劇脚本集	洋面菊 布入判	310	一、五〇 一八	大正文堂	月五	▲春の巻(胡蝶の夢外三篇)夏の巻(人形の森外三篇)秋の巻(瀧口入道外三篇)冬の巻(千鳥の曲外三篇)等を収む。
長尾豐	兒童劇脚本	上四六判 裝入判	323	二、三〇 二二	厚生閣	月十	▲小學國史を兒童劇脚本に編みこむ。
雨宮精藏	表現に話方教育の實際	洋面四六判 布入判	423	二、五〇 三三	啓文社	月二十	▲國語教育の最も重要な一分野たる話方教育の實際に就て述べたもので、話方教育の過去及現在の不振外十二章。
長尾豐	童話と其の味ひ方解説	上四六判 裝入判	282	二、一〇 三三	厚生閣	月一	▲童話が秘めてある聰慧な照應、愉快な反復等を懇切に提示されたもので、赤づきん、灰むすめ其他十二篇。
長尾豐	お話全集	上四六判 裝入判	280	一、八〇 二二	厚生閣	月三	▲一學年三學期にわけて尋常一年生に向く話材をひろく集めたもので、ひよこと種子、白小羊外五十八篇。
長尾豐	お話全集	上四六判 裝入判	280	一、八〇 二二	厚生閣	月四	▲尋常二年生へのお話材料五十篇を一學期、二學期、三學期に分け収め附録としてお話と畫と綴方外三篇を収めるもの。
長尾豐	お話全集	上四六判 裝入判	274	一、八〇 二二	厚生閣	月四	▲三四年向きの童話や現實的なお話、寓話神話、大蛇退治外四十一篇。
長尾豐	お話全集	上四六判 裝入判	282	一、八〇 二二	厚生閣	月五	▲一學期二學期三學期にわけて三四年向きの童話や現實的なお話、寓話・神話・傳説・史談・逸話其他を収めたもの。
長尾豐	お話全集	上四六判 裝入判	284	一、八〇 二二	厚生閣	月六	▲尋常五六年生向の神話・傳説・童話等を収めたもので、大きな木馬、黄色い獅子、ほらくらべ外卅三篇。附録二篇。
長尾豐	お話全集	上四六判 裝入判	252	一、八〇 二二	厚生閣	月七	▲尋常六年生向きの神話傳説童話等を學期別外廿六篇、附録話まげし外二篇。

(5-40)

栗原登	長谷川信	鈴木正憲	下田次郎	吉田熊次	伊藤千眞三	修養叢書刊行會	小林登里	教育勅語聖旨會編
童謡創作指導の實際	童謡と詩の教へ方	小學校に於ける詩の作らせ方味はせ方	現代教訓實話集 第一卷	教育勅語釋義	教育勅語述義	教育勅語謹話	教育勅語謹解	教育勅語畫解
布四六判 裝入	並四六判 裝入	布四六判 裝入	洋四六判 布入判	洋四六判 布入判	洋四六判 布入判	並菊製判	並四六判 裝入	並四六判 裝入
494	159	272	346	195	40	74	201	44
二、五〇	一、〇〇	一、八〇	二、〇〇	一、三〇	二、五〇	三、〇〇	四、〇〇	三、五〇
文化書房	光學堂	郁文書院	東洋圖書株式會社	弘道館	文光社	先進社	文藝社	教育勅語聖旨普及會
月六	月五	月八	月十	月十	月二十	月十	月二	月十
▲小學校に於ける童謡の創作及び鑑賞指導の實際を詳説せるもので、詩の本質、童謡と童謡と教育、童謡と劇外七章。	▲小學校に於ける童謡と詩の教へ方を實例を掲げて説述した書で、童謡篇(五月の風外四十四篇)詩教育篇(詩と教育外四章)。	▲小學校に於ける詩の指導方法及び味はせ方等を説いたもので、二人の夢、知唱詩ノト、自然へ蘇生外十一篇。	▲障子紙、小さな八百屋、自助の中學生、お灸、按摩と少女、釣臺、わかるみ、傾かむり、列車の中、座席を譲る青年外二百項。	▲教育勅語の御趣意を論理的に説明せるもの、教育勅語の御下賜、教育勅語第一段の釋義外四章。	▲教育勅語の述義を主とし各分節毎に讀解、字解、通解若しくは大意要旨等の欄を設けて説けるもの。	▲主として國定教科書に基づき教育勅語の各項につき平易簡明に例話を擧げて解釋せるもの。	▲國民の日常生活にとつての絶対唯一の羅針盤とも云ふべき教育に關する勅語を解釋せるもの。	▲教育に關する勅語の御趣旨を一々畫か配して解釋せるもの。

(5-41)

新田興美喜男	亙理章三郎	山本良吉	遠藤隆吉	文部省管官 菺田萬一郎	國民教育編纂局 振興會編纂局	山海堂編	池田秀雄	水野滿年著
教育勅語と聖帝の左右	教育勅語と學校教育	勅語四十年	勅語と國家及社會	建國明治大正昭和勅語詔書精義	四大詔勅釋義	教育勅語讀本	建國の精神と國民の覺悟	現人神と日本
洋四六判 布入判	洋四六判 布入判	布四六判 裝入	洋菊製判	洋菊製判	並菊製判	並四六判 裝入	並四六判 裝入	並四六判 裝入
363	757	91	258	472	84	40	32	90
三、二〇	四、八〇	七〇	一、八〇	三、五〇	三、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	五、〇〇
中文館	中文館	教育研究會	泰山房	東洋圖書株式會社	尙文堂	山海堂	松山房	靈尊社
月十	月十	月九	月一十	月一十	月九	月二十	月七	月十
▲教育勅語の御趣旨及び其唯一の義解註脚たるべき元田、副島兩侍講の文獻を講述して左右の情狀等に及ぼせるもの。	▲教育勅語に關する學校教育の研究で、教育勅語の奉藏外三章。	▲教育勅語の社會國家に於ける大原動力たり指導に賜はりたる勅諭其他。	▲建國より明治大正昭和に互り換發されたる勅諭の理由、詳解等を施す。	▲教育勅語の御趣旨、勅語御下賜、御下賜後、其換發の理由、詳解等を施す。	▲教育勅語の御趣旨、勅語御下賜、御下賜後、其換發の理由、詳解等を施す。	▲教育勅語の御趣旨、勅語御下賜、御下賜後、其換發の理由、詳解等を施す。	▲教育勅語の御趣旨、勅語御下賜、御下賜後、其換發の理由、詳解等を施す。	▲日本國體の原義を古事記より探りて天皇の御天職及び日本國民の使命を述べたるもの。

教育 (修養)

吉村勝治	福井清通	荻田萬一郎	本多静六	今井秀一	海江田喜次郎	菅原龜五郎	山崎延吉	中村義朗	増田義一
昭和興國の青年訓	全国各地青年者の特殊美談 附著名開場の實況	實業道德精義	成功の近道	人生と修養	眞生	理想郷の建設者と百姓太閤	農道説話	若き人々の運命	運命の打開
並四六判 製入判	並四六判 製	洋四六判 布入判	布四六判 製入判	布四六判 製	布四六判 製入判	並四六判 製	布四六判 製入判	布四六判 製入判	上四六判 製入判
250	169	369	155	188	250	320	288	361	330
二八〇 三	四 五〇	三、五〇 三〇	一、〇〇 八	一、〇〇 八	一、四〇 二	八〇 六	一、五〇 〇	一、八〇 三	一、〇〇 三
明道書院	自治館	東洋圖書株式合資會社	三浦書店	教育研究會	なでしこ社	兵用圖書株式會社	泰文館	光學堂	日本實業社
月二十	月二十	月四	月二十	月九	月一十	月八	月七	月六	月一十
▲國民精神の養成、運命の開拓、自律、氣質の陶冶外三章。	▲人生に修養の必要なる所以に就て、修養方法の注意に就て外二章及青年者の特殊美談卅一篇を収めるもの。	▲實業道德の意義、實業道德の發達、實業界に於ける道德の問題、實業道德の理論、主要項目附米國の實業團體の道德法典。	▲體験より處世談を説いた本多博士の著、學習時代、獨立時代、社交時代の三段に分ちて述べてある。	▲時を應じ折にふれてなしたる青年への修養講話を集めたるもの。	▲自覺(天授の使命、聖境外四篇)隨感(元且の誓、智慧の小細工外廿五篇)女性かみみ(女性美外六篇)。	▲國の力! 人の力農村の五病六患、貧乏、婦女の守るべき十種の善道、三遺主義、勤儉貯蓄外五十九篇。	▲實例を擧げて根本的に人間の生活を述べた原理、人間の運命の四篇。	▲運命打開のために如何に努力し奮闘すべきかを諸方面より説けるもので、先づ自己を正視せよ外卅一篇。	▲勝海舟先生の晩年の談話を筆記したもので明治卅二年一月十四日最終訪問の記其他を収む。

教育 (修養)

野間清治	野間清治	徳富猪一郎	巖本善治編	遠藤良雲	修養會編	遠藤隆吉	小堺宇市	松田友吉
處世之道	體験を語る	景仰と自省	海舟座談	笑ひながら 涙になる 一休頓智笑話集	修養の極致 處世の要諦 心の洗濯	勸語國民一徳訓	成人教育講話資料	最新國民道德概論
並四六判 製	並四六判 製	布四六判 製入判	並四六判 製	洋四六判 布入判	洋四六判 布入判	並四六判 製	洋四六判 布入判	洋四六判 布入判
176	173	423	209	351	348	74	301	486
二〇 四	二〇 四	二、〇〇 二	四〇 四	一、八〇 二	一、八〇 二	二〇 三	二、二〇 三	二、八〇 三
講談社	雄辯會本	民友社	岩波書店	中央出版社	中央出版社	日本青年社	厚生閣	大同館
月九	月六	月九	月七	月二十	月十	月十	月十	月九
▲世渡りの極意、苦難の恵み、電話と應待、我より始めよ、最後のマツチ、のりうつりの説外十三篇より成る野間氏の處世談。	▲職を求むる人、職にあり人、人を使ふ人の爲に野間氏の體験を語るもので、小我の害絶せざる外卅一篇。	▲式年遷宮、特殊の意義ある紀元節、廿五年前の日本と現時の日本、何んぞ階級争闘を杜絶せざる外卅一篇。	▲勝海舟先生の晩年の談話を筆記したもので明治卅二年一月十四日最終訪問の記其他を収む。	▲一休和尚の輕妙洒落な頓智話を収めたもので、その幼時、嫁に與へる言葉、一休と蟻川取れぬ笠外六十五篇。	▲修養、處世等に關しての先哲の言葉、行爲等を収めたもので、修養編、人生編、生活編、家庭編、社會編其他。	▲忠と孝との淵源、忠孝一本の基礎、教育の淵源、祖先の遺風即ち日本の風俗外二章。附録三千年史の概略外二章。	▲成人教育に就ての講話資料を収めたもので無窮の生命、良師良弟、母は天與の教育者、貧に輝く外三十二篇。	▲國民道德の意義、國民道德の地位、國民道德研究の必要、國民道德の發達、國民道德の基礎外九章。

學校・入學案内

同志社五十年史 編纂委員編纂	同志社五十年史	上四菊 製入判	425	三〇〇 一六	京都 カニヤ書店	月七	▲同志社創業の趣旨と其の教育上の特色とを現代社會に紹介するものなり。
吉田雄司編	新 高等學校案内	並四菊 製入判	823	二七〇 一八	大同評論社	月一十	▲高等學校の内容を検討せるもので、高等學校とは如何なるものか、官立高等學校の内容を、高等學校から大學までの學費調査其他。
馬郡健次郎	歐米大學生活	洋四六判	392	二、三〇 一、二〇	春陽堂	月二十	▲歐米諸國の大學の知識と煩雜なる渡航手續とを説述せるもので、歐洲篇、米國篇、旅行手續篇の三篇。
中等教育社	東京諸學校案内 昭五年度	並四六判	468	特一、三〇 一〇〇〇	東華堂	月二	▲東京に於ける凡ゆる學校の所在地、入學資格、修業年限、學科等各學校規則の粹を集成せるもの。
中等教育社	東京諸學校案内 昭五年度	並四六判	216	六〇	東華堂	月二	▲女子に關する諸學校の種類諸規則等を收め高等女學校其他。
中等教育社	東京諸學校案内 昭五年度	並四六判	284	七〇	東華堂	月二	▲東京に於ける各種各樣に互る學校の中男子校案内の二編。
東京音譜研究會編	全國有名校歌集	並菊 製	151	三五 四	博進堂	月四	▲早稻田大學、慶應義塾大學、長崎醫科大學、佐賀高等學校其他全國有名な校歌を樂譜と共に收めたもの。
帝國教育向上社編	女學校卒業者の進むべき 上級學校と選ぶべき職業	並四六判	135	一〇〇 六	帝國教育 上社	月一	▲女性の向上は何を語り現代は如何なる女性を要求するか、上級學校へ進まんとする人の心得外三章。
大日本國民中學會 編輯部 香村編	全官費公費貸費費學校 入學指針	並四六判	270	一〇〇 六	文憲堂	月八	▲全國に存在する所の官費公費貸費等の學校の殆んど全部を調査研究して收めたもので、入學希望者への一般注意其他。

受験参考書

帝國教育研究會編	全國高等 專門學校 入學年鑑 昭和六年版	並四六判	176	七五 六	成文社	月一十	▲全國男子一般高等專門學校其他の受験乃至入學に關し最も必要とする基本事項一切を収録せるもの。
正木 吳	上級 學校 選定より突破まで	並四六判	10	一一〇 六	木星社	月六	▲中等學校程度の青少年の病所弱所を指摘して之に懇切なる解決を與へたもので、志望選定秘訣五十ヶ條外三篇。
日昭館編	新東京男女學校案内	並四六判	520	一〇〇 二二	日昭館	月九	▲編入學校六百校位置、電話、校長、目的、修業年限、學科、學費、及受験心得、苦學案内、東京市内郊外電車地圖入。
日昭館編	新東京男子學校案内及 入學考查解答	並四六判	320	七〇 六	日昭館	月九	▲編入學校三百五十校、位置、電話、校長、目的、修業年限、學科、學費、及受験心得、苦學案内、東京市内郊外電車地圖入。
日昭館編	新東京女子學校案内及 入學考查解答	並四六判	250	六五 六	日昭館	月十	▲編入學校名二百八十校、位置、電話、校長、目的、修業年限、學科、學費、及受験心得、苦學案内、東京市内郊外電車地圖入。
大明堂編輯部編	高等學校 試驗 問題集	上四六判 製入判	252	一、五〇 一〇	大明堂	月六	▲獨學者の進路と専檢及高檢、專門學校入學檢定の案内、高等學校入學檢定案内、専檢高檢合格的受験準備法外七章。
大同評論社編	高等學校 試驗 問題集	並菊 製	226	一、〇〇 二二	大同評論社	月十	▲昭和三年度より昭和五年度に互つて第一高等學校其他の各種試驗問題を収録せるもの。
受験準備基調會編	全國高等學校 入學試驗問題集 昭和五年度	並四六判 製	443	五〇 六	昇龍堂	月四	▲大學豫科、高等學校、商業に關する學校、工業に關する學校、醫藥學齒科に關する學校、其他の入學試驗問題を蒐集せるもの。
シグナル週報社編	高等專門學校 入學試驗問題集 昭和五年度	並四六判 製	328	六〇 八	シグナル 社	月八	▲昭和五年度に於ける高等專門學校大學豫科高等商業高等工業其他の入學試驗問題を收めたもの。

教育 (受験参考書)

佐々木藤之助	大川榮次	鈴木羽村	城本猛猪	坂本猛猪	高橋鐵也	直田村太郎	普文學會編	朝鮮受験學會	遞試社編輯部編
要文檢漢文科の組織的研究	要文檢解剖學精義	文檢習字科精義	小學校檢定試験問題正解	中員等文檢試験問題正解	專檢・高 獨學受験準備の 檢・高 指導と研究	受體操科教練の參考	文官普通及 裁判所書記 試験問題答案集	朝鮮總督府 普通文官 試験 問題集	遞試一次試験解答集
洋函菊 布入判	洋函菊 布入判	洋函四六 布入判	洋函四六 布入判	洋函四六 布入判	並 四六判 製	洋函四六 布入判	洋函三六 布入判	並 四六判 製	上 四六判 製
541	450	373	1200	1000	470	274	901	207	252
三九〇	三八〇	二八〇	三、八〇	三、五〇	一、五〇	一、八〇	二、八〇	一、〇〇	一、九〇
啓文社	啓文社	東洋圖書株式會社	教文社	教文社	弘文堂	大明堂	清水書店	松山房	遞試社
月十	月十	月一	月三	月十	月十	月十	月六	月八	月三
▲支那文學史支那思想史復文漢文法支那時文 白文訓讀漢作文等の全般に亘り要點眞髓を把 握的に示す。	▲文檢生理衛生科體操科受験用として人體解 剖に關する知識を簡明に又組織學を根底とし 各部の解剖を總括的に述ぶ。	▲和漢の御帖拔萃(口繪)受験詳解、書法及 本書道史並に書家と法帖外三十項。	▲小學校教員檢定試験に向ける者の爲めに 對する模範答案を掲げたものである。	▲文檢各科受験者の參考の爲めに從來出題せ られたる各問題の傾向及び程度を知るに至便。	▲資格試験規程、各科綜合的獨學勉強法其他、 附試験問題集及解答。	▲教練に對する初心者之最も理解に苦しむ諸 法則の具體的説明と之が教育法を主として論 述せるもので、教練外六篇及附録。	▲最近十五ヶ年間に各府縣廳裁判所に於て施 行されたる試験問題一千四百題を蒐め模範解 答を附せるもの。	▲正文は初回より考試大正八年度より辯護士 受験手續、受験人心得等を輯録せり。	▲明治四十四年度第一回より最近施行の試験 迄全種類全科目の遞試問題を全部採録し各科 目に分類受験者の便に供したるもの。

教育 (受験参考書)

中島千太郎編	松野秀雄	國家試験部編	國家試験部編	國家試験部編	尾崎勝一	尾崎勝一編	松本憲吉編	中等教育社	遞試社編輯部編
改正令高等試験の受け其問題 による高等試験の方と其問題	高等試験の秘訣	高等試験指針 第四輯	高等試験指針 第三輯	高等試験問題解答 第三輯	高等試験問題の構式	高等試験問題ノ中心	國家口述問題答案集	遞信講習所受験案内	遞試一次試験解答集
布函四六 裝入判	並 四六判 製	並 四六判 製	並 四六判 製	並 四六判 製	布函四六 裝入判	布函四六 裝入判	上 四六判 製	並 四六判 製	上 四六判 製
808	497	295	304	250	126	139	121	248	252
二、四〇	二、五〇	特 六〇	特 六〇	特 六〇	一、三〇	一、三〇	八〇	八〇	一、九〇
出版部堂	光學堂	育成堂	育成堂	育成堂	學帝生聯盟都	學帝生聯盟都	石原屋書店	東華堂	遞試社
月十	月四	月二十	月二十	月二十	月四	月三	月九	月六	月三
▲高等試験令の解説と其の進路に筆を起し筆 記、高等試験問題の採録せるもの。	▲高等試験に於ける筆記試験及び口述試験に 合格者の述べたもので、筆記試験、口述試験に 就いて述べたもので、筆記試験、口述試験に 合して述べたもので、筆記試験、口述試験に	▲大森洪太(其他)第四輯は過去九年間の高 等試験問題と本年の注意(高木巖)其他。	▲雑誌「國家試験」第二卷第一號より第八號 までに掲載せるもの、第三輯は質問に答ふ。	▲雑誌「國家試験」第二卷第一號より第八號 までに掲載せるもの、第三輯は質問に答ふ。	▲高等試験に於ける各年度合格者の實際構成 法の三篇。	▲最近高等試験口述に於ける委員發問の要項 を詳記し以て委員の要求する中心點を明らか にせるもので、憲法外九章。	▲著者の前後九回に亘る試験合格の結果の實 地體験に基く體験記で、刑法答案、刑事訴訟 法答案の二篇。	▲選信講習所入學準備や心得や規則の凡て 題及び解答を説明せるもの。附録全國入學試験問 題。	▲大正十年新制度以降の遞試一次試験問題全 部を採録し一題毎に明快な解答と懇切な註解 を與へ模範試験問題解答を添ふ。

X (5-2)

外山卯三郎編	藝術學研究	並四六判	171	二、〇〇	第一書房	月一十	▲藝術學の對象と方法(外山卯三郎) 演劇論(長谷川牧夫) 建築論(田上義也) 繪畫論(三浦逸雄) 外六篇。
外村史郎譯	マルクス主義藝術論叢書(10) 文學論	並四六判	289	一、〇〇	叢文閣	月五	▲ヘンリツク・イアセン、醫師ストツクマンの息子、労働者の心理の三篇を収む、附録ケンのア・グスベンスキ。
青野季吉	マルキシズム文學論	並六新製判四	167	五〇	天人社	月五	▲マルキシズム文學論の一般的構成を紹介せるもの、プロレタリア藝術概論、藝術の革命と革命の藝術外六章。
西脇順三郎	新藝術論システム シュルレアリスム文學論	並六新製判四	160	五〇	天人社	月一十	▲文學運動としてのシュルレアリスム、一般超現實的思考、超現實文學理論、シュルレアリスム批判外三章。
對馬完治	新藝術論システム フロイド派と文藝	並六新製判四	167	五〇	天人社	月八	▲精神分析學より觀たる藝術の意義、胎内瞑想、出産瞑想、父母の心象と戀人、エディホス・コンプレクス外七章。
中河與一	新藝術論システム フォルマリズム藝術論	並六新製判四	162	五〇	天人社	月五	▲形式主義藝術論の摘要、イデオロギイから藝術は出来ない、新しい詩の方向と方法論、一元とか二元とか外十一章。
久野豊彦	新藝術論システム 新藝術とダダグラムサイズム	並六新製判四	163	五〇	天人社	月五	▲藝術派と新經濟學說、ギリシヤの旗に就てダダグラム印象記外二章。
新居格	新藝術論システム アナキズム藝術論	並六新製判四	176	五〇	天人社	月五	▲共産主義黨派文藝を評す、藝術の革命性と社會の革命性、アメリカニズムとラシアニズムの交流外八章。
佐藤朝譯	現代の藝術と批評叢書(10) コククトオ藝術論	並四六判	243	一、五〇	厚生閣	月九	▲音楽、詩、繪畫のことを語つた三つのエッセイ「雄鷄とアルルカン」職業の秘密、世俗な神秘」を収む。
木村利羊譯	文學の社會學的批判	並四六判	349	一、三〇	白揚社	月二	▲文學は社會に於て何故必要なのか其他の問題をマルクス主義の立場から解剖批判せるもの、美的價値の可變性外九章。

(5-3)

プロレタリア	藝術とマルクス主義	並四六判	213	一、〇〇	プロレタリア科學研究所	月三	▲一九二八年の末から最近に到る藝術價値について論争を収めたもので、文藝批評家の任務について(平林初之輔)外十三章。
ソヴェエト	藝術總論	並四六判	261	九〇	叢文閣	月一十	▲美とは何か?、趣味の客觀的法則について藝術の根本問題に關する論争、アルジョア唯聖典の絕對性外十七章。
フリーチエ著	藝術社會學	上四六判	288	一、五〇	新潮社	月四	▲藝術社會學の問題、美術の隆盛と衰頹、建築の根本的様式、宗教畫と風俗畫、工業資本主義の藝術外十六篇。
フリーチエ著	藝術社會學の方法論	並四六判	135	六〇	叢文閣	月十	▲藝術社會學の方法論に論ずるフリーチエの論文を集めたもので、藝術社會學の任務及び諸問題を外四篇。附録一篇。
ドレイテン編	マルクス主義藝術論叢書(12) レーニンと藝術	並四六判	196	七〇	叢文閣	月六	▲革命と藝術、文學批評家としてのレーニン、外一部を蔵原惟人、外村史郎、杉本良吉、黒田辰男、村田春海の五氏が譯せるもの。
コーゲン著	プロレタリア文學論	洋菊半裁	250	六〇	白揚社	月十	▲革命前より革命後及び最近に至る迄のプロレタリア文學の發達、推移、特質、各流派や團體の消長其他に就て述ぶ。
蔵原惟人	プロレタリア文學のために	並四六判	151	五〇	戦旗社	月一十	▲マルクス主義藝術理論の旗の下に、新藝術形式の探求へ外二篇。附録「ナップ」藝術家の新しい任務。
楳本楠郎	プロレタリア文學の諸問題	並四六判	226	一〇〇	世界社	月四	▲プロレタリア兒童文學並にプロレタリア兒童教化運動に關する論集で、現代創作童話の功罪其他十二篇。一編書禁止。
蔵原惟人	新藝術論システム プロレタリア藝術と形式	並六新製判四	121	五〇	天人社	月六	▲プロレタリア藝術の内容と形式、新藝術形式の探求へ、工業技術社會の文學等三章にて論述。
世界社編	プロレタリア藝術教程	並四六判	344	一、〇〇	世界社	月四	▲プロレタリア藝術發達史概論(小宮山明敏)機械と藝術(石濱知行)太陽のない街は如何にして製作されたか(徳永直)外十四篇。

(5-4)

世界社編 プロレタリア藝術教程 第四輯	山田清三郎編 プロレタリア文藝辭典	角田ルホルツ著 俊譯 文學史と文藝學	寄野季吉 實踐的文學論	阿部知二 現代の藝術と批評(19) 主知的的文學論	中河與一 形式主義藝術論	長谷川誠也 文藝と心理分析	谷川徹三 藝享受と批評	谷川徹三 生活・哲學・藝術	高垣松雄 機械時代と文學
並製 四六判	洋布 四六判	布函四六判	布函四六判	並製 四六判	並製 四六判	洋函四六判	上函四六判	布函四六判	並製 四六判
339	388	338	332	247	196	612	264	420	253
一〇〇	一五〇	一六〇	一六〇	一五〇	一七〇	二七〇	一五〇	二二〇	二二〇
世界社	白揚社	天人社	千倉書房	厚生閣	新潮社	春陽堂	鐵塔書院	岩波書店	研究社
月七	月八	月二十	月二十	月二十	月一	月九	月十	月九	月一
▲プロレタリア映畫の形式と内容(千田是也) 篇。附録二篇。	▲プロレタリア文藝に關する用語、事件、問題、人名其他を網羅し五十音順に配列して解説す。	▲文學史の基礎、シエール學派の諸業績、新浪漫的文學史、新しき素材と新しき評價外六章。	▲實踐されたプロレタリア・リヤリズムの檢討、共同製作の二つの方向其他の批評文學集附録プロレタリア文學の材料問題外二篇。	▲文學そのもの、本質並に方法を闡明し、更に進んで文學の文明的及社會的地位等を論述せるもので、主知的的文學論其他。	▲形式の強弱に就いて、吾々は素材を如何に取扱ふか、唯物的形式主義の立場、兎器による死の變貌外十七篇。	▲無意識を説く心理學の影響をうけた文藝に於ける心理學の主要な問題を説く。	▲文學形式問答、マルクス主義文學理論の一批判、表現と形成、個性の文學と類經の文學外十二篇。	▲漂白、庭苑、偽作、われとわれら、月と日本人、京都、若冲、文化について、浪濤主義等を収む。	▲オニールの人生觀、ハドスン記念碑、雨の假寓、機械時代と文學、商權と教權、古典に就て外卅四篇。

二三〇

(5-5)

外國文學史・研究

勝本清一郎 前衛の文學	小宮山明敏 文學革命の前哨	大宅壯一 文學的戰術論	前田河廣一郎 評論集十年前	中村武羅夫 誰だ? 花園を荒す者は!	池崎忠孝 亡友芥川龍之介への告別	犬田卯 農民文藝三講	松本泰 探偵小説通	文藝家協會編 文藝評論集
並製 四六判	並製 四六判	布函四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判
392	448	474	555	11	286	125	165	341
一八〇	二二〇	一五〇	一八〇	二二〇	一三〇	五〇	七〇	一五〇
新潮社	世界社	中央公論社	大衆公論社	新潮社	天人社	全國農民藝術聯盟	四六書院	新潮社
月一	月九	月二	月五	月六	月四	月四	月九	月六
▲本格批評への道、藝術運動に於ける前衛性と大衆性、内容のある形式主義作品、前衛性に於ける作家達外卅篇。	▲一九二五年から一九三〇年七月迄に發表された評論の大部分を集録せるもので、最近プロレタリア文學その没落過程外二部。	▲文學論(文學的自已清算に就て外十九篇)文壇論(文壇概論外六篇)作家論(三上於菟吉の因數分解外十篇)。	▲民衆の要求する新文學、文壇左側通行、海濱浴場論、女は強い、近代風景、史的人物劇に就いて外評論七十二篇。	▲プロレタリア文學に對して、文藝論、時評的な文藝問題、作家・人間、映畫に就いて、長篇小説——通俗小説論等の評論を収む。	▲文藝評論集で、アンナカレニナの悲劇、佐藤春夫論、西鶴の描いた女性、近代文藝とテモクラシー外七篇。	▲新しく興つた農民文藝を解説せるもので、農民文藝の意義に就いて、現代社會と農民文藝外一講。	▲探偵小説に就ての知識を述べたもので、探偵小説家を古きに覺む、ホオの流れた酌む佛蘭西作家外七章。	▲谷川氏のマルクス主義文學理論の批判の批判(寄野季吉)都會文明を排す(加藤一夫)革命と文學(昇曙夢)外廿篇。

二三一

文學 (外國文學史・研究)

名取 堯	歐洲文藝思潮史	洋四六判	411	二、二〇〇	不老閣	月六	▲文藝思潮の史的発展を社會生活の史的発展の中に見ようとするもので、世界思潮の源流を藝術史の四章に索引。
外村 史郎	歐洲文學發達史	上四六判	360	一、七〇〇	鐵塔書院	月二十	▲自然經濟時代、商業資本主義時代、絕對主義時代の文學、向外的アルジョアの文學アルジョア社會の文學外四章。
竹友 藻風	英文學論攷	洋南菊布入判	326	三、〇〇〇	萬里閣	月六	▲ギルバート・ホワイット・テイケンズの世界、ハアテイの詩と散文、ゴレシズム、バルフォアの審美批評外十二篇。
日本英文學會編	英文學研究	並菊製判	156	二、五〇〇	研究社	月十	▲Gilmore 研究 (山本與吉) 英文學に於ける滑稽味 (中村一男) Thomas Hardy の後半生 (藤井啓一) 其他。
濱林 生之助	英國文學巡禮	洋南四六判	410	二、五〇〇	健文社	月十	▲ウエセクス、牛津及び附近、レーク・テイスクリクト、エディンバラ、パリンズ・カンツリ外六篇の紀行を収めたもの。
富田 彬	近代英文學雜考	洋南菊布入判	342	二、三〇〇	健文社	月三	▲前後兩編に分け前編には英文學史的なものと理論的なものを収め、後編には作家の個人研究を収めたもの。
春山 行夫	現代英文學評論	並菊製判	366	二、〇〇〇	厚生閣	月一十	▲二十世紀英國文學評論—西脇順三郎、ジェームズ・ジョイス抄—伊藤整、詩人の困窮 (ハインズ・ウォールフ)—春山行夫外廿二篇。
佐藤 清	英詩の精髓	背南四六判	283	二、〇〇〇	研究社	月八	▲幻想の詩人・ワット・スミス、抑壓された情熱の詩人・フランシス・トマス、社會詩人としてのギブソン外論文八篇。
立教大學編	英米文藝學	並菊製判	23	五、〇〇〇	健文社	月四	▲論說 (ステューアート・シヤーマンとアメリカ文學の主流—高垣松雄外四篇) 翻譯 (アメリカ文學の主流—松本幸夫譯外三篇)。
立教大學編	英米文藝學	並菊製判	125	八、〇〇〇	健文社	月一十	▲Wordsworth の Prelude (長澤英一郎) 詩人送迎 (岡倉山三郎) Shylock の兩面的性格 (浦口文治) 其他を収む。

文學 (外國文學史・研究)

廣瀬 哲士	新フランス文學	背南菊布入判	386	二、五〇〇	東京堂	月九	▲ヴェルレーヌの臨終、劇について一八九五年代の小説、詩人及び小説家の隨筆其他新佛蘭西文學に關する七十四篇。
飯島 正譯	現代のフランス文學	並六新製判	258	一、五〇〇	厚生閣	月二	▲ゲイクトル・ユウゴの遺産、ルナン氏よりのエッセイまで、一九〇〇年より一九一四年までのフランス散文文學外十五篇。
日佛會館編	佛蘭西科學	並菊製判	98	一、〇〇〇	岡書院	月十	▲言語學—藤岡勝二、希臘學—新村出、ラテン文學—田中秀英、ケルト語學—市河三喜等四篇。
日佛會館編	佛蘭西科學	並菊製判	194	一、八〇〇	岡書院	月十	▲佛語學研究—井上源次郎、中世佛蘭西文學研究—後藤末雄、近代佛蘭西文學—吉江喬松イタリヤ研究—大類伸外三篇。
東京帝國大學編	獨逸文學研究	並製判	438	一、〇〇〇	第一書房	月二	▲ニーベルンゲン之歌の本文批判に關する最近の提議に就いて (雪山俊夫) 獨逸中世宗教劇 (新開良三) 外六篇。
東京帝國大學編	獨逸文學研究	並製判	569	一、〇〇〇	第一書房	月六	▲ヘルデルリンの詩—吹田和助、アルノ・ホルツの詩について—茅野蕭々、ゲオルグを訪ねて—青山郊外外四篇。
東京帝國大學編	獨逸文學研究	並製判	137	一、〇〇〇	第一書房	月二十	▲獨逸の精神 (鹿子木員信) ゲーテ研究序論—上 (奥津彦重) テーメル、Zwaj Menschen について (關泰祐) 外三篇。
ベ・エス・コーガン著	ソヴェートロシア文學の展望	並四六判	321	一、〇〇〇	叢文閣	月五	▲最も組織的系統的にソヴェート・ロシアの文學の理論、作品のすべてに互つて説述せるもの—十月の前後外三篇。
黒田 辰男	ソヴェートロシア文學の十年	並製判	356	七、〇〇〇	白揚社	月二十	▲十月革命直前の凡ゆる文學内諸傾向と諸潮流とを清算せるもので、十月の前後、プロレタリア文學外一篇。
山内 封介	ソヴェートロシア文學の十年	並製判	404	一、六〇〇	世界社	月七	▲ソヴェート・ロシアの文學批評を歴史的に検討せるもので、第一明の文學理論外二章に附録黨の組織と黨の文學。

文學 (日本文學史・研究)

岡澤秀虎	ソヴェート・ロシア文學理論	洋装菊布入判	404	三、〇〇	一八	神谷書店	月一	▲ソヴェート・ロシアの文學批評を歴史的に検討するもので、革命後のロシア文學概観の第一期の文學理論外二章。
梵佛傳文學の研究	支那近世戲曲史	洋装菊布入判	670	五、八〇	二四	岩波書店	月一十	▲馬鳴及び梵佛傳文學の研究(平等道昭)の二篇を収む。
支那近世戲曲史	支那近世戲曲史	布装菊布入判	950	七、〇〇	三六	弘文堂書房	月四	▲宋元戲曲史を承け、明清時代の戲曲全般に亘り名作の梗概を叙し、劇場俳優其の他戲曲一切に關する研究を収む。
トルストイの思ひ出	トルストイの思ひ出	上装四六判	636	二、三〇	二二	岩波書店	月一十	▲日本にて書下したトルスタヤの父トルストイに關する回想録で、私の生れた頃、父の不安、私と父、家出外世三項より成る。
ドストエフスキ	ドストエフスキ	並装四六判	302	一、五〇	八	日向堂	月十	▲グレイエ、コロンビエに於ける講演、カラマゾフ兄弟外二篇。附録アンドレ、ザイドルネ、ラルフ其他。
ドストエフスキ	ドストエフスキ	背装四六判	236	一、五〇	二二	改造社	月五	▲千九百十七年二月・三月のサヴィエツト革命以後初めて公けにされたドストエフスキの書簡の大部分を収めたもの。
アプトン・シンクレア評傳	アプトン・シンクレア評傳	並装四六判	282	一、五〇	二二	先進社	月七	▲社会的叛逆家としてのシンクレアの發展過程及び個々の著作人物の全輪廓に就いて述べたもの。
金が書く	金が書く	並装四六判	335	一、四〇	一〇	新潮社	月四	▲經濟的見地からのアメリカ文學の研究で、向金性、有名になること、文學的自衛闘、ロマンズと反動外四十三篇。

日本文學史・研究

武田祐吉	上代日本文學史	洋装菊布入判	382	二、五〇	一八	博文館	月十	▲上代日本文學の概説をなし上代文學の收載三編。附索引。
------	---------	--------	-----	------	----	-----	----	-----------------------------

文學 (日本文學史・研究)

萬須芳次郎	日本文學十二講	洋装四六判	538	二、〇〇	二二	新潮社	月三	▲古代及び中世の日本文學、神の文學から建國文學へ、平安中期及び末期の短歌と散文、鎌倉時代の佛敎文學外八講。
高安月郊	日本文藝近代史	布装四六判	610	三、〇〇	二二	早稲田大學出版部	月六	▲日本近代文學の變遷を綜合せるもので、解放期、類聚期、風雲期の三篇。年表、索引附載。
垣内松三編	國文學體系	洋装菊布入判	1229	五、〇〇	三〇	不老閣	月十	▲國文學體系の問題を具體的に解説せるもので、日本文學の思潮―垣内松三、和歌史―齋藤清衛外廿六章。
藤村作	日本文學聯講	洋装菊布入判	540	三、五〇	二七	中興館	月四	▲本書擔當の執筆者は守隨憲治、重友毅、山口剛、山崎龍、田中辰二、藤生磯次、藤村作の七氏で江戸文學の各自得位の研究を發表。
土田杏村編	國文學研究	並装四六判	162	一、〇〇	二二	第一書房	月十	▲古事記の形態―倉野憲司、古代の諷刺歌―西村眞次、フカダチ考―伊波普猷、文藝創作の辯證法的過程―土田杏村外七篇。
末政寂仙	國語と國文學の研究	布装菊布入判	656	二、四〇	一八	改善社	月十	▲一般に國語と國文學の趣味と知識を得るための参考書として編んだもので、國語學、國語學史外二篇。
徳田淨	原始國文學考	洋装四六判	320	二、五〇	二二	目黒書店	月九	▲從來の國文學研究者に渴望されたのは原始國文學であつた。著者は平野を旨として書か、れて一般人に示せるもの。
水野平次	白樂天と日本文學	洋装菊布入判	450	四、五〇	一八	目黒書店	月二十	▲漢文學の影響を汲んで發達した日本文學と白樂天文學の關係についての研究書。
辰巳利文	大和萬葉古蹟巡禮	洋装四六判	336	二、三〇	二二	紅玉堂	月六	▲感想及び上代文學古美術に關する雜集で、萬葉雜錄、古美術雜記、椿と壺、古典の味、大和民族私解外六十餘篇。
辰巳利文	大和萬葉古蹟巡禮	並装四六判	111	八、五〇	四	紅玉堂	月一十	▲さきに公刊した「大和雜記」の中から萬葉集に關係のある部分だけを抜き輯めたもので宮瀧の徵外十九篇。

京都帝國大學內編 國文學會編	樋口慶千代編	飯野哲二	山口剛	黒岩涙香	三川村鳶魚編	三川村鳶魚編	三田村鳶魚編	福井久藏	福井久藏	福井久藏
江戸文學圖録	近松語彙	近松の藝術と人生	斷碑斷章	小野小町論	西好色五人女輪講	東海膝栗毛輪講	連歌の史的 研究	近世和歌史	和歌連歌叢考	
和装二重 紙巻入	新装 背判革入	洋装四六 布入判	布装四六 裝入判	洋装三六 布入判	洋装菊 布入判	上装四六 裝入判	布装菊 裝入判	布装菊 裝入判	洋装菊 布入判	
348	771	231	390	190	333	390	495	524	668	
二〇〇〇 三六	八五〇 二四	一六〇 二二	二〇〇 二二	五〇 六	三〇〇 一八	三〇〇 二二	四八〇 二四	四八〇 二七	五八〇 一八	
そざりてあ	富山房	賢文館	武蔵野書院	春秋社	龍生堂	春陽堂	成美堂	成美堂	成美堂	
月一	月五	月十	月二十	月七	月二十	月七	月七	月一十	月七	
▲假名草子、浮世草子、八文字屋本、洒落本、 ▲讀本、滑稽本、人情本、合巻、談義物、和歌 ▲其他、解説と圖録を二巻に収む。	▲近松果林子の著作全部に互つて解説を施し ▲五十音順に語詞を排列せるもの。附録典據解 ▲説、果林子略歴と著作物其他。索引。附録典據解 ▲日本文學の粹である近松の研究で、近松の藝 ▲術生活二篇。近松の作品、近松の本體、近松の藝 ▲術觀外二篇。柳亭種彦のこと々々も、六樹園の ▲狂歌推諷、雜司ヶ谷より、江戸時代の農村と ▲文藝外十三篇。	▲小町の出身、男に對する小町の態度、小町 ▲と藤原族、雨乞と歌争ひ、寺参りと僧正通昭 ▲千古の淑媛外十章。	▲西鶴の名作「好色五人女」を、林若樹、木 ▲村仙秀、鈴木南陵、森鉄三、間民夫、柴田曾 ▲曲の諸氏及三田村氏が解釋したもの。	▲鼠骨、若樹、竹清、仙秀、二葉、煙崖、鳶 ▲魚、共古諸氏の一九の「膝栗毛」の研究で、 ▲七編卷之上より始まる。	▲連歌の起源發達を明かにし千數百年に互る ▲間の斯道の著名な作家の業績を述べ作品を論 ▲評せるもの。	▲近世三百年間の名ある作家を拉へ來つてそ ▲の生活と信條と作品とを考察し末に年表及書 ▲人名等の索引を加へた。	▲國民文學たる和歌の作法・創作心理を始め ▲とし斯界の珍しき典籍の解説批評より大名漢 ▲學者の紹介等八十餘篇を収む。	▲紀歌集に現れた古代の歌、萬葉集の和歌 ▲の歌外三章。一、藤原朝の和歌、新古今集 ▲の歌外三章。一、藤原朝の和歌、新古今集 ▲の歌外三章。一、藤原朝の和歌、新古今集 ▲の歌外三章。一、藤原朝の和歌、新古今集	▲新古今を縱にあるひは横に論じ、且究めた ▲る系統的的研究書。	▲婦人としては容易に耐へられぬ大なる試練 ▲の前に雄々しく戦つた貞心と千代と蓮月に關 ▲する研究。

太田水穂	相馬御風	佐藤一三編	太田水穂	露伴學人	萩原井泉水	西各勢之助	萩原井泉水	小田孝雄 山田龍夫 田村阿四郎 阿部典次 大塚隆郎 土井正雄 井上知雄	萩原井泉水	西各勢之助	萩原井泉水	露伴學人	太田水穂	佐藤一三編	相馬御風	太田水穂			
和歌讀本	新古今集の研究	貞心と千代と蓮月	俳諧史概説	芭蕉連句の根本解説	續芭蕉俳諧研究	炭俵續猿蓑抄	芭蕉風景	煩惱人芭蕉	奥の細道を尋ねて	和歌讀本	新古今集の研究	貞心と千代と蓮月	俳諧史概説	芭蕉連句の根本解説	續芭蕉俳諧研究	炭俵續猿蓑抄	芭蕉風景	煩惱人芭蕉	奥の細道を尋ねて
洋装四六 布入判	上装菊 裝入判	布装四六 裝入判	洋装四六 布入判	布装菊 裝入判	布装四六 裝入判	上装四六 裝入判	布装菊 裝入判	布装四六 裝入判	布装四六 裝入判	洋装菊 布入判	布装菊 裝入判	布装菊 裝入判	洋装四六 布入判	布装菊 裝入判	布装四六 裝入判	上装四六 裝入判	布装菊 裝入判	布装四六 裝入判	布装四六 裝入判
209	180	329	284	643	446	284	376	337	365	209	180	329	284	643	446	284	376	337	365
一、〇〇 六	一、〇〇 六	一、八〇 二二	二、〇〇 二二	四、五〇 一八	二、八〇 二二	二、五〇 一八	一、五〇 二二	一、五〇 二二	一、八〇 二二	一、〇〇 六	一、〇〇 六	一、八〇 二二	二、〇〇 二二	四、五〇 一八	二、八〇 二二	二、五〇 一八	一、五〇 二二	一、五〇 二二	一、八〇 二二
富士書房	水斐社	春秋社	啓文社	岩波書店	岩波書店	岩波書店	春秋社	萬里閣	春陽堂	富士書房	水斐社	春秋社	啓文社	岩波書店	岩波書店	春秋社	萬里閣	春陽堂	春陽堂
月十	月四	月二	月十	月一十	月二	月一十	月一	月二十	月七	月十	月四	月十	月十	月一十	月二	月一十	月二十	月七	月七
▲假名草子、浮世草子、八文字屋本、洒落本、 ▲讀本、滑稽本、人情本、合巻、談義物、和歌 ▲其他、解説と圖録を二巻に収む。	▲紀歌集に現れた古代の歌、萬葉集の和歌 ▲の歌外三章。一、藤原朝の和歌、新古今集 ▲の歌外三章。一、藤原朝の和歌、新古今集 ▲の歌外三章。一、藤原朝の和歌、新古今集	▲婦人としては容易に耐へられぬ大なる試練 ▲の前に雄々しく戦つた貞心と千代と蓮月に關 ▲する研究。	▲一般好俳の諸士並に文檢國語科受験者爲め ▲に古來より現代に至る歴史を簡明に叙述す。	▲七部集中の芭蕉扱ひの歌仙十六巻を採擇し ▲て解説せるもので、冬の日、曠野、ひさご其 ▲他。連句索引、内容索引併載。	▲續猿蓑柳の巻、八九間空て雨降る柳かな外 ▲卅五句、ひさご花見の巻、木のもとに汁も鱈 ▲も櫻かな外卅五句のの研究。	▲孤屋野坡利中の三人が選みたるもの、中の ▲句を解釋したもので、外に「續猿蓑」の解釋を ▲収む。	▲芭蕉紀行の遺蹟を訪れた萩原氏の紀行で、 ▲深川庵居の頃、野晒紀行の跡、鹿島紀行の跡 ▲笈の小文の跡外三篇。	▲俳聖芭蕉の人及び藝術の研究で、芭蕉の藝 ▲術生活(具おほひ虚榮時代以下三章)芭蕉の人及 ▲び生活(芭蕉と戀愛外二章)。	▲芭蕉が杖をひいた奥の細道を旅せる萩原氏 ▲の旅の記で、五月雨時、夏草の頃、涼しき海 ▲へ、秋風と共に等四篇。										

市橋 鐸 俳人丈艸	吉松 祐一 人間一茶の生涯	藤本 實也 一茶の研究	今井 卯木 川柳江戸砂子	島田 青峰 俳句讀本	島田 青峰 俳句讀本	安藤 玄怪坊 謠曲と川柳	鹽田 良平 本文註明治文學史抄	山田 清三郎 日本プロレタリア文學運動史	文藝家協會編 文藝年鑑
上四六判 製入判	洋四六判 布入判	布四六判 裝入判	布四六判 裝入判	背四六判 洋布入判	上四六判 製	布四六判 裝入判	洋四六判 布入判	並四六判 製	布四六判 裝入判
357	400	722	1159	308	308	1644	433	313	478
二、五〇 三	一、八〇 三	二、八〇 三	五、五〇 一八	一、七〇 三	一、三〇 八	七、三〇 一八	二、九〇 一八	一、〇〇 六	一、七〇 三
白帝書房	大同館	武藏野書院	春陽堂	富士書房	富士書房	春陽堂	大燈閣	叢文閣	新潮社
月四	月七	月七	月十一	月三	月三	月七	月九	月二	月三
▲俳人内藤丈艸の研究で、大山時代、放浪時代、無名庵時代、俳幻庵時代、丈艸の爲人、俳諧觀外編。	▲芭蕉以後の俳諧の命脈を完全に後世に傳へた苦悶の俳人一茶の生涯を収めたもので、一茶の生涯外一篇。年譜一茶句抄併載。	▲三十幾年旅に漂浪した俳人一茶に就ての研究で、一茶の一生、一茶の面影、一茶の性格一茶の句品外一章。	▲享保版と明和版の「江戸砂子」を骨子とした川柳による江戸研究で、名所舊蹟(江戸城以下三百三十餘項)	▲談林以前、談林時代、談林より正風へ、芭蕉、蕉門の人々、中間時代、天明時代、第二の不振時代外二章より成る俳諧史。	▲談林以前、談林より正風へ、芭蕉、蕉門の人々、蕉門以外の人々、天明時代、第二の不振時代外三章(應酬版)	▲葵上以下六百五十餘篇の謠曲の一節を掲げ之に關聯する古川柳を蒐録した書で、引用萬句合年表外十三項。	▲散文を中心として引用文を添加し頭註を附せるもので、新文章の興起、人生派文學の二篇十四章。	▲我國にプロレタリア文學運動が始つてから最近に至る歴史的な成長發達の里程を明らかにせるもの。	▲文藝の各部門即ち小説、戯曲、評論、隨筆、雜文其他に關し一ヶ年に互る概観、傾向等を主眼として収めたもの。

小林 鶯里 現代文學の輪廓	野上 豊一郎 能樂	戸川 秋骨 能樂禮讚	横井 春野 謠曲と能樂通	金井 紫雲 樹木と藝術	住江 金之 酒	尾崎 久彌 怪奇草雙紙畫譜	司馬 漢著 天地理談	大橋 青湖編 釣魚秘傳集
並四六判 製	洋四六判 布入判	洋四六判 布入判	並四六判 製	洋四六判 布入判	布四六判 裝入判	上四六判 製入判	洋四六判 布入判	上四六判 製入判
104	302	327	198	218	557	328	237	486
四〇 文藝社	二、八〇 一八	三、二〇 二二	七〇 八	三、〇〇 二二	二、八〇 三三	二、五〇 二二	三、八〇 二二	三、五〇 一八
岩波書店	大岡山書店	四六書院	芸艸堂	西行會	國際文獻會	岡書院	第一書房	第一書房
月六	月二	月二十	月六	月八	月七	月三	月七	月八
▲明治初期から今日に到るまでの文壇の動きと、各流派に對する代表作品及びその大項を書いたものである。	▲能に關する論文を収めたもので、能の立役一人主義、子方の舞臺的効果、能の戲曲的傾向外七篇。	▲啓蒙能樂談、再び道成寺を觀る、六平太氏風外五篇。圖版七十四。附録實盛、松風。	▲初心の人々の爲めに謠曲及び能樂について一般知識を説いたもので、謠、能、能狂言の三篇。	▲樹木が如何に藝術の上に現れてゐるか繪畫に、松、杉外四十三篇。	▲酒の史的、酒の民謡、酒のロマン、禁酒問題への表裏、酒の民謡外三篇にて科學の考察を加へ論述せるもの。	▲草雙紙の怪奇的構圖八十六圖及び參考圖版三十一圖を収め其の解説をなせるもので、怨念と藥籠(北齋畫)以下。	▲徳川文化が生んだ一奇才司馬漢の遺稿天地理談を紹介せるもの。附録市井の哲人司馬漢、司馬漢年譜。	▲化政度以來江戸の釣友間を風靡した珍書稀釣客傳外九篇。

能樂・特殊研究・古文獻

書誌學・圖書學

壽岳文章	書誌學とは何か	上 四六判 製	42	五〇 四	そぐろりてあ	月一十	▲著者が京都帝大英文學會の招きによつて講演した時の稿本を訂正されたもので、書誌學の意味とその使命を簡潔に述べた小冊子。
庄司淺水	書物の敵	並 四六判 製	191	一、五〇 八	ドブムツ社	月一十	▲英吉利の著名な印刷家にして書誌學者たるブレイツの著書による「書物の敵」及び典籍雑誌(五篇)を収む。附索引。
河原萬吉	古書通	並 四六判 製	169	七〇 六	四六書院	月四	▲古書に關する一般常識を説述せるもので、紙の發生とわが國への渡來、印刷の起源とわが國最古の印行外九章。
三村清三郎	本の話	洋函四六判 布入判	460	四、五〇 二	岡書院	月十	▲段後に捺した蔵書印、絶版書の版木、平家時代の古本屋、稻川書千文字、文字ほり、傾城百人一首外本に關する隨筆三四五篇。
小林鶯里	世界出版美術史	洋 四六判 布	258	四、八〇 一八	文藝社	月二	▲世界各國の出版に關する略史を述べ、我が國の出版史はこれを稍々詳細に述べたもの、百數十葉の圖書意匠を附す。
東京帝國大學司書官 田中敬 圖書部事業研究會 毛利宮彦	内外参考圖書の知識	洋函菊 布入判	325	四、八〇 一八	圖書館事業會	月七	▲内外に於ける一般竝に専門的分野に於ける書辭典、洋書その他參考圖書の本質的研究で、和の注意スリブリスの意義その發達實際製作上の同好者の藏書票を互つて説述し之に東西著名
齊藤昌三	藏書票の話	背函菊 華入判	181	五、〇〇 一八	展望社	月五	▲内外に於ける一般竝に専門的分野に於ける書辭典、洋書その他參考圖書の本質的研究で、和の注意スリブリスの意義その發達實際製作上の同好者の藏書票を互つて説述し之に東西著名
井上通泰	南天莊雜筆	布函菊 裝入判	507	七、〇〇 二四	春陽堂	月二	▲浪人大原左金吾の話、番山先生の事蹟、大鐘の作者、萬葉集元曆校本につきて、南天莊歌訓外五十三篇。

隨筆・感想 (一)

新 文庫博士 村 出	琅玕記	布函四六判 裝入判	696	三、五〇 二二	改造社	月五	▲うぶすな考、東遊一ヶ月、御大切といふ言葉、音縮會議、船に丸號をつけた起源、南瓜隨筆、無憂華外小篇五十四篇。
新 文庫博士 村 出	南國巡禮	背函四六判 布入判	222	一、八〇 二二	梓書房	月八	▲南國巡禮、島田土産、南山訪書紀行、小山紀行、西航日誌抄其他等にて新村博士の旅紀限の歌等を収めたもの。
堀口九萬一	隨筆集游心錄	洋函四六判 布入判	467	二、五〇 一八	第一書房	月二	▲彼の自然觀と我等の自然觀、メーデルリン外交官珍話外廿三篇。
井上吉次郎	村と町と	布函四六判 裝入判	315	一、三〇 二二	刀江書院	月六	▲文化史眼(父の悩み、文物制度、春のおど丹鳥、山を耕すもの外十四篇)。
三田村鳶魚	江戸生活のうらおもて	上函四六判 製入判	586	三、〇〇 二二	民友社	月二	▲前後四回の儉約強要、當十錢、小判の色揚の江戸時代の銀貨、二朱女郎の六寸局、御典醫の話外江戸時代に關する隨筆十七篇。
井上紅梅	酒・阿片・麻雀	布函四六判 裝入判	474	二、三〇 一八	萬里閣	月九	▲支那で生れ支那に育つた日本人たる著者に依つて描かれた支那人の歡樂と情痴の生活で酒阿片麻雀外五篇。
米田華紅	支那風俗綺談集	上函四六判 製入判	458	一、五〇 二二	博文館	月二	▲今と昔の支那の色とりんな姿を描いたもの、隨筆(名妓三百文也其他)。
徳富猪一郎	老記者叢話	並 四六判 製	376	一、〇〇 八	民友社	月三	▲老記者の新聞物語、明治中期文壇雜話、南宗の閑祖王摩詰、書道と書家、白河樂翁公と書籍其他蘇峰翁の手記や講演を網羅す。
徳富猪一郎	書窓雜話	並 四六判 製	432	二、〇〇 二二	民友社	月十	▲正平本論語集解の行方、半山精華、藤原定家所傳本金槐和歌集、蜂須賀小六正勝を讀む海舟全集外七十六篇。
赤堀又次郎	紙魚の跡	布函四六判 裝入判	218	一、五〇 二二	民友社	月四	▲學習院の聯、風景と文藝、讀書と批判、奈之助外廿篇の隨筆を収む。

薄田斬雲	石山賢吉	太田正孝	下村海南	下村海南	波多野承五郎	池田林儀	戸田一外	堀田周一
半峰・春三翁漫談	創刊苦心	新聞ざんげ	盗	飴ん棒	隨筆東海道	女の畑を覗く	船醫風景	ブルウス
並六新製判四	並六新製判四	布四六判	並四六判	並四六判	上四六判	並四六判	布四六判	背四六判
310	228	441	344	255	593	358	470	315
一、〇〇〇	五〇〇	一、八〇〇	一、五〇〇	一、二〇〇	一、八〇〇	一、五〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇
富士書房	モダンド社	先進社	日本評論社	日本評論社	萬里閣	萬里閣	萬里閣	森彩雲堂
月八	月五	月四	月九	月九	月三	月七	月七	月一
▲高田半峰、市島春城、坪内逍遙三翁の回顧談、熱海漫談及び熱海古老の清身漫談外一篇を収む。普及版。	▲雑誌「ダイヤモンド」が創刊せられてより今に至る迄の種々の苦心談及び「草津雜信」を収めたもの。	▲新聞に就て語つた「新聞ざんげ」を始め、洋行紀「十五年目」隨感隨想錄「小理」「小情」「ねけがら帳」(廿五篇等)を収む。	▲飴ん棒、書籍漫談、金解禁漫談、ラヂオ漫談、空山、水、人、現代放言其他五部に分けて漫談、隨筆を収む。	▲故人の追憶談及び現存の人々に就ての話を收めたもので、恣忠、無頼先生に一本、くしげの油外八十四篇。	▲昔の旅は文字通りの草枕、江戸唄と上方唄の分岐點、東海第一の刀筋治、伊豆の誇、濱松の風あげ外百廿九篇。	▲ベルリンの女、ロンドンの女、ロシアの女、日本の責任外十六篇。	▲著者が過去十数年の船醫生活から得た奇話珍話を収めたもので、ナポレオンと美人、雪洲と草人の歡迎會外廿七篇。	▲愛情、夢情、時の色の卅篇より成る隨筆及小説等も収む。女人美學其他廿篇の評論、感想

隨筆・感想 (一)

芥川龍之介	辻潤	武林無想庵	萩原朝太郎	生田春月	島崎藤村	竹内道之助	武者小路實光	堀口大	岸田國士
侏儒の言葉	絶望の書	飢渴の信	虚妄の正義	生命の道	市井にありて	苦痛と快樂	撃られたプロメテ	沙上の足跡	葡萄酒の葡萄作り
並六新製判四	布四六判	並四六判	並四六判	並六新製判四	並四六判	並四六判	並六新製判四	上四六判	背四六判
220	458	442	457	491	285	326	143	300	304
八〇〇	一、八〇〇	一、五〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、五〇〇	一、〇〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇
文藝春秋社	萬里閣	新時代社	第一書房	新潮社	岩波書店	刊行會料	日向堂	第一書房	第一書房
月二十	月一十	月三	月二十	月六	月十	月二十	月六	月五	月三
▲侏儒の言葉、澄江堂雜記、病中雜記、追憶外十六篇。	▲巴里の下駄(巴里の十日間、日本がいていよ外八篇)絶望の書(ものろぎや・そりてゐる外十六篇)。	▲女房に逃げられた男の心理描寫、正しく食つて生きた外十篇。	▲結婚と女性、社會と文明、意志と忍従もしくは自由と宿命、藝術に就いて、孤獨と社交外二篇。	▲大正七年より昭和五年までの生田氏の感想集、叛逆者外七十九篇。	▲飯倉附近外四十二篇を収めた感想集。	▲ルシアン等の物語を収めた「女の好策」トの好智」等を収む。	▲私的徳性の記録(鷺の話外四篇)プロメテスの宿(金満家の會見外四篇)ダモクレスの宿(金満家の會見外四篇)。	▲佛蘭西象徴詩派の重鎮ルミ・ド・ケウルモン、の語録で、沙上の足跡第一、沙上の足跡第二、傳統及びその他。附録政治外二篇。	▲隨筆集で、土地の便り(フメリック一家の家の外五篇)エロアの控帳(散步外九篇)葡萄酒の葡萄作り(力持ち外卅一篇)。

文學 (隨筆・感想)

齊藤茂吉	尾上柴舟	井上康文	二瓶一次	片岡鐵兵	須藤鐘一	小出楡重	室生犀星	佐藤惣之助	佐藤惣之助
筆念珠集	行きつゝ、歌ひつゝ	隨戀愛・生活・藝術	生命を見つめて	彼女等と語る時	性に目さめる頃	めでだき風景	庭と木	釣りと魚	青神
上四六判 製入判	上四六判 製入判	布四六判 製入判	上四六判 製入判	並四六判 製	並四六判 製	並四六判 製	並四六判 製	並四六判 製	上四六判 製入判
331	400	307	358	308	253	275	174	156	393
二〇〇 三三	二五〇 三三	一八〇 三三	二二〇 三三	一八〇 六	二二〇 六	一五〇 〇	六〇 四	五〇 四	一八〇 三三
鐵塔書院	雄山閣	大同館	厚生閣	中央公論社	春榮閣	創元社	武蔵野書院	武蔵野書院	白帝書房
月九	月八	月二	月五	月一	月二十	月五	月八	月八	月一十
▲島木赤彦臨終記、念珠集(八十吉、新道、青根温泉外七篇)小品集(佛法僧鳥、月雪花、癡人の癡語外廿一篇)。	▲満鮮の旅の約四十日に於ける尾上博士の歌及び文を収めたもので、出發まで、馬山に行くと、ハルビンの夜外卅一篇。	▲戀愛、夫婦生活、現代の女性其他を描いた隨筆集で、戀愛生活藝術、旅情、映畫ノート短篇集。	▲生命の躍進(體驗は力外十七項)生活片影(分秒の差なり外廿五項)生命の燃焼(駕籠外五項)生命亂舞(光外卅七項)附録旅籠。	▲彼女らと語る時(美人論其他)街頭漫語(十二月の記憶と夢其他)近代風俗考(モダン日本とは其他)文學斷想(こゝろ小な聲で其他)。	▲あの家の家、文壇へ出るまで、アルパムの思出、郷土を憶ふ、牛の思ひ出、性に目さめる頃外四篇。	▲めでたき風景、春の彼岸とたこめがれ、あまの祭、祭禮記外隨筆四十八篇。	▲縁を拜む心、榮庭雜話、木藤の庭、深夜の庭、季節の外隨筆二十七篇。	▲春釣放談、初夏の釣戯、夜釣の心理、海に及ぶ釣りに關する詩十五篇。	▲春風を祝ふ、琉球の雨、眞夏の夜の夢、室生犀星の印象、丘岡右衛門の仕事、動物的人生、晩春録外九十二篇の隨筆集。

文學 (隨筆・感想)

山崎斌	宮崎安右衛門	尾崎敬義	牧原秋彦	麓生	萩原井泉水	萩原井泉水	兼崎地橙孫	吉田絃二郎	吉田絃二郎
早春	隨筆草に酔ふ者	隨筆秋花譜	自然と回想	幻想の武藏野	旅の茶話	山川行住	觸目皆花	霧島紀行	芭蕉・夜船・草の詩
布四六判 製入判	布四六判 製入判	布四六判 製入判	洋四六判 布入判	上四六判 製入判	布四六判 製入判	上四六判 製入判	並四六判 製入判	並四六判 製	布四六判 製入判
119	359	232	254	202	348	381	220	280	251
二二〇 三三	一八〇 三三	一八〇 三三	二二〇 三三	一五〇 三三	一三〇 六	一八〇 三三	一〇〇 六	一五〇 三三	三〇 六
千曲書房	大同館	日本評論社	文化書房	井田書店	創元社	創元社	人生創造社	改造社	改造社
月一	月三	月九	月九	月十	月五	月十	月九	月二	月十
▲甲春、水邊、桃、鳥賊釣り、森のかげ、白き燈火、鳥、秋風、橙、小鳥、かたみ、郷愁、長井雲坪等小品十三篇。	▲草に酔ふ者、否定と肯定、暮鳥の詩、武蔵野の新年より、即興詩人、下駄が呼ぶ、ひとりと、五合庵の聖外四十五篇。	▲放浪漫筆、惜春賦、寂光院哀史、岡野先生死の哲學外隨筆十七篇。	▲自然の様々な姿を描いた小品を収めたもの(風車小屋の秘密外三篇)。	▲武蔵野の自然を描けるもので、武蔵野篇二立つ頃外四篇。	▲旅する心(旅の元日、湯が原にて外七篇)話風に(鳥四國、大和にて外三篇)。	▲月を賣る人、或日の散策、深夜の曲、獨となりて、佛と共に、東福寺消息、淋しきまゝ、に外六十八篇を収めた隨筆集。	▲第一部俳句入門記、第二部俳句風物誌、第三部卓上落首、端なる俳論ではなく、哲學の生活的、文藝的表現。	▲霧島紀行、南薩をめぐりて、高野山通路、八月の霧島外九篇。	▲芭蕉、夜船、悲しき玩具、詩心に生く、靜かな雨が、迷ひ子、さとりきれぬ人間の心、夢の幕場外十七篇。

吉田 絃二郎	倉田 百三	平方 達雄	古田 大次郎	和田 久太郎	三宅 やす子	北村 兼子	北村 兼子	吉屋 信子	鈴木 秀三郎
春の日の	絶對的生活	死を前にして	死刑囚の思ひ出	獄窓から	眞實に歩む	表皮は動く	地球一蹴	異國點景	エロ・グロ・バリー
並六新 製判四	布函四 裝入判	布函四 裝入判	上四六 製判	布函四 裝入判	布判新 四六裝入	並函四 六裝入判	並函四 六裝入判	上函四 六裝入判	上函四 六裝入判
305	491	155	370	486	346	456	361	354	277
一、〇〇	二、五〇 一、八〇	一、〇〇	一、五〇	〇、五〇	特、二、三〇 一、八〇	一、五〇	五、〇〇	一、八〇	一、三〇
新潮社	先進社	文書堂	大森書房	改造社	教文社	平凡社	改善社	民友社	平凡社
月二十	月九	月六	月三	月一十	月六	月二	月九	月六	月九
▲俳諧寺一茶、初秋はうれしけれど、松島紀行、人生に對する二つの立場、勸修寺のほとり外四十二篇を収めた感想集。	▲論文感想手記等を掲載した書で、生活者の悩み、後ろを見える眼、貴人と蕩兒、念佛者のイデオロギイ外十六篇。	▲自己の中の戦ひ、田舎を去らざる記、生活の断片、落葉の森の如く、私はよき死に場所を得た事を喜ぶ外十七篇。	▲自叙傳「思ひ出」を始めとし、追憶録、小阪事件等故古田氏の遺稿三篇を収む。	▲福田雅太郎暗殺未遂事件の報告としての著者が獄窓にて書いたもので、碧雲暗雲、市ヶ谷から外六篇及略歴。	▲わが戀愛觀、日本の女性と友愛結婚、機械的貞操觀時代、性の問題、産兒制限公認可否婦人界時感外廿八篇。	▲地球の表皮は動く、女性擡頭時代、歐洲で何をみたか、社會短評、女浪人主義其他の感想隨筆を収む。	▲アメリカから歐洲を觀る、この頃の感想、歐洲の流行界、日本よさらば、ロンドンの看護婦外隨筆五十九篇。	▲旅立つ心、シベリヤを行く、伊太利の印象片々、巴里、ミスアメリカの横顔等異國見聞記十項と小説三篇を収む。	▲巴里明暗の世相を描けるもので、三人世帯暗黒面の詩人アリスチド・ブリエアン、ヴェットシタイン博士外十二篇。

竹内 勝太郎	米窪 太刀雄	下田 將美	青山 霞村	西條 八十	葛西 善藏	寒川 鼠骨	大町 桂月	大町 桂月	樋口 紅陽編
現代佛蘭西の四つの顔	世界の洋文譯美(一)海のローマンス	東京と大阪	京物語	民謡の旅	葛西善藏全集	寒川鼠骨集	新大町桂月集	筆のしづく	浪六人情の表裏
上函四 六裝入判	洋函四 六布入判	並四六 製判	布四六 裝判	並六新 製判四	上函四 六裝入判	布函四 六裝入判	並四六 製判	洋函四 六布入判	上四六 製判
248	514	315	200	202	523	736	659	4014	406
二、〇〇	一、五〇	一、八〇	一、三〇	四、八〇	二、五〇	一、五〇	一、〇〇	二、〇〇	一、二〇
アトリエ社	平・凡社	中央公論社	警醒社	朝日新聞社	改造社	改造社	改造社	明文館	紅陽社
月一十	月二	月一	月九	月十	月九	月六	月五	月一十	月六
▲現代佛蘭西の四つの顔(詩・繪畫・音楽・劇)の新しい神話の目覚め、肉體の相、プロファイルの下描き外二篇。	▲商船學等練習船大成丸の記念すべき世界一の航海から歸つた若きマドロスの長航記録で、さらば芙蓉峰其他。	▲東京の匂ひ(上野の憶ひ出、根津のはなし外三篇)、大阪の色(大阪を觀る外三篇)、都會雜音(霧、誰が罪を負ふか外三篇)。	▲年少の頃から京に育つた著者の見聞を基として京生活の詩的な斷層面を示した隨筆。	▲大阪朝日新聞に連載された北陸山陰山陽九州四國紀州等ひろく西日本にわたる民謡行脚を試みた西條氏の旅日記。	▲明治四十年以降昭和三年に至る間の書簡並に年譜が改めてある。	▲寫生文長篇(美哉山林、心頭無事外十五篇)紀行及隨筆(揚子江の下流見物外廿二篇)寫生文短篇(ふうちやん外廿一篇)。	▲冷汗記、畫ける美人、一日の土工夫、花の小金井、雨の中の遠足、行く春の染井、余の見たる酒豪外百卅五篇。	▲故大町桂月の文集で、開夜以下百十餘篇及び一筆録(四十篇)此處に遺あり、社會調(七十三篇)増訂版。	▲愛の抱擁、巧妙なる色彩、男子の配合鳥類に傾く、變死人は美人、人間の面の皮、其他村上浪六氏の感想五百餘篇。

(5-22)

新居格	新居格	大宅壯一	丸木砂土	丸木砂土	原比露志	田中貢太郎	近松秋江	武野蔭介	本間晴編
新居格	新居格	大宅壯一	丸木砂土	丸木砂土	原比露志	田中貢太郎	近松秋江	武野蔭介	本間晴編
ジブシーの明暗	風流に流れる	モダン層とモダン相	變な笑ひ顔で	夜の話畫の話	寢室の美學	漫筆集神を喫ふ	文壇三十年	文士の側面裏面	文壇の人・藝壇の人 漫談・思ひもよらぬ話
四六判 製入	四六判 製	四六判 製	四六判 製	四六判 製	四六判 製	四六判 製	四六判 布製	四六判 製	四六判 製
336	347	358	33)	355	333	427	288	367	339
一、五〇 二	一、二〇 八	一、三〇 八	八〇 六	一、二〇 六	一、五〇 八	一、二〇 八	一、八〇 八	一、五〇 八	一、二〇 二
萬里閣	新時代社	大鳳閣	中央公論社	明星書院	刊行會料	明星書院	千倉書房	千倉書房	田中書房
月二十	月一	月八	月四	月十	月十	月二十	月二十	月六	月七
▲ジブシーのブローグ、ジブシーの戀惑(スベインのジブシー、ジブシーの貯水池マケドニヤ外六篇)。	▲新居氏の社會事象の流走に對して加へた感想と短篇とを収めたもので、短篇、人物觀、評論、隨筆等。	▲「モダン」といふ名を冠せられてゐる人間及び現象を中心とする現代生活を解剖批判せるもので、女性尖端人批判外四十七篇。	▲變な笑ひ顔で(女は匂ひなり、秋の兵隊外九篇)上品ぶつた顔で(三越藝術外十篇)鹿爪らしい顔で(ノラのヒステリイ外十篇)。	▲匂ひの酒場、ゆかたの近代性、海水浴、東西傾國妖姬傳、風變りな女、水谷八重子さん夢の曲外卅八篇を収めた散文集。	▲文學猥談、美術猥談、音樂猥談、映畫猥談レビュウ猥談、風俗猥談等六篇より成るもの。	▲神を喫ふ、郷に歸りて村芝居を見る、文學市井に墮つ、耶馬溪より別府へ、瓊音氏の告別式の日外廿四篇。	▲藝術の形而上學的解釋、自分の見て來た明治三十年以後の文壇、通俗と藝術と、トルストイの技巧外二十四篇。	▲現文壇に活躍してゐる作家の裏面側面を描いたもので、軍事教育、作家の指、立小便、不幸な夫人外百十八篇。	▲谷崎潤一郎氏の生活から(渡邊清)俳優臭くない菊五郎(水谷幼花)其他文士俳優に關する二十三篇。

(5-23)

文藝家協會編	若草編輯部編	令女界編輯部編	田井嘉藤次	岸一太	中島悅次	新屋敷幸繁	澁川玄耳	佐佐木信綱編
詩と隨筆集	若草散文集	令女散文集	詳古事記新考	古事記真釋	古事記評釋	古事記の鑑賞	改訂三體古事記	白文萬葉集
四六判 製	四六判 製	四六判 製	洋函菊 布入判	洋函菊 布入判	洋函菊 布入判	洋函菊 布入判	洋函菊 布入判	菊半截 製
788	220	353	441	210	670	288	467	482
一、五〇 〇	八〇 六	八〇 六	三、六〇 一八	二、五〇 一八	三、五〇 二七	一、八〇 二二	二、〇〇 一八	一、〇〇 六
新潮社	寶文館	寶文館	大同館	交蘭社	出版部堂	大同館	誠文堂	岩波書店
月五	月二十	月十	月一	月一	月四	月一	月十	月三
▲詩・散文詩(生田春月以下十五詩人の詩八十一篇)隨筆(淺原六朗以下十五氏の隨筆六篇)。	▲雜誌「若草」の創刊以來六ヶ年に互る隨筆小品、書簡、日記、評論及び短篇小説を以てした一大收成集。	▲雜誌「令女界」に發表された小品、隨筆、感想、日記文等二百篇を収めたもの。現代作家小品集併載。	▲所謂日本の神典であり上代の國語である古事記を釋義せるもので、上卷は第一段天地初發より第十一一段鶴龜草葦不合章迄。	▲世界無比の神典たる古事記の記録せる文章の意義を主に釋明したもので、神代一之卷以下七部。	▲國寶たる眞福寺木を底本としあらゆる分科から見て妥當の見解の下に懇切な評釋をなしたるもの。	▲古事記を正しく理解出来るやう説いたもので、神代記外十章の序説、記録時代の反映としての神代記外十章。	▲原文、古訓、俗語の三體にて古事記の對譯をなせるもの。一訂補版。	▲寛永版本の訓を削つて底本とし新訓萬葉集をもととして訂正を加へた白文萬葉集。

佐佐木信綱編 白文萬葉集 下卷集	佐佐木信綱編 分類萬葉集	佐野保太郎 解萬葉集	武田祐吉 萬葉集新解	武田祐吉 萬葉集新解	鴻巣盛廣 萬葉集全釋	藤井乙男 萬葉集略解	上田英夫 萬葉集精選	吉澤義則監修 上代文學選	鳥津久基校訂 源氏物語
並製 菊半紙	洋函四六判	洋函四六判	洋函菊布入判	洋函菊布入判	洋函菊布入判	洋函四六判	洋函五七判	布函四六判	並製 菊半紙
212	925	794	498	525	657	545	225	446	208
八〇	四、五〇	三、八〇	三、〇〇	三、〇〇	六、三〇	一、八〇	一、三〇	二、二〇	四〇
岩波書店	岩波書店	藤井書店	山海堂	山海堂	廣文堂	文獻書院	廣文堂	學立命館部大	岩波書店
月四	月九	月八	月五	月五	月七	月六	月二	月九	月九
▲下巻は旋頭歌十七首、正述心緒歌百四十九首、寄物陳思歌二八二首、問答歌廿首、譬喻歌十三首を収めたもの。	▲天部(天文、時令)地部(地文、動物、植物)人部(神佛、人物、人事)等三部に分けて番号索引、語句索引を附す。	▲本文を萬葉集古義(鹿持雅澄)の讀方に従つて假名交りに書き下ろし頭註を施せるもの。索引を附す。	▲萬葉集四千五百餘首の中からすぐれた歌、興味ある歌、有名なる歌、特殊の語法を含む歌、歌史思想史文化史の上から重要な歌等、の標準で、歌を抄出して註解を施せるものと、上巻は古代大和王朝時代外三章。下巻は詠物と騷旅外四章。索引。	▲萬葉集の全體について通俗的に文藝的に解説し考察せるもので、總べて歌に口語解及び語釋評語を施す。	▲萬葉集註釋書中の代表的大著たる橋千蔭の著にして、原本三十卷の校訂複製本。	▲萬葉集中の雄傑傑作名歌を嚴選し原歌と讀替へ歌とを並記し地名人名難語句を頭註したるもの。	▲高等學校其他の教科書として古事記・祝詞・宣命を毎章に題目を加へて収めたもの。	▲第三には「初音」より始つて「若菜上」までが収めてある。	

竹野長次 定和泉式部日記新釋	小室由三 紫式部日記全釋	池田龜鑑校訂 紫式部日記	久松潜一校註 伊勢物語	武田祐吉 校註竹取物語	吉田九郎 竹取物語全釋	平林治徳 源氏物語粹	高橋丁講述 源氏物語講義	鳥津久基 對源氏物語講話	金子元臣 本源氏物語新解
布函四六判	背函菊洋布入判	並製 菊半紙	布函菊半紙	洋函四六判	洋函菊布入判	洋函五七判	洋函四六判	洋函菊布入判	洋函四六判
248	264	114	147	107	99	312	957	544	737
一、五〇	一、五〇	二〇	二〇	六〇	一、〇〇	一、三〇	三、〇〇	三、九〇	三、八〇
精文館	廣文堂	岩波書店	改造社	明治書院	廣文堂	廣文堂	健文社	中興館	明治書院
月一	月十	月六	月五	月二十	月五	月二	月二	月二十	月三
▲先づ原文を掲げ、細密なる語釋を掲げ、更に通釋を施したものである。巻頭に和泉式部の傳記二十頁を掲ぐ。	▲紫式部日記の本文を中段に載せ、上段を語釋に下段を口譯にせる三段式にて全釋せるもの。附索引。	▲紫式部日記を假名に漢字をあてて校訂せるもの。解説併載。	▲日本の文學史上に最も重んぜられてゐる伊勢物語を讀み易く平易な註を附したるもの。附伊勢物語新考序其他。	▲竹取物語に詳細な頭註を加へ宮内省所藏の繪巻を挿繪にした、卷末に竹取に關する文献及び詳密な解説を添へた。	▲竹取物語の主要部を採り、竹取に關する語釋、口譯、校訂の三段式にて全釋せるもの。なよ竹外九篇。索引。	▲源氏物語の主要部を採り、源氏物語をやさしく講述せるもので、桐壺、帚木、夕顔、若紫外六篇。	▲今から約千年も前の書たる源氏物語をやさしく講述せるもので、桐壺、帚木、夕顔、若紫外六篇。	▲原文を離れて口譯だけで獨立した一箇の小説として讀めるやう講述せるもので、桐壺卷帚木卷の二卷。	▲下巻は句宮、紅梅、竹河、橋姫、推木、總角、早蕨、宿木、東屋、浮舟、蜻蛉、手習、夢浮橋の十三篇を註解せるもの。

池田龜鑑校訂	土佐	日記	並 菊半載製	112	二〇	岩波書店	月六	▲前田侯爵家藤原定家自筆の土佐日記を底本として校訂せるもの。解説附載。
小室由三	土佐日記全釋	洋函菊布入判	118	一、〇〇	廣文堂	月五	▲紀貫之の土佐日記を三段式に全譯せるもの。索引を附す。	
永田義直	土佐日記新講	洋函四六布入判	416	一、七〇	岡村書店	月四	▲平安朝時代初期に於ける日記隨筆の最初の四項目に分けて講述す。	
西下經一校訂	更級日記	並 菊半載函	104	二〇	岩波書店	月五	▲藤原定家自筆の更級日記の本文に據つたもので、あづまの旅、梅の花にそへて繼母に歌をおくる其他。	
小室由三	十六夜日記全釋	洋函菊布入判	125	一、〇〇	廣文堂	月五	▲上段に原文の語句の註釋、中段に本文、下段にその現代語釋を示して十六夜日記を三段式に全譯せるもの。索引。	
塚本哲三著	通解十六夜日記	新四六判布裝	180	一、〇〇	有朋堂	月三	▲十六夜日記の解釋に對する古來の諸說を檢討し、最後の鐵案を下した著。	
藤田徳太郎編	平安朝物語選要	新菊判洋布	260	一、二〇	明治書院	月二十	▲平安朝時代物語二十餘種を抄録し各篇に解題を附し篇末に平安朝の文學史論を載せた。	
笹川種郎校註	落窪物語・住吉物語	洋函四六判布入判	345	一、二〇	博文館	月一	▲お人善の繼子娘とその繼母との紛争を描いた落窪物語を初め住吉物語、堤中納言物語、徒然草の四篇を校註せるもの。	
尾上八郎	講本枕草子	大和綴菊判	248	一、二〇	育英書院	月八	▲内容を二部に分ち前篇には隨筆としての精粹をあげ後篇には記述の年代に従つて順次にあげ終に精細なる解説註釋を加ふ。	
玉井幸助	枕草子選	布函四六裝入判	211	一、五〇	大學出版部	月五	▲前後兩篇に分け前篇は清少納言の宮仕へ中の年紀の明かにし得るものを探擇し後篇は前篇にもれたものを選び收む。	

吉澤義則監修	大鏡選	布函四六裝入判	245	一、五〇	大學出版部	月五	▲文徳天皇より後一條天皇まで約百七十六年間の事を列傳體に記せる假名歴史大鏡を收めたもの。
吉澤義則監修	增鏡選	布函四六裝入判	239	一、五〇	大學出版部	月五	▲後鳥羽天皇より後醍醐天皇讚岐より還幸に至るまで約百五十間の歴史物語たるますかかみを收む。
和田英松校訂	水鏡	並 菊半載製	110	二〇	岩波書店	月十	▲神武天皇より仁明天皇まで五十五代千五百二十二年間の事歴を假名文で御代々の順に掲げられた「水鏡」の校訂。
幸田露伴校訂	太平記	洋函三六布入判	1375	三、二〇	日東書院	月五	▲第一卷御醍醐天皇御治世の事附武家繁昌の事を収む。
吉澤義則監修	平家物語選	布函四六裝入判	330	二、〇〇	大學出版部	月六	▲鎌倉期の散文文學中の白眉と云はれる平家物語を萬治二年版の片假名本を底本として校訂す。
御巫清勇	平家物語	洋布五七判	608	一、九〇	廣文堂	月六	▲高校専門學校の教科用として平家物語全部を厳密に校訂し難語句を頭註したもので、巻頭に解題參考書を載せてある。
久松潜一編	隨筆文學集	洋函菊布入判	588	三、五〇	博文館	月二	▲枕草子、方丈記、野守鏡、徒然草、耕雲口傳、ひとりごと、臆説剩言、歌論、眞言辨等を收む。
吉澤義則撰	增註徒然草諸抄大成	並 菊製判	226	一、〇〇	大學出版部	月二十	▲徒然草の諸抄大成を復刻し明治以後の諸評釋に依つてその缺陷を補足完成せるもので、徒然草諸抄大成卷一より卷五迄を收む。
吉澤義則撰	增註徒然草諸抄大成	並 菊製判	189	一、〇〇	大學出版部	月二十	▲貞享五年板行の淺香久敬編徒然草諸抄大成を復刻し明治以後の諸評釋によつてその缺陷を補足したもので、卷六より始る。
塚本哲三著	縮徒然草解釋	布函四六裝入判	680	二、五〇	有朋堂	月三	▲原本徒然草解釋を高校専門諸學校の學生諸君に縮刷したるもの。購讀に便する爲め、鮮明無比に縮刷したるもの。

文學 (國文學)

玉井幸助	玉井幸助	玉井幸助	久澤泰穩	山田孝雄校訂	宗不旱	金子元臣	酒井克巳	吉澤義則監修
新抄徒然草枕草子	新抄方丈記十六夜日記	新抄玉かつま駿臺雜話	神皇正統記	倭漢朗詠集	柿本人麿歌集	定家歌集評釋	古今和歌集	古今和歌集選
上製判	上製判	上製判	洋布	並製	並製	洋布	洋布	洋布
154	106	148	260	142	119	240	702	141
六〇	四四	五五	一〇	二〇	八五	一、二〇	一、二〇	一、〇〇
育英書院	育英書院	育英書院	廣文堂	岩波書店	紅玉堂	目白書院	明治書院	立命館出版部
月八	月八	月九	月一	月十	月二	月二十	月三	月五
▲兩者共に作者の風貌思想と文致とを代表するやうな文章のみを抄出して古繪巻その他より得たい挿繪を多く加へてある。	▲方丈記は扶桑拾葉集本と前田侯爵家本大福光寺本により十六夜日記は九條公府家本による。正しき姿とした標準校定本。	▲江戸時代に於ける儒者國學者の二大代表者の隨筆を抄したものである。儒者國學者の二大代表者の隨筆を抄したものである。儒者國學者の二大代表者の隨筆を抄したものである。	▲原文を厳密に校訂し章節を立て難語句を頭註したもので、巻頭に筆蹟・解題を掲げてある。	▲一條天皇の頃の人藤原公任に依つて和歌及撰ばれた倭漢朗詠集を校訂せるもの。	▲人麿の多くの歌を、語義、大意、評言などにて一々評釋したものである。	▲藤原定家の家集である拾遺愚草及び同員外作中の作品に評釋を加へたもので、本歌取の作品を加へたもので、古今集研究者の参考書として流布本を底本として校訂したものに簡明な註を加へたもので、古今集研究者の参考書として流布本を底本として校訂したものに簡明な註を加へたものである。	▲古今和歌集と新古今和歌集とを合編せるもの。附録の論文は萬葉及其の以後の歌風の變遷を論じ其の態度と思想を解剖する。	▲古今集の歌にしたしめるやう編んだもので、春歌、夏歌、秋歌、冬歌、賀歌、離別歌、旅歌、物名其他を収む。

二五四

文學 (國文學)

尾形美宣	黒木勘藏校註	有馬賢頼	若月保治	岩城準太郎	和田萬吉選註	野本米吉	野口米次郎編著	佐佐木信綱編	吉澤義則監修
西好色五人女詳解	近松世話物新釋	近松世話物新釋	詳全譯近松傑作集	江戸八大家文	狂言選集	名謡曲新釋	西行全集	金槐和歌集	新古今和歌集選
洋布	洋布	洋布	洋布	洋布	洋布	洋布	洋布	洋布	洋布
272	256	186	6'6	345	312	426	765	115	214
二、八〇	三〇	五〇	五〇〇	一、九〇	一、二〇	三、三〇	二、二〇	一、五〇	一、三〇
大同館	改造社	正文館	太陽堂	東洋圖書株式會社	明治書院	大同館	富士書房	岩波書店	立命館出版部
月一十	月六	月八	月四	月二	月十	月九	月二	月四	月五
▲西鶴の傑作「好色五人女」の本々を最も學究的に解説せるもので、姿態路清十郎物語外四篇。附井原西鶴の研究、語句索引。	▲近松果林子の世話浄瑠璃中の傑作、「曾根崎心中」を「心中天網島」「女殺油地獄」の三篇を収む。	▲近松門左衛門の世話浄瑠璃のうち、「曾根崎心中」の網島、「女殺油地獄」の三篇を採録して語釋、後記を施せるもの。	▲地獄外二篇の世話を収む。	▲堀川波の鼓、冥途の飛脚、長町女腹切、山崎與次兵衛、門松、博多小女郎浪枕、女殺油馬琴、(附録)江戸時代文學年表。	▲白石、谷口、井原、西鶴、近松門左衛門、新井、九曲を採録して校註せるもの。	▲大藏流の寫本より空腕、瓜盜人、悪太郎、九曲を採録して校註せるもの。	▲松尾芭蕉、井原西鶴、近松門左衛門、新井、白石、谷口、井原、西鶴、近松門左衛門、曲亭、馬琴、(附録)江戸時代文學年表。	▲野口米次郎の「西行論」を巻頭に、御裳瀧川歌合、宮河歌合、西行の作三篇を収載。	▲所謂獨創的人物の一人であつた西行に就て、野口氏が述べた「西行論」を巻頭に、御裳瀧川歌合、宮河歌合、西行の作三篇を収載。

二五五

(5-30)

文士 原退藏	文士 佐藤鶴吉	山田武司	和曲亭馬琴作 萬吉校訂	尾崎久彌編	狩谷掖齋	藤井乙男編	岩田九郎	石田元季校訂	吉澤義則監修
註世間胸算用	日本永代藏評釋	雨月物語詳解	椿説弓張月	洒落本集成	箋注倭名類聚抄	註學白集	奥の細道詳解	鶉衣	俳文俳句選
布四六判	布新編判	洋函菊布入判	並菊半紙製	上函四六判	背函四六判	洋函四六判	洋函菊布入判	並菊半紙製	布函四六判
130	420	267	241	706	544	480	340	249	189
六五	二六〇	二八〇	四〇	三八〇	五〇〇	一八〇	二二〇	四〇	一五〇
明治書院	明治書院	大同館	岩波書店	春陽堂	曙社	文獻書院	至文堂	岩波書店	學立命館部大
月二	月二	月十	月九	月八	月二	月六	月五	月二十	月五
▲西鶴が町人生活の實情を最も忌憚なく描いたもので、之に詳細な註釋を加ふ。	▲西鶴の永代藏に詳細な註釋、巧妙な口譯、要を得た批評を加へ多數の挿畫を點じたもの。	▲所謂文運東遷期に於ける上方文藝の殿將として萬丈の氣を吐いた上田秋成の壯年の頃の雨月物語を詳解せるもの。	▲馬琴の名高い大作「椿説弓張月」の複製。	▲放蕩虛誕傳、南客先生文集、眞似山氣登里青樓五雁金、染抜五所紋、夢之盜汗、傾城買杓子定規外十八篇。	▲醍醐天皇第四皇女勤子内親王の令旨を奉じて源順が編纂せる和名類聚抄に江戸末期の碩學狩谷掖齋が箋注を加へたもの。	▲木下長嘯子の歌文集にして、前半は和歌、後半は文集、從來未翻刻のもの、原本十卷。	▲全篇を四十九章に別ち各章項目を立て註釋通解の三項にて平明に註釋せるもの。附録奥の細道關係逸話外五章索引。	▲横井也の有名な俳文集で、原本に忠實に校訂複製したもの。	▲元祿期天明期文化期の俳文を時代順に非列りし之に斯迄の全體の推移を知るやうに創始期より明治迄の代表的作家の句を収む。

(5-31)

文士 萩原蘿月編	大藪虎亮	小宮豊隆編	萩原蘿月校訂	野崎左文校訂	野崎左文校訂	西原柳雨校訂	西原柳雨校訂	西原柳雨校訂	西原柳雨校訂
俳諧歴代選	俳文俳句川柳選	芭蕉連句集	蕉村七部集	萬載狂歌集	徳和歌後萬載集	俳風柳多	俳風柳多	俳風柳多	俳風柳多
布四六判	洋布	並菊半紙製	布菊半紙製	並菊半紙製	並菊半紙製	並菊半紙製	並菊半紙製	並菊半紙製	並菊半紙製
197	124	293	220	120	137	203	198	194	324
一〇〇	七〇	六〇	三〇	二〇	二〇	四〇	四〇	四〇	一五〇
白帝書房	廣文堂	岩波書店	改造社	岩波書店	岩波書店	岩波書店	岩波書店	岩波書店	岩波書店
月四	月二	月二十	月五	月七	月二十	月一	月五	月五	月六
▲材を廣く古來の俳句、連句、文章より選んで俳諧に關する豫備知識を與へたもので、文章篇、俳句篇、連句篇の三篇。	▲代表的な俳文、俳句、川柳を嚴密に選擇校訂し、作者の傳記、語句の註解を示したもの。	▲芭蕉の連句「梅の中」延寶九年より「菊の庵」元祿七年までを収めたもの。	▲其等影、あけがらす、一夜四吟、花鳥篇、宿四歌仙、洗李、續明鳥、五車反古等を訂正複製したもの。	▲四方赤良即ち後の蜀山人が撰んだ天明調の代表的狂歌集「萬載集」と「後萬載集」とを校訂複製したもの。	▲「初春と歳暮をいばふ門かざりわか松もありくれ竹もあり」外「徳和歌後萬載集」八百三十餘首を校訂せるもの。	▲上巻は柳多留第一編より第八編までを校訂複製せるもの。	▲中巻は柳多留第九編より第十六編までを収めたもの。	▲下巻は柳多留第十七編より第二十四編までを収む。	▲初ら者にも容易に理解し得るやう柳多留の解釋をなせるもので、五番目は同じ作でも江戸産「外七百五十五句」索引。

漢文

金星堂編	詩學及詩論	並 菊 製 判	356	二、七〇	金星堂	月九	▲詩と散文、アイテエラムボス、歌垣、アイオニエウソス、アイエメエテエル、生成の神外十四章。―普及版―
竹友堂	詩の起原	並 菊 製 判	461	二、五〇	梓書房	月四	▲形而上學的詩人について(西脇順三郎)カトトリス(渡邊一夫)外五十四篇。
中村好和	漢詩賦選	背 菊 布 判	16)	九〇	廣文堂	月三	▲日本詩歌論―野口米次郎、西洋詩歌論―西脇順三郎、日本詩歌の發達―土田杏村、詩學概説―外山卯三郎外一篇。
臨江詩閣	漢詩講座	和紙 菊 綴入判	1068	六、五〇	觀文社	月八	▲國文學に於ての影響を與へたる朝漢詩・絶句・律詩・古詩・辭賦を蒐集して頭註を加へたもの。
豐田八十代	唐詩選通解	布函 四六 裝入判	555	二、三〇	更生社	月一	▲初學の人にも分るやう唐詩選を通解せるもの。唐詩選中の名詩約三百餘を收めて各詩につき人名地名語句の殆んどを網羅して通釋せるもの。
水田勇賢	唐詩選新解	洋 三六 布 判	319	一、五〇	改進黨房	月四	▲皇漢名人の詩篇三百七十八篇を撰び吟詠に便なるやうな訓讀解釋を施せるもの。
鹽谷温撰	朗吟詩選	布函 三六 裝入判	215	一、五〇	弘道館	月九	▲山陽詩鈔六百六十一首、山陽遺稿五百九十首、日本樂府六十六首、逸詩六百六十七首を收めたもの。
木崎好尙編	頼山陽詩集	布函 菊 裝入判	457	三、八〇	淳風書院	月九	

金星堂編	世界近代詩研究	上函 四六 製入判	362	一、七〇	金星堂	月九	▲佛蘭西近代詩研究―山内義雄、獨逸近代詩研究―茅野蒼々、晩近 英 概説―山宮尤、愛蘭詩の現状―佐藤清外二篇。
會田毅	轉形期の詩論	並 四六 製 判	154	七〇	紅玉堂	月七	▲新興詩學の基礎、詩論の方法、詩の形態論等六篇を收む。現代詩批判、自由詩原理の顛落
堀口大學譯	今日の詩人選集(一)	背函 四六 革入判	106	一、〇〇	第一書房	月二十	▲現佛蘭西詩壇の大家ボアル・ゲアレリイの詩論で、詩「聲」詩「修辭學」其他に就て箴言風に語る。
澁野隆三編	詩・現實	並 菊 製 判	377	一、八〇	武藏野書院	月二十	▲藝術作品の評價に關する問題(瀨沼茂樹)以下三氏の詩論及び諸家の詩、研究、紹介など收載。
澁野隆三編	詩・現實	並 菊 製 判	326	一、五〇	武藏野書院	月九	▲合理主義思想と歴史的教養―板垣鷹穂、のつばの奴は黙つてゐる―高村光太郎、シネ・ボエム詩論―神原泰外四十五篇。
澁野隆三編	詩・現實	並 菊 製 判	235	一、三〇	武藏野書院	月六	▲詩論(超現實主義の没落―神原泰外三篇)の朗吟―兼常清佐外八篇)其他展望、批評等。
春山行夫編	詩と詩論	並 菊 製 判	286	一、五〇	厚生閣	月二十	▲詩と實在(瀧口修造)様式の基礎概念(瀧沼茂樹)ゲアレリイとシユルレアリスト(佐藤朝)其他。
春山行夫編	詩と詩論	並 菊 製 判	292	一、五〇	厚生閣	月六	▲二十世紀文學の一面―西脇順三郎、死の展開―田邊耕一郎其他。
春山行夫編	詩と詩論	並 菊 製 判	332	二、〇〇	厚生閣	月六	▲文明と文學及其の方法論(阿部知二)事實の藝術より秩序の藝術(春山行夫)老いた(瀧安西冬衛)外六十一篇。
春山行夫編	詩と詩論	並 菊 製 判	380	二、〇〇	厚生閣	月三	▲形而上學的詩人について(西脇順三郎)カトトリス(渡邊一夫)外五十四篇。

烟喜代司	西歐詩の鑑賞	四六判 並製	35	一〇〇 六	資文堂	月七	▲浪漫主義勃興當初より現在に至る西歐の詩人百四名の詩を各別に並列して評釋を施し小傳を収めたもの。――荻原白秋
金星堂編	詩歌の鑑賞	上四六判 製入判	410	一七〇 二二	金星堂	月九	▲詩歌の鑑賞――吉江喬松、現代詩の鑑賞――田宗治、俳句の鑑賞――室生犀星、短歌鑑賞――正富洋外三篇。
佐藤寛	啄木の詩と其の解説	上製 菊半截	252	一〇〇 六	紅玉堂	月二	▲明治廿六年に於て始めて發表して名を馳せたる啄木鳥をばじめ其他の詩篇を収めて解説せるもの。
金星堂編	現代詩體座 詩の作り方研究	背四六判 洋布入判	374	一七〇 二二	金星堂	月二	▲詩を志す人に(北原白秋)詩の本質・形式(川路柳虹)素質と教養(荻原朝太郎)自由詩入門(福士幸次郎)外五篇。
井上康文	詩の作り方	並製 菊半截	118	三五 四	素人社	月一十	▲詩の作法、詩の種類と其の内容、詩の分野と其内容、日本詩壇の推移等四編にて詩の作り方を説く――藤原白秋
金星堂編	詩語辭典	上四六判 製入判	291	一七〇 二二	金星堂	月九	▲普通いふ詩語即ち poetic diction を中心とする傳統的な韻文用語其他を収めた一部及文學術語を中心とせる二部より成る。
上田敏	上田敏詩集	並製 四六判	75	一八〇 一〇	第一書房	月三	▲故上田敏博士の詩及び譯詩を収めたもので海潮音、海潮音以後、牧羊神の三部より成る。――普及版
木下柰太郎	木下柰太郎詩集	背四六判 革入判	656	四八〇 二四	第一書房	月一	▲木下氏の明治四十年より昭和三年迄の作を収めたもので、天草組、生の歡喜、奥の都、春のおち葉其他百八十篇。
吉江喬松	吉江喬松詩集	洋四六判 布入判	331	三八〇 一八	梓書房	月十	▲午睡、斷層面に咲き連る花、サン・ジャックの塔、空車、至める殿堂、母屍體のほび、二重の鏡面外卅四篇。

山村暮鳥	暮鳥詩集	並製 菊半截	468	一一〇 八	厚生閣	月六	▲獨唱、無常と月光、青空に、遙かにこの大都會を感ずる、此の世界のはじめもこんなであつたか外三百卅一篇。――普及版
土井晚翠	晚翠詩抄	並製 菊半截	228	四〇 四	岩波書店	月六	▲天地有情より十九篇、曉鐘より九篇、東海遊子吟より十四篇、曙光より十三篇、天馬の道により十三篇を収めたもの。
千家元磨	千家元磨詩集	布製 菊半截	261	三〇 六	改造社	月四	▲蜜柑と子供と余、老いた夫婦、秋、相集つて、五月の朝、彼は歩めり、自然、或時、メテ風の外百二十篇。
生田春月	詩集象徴の鳥賊	上四六判 製入判	104	二〇〇 一八	第一書房	月六	▲生田春月氏の遺著で、寂寥、象徴の鳥賊、變形、破滅外八十九篇。
室生犀星	拾遺抄鳥雀集	上四六判 製入判	148	一八〇 二二	第一書房	月七	▲露霜に(破外八篇)鳥雀(哀感外十七篇)アンヘンとさへる娘をうたへる(机外十七篇)海べにてうたへる(海外六篇)其他を収む。
大木篤夫	新詩集危険信號	洋四六判 布入判	177	一八〇 一八	アルス	月十	▲十二月悲歌、新生待望、點火、雪と青春と音楽、地上にて、齒車、北風頌、炎天地獄より外四十四篇を収む。
深尾須磨子	詩集牝鶏の視野	上四六判 製入判	247	二〇〇 一一	改造社	月五	▲圓い卓、赤い風車、歸郷、笛吹き女、むらさき、秋の女、牡蠣の視野、朝の言葉、明るい町、天國外九十篇。
竹友藻風	詩集馴鹿	並製 新菊製入判	77	一五〇 一一	梓書房	月六	▲詩(馴鹿、竹をけづれる男、こころ、アンドロメダ外八篇)譯詩(ロンドン、かへらぬ貴女のうた外六篇)。
吉田一穂	現代の詩情と批評叢書(13) 詩故園の書	並製 新菊製入判	112	一〇〇 八	厚生閣	月三	▲石と魚、マクベス夫人、ホフマン風の現像の翼に就て外廿三篇。
永島不二男	詩集都市の氾濫	並製 四六判	63	五〇 四	新詩學協會	月九	▲失業都市(清津橋上立つ外七篇)おいらと浅草(安米節の樂屋で外五篇)鮮人部落(釜山を歩く外四篇)等を収む。

遠藤奈加志	倉石港	土屋公平	中山利國	杉江重英	喜志邦三	内野健兒	森千魁	中村漁波林	富澤治郎
詩集地	詩集山	詩集新しい地床	詩集木犀の汎濫	詩集骨	詩集墮天馬	詩集カチ	詩集黄蜂	詩集生命と意志	詩集一匹の蟻
熱	峽	床	濫	骨	馬	チ	蜂	志	蟻
上四六判 製入判	上四六判 製入判	上六新 製判四	布函新 製判	上四六判 製入判	洋函新 製判	並四六判 製入判	上四六判 製入判	並四六判 製入判	並四六判 製入判
114	178	101	232	149	200	152	15	151	62
一、〇〇〇 六	一、〇〇〇 六	七〇〇 六	二、〇〇〇 二二	一、〇〇〇 八	一、七〇〇 二二	八〇〇 四	一、〇〇〇 六	一、二〇〇 六	五〇〇 四
大地舎	大地舎	大地舎	木犀社	天平書院	交蘭社	宣言社	川崎出版之家	武蔵野書院	繪日傘社
月七	月五	月二十	月九	月九	月十	月五	月二	月八	月八
▲孔を掘る(峠の石、種子をまく人、友情外 の詩外卅篇)の二部。 ▲善光寺篇(蒼空、大地を抱く、善光寺、幻 想の扉外廿五篇)落葉篇(映空、牧牛、都會 の憂愁、秘密の鍵外四十四篇)。 ▲新しい地床(つら、の鎌外十六篇)上の中 の太陽(大空の下に外八篇)、大地の轍外十篇 等を収めた第一詩集。 ▲第一詩集(春の夕外卅二篇)第二詩集(卅 三篇)第三詩集(廿一篇)第四詩集(巨人外 三篇)第五詩集(春外十八篇)。 ▲骨(宿命、肋骨の下外十二篇)肉體と巷(鐵、 巷の響外十二篇)家庭(よく晴れた朝の詩、舌 外九篇)。 ▲披瀝の時(舵手外八篇)春の隕石(叛逆外九 篇)凍雨(新月外八篇)路なき林(沼外十一 篇)盗まれた心臓(海の吹雪外十一篇)。 ▲貨物列車、キミチの季節、海の詩、鮮人の 豆腐屋、明るい夜に家は匂ふ、孤獨の帝王、 夏季風物鈔外卅九篇。 ▲白雲、黄蜂と戀、北向きの部屋、シネマと 秋、小曲、映畫スナップ、閑雅な感情等三十 七篇を収む。 ▲意志をつらぬく(果して黎明があるか外十 四篇)獨善者の詩(兵隊は行く外八篇)雜篇 (空莫に迎る外十九篇)。 ▲一匹の蟻(生きてゆくこと、一匹の蟻外九 篇)秋の笛(青春と早春と、秋の笛、悲しい 乙女外卅八篇)。									

前田鐵之助	黒田勝	佐藤寛	白須孝輔	下川儀太郎	公田豊次郎	田坂數夫	竹内瑛二郎	工藤正一	西崎滿洲郎
詩集四つの詩集	詩集「夢」を斬る	詩集秋風に寄せて	詩集ストライキ宣言	詩集ピラ	正義の草笛	旗と影	詩集海鳴	ある北方的な風景	詩集清澄の秋
四六判 製入判	四六判 製入判	上四六判 製入判	並四六判 製入判	並四六判 製入判	上四六判 製入判	上四六判 製入判	上四六判 製入判	上四六判 製入判	布函四六判 製入判
134	86	203	70	134	62	148	118	97	145
一、三〇〇 四	七〇〇 四	一、〇〇〇 六	五〇〇 四	五〇〇 八	六〇〇 四	一、五〇〇 〇	一、〇〇〇 〇	一、五〇〇 〇	一、五〇〇 〇
詩洋社	紅玉堂	紅玉堂	紅玉堂	紅玉堂	宣言社	中西書房	中西書房	中西書房	中西書房
月二十	月八	月三	月一	月六	月三	月一	月三	月一十	月一十
▲前田氏の十五歳頃から満二十歳までの詩篇 四百篇を集録してなる「四」外三詩集より六十 八篇の作品を撰出して編めるもの。 ▲大空鏝ゆる五篇、青黒い顔二篇、兎の輪七 篇、銃剣の匂七篇、蒲英公の架十三篇、煤け た瓦斯燈七篇等を収む。 ▲秋風に寄せて、浮世繪のやうに、白木蕪、 抒情詩のやうな生活、メロンの香、地球に破 壊された其他五十八篇。 ▲おつ母さん、ストライキ宣言、戦争物語、 俺達を村へかへせ、再建への道、新たな怒 りへ外五篇。 ▲さあ出掛けるんだ、勝利のレポーター、同 志出獄の日に、泣き濡れたおかみさん達よ、 ピラ! 外プロ詩十篇。 ▲土浸んだふとい手を握る、六月の桑畑、水 車、木を割る音、世界の地圖をひろげた、草 笛、その他農民詩を収録す。 ▲思想の旗外八十篇の詩を収む。 ▲北海の詩人竹内瑛二郎氏の詩集で故生田氏 月氏が最後に書いた十餘頁に渉る序文を収 む。 ▲ある北方的な風景、この思想等五十篇の詩 を収む。 ▲故西崎滿洲郎氏の詩集。									

文學(詩集)

藤崎徳太郎	詩集 炎熱の馬車	上四六判	200	一、三〇六	大地舎	月八	▲童謡詩人として名ある著者の第一詩集で、詩七十篇を収む。
高瀬恒徳	黎明の黙禱	布四六判	212	一、四〇八	出版公社会	月五	▲魂を以て魂を歌ひ生命の躍動せる永遠に憧がれる宗教詩集。
三好達治	今日の詩人叢書(二) 詩論 測量船	背四六判 革入判	117	一、〇〇三	第一書房	月二十	▲春の岬、村、夜、鳥語、アヴェマリア、獅子、草の上、池に向へる朝餞、燕外三十篇。
岩佐東一郎	今日の詩人叢書(三) 詩集 航空術	背四六判 革入判	107	一、〇〇三	第一書房	月二十	▲航海表、絹帽子、戀の唄、主義、料理皿、海水浴場、交通整理、火星の踊り子、動物園外三十三篇。
城左門	今日の詩人叢書(七) 詩集 近世無頼	背四六判 革入判	120	一、〇〇三	第一書房	月二十	▲月光、近世無頼、花が散りかかる、墓銘、秋風調、懶い房、寄せて歎く外十五篇。
田中冬二	今日の詩人叢書(八) 詩集 海の見える石段	背四六判 革入判	109	一、〇〇三	第一書房	月二十	▲寒さくら、忍冬の花、ロマンチックの夕暮、山國の小都會、月光、永川の村外三十五篇。
横山青娘	新説詩人叢書(一) 歳月の花束	並四六判 製入判	142	六〇八	交蘭社	月二十	▲風鳴る海景、丘の上の一本松、海と少年、子守唄、木枯し、竹の描く風景外五十篇。
松村又一	新説詩人叢書(二) 漂泊へる農夫	並四六判 製入判	140	六〇八	交蘭社	月二十	▲趣向、愛の炎で、朝の路上で、窓をあけるぢやない、美しき氷河、傷外八十篇。
柴山晴美	新説詩人叢書(三) 處女地の雪	並四六判 製入判	149	六〇八	交蘭社	月二十	▲新しい家、殉情哲學、風の生れるところ山と空、旅を想ふ、鐘、午砲其他六十二篇。
赤松月船	新説詩人叢書(四) 花粉の口	並四六判 製入判	137	六〇八	交蘭社	月二十	▲花粉の日、家、風の吹く日、健康な證據、春淺き、戀かも知れない其他七十五篇。

文學(詩集)

福富菁兒	新説詩人叢書(五) 海の馬鹿	布四六判 製入判	136	六〇八	交蘭社	月二十	▲おろかな朝、月の出、青い午前、うるさい六月、海の馬鹿、彼女、鼻外五十餘篇。
平岩由伎子	人の形の耳 — 幼児の自由詩集 —	布四六判 製入判	226	一、八〇八	平岩家	月二十	▲まだ三歳になつた許りの平岩由伎子さんの自由詩集で、白い蝶、寒い夜、誕生日、秋になると外一四八篇。
勝田香月	香月抒情詩集	上三五判	209	一、三〇六	紅玉堂	月四	▲さびしき日の抒情詩、獨居の歌、空に親しむ、ある日の小唄、美しきものへの憧れ、さびしい人々へ等七十九篇を収む。
柴山晴美	抒情詩集 哀しき銀河	布四六判 製入判	234	一、三〇六	交蘭社	月十	▲愛の花冠、春のうた、夏のうた、秋のうた、冬、うた、少女のうた、少年のうた、等百七篇の抒情詩を収む。
小倉芳藏	詩劇 夜	並四六判 製入判	98	四〇五	紅玉堂	月六	▲廣々とした野原の夜の場、博士の家の前の場、廣野の晩の場、客間の場、野の朝の場、妖婆森の場等六幕の詩劇。
佐藤信重	生田春月海 追悼詩集	上四六判 製入判	215	一、二〇三	交蘭社	月七	▲生田春月氏の追悼詩集で、善哉外五篇の春月氏の詩及び、消えずの火(高村光太郎)悼詩(佐藤信重)其他を収む。
現代詩講座 編纂部 編座	日本現代詩選	上四六判 製入判	348	一、七〇三	金星堂	月四	▲蒲原有明、木下圭太郎、佐藤八郎、大關五郎、春山行夫其他今日の詩壇に活躍する諸氏の作品を収めたもの。
詩人協會編	一九三〇年詩集	並四六判 製入判	376	一、五〇八	アールス	月六	▲現時壇の凡ゆる傾向流派を代表する詩人八十二篇を収めたもの。
全國農民詩集 編纂	新興農民詩集	並四六判 製入判	106	四〇五	全國農民詩集	月一十	▲雑誌「農民」に據る新詩人達三十餘家の農民詩を輯録せるもの。—— 詩集禁止 ——
赤松月船 編	新興詩人選集	洋四六判 布	216	一、〇〇八	文藝社	月一	▲新興詩人と稱せらる人々を網羅して、各々一篇又はそれ以上を集めたもの。

太白社編 現代女流詩歌集 新選	令女詩歌集 令女界編輯部編	若草詩歌集 若草編輯部編
布函四六判 裝入判	並四六判 製	並四六判 製
198	384	333
一、五〇 六二	八〇 六	八〇 六
太白社	寶文館	寶文館
月七	月七	月四
▲讀賣新聞に連載されしを網めたもので、現代日本詩歌壇を彩る女流詩人歌人七十餘氏の作品を網羅す。	▲雑誌「令女界」の創刊號より昭和五年六月號迄の詩歌壇の逸作を収録せるもの。附録現代詩講話外二篇。	▲雑誌「若草」創刊號より最近までの讀者文藝詩歌中より秀篇をことごとく網羅せるもの。

翻譯詩集

堀口大學 譯詩集青 白赤	堀口大學 抒情集 キュビドの箴	堀口大學 巴里の憂鬱	三好達治著 好達治譯 シラ	小栗孝則譯 シラ	世界名詩研究會譯 ハイネ詩集	世界名詩研究會譯 バイロン詩集	
上函菊 製入判	布函新四六 裝入判	布函菊 裝入判	布函菊 裝入判	布函菊 裝入判	布函菊 裝入判	布函菊 裝入判	
186	178	158	364	154	164	164	
二、〇〇 一八	一、三〇 八	二〇 八	四〇 八	五〇 四	五〇 四	五〇 四	
第一書房	太白社	改造社	改造社	新泉社	新泉社	新泉社	
月九	月一十	月九	月六	月一十	月一十	月一十	
▲クテアルイ作「石榴」、フイレンス作「コックメタもの」外十三家の作品七十一篇を譯し收めたもの。	▲ボオル・ヴァレリの「風神」ジャン・コックの「シヤホン玉」等抒情的な吟詠に適する五十六篇を収めた譯詩集	▲異國人、藝術家の告白、人みなシメイルを負へり、月の贈物外四十四篇。	▲ヘクトールの別離、ギリシヤの神々、種々に就いて、跋。あこがれ外八十五篇。シラ1	▲抒情詩人として世界的に名聲を馳せたハイネの詩集。ハイネの詩を収めたもので、花のなとめ(上田敏譯)其他。	▲マンフレットの「森鷗外譯」、離別(兒玉花外譯)、斷章(松山敏譯)いつまでも戀が出来たら(輔谷雄譯)其他。	▲アンドレア・サルトルオ、ボルフェリアの愛人、失はれた指揮官、女の最後の言葉、前を望め外廿二篇。	▲十八世紀の牛から木葉にかけてイギリスとフランスが新大陸の植民地に勢力を争つた時代を物語つた哀詩。

民謠・童謠・研究

野口米次郎譯 ブラウニング詩集	吉原重雄譯 ハーデイ詩集	吉原重雄譯 ハーデイ詩集	ホルトン女史著 ソノゾの生涯及び彼の詩	上田秋夫譯 マルチネ詩選	尾瀨敬止譯 エセーニン詩集	尾瀨敬止譯 革命ロシア詩集	金星堂編 世界現代詩選
背函新菊 華入判	上函菊 製入判	並函菊 製入判	上函菊 製入判	並函四六 製入判	並函四六 製入判	背函四六 製入判	上函四六 製入判
207	215	208	153	111	203	209	376
二、五〇 二二	三〇〇 一八	一、二〇 四	一、〇〇 六	八〇 四	一、〇〇 二二	一、〇〇 八	一、七〇 二二
第一書房	岩波書店	素人社	素人社	素人社	素人社	素人社	金星堂
月三	月二	月五	月七	月三	月三	月二十	月九
▲アンドレア・サルトルオ、ボルフェリアの愛人、失はれた指揮官、女の最後の言葉、前を望め外廿二篇。	▲十八世紀の牛から木葉にかけてイギリスとフランスが新大陸の植民地に勢力を争つた時代を物語つた哀詩。	▲シヨウジ・メレアスと共に近代英詩壇の中心人物として活躍したハーデイの詩を収めたもので、「ウエセックス詩集」より其他。	▲ソノゾの生涯、黄昏のつぐみ、月かげに、この背に思ひむすぼる、駈者外六十四篇及評論「黄昏の詩人ハーデイ」——附録	▲パールズの詩とその譯を収めた書で、山のひな菊、凡ての方面より吹く風のうち外十八篇。附録詩及び歌詠。	▲柔光、自由の歌、風が強くなつてポーブラの夜外卅一篇。	▲愛する邦よ！私は故郷の家を見棄てた、明日私をいなく起して呉れ外卅四篇。附録エセーニンの藝術(ア・トルストイ)外三篇。	▲ベツドメイ、サドフイエフ、マヤコフスキ1、エレンブルグ其他ロシアの詩人の略傳と詩を収む。

柳田國男校訂	山本修之助編	松川二郎	市原三郎	白鳥省吾	前田いさむ	伊藤星司	白鳥省吾編	湯朝竹山人編	中川愛米
ひなの一ふし	佐渡の民謡	全郷土民謡集	こみちの花	大津社パンフレット(12) 民謡集直江津音頭其他	民謡山の彷徨者の唄	民謡集狭霧	現代民謡集	正調俚謡選	はうた名作集
並製 四六判	布函四六判	布函四六判	上製 菊半裁	並製 四六判	上函菊半裁	上函四六判	上四六判	並製 菊半裁	並製 三五判
277	277	646	95	32	121	123	117	109	218
二、〇〇	一、八〇	一、八〇	六〇	二、五	八〇	一、〇	一、〇	七、五	三、五
郷土研究社	地平社	誠文堂	大地舎	大地舎	泰文館	民謡音楽社	大地舎	小春社	いろは書房
月九	月八	月十	月五	月二	月三	月八	月一十	月七	月六
▲六十七篇三百数十首の前代民謡を収録した菅江眞澄翁の著「郷の一曲」に柳田氏の註及び和綴別冊複製本を収む。	▲方言や口碑に註を施して江戸の初期に行はれた飛騨踊花笠踊等の歌を初めとし新古兩様になれたつて収む。	▲全国各地に現在行はれてゐる古来の民謡新作民謡等郷土民謡を蒐集せるもの二百二十二篇を収む。	▲麥踏み(麥踏み外六篇)おらが山(百姓私語外八篇)出船の小唄(房州小唄外四篇)其他を収めた民謡集。	▲著者が昭和四年度に作りたる民謡中より地方小唄を主として集む。	▲山の彷徨者の唄(たんひよこ節外十篇)炭坑小唄(二日も逢はずに外九篇)野山と海の唄(お君草外廿三篇)。	▲狭霧(江刺小唄、狭霧外十五篇)戀の細道(スケートの唄、戀外十七篇)椿(九官鳥、春の夜外十五篇)。	▲市原三郎、泉澤太郎、井崎すゝむ、石山巳之吉、岡田三郎、白鳥省吾外我民謡界の中堅十四氏の民謡集。	▲往年萬朝報で評判を博したる俚謡正調欄發表のうち、竹山人翁が選したる一千二百五十章を収めたもの。	▲古今よりの代表的はうたを網羅し、頭註に校訂を附す。

湯朝竹山人	現代詩部講義	編纂部講義	横本楠郎	北原白秋編	松岡静雄	古泉千桎	高田浪吉	清水信	北村巖
都々一名吟集	童謡及民謡研究	プロレタリア童謡講話	赤い鳥童謡集	歌	隨縁鈔	歌餘録	新短歌はどう動く	緊急動議	
並製 三五判	上函四六判	上四六判	背函新菊洋布入判	洋函四六判	洋函四六判	洋函四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判
141	361	154	357	459	591	485	221	46	
三、〇	一、七〇	八、五	二、五	二、九〇	二、八〇	二、六〇	八〇	三、〇	
いろは書房	金星堂	紅玉堂	ロゴス書院	新興學會	改造社	古今書院	紅玉堂	紅玉堂	
月六	月四	月六	月一十	月六	月四	月八	月十	月三	
▲都々逸の起源より現代に至るまでを歴史的に説述し其の間だ間に於ける最も代表的な名吟を多数収録。	▲童謡論・民謡論(北原白秋)小唄流行時代(西條八十)日本歌謡の新研究(藤澤衛彦)現代童謡の鑑賞(濱田廣介)外八篇。	▲プロレタリア児童のための童謡を實際的に考察せるもので、童謡とはどんなものか、プロレタリア童謡論外三章。	▲雑誌「赤い鳥」の創刊當時より昭和四年三月の休刊に至る迄の優秀作品二百篇(作者百七名)を採録せるもの。	▲歌論の基礎知識の全般にわたつて論述せるもので、總説、形態、風格、修辭の四篇。附録作歌法について、作例。	▲歌話、批評、隨筆等を収めた書で、歌に対する信念、正岡子規に就て、萬葉集を讀む人の爲に、大河端の夜外廿五篇。	▲柿庵集の研究、作歌餘録、ふゆくさの作者太虚集を讀む、宵杉に就いて、十田耕平氏の歌、米吉論外十章。	▲内容形式共に何れの時代にも見ることの出来なかつた變革を經過しつつある短歌に就いて論文及び作品を収めたもの。	▲プロレタリア短歌に於けるあだばな的傾向に就て論述せるもの。	

共同製作	新短歌への理論	並製 四六判	89	三〇	淡海堂	十月	▲短歌の定型觀念を生活遊離の邊趣味に置き居せる遊戯文學思想なりと道破して生活現實の文學としての新短歌を唱道す。
四賀光子	作家と和歌作者の爲に鑑賞と	洋製 四六判	156	一〇〇	木鐸社	十月二十	▲作歌上の心得や古歌の評釋實作物の批評添削の實例等凡て平易に説けるもので、歌話、古名歌の鑑賞外三章。
矢島歎一	歌の作り方	並製 菊半裁	100	二五	素人社	十一月	▲短歌の解剖、作歌夜話、作歌上の諸知識等三編にて歌の作り方を説く。廉價版。
生田蝶介	短歌の作り方と味ひ方	布製 四六判	254	一五〇	交蘭社	六月	▲短歌の作り方及び味ひ方を説いたもので、作り方と作例、味ひ方、評釋等五課より成る。
小砂丘忠義	短歌の作り方味ひ方	並製 四六判	107	三〇	超風閣	二月	▲短歌の作り方及び味ひ方に就いて述べたもので、短歌とばどんなものか、短歌の味ひ方其他二章。
松村英一	短歌作法	並製 四六判	119	五〇	白帝書房	三月	▲松村氏が氏自身の作歌經驗を基礎として、添削批評を主として短歌作法を具體的に例證を擧げて説けるもの。
紅玉堂編輯部編	短歌ノート	上製 二六判	184	六〇	紅玉堂	三月	▲毎頁に全歌壇諸氏の名歌を網羅せる短歌ノート。
鳴海要吉	初めて口語歌作法	洋製 新四六判	226	二〇	先進堂	七月	▲口語歌の讀み方を誰にも分るやう説いたもので、作り方、精進、過去と將來、口語歌の位置、音數外九章。
生田蝶介	百人一首の講義	布製 四六判	29	一五〇	立命館大學出版部	二月	▲歌の意味、作者の小傳、この歌を中心としたの物語と歴史をわかりやすく書いた百人一首の講義。
松本仁編	現代口語歌辭典	上製 菊半裁	251	二〇〇	紅玉堂	五月	▲現代口語歌にあらはれてある樞要なる語句を五十音順に摘録配列し、平易な解釋を施し例歌を収めたもの。

本美鐵三	明治大正歌書解題	布製 菊半裁	248	二八〇	白帝書房	五月	▲明治十年以降大正十五年に至る間に刊行された歌集、歌集詩歌句集文集歌書等を網羅し解説す。索引。
釋超空	歌集春のことぶれ	布製 新菊半裁	311	二八〇	梓書房	一月	▲羽澤の家(八八首)人ごと(七三首)東京詠物集(五四首)門中瑣事(三六首)山かけ(四八首)其他多くの短歌を収む。
吉井勇	鸚鵡杯	布製 四六判	225	二〇〇	太白社	四月	▲「かの君の言葉のなかにある刺は善哉の刺より痛かりしかな」を始め「夜の心」以後五年間の作を収めた新歌集。
若山喜志子	歌集筑摩野	布製 四六判	337	二〇〇	改造社	十月	▲「青空にふと浮びたるわれなりきこの覺きげ以下千二百一首を収む」外蒼める類、秋の日か
川田順	歌集青淵	上製 新四六判	22	一八〇	竹柏會	五月	▲「冬ざれの鳥の砂畑人居らす高の翔りのきはめてひくし」其他大正十一年初から同十五年末までの作四百首を収む。
川田順	青淵	並製 四六判	220	五〇	竹柏會	九月	▲「冬ざれの鳥砂畑人居らす高の翔りのきはめてひくし」外三百九十九首を収む。
島木赤彦	歌集十	布製 菊半裁	146	二〇	改造社	七月	▲「まかがやく夕焼空の下にして凍らむとすの湖の静けさ」以下大正二年より同十二年迄の作三百五十二首を収む。
北原白秋	歌集花	布製 菊半裁	247	三〇	改造社	九月	▲「春の鳥な鳴きそ鳴きそあかあかあかと外の面の草に日の入る夕べ」外自選歌四百六十七首を収む。
尾上八郎	歌集間歩	洋製 四六判	41	三〇〇	明治書院	一月	▲尾上博士の最近に於ける和歌七百餘首を収めたもの。

文學 (歌集)

松田常憲	水麩社編	金澤種美	長塚節	竹尾忠吉	土屋文明	依田秋園	桐野晋次郎	中島静枝	木田翠明
歌集好	岩谷莫哀短歌全集	歌集密	長塚節歌集	歌集八	歌集往還	山	歌集若き教師	歌集清	歌集天を仰いで歌ふ
布四六判	布四六判	布四六判	布四六判	洋四六判	上四六判	編四六判	並四六判	布四六判	上四六判
240	411	276	575	279	264	430	128	136	261
二〇〇	三〇〇	二五〇	一八〇	二〇〇	一八〇	四五〇	五〇〇	一五〇	一五〇
水麩社	水麩社	水麩社	春陽堂	古今書院	岩波書店	三浦書店	文書堂	同文社	紅玉堂
三月	二月二十	九月	三月	三月	九月	九月	十月	十一月	十月
▲著者の第二歌集であつて第一歌集「ひこばえ」と共に既に世評に高い、三六六首を収む。	▲「げふもまた遊びなまなを放たれて親もたげぬ」等、千六百廿五首を収む。	▲「密校の中の小徑に生ひ出でておもたたく露にぬれてある草」其他倫安、放浪、哀唱、生活と戀愛等四百九十三首を収む。	▲明治三十三年の作「歌人の竹の里人おとなへばやまひの床に繪をかきてあり」以下短歌千三百廿四首、長歌五十六首其他を収む。	▲「しぐれつゝ霜解ふかき道の上に底ひびき来る貨物車の音」以下昭和四年迄の作五〇六首を収む。	▲「冬日閑居」を始め大正十四年以降昭和四年に至る五年間に互る多くの作品を収載したものに「馬酔木」「アカネ」「アララギ」等及著者の文集「山」とを思ひて「山にて聞いた話」に載せた著者の歌集。	▲内容に歌三百首、詩十篇、悉く現代教育の詩歌集である。改訂版。	▲「龍鬚の葉末に光る白露のすがたは清し聖者の涙か」外白芙蓉、春日の妙義、仲秋、波うつ心等を収む。	▲「乳のさめのおおな」といふしたしきさだめたる春のあけぼの」以下六百四十首を収めた歌集。	

文學 (歌集)

阿部源太郎	上田穆	伊澤信平	由利貞一	酒井繁一	楠田敏郎	前川佐美雄	岩倉良具	大槻松枝	瀧放浪
歌集そろばんの珠	新短街の放射線	時代メモ	新東京歌集	第一明日の寂光	歌集身邊雑唱	歌集植物祭	短歌生活の歌	歌集紅	歌集世紀の春
上四六判	上六新製判四	並四六判	上六新製判四	上四六判	布四六判	並四六判	並四六判	上六新製判四	並四六判
128	273	91	189	118	275	227	27	146	98
五〇	一三〇	四〇	一〇〇	一〇〇	一八〇	一五〇	二〇〇	七〇	五〇
紅玉堂	紅玉堂	文藝月刊社	白帝書房	白泉社	白日記	素人社	岩倉家	紅玉堂	紅玉堂
一月	四月	三月	五月	十一月	四月	七月	十一月	五月	十一月
▲「それとなく言葉のほしにいひだして秋と、もなればさびしいか妻」を初め、日記から、寝れた魂、其他の口語歌を収む。	▲「電飾板(二百十一首)」「どろんこ道(百九十六首)」「海の緩好調(百三十三首)」「無機面(七十六首)」「試寫室(四十四首)」	▲「この驛に貨車の荷下しする兒らは冬の休みの限を越したるむ」外六十八首及び「定型律の歴史の限界」以下歌論二篇。	▲「日に仰ぐ千代田の城の白き壁春やばらか」に「くみ立つらし」其他東京を歌つた歌四百二十二首を収む。	▲「流るゝ水に置く影ならず馬酔木の花散りてましろし月のしたびに」を初め居住雑詠、身邊を歌ふ其他を収む。	▲「師の君に好かれぬ性に思ひ入る廻り垣せ」の農園の外」等十六歳時代より二十二歳時代迄の歌集。	▲「喜といふものを俺は一年近く全く経験せざりし」外七百七十七首を収む。	▲「かなしみを締めあげること人間のうちか」を盡して夜も寝むれず」外大正十五年より昭和三年に至る間の歌七五四首。	▲「就職を頼みに來たる歳下の從兄弟のもてらる白き」外かな」其他夏と就職難、ロマンチック労働者等を収めた歌集。	▲「教へ子の前にばいづも快活な私にもある若し悩みが」其他あせつた傍、嫁、妻、母等三百廿九首を収めた大槻女史の遺著。

文學 (歌集)

岡部文夫	南正胤	楳木楠郎	美木行雄	田中一郎	岡部文夫	渡邊順三	永瀬英一	池の内三雄	斎藤英三郎
歌集どん底の叫び	おいらばプロレタリア	プロレタリア歌集 娼婦の歌	プロレタリア歌集 抗	無名者歌人歌集 労働手帖	無名者歌人歌集 岩夫	歌集 生活を歌ふ	歌集 明るい呼吸	歌集 獄窓の下に	獄中にて歌へる
上製	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	新四六判	新四六判	四六判	四六判
141	111	127	99	76	117	183	168	131	127
五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	七〇	七〇	五〇	五〇
紅玉堂	紅玉堂	紅玉堂	紅玉堂	紅玉堂	紅玉堂	紅玉堂	紅玉堂	共生閣	共生閣
二月	四月	六月	六月	八月	九月	三月	八月	十一月	三月
▲「兵卒は土百姓の悴き職工の子き従業員の心なかもよつくわがる筈よ」外朝鮮の同志よ、冬のロハ寒等のプロ歌を収む。	▲「もう一息だッ何ッ糞ッと働くときのあの首を収めたもの」なほはじめプロ歌二百四首を収めたもの。	▲同志、板船代議士、誰がさうさせたか？、煉瓦を打つ等七十七首のプロ歌及びプロレタリア短歌の社会的意義外論文二篇。	▲十一回メーデー、セネストだ、貧農の歌へる、岡部文夫、表彰状其他九十二首のプロ歌及詩二篇を収む。	▲「岩夫、二十五周忌、演説會、風呂屋の隅に、貧乏の歌」に次ぐ第二歌集で、「うれしいのか悲しいのかあの鳩どもが冬の青空に輪を描いてゐる」其他。	▲「流星の音もきこまざるな夜である。爪のさきに滲みる冬のつめたさ」外四百四首の口語歌を収む。	▲「市の谷の、牢獄の初夜のあけぼのに、ほろりと啼きし、鳩はいとしも」外母上に、ふる郷に密する等三百三十九首。	▲太田遼一郎集(鐵格子の彼方の暗の中に其他)斎藤英三集(京都刑務所にて歌へる、堺にある大阪刑務所にて其他)	▲「うらなりの胡瓜の如くまづしげな男に叱られてしじみみかなし」外落陽燃ゆる獄窓に一舎十四房の秋等より成れる獄中歌集。	▲東京府下東村山村全生病院内の癩患者が一切を棄て一切を得た心境を世に訴へた断集。

文學 (歌集)

多田基一	武蔵野歌會編	紅玉堂編輯部編	アララギ同人編	日本歌人協會編	紅玉堂編輯部編	短歌前衛社編	生田蝶介編	阪正臣校閱	齋藤清衛編
獄中獄底の暗に歌ふ	東雲のまぶた	自作短歌集成	アララギ同人編 第五十三三年版	年刊歌集	短歌三百六十五日	プロレタリア短歌集	昭代一萬歌集	明治大勅題歌集	作者別名歌集成
四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判	四六判
144	136	267	261	327	382	98	726	413	314
五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	一六〇	四〇	二四〇	二、三〇	二、〇〇
黎明社	長崎書店	紅玉堂	岩波書店	素人社	紅玉堂	スマ書房	立命館大學出版部	萬里閣	藤井書店
十二月	十一月	三月	三月	二月	五月	九月	十月	十一月	二月
▲「うらなりの胡瓜の如くまづしげな男に叱られてしじみみかなし」外落陽燃ゆる獄窓に一舎十四房の秋等より成れる獄中歌集。	▲東京府下東村山村全生病院内の癩患者が一切を棄て一切を得た心境を世に訴へた断集。	▲作歌者が自作の短歌又は大家の秀詠を記してゆくうちに一卷の歌集と成るやうに案されたもの。	▲和三年度(アララギ第二十一卷)中の歌數約四千九百餘首より千六百十三首を選び収めたもの。	▲現歌壇の大家中堅を網羅せる日本歌人協會の昭和四年度に於ける自選歌集。附録作品發表月次表。	▲一月一日より十二月三十一日まで各日別に諸家の短歌を掲げたもの。	▲一九二九年五月から一九三〇年二月迄に發表された作品の中から採録せるもの。歌數五百九十三、作者百九十八人。	▲最近の歌集選集その外全國の歌誌より集録し分類して一萬首を収めたもの。	▲明治二年(春風來海上)より昭和五年(海邊巖)に至る迄の勅題歌集。附録勅題詠近者(のしをり其他)増補版。	▲上世時代、中世時代、近世時代、現代の四期に分けて、萬葉時代より現代に至る多くの歌人の作を網羅した書。

俳論・作句法

萩原井泉水	俳壇傾向論	三六判 洋布	186	五〇	春秋社	月九	▲俳句の史的展開、子規の句風、俳句の形式的新轉向外五章。附録二篇。俳句と添削の誌上に連載せるもの蒐録で、蟲合戦の句其他廿三章。
矢田挿雲	俳句敍法の研究	四六判 並製入判	150	一、三〇	俳句社	月一	▲俳句の形式、寫生、旅行吟、俳句の發達等五編にて俳句の作り方を説けるもの。廉價版。
吉田冬葉	俳句の作り方	菊半裁 並製	92	三、五	素人社	月一十	▲俳句の意義、切字各々の使ひ方、俳句の體、俳句の季節、古人の俳句選、明治時代からの俳書、俳書年表、新傾向の俳句等を説く。
小林鶯里	俳句は如何して作るか	四六判 上製入判	258	一、二〇	文藝社	月六	▲雑誌「ホトトギス」の俳句入門欄に掲げられたものなどを収めたもので、俳句を作る人の爲に外二章。
高濱虚子	俳句入門	三五判 並製	120	一〇	誠文堂	月九	▲新年、春、夏、秋、冬等の俳句季題を附せし俳句手記。
素人社編	俳句手帖	袖珍 並製	236	二〇	素人社	月六	▲一季間の記載を天文、時候、地理、人事、動物、植物の六門に分ちて解説し例句を古今の俳書から撰んだもの。
高木蒼梧編	俳句題俳諧歳事記	三六判 洋製布入判	495	二、二〇	博文館	月二	▲昭和三年春より同五年四月迄の「ホトトギス」以下二十餘の俳句雑誌及び新聞に涉つて例句を収めて説く。
小泉迂外	最新俳句歳事記	四六判 布製入判	372	一、五〇	平凡社	月六	▲實際の句作に直ぐ役立つやうに表現の要領及び用語法に就いて説いた辭典。附録初學者の爲に。改訂版。
松村巨湫編	改訂現代俳句表現辭典	三六判 布製入判	411	二、〇〇	費文堂	月九	

俳句集

素人社編	現代俳家人名辭書	四六判 洋布入判	442	三、〇〇	素人社	月二十	▲一家の風格を備ふる俳家を集輯し其雅號、氏名、現住、生國、年齢、俳歴、作品及小照を添へたるもの。
下島才次郎編	井月全集	四六判 布製入判	417	二、五〇	白帝書房	月十	▲漂泊俳人井月の發句、連句、和歌、日記、雜文、書簡、略傳及び奇行逸話等を収めたもの。
高濱虚子	俳句集	菊半裁 布製	568	六〇	改造社	月四	▲高濱虚子氏の俳句を四季、新年、無季更に時候、人事、天文、地理、動物、植物其他に分け收む。
鳥田九萬字	九萬字句集	四六判 上製入判	233	一、五〇	集九萬字句會	月十	▲新年、春、夏、秋、冬に分類して收めた鳥田九萬字氏の句集で、門の雪掃く元旦の星晴れて其他。
安藤姑洗子編	六山人句集	四六判 布製入判	408	二、〇〇	わかこ社	月八	▲大正十二年以降昭和四年迄に作られた水野六山人氏の句を枯野、わかこ、法律新報等より二一〇七句を蒐集せるもの。
竹冠莊	俳句自分集	菊半裁 洋製布入判	30	六、五	大鐘閣	月九	▲「草花で庭がせまくなり盥水」其他長男集次男集、自分集に分け收む。
水原秋櫻子選	馬酔木俳句集	四六判 布製入判	128	一、五〇	發行所木	月五	▲昭和二年四月より同四年十二月に互り馬酔木同人の作品を春、夏、秋、冬に分けて選び收めたもの。
水原秋櫻子	俳句集	四六判 洋製布入判	140	一、五〇	發行所木	月四	▲水原秋櫻子の個人句集春(百十八句)夏(百六十四句)秋(百二十五句)冬(百十一句)連作(二十一句)を納む。
若月紫蘭	銀鐘	四六判 並製	402	一、五〇	新月社	月四	▲雑誌文藝創造を主宰する劇作家たる著者の大正七年後の短歌五十首中より選べる千百首の外に、筑波會時代後の著者の俳句集。

文學 (川柳)

五味松塘編	日本名勝俳句集	並製 四六判	174	七〇	紅玉堂	月二十	▲宗祇宗鑑守武等の俳諧創草の時代より近くも規紅葉の明治迄歴世巨匠の作品を網羅せるもので、歳旦の部其他。
一鳴社編	新進俳句大鑑	並製 四六判	385	二〇〇	弘文堂	月五	▲新年雜詠、春季雜詠、夏季雜詠、秋季雜詠、冬季雜詠に分け新進九百九十九氏の句を収む。雅別索引附載。
俳句堂年刊	俳句集	並製 四六判	46	二〇〇	叢文堂	月二	▲春夏秋冬新年に別け、俳星以下四十六雜詠直接寄稿及び東京日々新聞外六新聞より選句して収めたもの。
松原地蔵郎編	昭和模範句集	並製 菊半裁	175	五〇	素人社	月五	▲最近二ヶ年の俳句雜誌ホトトギス、俳諧雜誌、ゆかご、俳三味其他及び直接寄稿に依つて各新年の句を採録す。
松原地蔵郎編	昭和模範句集	並製 菊半裁	141	五〇	素人社	月七	▲最近二ヶ年の俳句諸雜誌より採録して春の句を収めたもの。
岸本水府	川柳手習	並製 三九判	100	一〇	誠文堂	月九	▲川柳の作り方及び味ひ方を説いたもので、川柳の技に生れる、川柳の特色、川柳の名と柳柳外七篇。
市橋鐸	川柳新釋	並製 四六判	205	五〇	正文館	月七	▲川柳の起原と柳柳刊行の由来、川柳新釋等書日解題外索引。
矢野錦浪	川柳漫なるほど艸紙	並製 三六判	227	一五〇	博文館	月八	▲漫文漫畫を配して川柳を収めたもので、うき川柳、父よ幸あれ、母なればこそ、妻にて候、子供可愛いや其他。
谷脇素文編	川の洗濯	並製 四六判	325	一八〇	講談社	月七	▲月日は廻る、浮世行進曲、男の世界と女の世界、義理人情、家庭レビエー其他三部より成る川柳に漫畫を配せるもの。

文學 (小説集)

白石維想樓編	蒼空	並製 菊半裁	118	八〇	白石朝太郎方	月四	▲句主は井上劍花坊夫人で六十有餘才。錢の音何ん度聞いても振り返り」の如き句がある。
井上麟二	好日	並製 菊半裁	100	八〇	白石朝太郎方	月六	▲新興川柳派の中に、純藝術派の代表作家の句集である。
白石維想樓編	昭和新興川柳自選句集	並製 四六判	200	八〇	白石朝太郎方	月三	▲昭和時代に入つて初めて全国的に展開された新興川柳全國諸作家の自選句集。
飯島花月	川真田三代記	並製 菊半裁	72	四五	柳書刊行會	月二十	▲「俳風柳柳」其他明治以前出版の諸書中より幸峰、昌幸、幸村及び大助等眞田を題材とせる川柳狂句を選び註釋したもの。
國木田獨歩	獨歩	並製 四六判	182	四〇	大鏡閣	月四	▲富岡先生、牛肉と馬鈴薯、女難、第三者、正直者、湯河原より、夫婦の七篇を収む。
國木田獨歩	獨歩	並製 四六判	248	四〇	大鏡閣	月四	▲竹の木戸、疲勞、節操、都の友へB生より、防の侮辱、春の鳥、小春、初孫、初戀、糸くづ外七篇を収む。
國木田獨歩	武藏	並製 四六判	268	四〇	大鏡閣	月四	▲武藏野、郊外、わかれ、置土産、源おぢ、星、たき火、おとづれ、詩想、忘れえぬ人々まぼろし外二篇。
國木田獨歩	渚	並製 四六判	207	四〇	大鏡閣	月四	▲渚、岡本の手帳、暴風、決闘家の四篇を収む。
國木田獨歩	聲	並製 四六判	284	四〇	大鏡閣	月四	▲鎌倉夫人、神の子、二少女、帽子、あの時分、死、波の音、號外、歸去來、別天地、戀を戀する人等十一篇。

國木田 獨歩	國木田 獨歩	田山 花袋	菊池 寛	菊池 寛	菊池 寛	菊池 寛	夏目 漱石	岸田 國士	菊池 寛
非凡人	運命論者	蒲團・一兵卒	無名作家の日記	短篇小説	短篇小説	短篇小説	漱石の虚	新岸田國士集	新菊池寛集
並製 四六判	布裝 菊半截	布裝 菊半截	布裝 菊半截	布裝 菊半截	布裝 菊半截	布裝 菊半截	並製 菊半截	並製 四六判	並製 四六判
263	181	111	493	411	491	398	225	591	556
四〇六	二〇四	二〇二	一〇五〇	一〇四〇	一〇五〇	一〇四〇	四〇四	一〇〇八	一〇〇八
大燈閣	改造社	岩波書店	改造社	改造社	改造社	改造社	岩波書店	改造社	改造社
月四	月五	月七	月七	月四	月四	月九	月二十	月二	月四
▲非凡人、園遊會、親子、破産の四篇を収む。	▲運命論者、武蔵野、女難、泣き笑ひ、畫の悲み、二老人、歸去來の七篇を収む。	▲當時自然主義の眞個の代表的作品の表れとして「蒲團」の二篇を収む。	▲身投げ救助業、大鳥が出来る話、無名作家の日記、青木の出家、葬式に行かぬ譯、まどつゝ先生外十八篇。	▲誘惑、鳥原心中、天の配劑、肉親、戀愛結婚、歌待外短篇小説十九篇。	▲ある敵討の話、忠直卿行狀記、藤十郎の戀、入札、船醫の立場、遊女の天國、新太郎の戀、政、家光と正盛外廿一篇。	▲江戸つ子、病人と健康者、おせつかい、姉の覺書、或日來た人達、安樂椅子、盛岡にて噂の發生外十九篇。	▲倫敦塔、カローイル博物館、幻影の盾、琴のそら音、一夜、蘇靈行、趣味の遺傳。	▲出世作「古い玩具」を始め、チロルの秋、センマの戯れ外創作戯曲十六篇と小品隨筆評論翻譯など収む。	▲「赤い白鳥」第二の接吻の長篇小説二篇、及び短篇「噂の發生」安樂椅子、外廿二篇、戯曲「石橋山」妻外八篇を収む。

佐藤 春夫	池谷 信三郎	林 房雄	金子 洋文	三宅 やす子	芥川 龍之介	芥川 龍之介	里 見 淳	貴司 山治	前田 河廣一郎
新佐藤春夫集	新池谷信三郎集	新林房雄集	新金子洋文集	新三宅やす子集	大導寺信輔の半生	湖南の扇	その人	同志愛	支那
並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	布裝 四六判	並製 四六判	上製 四六判	上製 四六判	布裝 四六判
505	640	464	457	512	280	235	396	408	649
一〇〇八	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	二〇〇〇	八〇〇	一八〇〇	一六〇〇	二五〇〇
改造社	改造社	改造社	改造社	改造社	岩波書店	文藝春秋社	春陽堂	先進社	改造社
月五	月六	月九	月九	月一十	月一	月二十	月三	月六	月六
▲俗しすぎる、厭世家の誕生日、時計のいたすら、旅びと、鷺江の月明、李鴻章、百花村物語外十六篇。	▲長篇小説(望郷、花はくれないの二篇)短篇小説(橋、郵便外十篇)戯曲(三月廿二日歸つて来た噂外六篇)を収む。	▲林檎、古典的な手紙、黒川家の強盗、三代之戀、姉妹外廿四篇。	▲針、廢兵をのせた赤電車、七面鳥と娘、可愛さうな銀子、天井裏のローマンス、悪童短篇集、赤い湖外廿八篇。	▲奔流、屏風を捨てて、サンタクロースの死、みだ夜、沖の太陽、堀り出し物、愚かな疑ひ、蓉子の母外廿六篇。	▲大導寺信輔の半生、第四の夫から、馬の脚、早春、三つのなぞ、悠々荘、玄鶴山房、白、河童外二篇。	▲湖南の扇、淺草公園、春の夜、カルメン、鬼ごっこ、或社會主義者、年末の一日、海のはととり外短篇十篇。	▲その人、或る片輪者、乾板を砕く、相合傘、小暴君、押繪の裏側、木を伐る、海の上、私には見た外九篇を収めた短篇集。	▲東京紡績工場内の労働運動を描いた同志愛、及び裁判と盆踊り、ストライキ戦争、赤い蹄り子、闘士外六篇の短篇。	▲長篇小説「支那」及び驟雨(一幕)馬糞の街、敗軍(一幕)母親、上海の宿、頼朝から貰った鳥外三篇を収む。

文學 (小説集)

龍膽寺 雄	アバアトの女たちと僕とその他	上四六判 製入判	558	二、〇〇	改造社	月四	▲アバアトの女たちと僕と、事務所、タンパリンを地つ外五篇の短篇及び珠壺、放浪時代の二篇の中篇小説を収む。
徳田 戯 二	創作 一番美しく	並四六判 製	315	一、二〇	鹽川書房	月二	▲青葉囃む女、民衆劇學校、濁れる春、律動、蠟燭、海濱夜曲、懇懇なる花束、夜と蒼空、愛さないうら外三篇の創作を収む。
吉田 絃 二郎	草を歩みて	上四六判 製入判	301	一、六〇	文藝春秋社	月五	▲手紙、桑畑の男、飢等の短篇と戯曲、山映明の家、隅田川のほとり及び感想黎明心章(黎明の心外甘篇)を収む。
吉田 絃 二郎	白雲飛ぶ	並六新 製判四	340	八、〇	新潮社	月五	▲委見の前、隅田川、達磨山の老人、支那靴、飾窓のなかの女、入江の家、地に平和等短篇十篇と戯曲「足輕三左衛門の死」。
浅原 六 朗	ビルディングと小便	並四六判 製	494	一、五〇	赤燼閣	月五	▲女の経験せる、最後に與へられたもの、眞青な人、虚殺への恍惚、書ざれた行列外短篇十八篇。
岡田 三 郎	誰が一番馬鹿か?	洋四六判 布	501	一、五〇	赤燼閣	月八	▲誰が一番馬鹿か? 二十行小説、戀愛の公式、マネキン誘惑、或る港の街の、第二の女性外卅篇。
龍膽寺 雄	かけろふの建築師	並四六判 製	393	一、四〇	新潮社	月十	▲階段を下りる、蟹に手を切られた話、砂丘外創作一篇を収む。
龍膽寺 雄	街のエロテシズム	並四六判 製	458	一、五〇	赤燼閣	月二十	▲物語(月を造る話以下十篇)コント(風邪な女以下十篇)小説(入れ黒子の好き)
舟橋 聖 一	バンガロオの秘密	並四六判 製	503	一、五〇	赤燼閣	月二十	▲海のほくろ、寢室の怪奇、植民地の禮儀、死なない足外小説十一篇と戯曲青い蝙蝠と溺死以下九篇を収む。
牧野 信 一	西部劇通信	上四六判 製入判	44	二、〇〇	春陽堂	月一十	▲川を遊りて、山彦の街、競馬の日、吊籠と月光と、歌へる日まで外十篇。

文學 (小説集)

林 房 雄	鐵窓の花	上四六判 製入判	391	一、七〇	先進社	月六	▲緑の黨員章、監の中の四人、鎖、痴情、ロビンフッド事件、或る明るい物語、四つの夢鐵窓の花外六篇。
明石 鐵 也	失業者の歌	並四六判 製入判	336	一、二〇	先進社	月六	▲中篇小説「花火と體温表」と十五場より成る詩曲「失業者の歌」を収む。
細田 民 樹	黒の死刑女囚	並四六判 製入判	408	一、五〇	千倉書房	月六	▲黒の死刑女囚、秋を送る、鳴、白粉の労働者、反抗する女、ふたりの避難者、新女の七篇を収む。
辻本 浩 太郎	ロシアの胴體	上四六判 製入判	378	一、五〇	春秋書院	月十	▲ロシアの胴體、太陽はぼんやり位置を示してゐた、大婦三つ、強い男、田舎爺とその伴外小景外五篇を収む。
赤 垣 寛	モスクバの掏摸	並四六判 製	282	一、一〇	文園社	月七	▲婦人解放論者、モスクワの掏摸、外遊、椅子、秋たつ日、眠れなかつた講師、寫眞に語る、妻は疑ふ外十篇。
井 東 憲	赤い魔窟と血の旗	並四六判 製	274	一、〇〇	世界社	月四	▲スパイの首、宣傳戦線、市街戦眞最中、赤い魔窟、血の旗、左右の陰謀等支那を舞臺とした小説六篇。
北村 小 松	小市民街	並四六判 製	328	一、二〇	天人社	月二十	▲小市民街、汽車に乗る、おひなさま、あゆ子の父、月給取り山田君の霸氣、帽子のシツボ、立志美談等七篇の小説集。
吉屋 信 子	返らぬ日	並四六判 製	217	九、五	交蘭社	月三	▲創作「返らぬ日」外に七彩物語、裏切り者の二篇を収む。
吉屋 信 子	屋根裏の二處女	並四六判 製	370	一、三〇	交蘭社	月三	▲奇怪なる異端者の運命とその中を廻る老宣教師、知名の婦人、若き女性の群、貧しき畫家等を描いたもの。
吉屋 信 子	美しき哀愁	並四六判 製	176	九、〇	交蘭社	月三	▲古き哀愁、星、麗人怨、幼なき一人、五月と桐の花、ほろづき、ほたる、簪等八篇を収む。

(5-58)

川端康成	川端康成	吉行 エイスケ	吉行 エイスケ	横光利一	岡田三郎	浅原六朗	龍膽寺雄	嘉村礪多	井伏鱒二
新編小説叢書	新編小説叢書	新編小説叢書	新編小説叢書	新編小説叢書	新編小説叢書	新編小説叢書	新編小説叢書	新編小説叢書	新編小説叢書
僕の標本室	花あゝる寫真	女百貨店	新種族ノラ	高架線	物質の彈道	女群行進	街のナンセンス	崖の下の	夜ふけと梅の花
並六新	並六新	並六新	並六新	並六新	並六新	並六新	並六新	並六新	並六新
製判四	製判四	製判四	製判四	製判四	製判四	製判四	製判四	製判四	製判四
250	261	249	235	254	256	252	253	242	254
五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇
六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社
月四	月十	月六	月十	月四	月四	月四	月四	月四	月四
▲母、神の骨、日本人アンナ、踊子旅風俗、人間の足音外四十八篇。	▲死體紹介人、春景色、花ある寫真、文科大温泉宿の八篇。	▲自由港の女、地圖に出て来る男女、張作霖の死、安・タ・プリツバの結婚、大阪萬華鏡外十四篇。	▲断髮女を連れて航空港をこ出発、東洋の眼に見えぬ港、戀は何處でする、アスファルトの上の戯廓外廿三篇。	▲高架線、鳥、笑つた皇后、静かな羅列、負けた良人、古い筆、恐しき花の七篇を収む。	▲物質の彈道、三日間、悪戯、賭、茂次郎の上、血外三篇。	▲女群行進、風船玉とスプリング・コート、彼ツト、青きドナウ外八篇。	▲藝術を街頭へ、踊り場と厨房、街のナンセンス、猫を伴れた同棲者、科學とロマンテッシュム外十八篇。	▲業苦、崖の下、生別離、足相撲、曇り日、不幸な夫婦外二篇。	▲杓助のある谷間、岩鏡地帯病院、生きたい上といふ、岬の風景、夜ふけと梅の花、屋根の上のサソリ外十篇。

(5-59)

中河與一	中村正常	阿部知二	阿部知二	ささきふさ	北村壽夫	久野豊彦	佐左木俊郎	松崎勤	松崎勤
新編小説叢書	新編小説叢書	新編小説叢書	新編小説叢書	新編小説叢書	新編小説叢書	新編小説叢書	新編小説叢書	新編小説叢書	新編小説叢書
R汽船の壯圖	ホア吉の求婚	海の愛撫	戀とアフリカ	豹の部屋	淡彩の處女	聯想の暴風	黒い地帯	相川マユミと云ふ女	神聖な裸婦
並六新	並六新	並六新	並六新	並六新	並六新	並六新	並六新	並六新	並六新
製判四	製判四	製判四	製判四	製判四	製判四	製判四	製判四	製判四	製判四
255	258	247	253	254	251	250	244	262	246
五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇
六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社
月五	月五	月十	月五	月五	月五	月四	月四	月一十	月四
▲肉體の暴風、アルカマル、男爵未亡人、汽船の壯圖、愉快なる発見、花を持てる宵、恐しき戀人外八篇。	▲靴をはいた猫、ホア吉の求婚、ボンチの卒業外八篇。	▲山のホテルで、ヘレン沼、海の愛撫、彼の幸福、調盤とレモン、若い海の秘密、風景とスボーツ他十三篇。	▲日本のじぶしい、美しい跛足の女、日獨對抗競技、戀とアフリカ、樹の話、楕圓形のバラソル外八篇。	▲ベル、豹の部屋、ふもとの諦め、とまやの精進、第二の意識で、あの日の出来事、思ひ合はす外十二篇。	▲街頭の風、淡彩の處女、木馬の悲劇、雪崩の墜落の八篇。	▲月で鶏が釣れたなら、北京の頃の娘、徒然草の一巻、ある轉形期の労働者、シヤツボで男をふせた女の話外七篇。	▲黒い地帯、獵奇の街、鳶鳥、汽笛、都會、觸手、或る浮浪者、土龍、接吻を盗む女の話、骸骨外三篇。	▲ハ共和国、相川マユミと云ふ女、佐伯鶴代といふ女、歌扇といふ女、遠藤順子といふ女、以下十九篇より成る。	▲明日へ遊ぶ、孤獨的な餘りに孤獨的な、神聖な裸婦、白い水旅館、神經衰弱になつた輪枝外十一篇。

金子洋文	岩藤雪夫	前田河廣一郎	藤森成吉	村山知義	林房雄	小林多喜二	池谷信三郎	十一谷義三郎	尾崎士郎
赤い湖	血	七ム	蜂	暴力團	密偵	不在地主	有閑夫人	キヤベツの倫理	悲劇を探す男
並六新 製判四	並六新 製判四	並六新 製判四	並六新 製判四	並六新 製判四	並六新 製判四	並六新 製判四	並六新 製判四	並六新 製判四	並六新 製判四
212	198	202	206	207	207	182	253	253	256
三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	五〇	五〇	五〇
日本評論社	日本評論社	日本評論社	日本評論社	日本評論社	日本評論社	日本評論社	新潮社	新潮社	新潮社
月一	月一	月一	月一	月一	月一	月一	月六	月六	月五
▲赤い湖、闘争する二十三人、傳右衛門の手記等小篇三篇と四幕より成る戯曲「農民一揆」を収む。	▲ガトフ・フセグダア、二つの心臓、吹雪、鷗供養、時形兒、血の六篇を収む。	▲一幕物の戯曲「長江進出車」を始め、セムガ註)、太陽の黒點等の小説を収む。	▲蜂起(四幕)、急行列車(一幕)、の二戯曲と短篇「散弾」を収む。	▲戯曲暴力團(全線)を始め、老給仕人、老婆との別れ、辱しめられた映畫、立志傳中の少女、妥協はない! 外短篇小説七篇。	▲密偵、際寫版の奇譚、百合子の幸運、梨枝子の趣味、老妓と風呂番、自由射手の歌、黨員章外二篇。	▲長篇「不在地主」及び附録「教授ニユース」の二篇を収む。	▲有閑夫人、七面鳥、マクダレナ、郵便、屏危険率、庭邊をひく、悲喜劇的性格の一例、ツエツペリン挿話集外四篇。	▲街の斧博士、キヤベツの倫理、風騒ぐ、心の夕月、昇天、花東、B、美德、あの道この道等九篇。	▲悲劇を探す男、野良犬フリツツ、當世文人氣質、六助の逃亡、逃げられた男、明暗の記町會議員外十三篇。

下村千秋	橋本英吉	岩藤雪夫	武田麟太郎	葉山嘉樹	片岡鐵兵	黒島傳治	徳永直	貴司山治	平林たい子
ある私娼との経験	炭坑	工場労働者	暴力	誰が殺したか?	太刀打ち	氷河	能率委員会	敵の娘	敷設列車
並六新 製判四	並六新 製判四	並六新 製判四	並六新 製判四	並六新 製判六	並六新 製判四	並六新 製判四	並六新 製判四	並六新 製判四	並六新 製判四
188	176	206	167	218	202	210	205	212	195
三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
天人社	天人社	天人社	天人社	日本評論社	日本評論社	日本評論社	日本評論社	日本評論社	日本評論社
月三	月三	月三	月三	月一	月一	月一	月一	月一	月一
▲ある私娼との経験、統計から覗いた暗黒街の夜外三篇。 複製禁止	▲棺と赤旗、楊水ポンプ、炭坑、一九一八年の記録、嫁支度、逃歩等六篇を収む。	▲「工場労働者」及び「鐵」の二篇を収む。	▲暴力、場末の童話、休む軌道、色彩、櫻、兇器の六篇。	▲淫賣婦、誰が殺したか?、海底に眠るマドロスの群等小説三篇。	▲太刀打ち、強い男は居る、あんな男こんな男、菜の花月夜、争議小話、この生活等六篇を収む。	▲河、春の一個札事件、海の第十一工界、汜濫、渦巻ける鳥の群等五篇の短篇小説を収む。	▲能率委員会、プロマインドを捨てる、カツト及び中篇小説何處へ行く?。	▲山、織布株式会社に起つたストライキ及それを救ふ村山重役の令嬢百合子を描いたもので、敵の娘は敵の階級にかへせ外十章。	▲敷設列車、労働者の妻、施療室にて、夜風醬油工場、壁新聞、森の中、サイレン等八篇を収む。

藤澤恒夫	藤澤恒夫	細田源吉	黒鳥博治	藤澤恒夫	下村千秋	中本たか子	佐左木俊郎	黒鳥博治	浅原六朗
辻馬車時代	傷だらけの歌	巷路過程	雪のシベリア	生活の旗	明るい暗黒街	朝の無禮	熊の出る開墾地	バルチザン・ウオルコフ	或る自殺階級者
並六新 製判四	並六新 製判四	並六新 製判四	並六新 製判四	並六新 製判四	並六新 製判四	並六新 製判四	並六新 製判四	並六新 製判四	並六新 製判四
251	248	184	183	176	188	175	184	196	181
三〇 六	三〇 六	三〇 四	三〇 四	三〇 四	三〇 四	三〇 四	三〇 四	三〇 四	三〇 四
改造社	改造社	天人社	天人社	天人社	天人社	天人社	天人社	天人社	天人社
月一十	月六	月七	月六	月五	月五	月五	月三	月三	月三
▲氣質、限石の寢床、涼廊夜話、時計の下の求愛、一家外五篇。	▲ロイザになれなかつた女、墓地で體操をする男、渡り鳥、第三の涙、農村では、傷だらけの歌外十篇。	▲雪のシベリア、彼等の一生、隔離室、砂金を收めたもの。	▲生活の旗、逃げた男、彼女、寫眞、農村では、去る少女、子供等短篇小説七篇を収む。	▲ある私娼との経験、蛇と草花、哀しいマリさん、粉雪の降る夜、明るい暗黒街、ドナウホテルの殺人等六篇。	▲朝の無禮、鈴蟲の雌、臨時休業、胎盤、新聞紙が作った海峡等五篇。	▲熊の出る開墾地、賣物、落書の門、發破、田舎醫者の手帖から、鳶鳥、或る部落の五つのお話等七篇を収む。	▲バルチザン・ウオルコフ、砂金、濟南、穴、隔離室、脚の傷、雪のシベリア等七篇。	▲或る自殺者、子供は病んでゐる、ある一群の象、生存のアスマットの四篇。	

中村正常	井伏鱒二	黒鳥博治	芹澤光治良	岡田禎子	平林たい子	龍膽寺雄	龍膽寺雄	林美美子	林美美子
限石の寢床	なつかしき現實	浮動する地價	ブルジョア	正子とその職業	耕	十九の夏	放浪時代	續放浪記	放浪記
並六新 製判四	並六新 製判四	並六新 製判四	並六新 製判四	並六新 製判四	並六新 製判四	並六新 製判四	並六新 製判四	並六新 製判四	並六新 製判四
272	236	222	269	259	235	242	242	228	260
三〇 六	三〇 六	三〇 六	三〇 六	三〇 六	三〇 六	三〇 六	三〇 六	三〇 六	三〇 六
改造社	改造社	改造社	改造社	改造社	改造社	改造社	改造社	改造社	改造社
月六	月六	月六	月六	月六	月六	月一十	月七	月一十	月六
▲マカロニ、アリス、トテレスの後裔、女學生氣質、限石の寢床、涼廊夜話、時計の下の求愛、一家外五篇。	▲谷間、鱒二への手紙、初秋一挿話、私の友人の素描外十一篇。	▲浮動する地價、黒奴の五郎右衛門、脚の傷、栗本の負傷、本をたづねて、リヤリヤとマール・シヤ外四篇。	▲小説「ブルジョア」の二篇及び戯曲「出波」(一幕三場)家(三幕)を収む。	▲愛痴、夢魔等五篇。	▲活花と虱、醬油工場、壁新聞、絲價補償法と彼女たち、敷設列車、労働者の妻、耕地、定音外二篇。	▲五篇より成る長編小説「十九の夏」及び「赤燭閣と海のクラア」を収む。	▲放浪時代、紫衣の夫人、黒猫、機關車に集ぬふ外一篇の創作及びナンセンス文學論、藝術に於けるレアリティの評論二篇。	▲戀日、女アバツシユ、八ツ山ホテル、港町での旅愁、赤い放浪記、寢床のない女、放浪記以後の認識外七篇。	▲飯屋と淫賣婦、裸になつて、目標を消す、百面相、粗忽者の涙、秋が来たんだ、秋の吸殻、下谷の家外七篇。

久野 豊彦	堀 辰雄	武田 麟太郎	岩 藤 雪夫	窪川 いれ子	中本 たか子	立野 信之	徳 永 直	橋本 英吉	片岡 鐵兵
新小説叢書	新小説叢書	新小説叢書	新小説叢書	新小説叢書	新小説叢書	新小説叢書	新小説叢書	新小説叢書	新小説叢書
ホール紙の皇帝萬歳	不器用な天使	反逆の呂律	屍の海	研究会挿話	闘	情	約束手形三千八百圓也	労働市場	歩きつゞける男
並六新	並六新	並六新	並六新	並六新	並六新	並六新	並六新	並六新	並六新
製判四	製判四	製判四	製判四	製判四	製判四	製判四	製判四	製判四	製判四
254	217	253	239	211	269	236	232	227	232
三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
改造社	改造社	改造社	改造社	改造社	改造社	改造社	改造社	改造社	改造社
月七	月七	月七	月七	月七	月七	月七	月七	月七	月七
▲プロツケン山の妖魔、時計が空つぽになつた時刻、評判の悪い春、月にでも登つてみた、彼と彼女外十篇。	▲ルウベンスの偽畫、不器用な天使、音楽のなかで、フアンタスマチック、天使達ば、アムステルダムの水夫外十三篇。	▲W町の貞操、敗戦主義、休む軌道、外出禁止、托児場風景、猶太人の別れ、反逆の呂律ある、除夜外十六篇。	▲屍の海、胃の腑、赤い灯、訓令工事等四篇を収む。	▲労働者の家、レストラン・洛陽、怒り、小篇三つ、街頭の一步、我がはしがき、勤人、研究会挿話等八篇を収む。	▲開ひ、鎖、國境、牛植民地の紳士諸君、便衣隊創設、胎盤、第四の壁、臨時休業等八篇を収む。	▲傳染病、情報、墮落、こんな遊藝、流れ者水兵服の少女、抗議、花嫁、泥濘、侮辱、演番人等十一篇。	▲約束手形三千八百圓也、赤色スボーツ、悪黨になれぬ男、失業避身客風景、戦争雑記、千二百圓外三篇。	▲労働市場、夜明けのスケッチ、失業者救済事業、留置場の女、足を失つた大都會、メキシコ共和國の滅亡外七篇。	▲歩きつゞける男、ある経験、踊りながら、金銭に就て、ロマンス四篇(女工お吉、不自由な人々外二篇)。

林 房 雄	中野 重 治	明石 鐵 也	貴 司 山 治	鹿 地 互	黒 島 傳 治	里 村 欣 三	徳 永 直	平 林 たい子	り 本 たか子
新小説叢書	新小説叢書	新小説叢書	新小説叢書	新小説叢書	新小説叢書	新小説叢書	新小説叢書	新小説叢書	新小説叢書
海の飛魚の子と	夜明け前のさよなら	鐵の規律	暴露讀本	労働日記と靴	秋の洪水	兵 亂	小 資 本 家	石 鹼 工 場 の 同 志	恐 慌
並六新	並六新	並六新	並六新	並六新	並六新	並六新	並六新	並六新	並六新
製判四	製判四	製判四	製判四	製判四	製判四	製判四	製判四	製判四	製判四
242	219	238	222	217	235	181	191	137	208
三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
改造社	改造社	改造社	改造社	改造社	改造社	改造社	改造社	改造社	改造社
月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十	月一十
▲海と飛魚の子と、一九三〇年の序曲、黒川痴情外七篇。	▲病氣なほる、夜明け前のさよなら、ボールクローデル、鬼子母神のそばの家の人、反動期の作家生活外十九篇。	▲スケッチ風のデスマスク、冬眠、火線の構鐵の規律外二篇。	▲六億圓の寶石を持つた貧乏人、裁判と盆踊り、ほんたうの戀愛小説、女優の卵、東京のイーストサイド外十二篇。	▲労働日記と靴、埋立地、前衛の父、公園裏の交番、ぬかるみ、赤鉛筆、童話三篇、兵士喜三太外一篇。	▲二錢銅貨、土鼠と落盤、蚊帳と偽札、田舎娘、秋の洪水の五篇。	▲兵亂、十錢白銅、勳章、息子、家賃の値下法の執行等の六篇。	▲小資本家、千二百圓、麥の芽、大砲を磨く戦争雑記、握手(戯曲)、無産者の戀(大衆小説)等七篇を収む。	▲石鹼工場の同志、高塚の中、労働者の妻、ルーフガイデンの上の月、私の友人、投げすてよ外二篇。	▲恐慌、工場自衛團、白色の街、パン屋勘助、赤、活力素、地下鐵、牛植民地の紳士諸君、繁榮の大統領外三篇。

文學 (小説集)

尾崎士郎	伊藤永之助	金子洋文	山本勝治	片岡鐵兵	小林多喜二	中野重治	小林多喜二	窪川いね子	江馬修
霧と銀貨	恐	天井裏の善公	員章を打つ	綾里村快樂錄	工場細胞	鐵の	一九二八年三月十五日	キヤラメル工場から	阿片戦争
並四六判製	並四六判製	並四六判製	並四六判製	並四六判製	並四六判製	並四六判製	並四六判製	並四六判製	並四六判製
175	171	154	149	136	223	213	96	178	244
五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	四〇	六〇	七〇
アトラス社	出版部	出版部	出版部	戦旗社	戦旗社	戦旗社	戦旗社	戦旗社	戦旗社
月九	月五	月二	月一	月九	月七	月六	月五	月四	月一
▲青年と海、霧と銀貨、夢魔、微風一景、蘇州の春、悲劇、高の戀愛、雪夜の池、山上、蘇州の外二篇。	▲電工の善公と山公の二人が天井裏で仕事をしつゝ、プロレタリア意識に眼覺めてゆく徑路を取扱つたもの。	▲死を焼く三人、委ねる者、風鈴を争ふ、カイヤエムに代へて外二篇。	▲エホバエレ、破れルバシカ、母心誕生、ベルフアストの老人、太平良、紫雲異香等六篇を収む。	▲十姉妹、員章を打つ、異母弟の贈物、荒療治、毀れた義足等勞農藝術家聯盟員故山本氏の創作五篇。	▲綾里村快樂錄、大島争議君、岐卓、アスファルトを往く、通信工手等五篇を収む。	▲鐵の話その一、春さきの風、花見と新聞配達前、少年外二篇。	▲三月十五日事件に於ける無産階級の闘士のさまじくを描いた小説。	▲キヤラメル工場から、お目見得、煙草工女朝、いるは長屋の耳目外二篇を収む。	▲甲板船客、黒人の兄弟、舟大工、名譽婆さん、不思議の短篇五篇及び戯曲その日、阿片戦争の二篇。

文學 (小説集)

文藝家協會編	新潮社編	外島九傳氏	久野一豊氏	新興藝術俱樂部編	北林透	坪田讓治	杉本捷雄	逸見廣村	鈴木彦次郎
日本小説集	十三人俱樂部	モダン東京圓舞曲	藝術派ウアラエター	文壇アンデバンダン	激流を渡る	破れルバシカ	村の倫理	七月の健康美	
並四六判製	並四六判製	並四六判製	並四六判製	並四六判製	並四六判製	並四六判製	並四六判製	並四六判製	
387	362	354	431	393	580	237	198	231	191
一、五〇	一、六〇	一、五〇	一、五〇	一、二〇	一、二〇	五〇	五〇	五〇	五〇
新潮社	新潮社	春陽堂	春陽堂	出版部	中央公論社	アトラス社	アトラス社	アトラス社	アトラス社
月五	月六	月二十	月五	月六	月一十	月十	月九	月九	月九
▲赤い灯(岩藤)日本女マヌミ(千代)偽札と蚊帳(黒鳥)ザンバ! (久野)壁新聞(たけい子)外二十篇を収む。	▲浅原六郎飯島正加藤武雄川端康成嘉村多久野豊彦中村武雄大橋時助岡田三郎尾崎士郎久野允龍崎寺雄佐佐木俊郎氏の新小説集。	▲プロレタリア作家十氏の共同作品で、裏切(山田清三郎)外七篇。	▲享樂百貨店(吉行エイスケ)女學生氣質(中村正常)登路スナツプ(龍崎寺雄)浅草紅湖(川端康成)外短篇小説八篇。	▲制作に關するノオト(阿部知二、消息! 井伏鱒二、繪士川夫人の鼻血、舟橋聖一、霧の中、の街、龍崎寺雄外創作二十七篇。	▲街の國際娘(北林透馬)、偶像南京に召喚す(野口活)、左側を歩け!(田宮鋼)の三篇を収む。	▲緑ヶ丘牧場の牧場主小野柳助が死んでから、その後の家庭に起つた葛藤を描けるもので、獅子舞、小雪の活躍外五篇。	▲エホバエレ、破れルバシカ、母心誕生、ベルフアストの老人、太平良、紫雲異香等六篇を収む。	▲七月の健康美、宗次郎は跛だ、大空の祝福の結婚外三篇。	

長篇小説

菊池寛	菊池寛	菊池寛	菊池寛	菊池寛	菊池寛	菊池寛	菊池寛	菊池寛	菊池寛
結婚	赤い	第一の	陸の	受難	新	火	慈悲	眞珠	眞珠
二重奏	白鳥	接吻	人魚	華	珠	華	鳥	夫	人
並製	並製	並製	並製	並製	並製	並製	並製	並製	並製
256	236	291	342	482	415	348	318	518	
八〇六	一〇〇六	一〇〇六	一〇〇六	一〇〇六	一〇〇六	一〇〇六	一〇〇六	一〇〇六	一〇〇六
平凡社	平凡社	平凡社	平凡社	平凡社	平凡社	平凡社	平凡社	平凡社	平凡社
月四	月四	月四	月四	月四	月四	月四	月四	月四	月四
▲新婚の男女がふとした人心の機微から何ん	▲心ならずも亡弟の資産を私せる伯父に配す	▲二人の相愛者の間に起る苦悶の経路を描いた	▲美と純愛をもつ麗子と美と金をもつ敏子と	▲幸福な學苑の生活から結婚に街頭に三人の	▲現代日本婦人の三人の姉妹を中心として描	▲正義觀、社會觀を戀愛と共に描いた小説で	▲美しい一女性に二人の性格の相反せる男を	▲美しき戀の三角關係を描いたもので、男二人	▲材を紫雲の女王に採つた菊池氏の最初の新

菊池寛	菊池寛	菊池寛	菊池寛	菊池寛	菊池寛	菊池寛	菊池寛	菊池寛	菊池寛
赤い	受難	火	新	慈悲	眞珠	半自叙傳	不壞の	東京行進曲	明眸
白鳥	華	華	珠	鳥	人	傳	珠	曲	禍
布製	布製	布製	布製	布製	布製	並製	並製	並製	並製
266	478	390	461	360	538	222	314	299	410
三〇六	一〇〇六	四〇八	一〇〇六	四〇八	一〇〇六	一〇〇六	一〇〇六	一〇〇六	一〇〇六
改造社	改造社	改造社	改造社	改造社	改造社	平凡社	平凡社	平凡社	平凡社
月九	月八	月五	月八	月五	月七	月四	月四	月四	月四
▲心ならずも亡弟の資産を私せる伯父に配す	▲幸福な學苑の生活から結婚に街頭に三人の	▲正義觀、社會觀を戀愛と共に描いた小説で	▲現代日本婦人の三人の姉妹を中心として描	▲美しい一女性に二人の性格の相反せる男を	▲美しき戀の三角關係を描いたもので、母とな	▲材を紫雲の女王に採つた菊池氏の最初の新	▲新婚の男女がふとした人心の機微から何ん	▲心ならずも亡弟の資産を私せる伯父に配す	▲二人の相愛者の間に起る苦悶の経路を描いた

文學 (長篇小説)

菊池 寛	菊池 寛	菊池 寛	菊池 寛	菊池 寛	菊池 寛	菊池 寛	菊池 寛	菊池 寛	菊池 寛	菊池 寛	菊池 寛	菊池 寛	菊池 寛	菊池 寛	菊池 寛	菊池 寛	菊池 寛	菊池 寛	菊池 寛
改定文庫第二部(127)	改定文庫第二部(130)	改定文庫第二部(131)	改定文庫第二部(132)	改定文庫第二部(133)	改定文庫第二部(135)	改定文庫第二部(138)	改定文庫第二部(145)	改定文庫第二部(148)	改定文庫第二部(151)	改定文庫第二部(154)	改定文庫第二部(157)	改定文庫第二部(160)	改定文庫第二部(163)	改定文庫第二部(166)	改定文庫第二部(169)	改定文庫第二部(172)	改定文庫第二部(175)	改定文庫第二部(178)	改定文庫第二部(181)
明眸	第二の接吻	東京行進曲	結婚二重奏	不壊の白珠	新女性鑑	更生記	霧の夜の客間	孤獨なる女	燃ゆる花びら	三宅やす子	吉田絃二郎	淺原六明	佐藤春夫	菊池 寛	菊池 寛	菊池 寛	菊池 寛	菊池 寛	菊池 寛
布装	布装	布装	布装	布装	布装	布装	布装	布装	布装	布装	布装	布装	布装	布装	布装	布装	布装	布装	布装
432	293	300	287	312	306	288	314	321	309										
五〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇
改造社	改造社	改造社	改造社	改造社	改造社	改造社	改造社	改造社	改造社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社
月九	月六	月八	月九	月八	月九	月九	月九	月九	月九	月九	月九	月九	月九	月九	月九	月九	月九	月九	月九
▲その明眸の故に如何に醜類な人生を生きればならなかつたかを明眸の持主香川珠子を中心に描いた長篇。	▲第一の接吻から第二の接吻を受けるまで二人の相愛者の間に起つた苦悶の経路を描いた戀愛小説。	▲遺児であり實妹である佳人道代をめぐつての父と子の戀愛の葛藤を描いたもので早百合の夢、道代の夢其他。	▲相愛の男女がふとした人生の機微から何んか不幸な姿に陥つてゆくかを描いた長篇小説。	▲新舊兩様の人生観を持つ二人の姉妹俊枝と玲子とが一人の男との戀愛を如何に進んだかを描ける長篇。	▲享樂生活以外何物もない夏江と煮え切らない彼樹を中心とした物語。	▲「地下」の天才作家を狂せしめた彼女が彼亡き後如何に更生するかを描ける長篇で、學生大場の話外廿五項。	▲霧の夜の客間の長椅子に自ら拳銃に倒れる迄の陽子をめぐつての戀の葛藤を描いた長篇で、九官島の女外廿四項。	▲美しく孤獨なる女及び「高原の日記」の二篇を描ける。	▲過去の戀愛を清算して勇敢に街頭へ出た女性を中心とする長篇で、序曲、女たち、旅の前夜、涙子と和子外三篇。	▲母の爲めに父を呪はねばならぬ運命の下におかれた若き天文学者操を主人公としたもの外に「寧樂秘抄」を描む。	▲美しき傀儡菊子が自ら刃を揮つて假面の傀儡師に復讐する最後迄の數奇な運命を描いた長篇。	▲利那から利那を涉つて生を戦ひ取れる女達の悲痛の叫びを描いた「しかも彼等は行く」外「私語」「黒い影」の二篇併載。	▲同郷より出て同じ大學に學ぶ二人の學生が一人の教授の娘を争ひ遂に二階級の陣營に分れて闘ふ長篇。	▲廿八項より成る長篇。	▲トラツク、魚河岸の活動、血を呼ぶ魚河岸外八項より成る長篇。	▲眞に結び合さる、目以下三十一項より成る長篇労働争議小説。	▲鐵山を舞臺とした長篇。	▲或る新聞社の争議を描いた長篇。	▲ピラが撒かれる以下十八項より成る長篇。

文學 (長篇小説)

吉屋 信子	岡田 三郎	下村 千秋	佐々木 味津三	細田 源吉	金子 洋文	今野 賢三	伊藤 永之介	青野 季吉	前田 河廣一郎
新編長篇文庫	新編長篇文庫	新編長篇文庫	新編長篇文庫	新編長篇文庫	新編長篇文庫	新編長篇文庫	新編長篇文庫	新編長篇文庫	新編長篇文庫
失樂の人々	黄草	しかも彼等は行く	惱める太陽	陰謀	魚河岸	女工戦	暴動	ある時代の群像	支那から手を引け
並六新製判四	並六新製判四	並六新製判四	並六新製判四	並六新製判四	並六新製判四	並六新製判四	並六新製判四	並六新製判四	並六新製判四
304	309	308	337	290	251	289	244	232	255
五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇
新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社
月九	月十	月十	月十	月十	月十	月十	月十	月十	月十
▲母の爲めに父を呪はねばならぬ運命の下におかれた若き天文学者操を主人公としたもの外に「寧樂秘抄」を描む。	▲美しき傀儡菊子が自ら刃を揮つて假面の傀儡師に復讐する最後迄の數奇な運命を描いた長篇。	▲利那から利那を涉つて生を戦ひ取れる女達の悲痛の叫びを描いた「しかも彼等は行く」外「私語」「黒い影」の二篇併載。	▲同郷より出て同じ大學に學ぶ二人の學生が一人の教授の娘を争ひ遂に二階級の陣營に分れて闘ふ長篇。	▲廿八項より成る長篇。	▲トラツク、魚河岸の活動、血を呼ぶ魚河岸外八項より成る長篇。	▲眞に結び合さる、目以下三十一項より成る長篇労働争議小説。	▲鐵山を舞臺とした長篇。	▲或る新聞社の争議を描いた長篇。	▲ピラが撒かれる以下十八項より成る長篇。

文學 (長篇小説)

葉山嘉樹	小牧近江	黒島傳治	田山花袋	夏目漱石	夏目漱石	小杉天外	室生犀星	山本有三	細田民樹
新長篇小説選集	新長篇小説選集	新長篇小説選集	戀の殿堂	吾輩は猫である	吾輩は猫である	改定文庫第二部(54)	新編文庫(18)	波	黄色い窓
並四六判	並四六判	並四六判	上四六判	上四六判	並四六判	布製	並四六判	並四六判	上四六判
268	240	273	726	466	398	266	422	341	474
五〇六	五〇六	五〇六	一、五〇六	一、〇〇六	六〇六	三〇六	一、〇〇六	六〇六	一、七〇六
日本評論社	日本評論社	日本評論社	新潮社	岩波書店	岩波書店	改造社	新潮社	岩波書店	先進社
月一十	月一十	月一十	月五	月十	月十	月一十	月五	月一十	月五
▲賢太郎といふ闘士の少年時代を描いた長篇。	▲世界大戦當時異國に生活してゐた一青年の物語。	▲戦争を題材とせる長篇。一發賣禁止—	▲長篇小説「戀の殿堂」を始め、殘雪、新しき芽などを収む。	▲夏目漱石の作品中最も多く讀まれてゐる小説。「吾輩は猫である」を収めたもの。	▲友達、兄、歸つてから、塵勞の四項より成る漱石の「行人」を収めたもの。	▲長篇寫實小説。	▲自叙傳風の長篇で、父母以下十項より成る。外の「幼年時代」性に眼覺める頃、或る少女の死まで、の三篇を収む。	▲妻の不貞に悩む良人、その妻に生れし戀愛に對する父としての疑惑、そこから生れる愛に對する解釋等深刻な筆致になる力作。	▲現代日本の不勞所得の有閑階級の人々の裏面の秘事からくりを暴露した評判の長篇小説で、縛られる以下十項。

文學 (長篇小説)

細田民樹	細田民樹	十一谷義三郎	十一谷義三郎	群司次郎正	群司次郎正	群司次郎正	森田草平	岸田國士	宇野千代
黄色い窓	赤い曙	敗者の唐人お吉	敗者の唐人お吉	日之本嬢	マダム・ニツボン	ミス・スター・ニツボン	吉良家の八人目々	由利旗江	罌粟はなせ紅い
上四六判	布四六判	上四六判	上四六判	並四六判	布四六判	布四六判	上四六判	布四六判	上四六判
474	694	263	243	132	329	414	254	458	459
一、七〇六	一、八〇六	一、五〇六	一、四〇六	一、六〇六	一、二〇六	一、五〇六	一、五〇六	二、〇〇六	一、二〇六
先進社	春秋社	新潮社	新潮社	世界社の	アールス	アールス	改造社	朝日新聞社	中央公論社
月五	月五	月二	月七	月一	月七	月十	月五	月三	月十
▲都會の淫悪と因襲に腐敗した家庭を捨て、街頭に身を求め目的の道へ悲壯な行進をなす新時代の女性奈里子を中心とした長篇。	▲アメリカの或る黨員で日本の生んだ唯一の世界的女優を扱つた長篇。	▲安政から明治への慌たしい時代の中、お吉を描いた長篇。	▲創作「唐人お吉」の續篇には、烏の街、街の女の二項が収めてある。	▲東那須土地株式會社長の妹ミスにつぼんと自稱するモダンガール靈子を中心とした長篇小説。	▲現在の大部分の貧しい母の姿を描いた長篇小説で、大都會の朝から黄昏まで、表面的幸福其他。	▲自らミス・スター・ニツボンと呼んだ浮名殿様池田子爵及びその周囲の人々を描いた長篇。	▲上杉家側から策動した忠臣の活躍振りを扱つた「吉良家の八人目」及び「脱盟者の苦衷」を描いた長篇小説。	▲由利旗江といふ近代的女性を主人公とした長篇小説で、船を見てから、彼女の論理、求めた苦み外十三項。	▲その戀情の爲めに最愛の夫と自分の胸に短描ける長篇自傳小説。

川端康成	淺草紅團	上四六判 製入判	203	一、五〇 二二	先進社	月二十	▲長篇「淺草紅團」及び短篇「日本人アンナ」。「白粉とガッリン」。「縛られた夫」。「淺草日記」。「水族館の踊子」等六篇を収む。
三宅やす子	金	上四六判 製入判	584	一、八〇 二二	先進社	月五	▲松崎英吉は何故世を騒がした強盗になつたかその経路を描いた長篇小説。
片岡鐵兵	小説女性	上四六判 製入判	281	一、五〇 二二	新潮社	月五	▲数奇な運命の戯弄の中につぶさに社會苦を味ひ乍ら眼覺めてゆく美しき映畫女優の戀愛苦行を描いた長篇。
宮地嘉六	愛の十字街	洋四六判 布入判	466	一、五〇 二二	改造社	月三	▲克哉夫婦及びその周圍の人々の愛の葛藤を描いた長篇小説。
林房雄	都會双曲線	上四六判 製入判	412	一、五〇 一〇	先進社	月一	▲都會双曲線、シンピリスク號事件、キエフ大劇場の暗殺、新しいそつぷ物語、繪のない繪本、蘭外四篇。
尾崎士郎	世紀の夜	上四六判 製入判	448	一、八〇 二二	近代生活社	月一十	▲新しき斷橋、順風記、夜霧の街、風雲來、矢車草、白燈等十四章より成る長篇小説。
徳永直	失業都市東京	並四六判 製入判	371	一、二〇 一〇	中央公論社	月一十	▲「太陽のない街」の第二部で、社會民主主義、熱火盡く、失業者の浪、新生活、消費組合外四項。――労働大衆版――
吉田絃二郎	孤獨なる女	上四六判 製入判	152	八五 六	文藝春秋社	月八	▲美しくい幻を惨めに破壊された照子といふ女を描いたもの。
武者小路實篤	棘まで美し	上四六判 製入判	294	一、〇〇 一〇	日向堂	月二十	▲青年畫家竹谷次郎と吉村貞子とを描いた長篇。
貴司山治	靈の審判	並四六判 製入判	326	八〇 六	朝日新聞社	月七	▲「さき」朝日新聞が募集せる長篇映畫小説の一等當選作品で、夢魔、人造人間、技げられた問題、審判外十九項。

貴司山治	ゴ・ストップ	並四六判 製入判	417	一、二〇 二二	中央公論社	月四	▲夕刊賣の少女、モダンガール、街の兒其他を主題として現代ストライキを解剖せる争議小説。――改訂版――
牧逸馬	この太陽	上四六判 製入判	742	一、七〇 二二	中央公論社	月九	▲婚約者元雄を有閑マダム蘭子に奪れた曉子が幾多の波瀾の後杉山の愛に更生するまでを描いた長篇。
三上於菟吉	妖都	上四六判 製入判	598	一、五〇 二二	平凡社	月五	▲若き作家志望の青年と彼の師たる文壇の大家とのグルーブの中に美しき乙女をめぐつての葛藤を描ける長篇。附火刑後篇。
邦枝完二	接吻市場	上四六判 製入判	554	一、五〇 二二	四六書院	月一十	▲月夜の虹、草の芽、土曜日、トリツク、父と父外八項にて昭和の不良嬢嬢を中心に描ける長篇。
佐藤紅緑	小説麗人	布四六判 製入判	564	一、九〇 二二	新潮社	月二	▲汚された男へ復讐する美女と農村を蝕ばみゆく資本主義へ叛逆する農夫との交錯せる濃艶にして悲痛な物語。
佐藤紅緑	富士に題す	布四六判 製入判	690	二、〇〇 一八	講談社	月九	▲日露戦争前後の日本に材をとつて當時の混沌たる世態人情政治戦況等を描いた長編。
加藤武雄	昨日の薔薇	布四六判 製入判	423	一、八〇 二二	新潮社	月一	▲凄麗な三十女の愛慾心理を描いた長篇小説で、幻影、消えぬ過去、エヒロオグ外廿二項中篇、母の顔併載。
柳原燁子	青春譜	布四六判 製入判	362	一、六〇 一八	第一出版社	月二	▲社會運動の第一線に立つて虐げられてある無産者の爲に闘ふとする美貌の青年を中心とした長篇小説。
麻生久	濁流に泳ぐ	並四六判 製入判	274	一、〇〇 六	改造社	月五	▲小學、中學、高等學校、大學と二十年近くの小學生活を描いた著者の自敘傳的小説。
麻生久	父よ悲む勿れ	並四六判 製入判	418	一、五〇 一八	先進社	月二十	▲その昔モダンボーイだつた父の鐵山事業に弓を引く社會運動家たる一人息子との闘争を描いた長篇。

林 禮子	高 倉 輝	高 田 壽	賀 川 豊彦	阪 本 石 創	寺 神 戸 誠 一	磯 部 眞 壽 造	磯 部 眞 壽 造	若 月 紫 蘭	眞 田 勇 地
火 焰 を 蹴 る	瀨 川	インテリゲンチヤ 第一部霧の港	傾 け る 大 地	梅 雨 ば れ	土 に 燃 ゆ る	水 盤 に 映 る 瞳	煉 獄	第 二 の 扉	地 獄 行 脚
並 四六判	並 菊判	並 四六判	並 四六判	並 四六判	並 四六判	並 四六判	上 四六判	並 四六判	洋函四六判
422	610	425	411	277	242	310	334	160	182
一、五〇	二、〇〇	一、三〇	八〇	一、〇〇	八〇	一、二〇	一、二〇	一、〇〇	一、二〇
萬 里 閣	ロゴス書院	黎 明 社	改 進 書 房	カオリ社	全 國 農 民 協 會	洋 々 社	大 阪 洋 々 社	新 月 社	二 松 堂
月 五	月 一 十	月 五	月 十	月 八	月 一	月 一 十	月 二 十	月 三	月 一 十
▲老教師との醜い關係から始つて登和子といふ女性のさまじい男との關係を描いた長篇小説。――發禁止――	▲美男の謠曲師匠を中心として祇園の名妓、牡丹の客以下廿五項より成る。	▲一中等教師をめぐる迫害と闘争の姿、戀愛生活の甘美と苦惱等を描寫せる長篇小説で、三部より成る。	▲主人公英世が愛の對照たる愛子には裏切られるの苦杯をなめ、あらゆる世の汚濁と戦つて悟を得る迄に至つた道程を描ける長篇。	▲若くして純情な中學生と無垢な振袖の舞妓との戀愛記録。	▲良輔といふ青年を主人公とし農民の生活を描いた長篇小説。	▲對峙し闘争する二階級の中間に彷徨する青年要一の近代的人間苦を描いた長篇。	▲虚無主義と殺人と自殺者の悲劇を描いた長篇小説。	▲劇作家紫蘭氏が十四歳になる獨り息子の死を體驗して太悟するに至るまでの深刻悲哀な極めた小説。	▲死への發足以下二十項より成る創作。

歴史小説・大衆文藝

眞 田 勇 地	松 木 幹 雄	松 谷 與 二 郎	斯 波 貞 吉	眞 田 勇	橋 一 郎	小 山 勝 清	櫻 井 忠 温	碧 瑠 璃 園
大 衆 經	若 き 中 等 教 師 と そ の 周 圍	百 年 後 の 日 本	日 本 を 勇 三 の 腕	新 ら し き 先 驅 者 の 群	戦 線 一 萬 里	煽 動 大 煽 動	村 に 歸 る	野 長 英
上 四六判	洋函四六判	並函四六判	布 四六判	洋函四六判	並函四六判	並函四六判	布函四六判	布函四六判
337	350	512	420	511	360	403	526	562
一、三〇	一、八〇	一、五〇	一、五〇	二、五〇	一、二〇	一、五〇	一、八〇	一、三〇
平 凡 社	大 同 館	光 學 堂	忠 誠 堂	二 松 堂	山 東 社	日 實 業 社	春 秋 社	碧 瑠 璃 園
月 五	月 六	月 一	月 二	月 五	月 一 十	月 一 十	月 二 十	月 六
▲市井の哲人岡田氏が小説の型式にて愛兒の病氣を中心にして現代世相を考察批判したもので九十七項より成る。	▲北陸の地を背景に大木と云ふ若き一中等教師とその周圍を描いた長編小説。	▲百年以上假死状態を續けてゐた小松春夫を主人公として百年後の日本の人類の進化、食料問題や法律制度其他を釋明せるもの。	▲経済的に行詰り思想的に錯雜した日本を完全で土から鋼鐵を外七十九項。	▲社會運動家で新聞社々長たる野田進を主人公とし著者自身の意見と抱負を述べた長篇小説。	▲天皇を奉戴する國際的プロ日本が世界の横暴なるブルジョア國と戦ふを描いた長篇。	▲日露戦争裏面に於ける事實を小説化した長篇。革命へ外九項。	▲三十年の生活捨て、村に歸つた肉弾少將の自傳小説で、小便壺の王子、陸軍大將だ又逢ふ日外九十九項。	▲幕木の蘭學者として尊王の士として知られる高野長英の物語で、若き血汐、生きた學問國禁の書外二十七章。

自井喬二	自井喬二	自井喬二	中里介山	中里介山	中里介山	中里介山	碧瑠璃園	碧瑠璃園	碧瑠璃園
源平盛衰	源平盛衰	源平盛衰	遊行女	大菩薩	大菩薩	大菩薩	栗山大膳	由比正雪	大石内藏助
下巻記	中巻記	上巻記	第八册	第六册	第五册	第五册	第五册	第五册	第五册
布面四六装判	布面四六装判	布面四六装判	布面四六装判	布面菊半装判	上函菊装判	上函菊装判	布面四六装判	布面四六装判	布面四六装判
559	567	652	312	506	547	567	574	793	636
一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、一〇	一、五〇	三、五〇	三、五〇	一、三〇	一、三〇	一、三〇
寶文館	寶文館	寶文館	春秋社	春秋社	春秋社	春秋社	碧瑠璃園	碧瑠璃園	碧瑠璃園
月一十	月一十	月一十	月四	月九	月三	月一	月五	月六	月五
▲義経記、富士川合戦外六篇。下巻一義経入都戦、大戦に入る、一ノ谷合戦八鳥合戦、戦後始末外五篇。	▲上巻一忠盛昇殿記、蹴鞠の夕べ、青年清盛傳保元の戦外三篇。中巻一探偵政志、鬼界ヶ島、橋台戦まで、源	▲貴族から奴隷まで史上未曾有の劇的クライマックスに登場する人間群の赤裸々に躍る全貌を描ける革命的歴史小説で	▲西行法師とかりそめの遊女の心境を描いた「遊行女」を始め、星ヶ城夜話、愛染明王、小野の町等四篇を収む。	▲第八册には未発表の「年魚市の巻」が収められている。	▲第六册は他生の巻(下)、流轉の巻、みちりやの巻の三篇を収む。——特別——	▲第五册には、無明の巻、白骨の巻、他生の巻(上)の三編が収められている。——特別——	▲黒田家の大忠臣栗山大膳を主人公とした長篇歴史小説。	▲徳川三代將軍家光の死に乗じて其の社稷を亡ぼさうとして成らなかつた由比正雪の物語で、花と星外四十四章。	▲大石内藏助の幼時より最期までを述べたもので、手鞠唄以下卅三項より成る。

今東光	吉川英治	大佛次郎	大佛次郎	大佛次郎	大佛次郎	大佛次郎	大佛次郎	田中貢太郎	矢田挿雲
愛染地獄	貝殻	かからす	夜十二水船地獄	怪談その他	日蓮	由比正雪	由比正雪	旋風時	太閤
前巻	下巻	後巻	後巻	後巻	上巻	中巻	前巻	上巻	第六巻
上函四六装判	布面四六装判	布面四六装判	上函四六装判	上函四六装判	布面四六装判	上函四六装判	上函四六装判	上函四六装判	布面四六装判
705	363	464	407	412	440	458	470	546	357
二、五〇	一、七〇	一、五〇	一、八〇	二、二〇	一、六〇	一、五〇	一、五〇	二、〇〇	二、三〇
改造社	先進社	改造社	天人社	天人社	先進社	改造社	改造社	先進社	寶文館
月六	月四	月三	月八	月五	月一十	月五	月九	月五	月六
▲喧騒混沌の幕末若き剣士夏目榮之丞を中心とする長篇物語で、秋の走馬燈、悲願、開の世界、旅鳥外十二項。	▲清新な滑稽人員一平の其後の活躍を描いたもので、海鳴山鳴、天の辻、不職人、十津川くづれ外三項。	▲偶然から自分の戀人から仇と狙はれて流浪する細谷十太夫を主人公とした長篇で、後巻は密書から始る。	▲悪魔の娯樂、猛者代官の罪、六十五の劍痕、水船地獄外五話。	▲銀簪、手首、杜鵑、官女、休みの日、晝間の月、新兩國八景、雪の夜がたり、仁義以上雪むすめ、半身等十一篇を収む。	▲豪傑日蓮を描いた長篇で、太陽の子以下どこまでも迄八項を収む。	▲中篇は第二篇暴風以前(張孔堂以下三項)より始まり、第三篇昔の神々(伊勢の巻以下秋晴れ迄)を収む。	▲澎湃たる浪人群を背後に控へて徳川氏の牙を衝かんとする野心兒由比正雪を描ける大衆物で、前編は鳥原の巻外一篇。	▲悪公卿の願許を發端とし明治新政府に活躍する偉傑、大志に燃ゆる諸生、美貌の下男に絡む事件などを描いた長篇。	▲姉川合戦から味方ヶ原戦役迄を敘し其間に秀吉の再婚始末や叡山燒討や三河武士と甲州武士の角逐等を詳しく述ぶ。

武者小路實篤	二宮尊徳	今東光	奥州流血録	松崎實	伴天連殺生關白行狀記	子母澤寛	笹川の繁藏	畑耕一	肉妖高橋お傳	平山蘆江	五月雨日記	直木三十五	風流殺法陣	江見水蔭	佐渡脱獄鬼	佐々木味津三	風雲天滿双紙	長谷川伸	關の彌太ッペ
布四六判 裝入判	布四六判 裝入判	上四六判 裝入判	上四六判 裝入判	布四六判 裝入判	上四六判 裝入判	上四六判 裝入判	上四六判 裝入判	上四六判 裝入判	上四六判 裝入判	上四六判 裝入判	上四六判 裝入判	上四六判 裝入判	上四六判 裝入判	上四六判 裝入判	上四六判 裝入判	上四六判 裝入判	上四六判 裝入判	並六新 判四	並六新 判四
259	558	453	284	364	420	526	401	504	312	296	304	363	376	508	408	610	500	423	480
一、三〇 二、三〇	一、八〇 二、三〇	二、〇〇 一、八〇	一、二〇 二、三〇	一、六〇 二、三〇	一、三〇 二、三〇	一、三〇 二、三〇	一、三〇 二、三〇	一、六〇 二、三〇	一、三〇 二、三〇	一、三〇 二、三〇	一、三〇 二、三〇	一、三〇 二、三〇	一、三〇 二、三〇	一、三〇 二、三〇	一、三〇 二、三〇	一、三〇 二、三〇	一、三〇 二、三〇	一、三〇 二、三〇	一、三〇 二、三〇
講談社	先進社	日本評論社	鹽川書房	龍生堂	平凡社	平凡社	平凡社	先進社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社
月二十	月八	月一	月三	月九	月五	月三	月三	月七	月九	月九	月五	月三	月三	月三	月三	月三	月三	月三	月四
▲二宮尊徳の人となりや精神を説いたもので、清い涙決心の涙、この君主あつてこの臣あり、人心の開明外三十五章。	▲純眞赤裸の一農奴鶴平を主人公とし奥州九十九ヶ村の農民三萬の騒動を描ける大衆小説で、此所にも居る外廿一項。	▲伴天連の見聞による豊臣秀次の罪行記で、關白様千人斬の事、寢殿怪異の事、三條河原お仕置の事外十二篇。	▲笹川繁藏、利根川べりの仕返し、忠治御用十四項、等五篇。	▲明治初年に於ける毒婦中の毒婦といはれた、お傳の物語で、鹹もつ人々、土蔵の中、仕懸けた畏外八十六項。	▲五月雨日記、忍び三重、四年目の勝負、提灯の舞、京傳遊戯、乳房、人形秘話、道行と組打、比翼紋外情話十五篇。	▲悪領主に苦しめらるゝ百姓達の一揆を發端とした長篇物語で、休み茶屋以下五十餘項より成る。	▲佐渡脱獄記、城門呪の矢、海賊小唄始、身替り初鮎、鏡の助太刀、山吹お歌津、女猿曳の繪、天城越の怪外三篇。	▲一世の義人中齋大鹽平八郎の義學を中心とした長篇物語で、外に「謎の人形師」を収む。	▲賭場をわたる股旅者關の彌太郎を描いた「關の彌太ッペ」及び「明治曾我」の二篇を収む。	▲信州淺間の秘境人體建築境を舞臺とし、人體解剖内景圖を得んとする人々の活躍を描いた長篇。妖説八人藝附載。	▲大義親を滅して一身を犠牲にして彼等が何故に主家から顧みられなかつたかを扱つた「飢ゑたる彰義隊」外二篇を収む。	▲押繪と旅する男(亂歩)半身(次郎)ころつき半兵衛(東光)横鼻輝(伸)筑波秘譚(孝丸)鴛鴦鏡(綺堂)外十二篇。	▲佐渡ヶ島金山に苦役する父と其の子かげらうの長吉の相愛思慕の純情を描いたもので、こなゆき外九項。附半身。	▲報警の憤怒に炎ゆる神幻の怪美女「女來也」淫婦千兩抵當外二十項。	▲少壯三十四歳で暗殺の飛劍に倒れた清川八郎が幕末の天地に尊王佐幕浪士の間に立つて維新の大業を畫策する物語。	▲勤王の浪士速水雄七の危難を救つて水魚の交りたもの。漂泊族の自然兒俊之介の動靜を描いたもの。	▲何者、D坂の殺人事件、心理試験、屋根裏の散歩者、黒手組、幽霊、一寸法師等亂歩氏の獨特の怪奇小説七篇を収む。	▲湘南A海岸の秋葉神社にある大銀杏の空洞を中心として謎の事件を描いた「神木の空洞」及び「池水莊綺譚」を収む。	▲幕末の暗然たる世想を背景に浪花の都の獄門首といふ獄門首が悉く暗から暗へ消えてゆくと大奇怪事を描いた大衆物。

國枝史郎	曉の鐘は西北より	吉川英治	飢ゑたる彰義隊	文藝家協會編	大衆文學集	大佛次郎	かげらう	吉川英治	女來也	三上於菟吉	清川八郎	佐々木味津三	羽影走馬燈	江戸川亂歩	名探偵明智小五郎	甲賀三郎	神木の空洞	行友李風	獄門首土藏
並六新 判四	並六新 判四	並六新 判四	並六新 判四	並六新 判四	並六新 判四	並六新 判四	並六新 判四	並六新 判四	並六新 判四	並六新 判四	並六新 判四	並六新 判四	並六新 判四	並六新 判四	並六新 判四	並六新 判四	並六新 判四	並六新 判四	並六新 判四
296	304	363	376	508	408	610	500	423	480	259	558	453	284	420	526	401	504	312	
一、三〇 二、三〇	一、三〇 二、三〇	一、三〇 二、三〇	一、三〇 二、三〇	一、三〇 二、三〇	一、三〇 二、三〇	一、三〇 二、三〇	一、三〇 二、三〇	一、三〇 二、三〇	一、三〇 二、三〇	一、三〇 二、三〇	一、三〇 二、三〇	一、三〇 二、三〇	一、三〇 二、三〇	一、三〇 二、三〇	一、三〇 二、三〇	一、三〇 二、三〇	一、三〇 二、三〇	一、三〇 二、三〇	一、三〇 二、三〇
新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社	新潮社
月九	月九	月五	月三	月三	月三	月三	月三	月三	月三	月三	月三	月三	月三	月四	月四	月四	月四	月四	月四
▲清い涙決心の涙、この君主あつてこの臣あり、人心の開明外三十五章。	▲純眞赤裸の一農奴鶴平を主人公とし奥州九十九ヶ村の農民三萬の騒動を描ける大衆小説で、此所にも居る外廿一項。	▲伴天連の見聞による豊臣秀次の罪行記で、關白様千人斬の事、寢殿怪異の事、三條河原お仕置の事外十二篇。	▲笹川繁藏、利根川べりの仕返し、忠治御用十四項、等五篇。	▲明治初年に於ける毒婦中の毒婦といはれた、お傳の物語で、鹹もつ人々、土蔵の中、仕懸けた畏外八十六項。	▲五月雨日記、忍び三重、四年目の勝負、提灯の舞、京傳遊戯、乳房、人形秘話、道行と組打、比翼紋外情話十五篇。	▲悪領主に苦しめらるゝ百姓達の一揆を發端とした長篇物語で、休み茶屋以下五十餘項より成る。	▲佐渡脱獄記、城門呪の矢、海賊小唄始、身替り初鮎、鏡の助太刀、山吹お歌津、女猿曳の繪、天城越の怪外三篇。	▲一世の義人中齋大鹽平八郎の義學を中心とした長篇物語で、外に「謎の人形師」を収む。	▲賭場をわたる股旅者關の彌太郎を描いた「關の彌太ッペ」及び「明治曾我」の二篇を収む。	▲信州淺間の秘境人體建築境を舞臺とし、人體解剖内景圖を得んとする人々の活躍を描いた長篇。妖説八人藝附載。	▲大義親を滅して一身を犠牲にして彼等が何故に主家から顧みられなかつたかを扱つた「飢ゑたる彰義隊」外二篇を収む。	▲押繪と旅する男(亂歩)半身(次郎)ころつき半兵衛(東光)横鼻輝(伸)筑波秘譚(孝丸)鴛鴦鏡(綺堂)外十二篇。	▲佐渡ヶ島金山に苦役する父と其の子かげらうの長吉の相愛思慕の純情を描いたもので、こなゆき外九項。附半身。	▲報警の憤怒に炎ゆる神幻の怪美女「女來也」淫婦千兩抵當外二十項。	▲少壯三十四歳で暗殺の飛劍に倒れた清川八郎が幕末の天地に尊王佐幕浪士の間に立つて維新の大業を畫策する物語。	▲勤王の浪士速水雄七の危難を救つて水魚の交りたもの。漂泊族の自然兒俊之介の動靜を描いたもの。	▲何者、D坂の殺人事件、心理試験、屋根裏の散歩者、黒手組、幽霊、一寸法師等亂歩氏の獨特の怪奇小説七篇を収む。	▲湘南A海岸の秋葉神社にある大銀杏の空洞を中心として謎の事件を描いた「神木の空洞」及び「池水莊綺譚」を収む。	▲幕末の暗然たる世想を背景に浪花の都の獄門首といふ獄門首が悉く暗から暗へ消えてゆくと大奇怪事を描いた大衆物。

國枝史郎	林和	直木三十五	土師清二	傳奇小説・探偵小説					黒岩涙香譯	黒岩涙香譯	黒岩涙香譯	黒岩涙香譯	黒岩涙香譯	黒岩涙香譯	黒岩涙香譯	黒岩涙香譯	黒岩涙香譯	黒岩涙香譯	黒岩涙香譯	黒岩涙香譯	黒岩涙香譯
生 死 卍 巴	遊 俠 男 一 代	荒 木 又 右 衛 門	旅 烏 國 定 忠 次	捨 小 舟 と 嬢 一 代	人 外 境 と 巨 魁 來	死 美 人 と 怪 の 物	活 地 獄 と 武 士 道	山 と 水	山 と 水	山 と 水	山 と 水	山 と 水	山 と 水	山 と 水	山 と 水	山 と 水	山 と 水	山 と 水	山 と 水	山 と 水	
布 菊 半 裁 裝	布 菊 半 裁 裝	布 菊 半 裁 裝	布 菊 半 裁 裝	布 菊 半 裁 裝	布 菊 半 裁 裝	布 菊 半 裁 裝	布 菊 半 裁 裝	布 菊 半 裁 裝	布 菊 半 裁 裝	布 菊 半 裁 裝	布 菊 半 裁 裝	布 菊 半 裁 裝	布 菊 半 裁 裝	布 菊 半 裁 裝	布 菊 半 裁 裝	布 菊 半 裁 裝	布 菊 半 裁 裝	布 菊 半 裁 裝	布 菊 半 裁 裝	布 菊 半 裁 裝	
498	487	404	500	1057	1070	2002	904	878	878	904	2002	904	878	878	904	2002	904	878	878	904	
七〇六	七〇八	七〇六	七〇八	一、八〇八	一、八〇八	一、八〇八	一、八〇八	一、八〇八	一、八〇八	一、八〇八	一、八〇八	一、八〇八	一、八〇八	一、八〇八	一、八〇八	一、八〇八	一、八〇八	一、八〇八	一、八〇八	一、八〇八	
先 進 社	先 進 社	先 進 社	先 進 社	明 文 館	明 文 館	明 文 館	明 文 館	明 文 館	明 文 館	明 文 館	明 文 館	明 文 館	明 文 館	明 文 館	明 文 館	明 文 館	明 文 館	明 文 館	明 文 館	明 文 館	
月 五	月 六	月 七	月 七	月 四	月 四	月 四	月 五	月 五	月 五	月 五	月 四	月 四	月 四	月 四	月 四	月 四	月 四	月 四	月 四	月 四	
▲初夏の月明の下で凄麗妖美な巫女から買つた宮川茅野雄の数奇な運命を描いた大衆物。附明暗二道。	▲水野十郎左衛門を首領とする旗本白柄組の剛を制した江戸の花俠客幡隨院長兵衛の物語。▲世に謂ふ伊賀の仇討荒木又右衛門を止史に依つて描いたもので、雨の日の殺人、海道上下、又右衛門の強さ外十二項。	▲雑誌「週刊朝日」に連載した人情講談「深紅赤城」を改題したもので、他に情痴集(まぼろし花嫁、坊主狩外七篇)。	▲「捨て小舟」及び「嬢一代」の二篇を収めたもの。	▲「人外境」及び「ホアゴペー」の「巨魁來」の二篇を譯したもの。	▲「死美人」及び「エマニエル篇」「怪の物」の二篇を収む。	▲「活地獄」及び「武士道」の二篇を譯載。	▲上下二巻より成るフランク・バレットの「山と水」を譯載。	▲片瀬海岸に於ける殺人事件に端を発する青ダイヤの指輪を巡つての不可思議な物語で、都會の病氣外十八章。	▲紳士の假面を被つて堂々帝都を横行し警戒の裏をかいて人もなげなる大犯行を企む天才犯罪者を描ける探偵小説。	▲二月ばかり間をおいて起つた二人の人物の變死事件を發端とし絶海の孤島をめぐる怪奇物語。	▲七つの星と七つの地名の間に隠された百萬圓の秘寶をめぐる善悪邪正の八人の争を描いた七妖星及び「狐薔」外二篇を収む。	▲指輪の紛失、秋子の行方、なぞの死、怪しり成る長篇探偵小説。富豪の秘密外十三項より成る。	▲女肉を料理する男、チャアアイは何處にある、浴槽の花嫁、肉屋に化けた人鬼、モンアルの狼外五篇。	▲診察室、指紋の悔、學位、最後の犠牲者、細菌研究室、紺にそまる手、心の蔓草等七篇を収む。	▲南米の秘境ゴンサレに傳はる千年の秘紙「水晶の座」をめぐる物語及び百仙境の二篇を収む。	▲世にも奇しき言葉で電話を掛ける女をめぐる「葛藤」を描いた探偵長篇。外に「地獄篇」「笠井博士」の二篇を収む。	▲彼が殺したか、死者の權利、悪魔の弟子、殺された天一坊、鳥原繪卷、正義、探偵小説作家の死外四篇。				

大下、宇陀兒	江戸川亂歩	江戸川亂歩	保篠龍緒	甲賀三郎	牧 逸 馬	正木不如丘	牧 逸 馬	甲賀三郎	濱 尾 四 郎
探偵小説	評判小説	孤 島 の 鬼	七 妖 星	幽 靈 犯 人	浴 槽 の 花 嫁	診 療 室 壁 畫	水 晶 の 座	電 話 を 掛 け る 女	殺 人 小 説 集
並 四 六 判 裝	布 四 六 判 裝	並 四 六 判 裝	上 四 六 判 裝	上 四 六 判 裝	上 四 六 判 裝	布 四 六 判 裝	並 六 新 判 裝	並 六 新 判 裝	並 四 六 判 裝
44	412	332	361	373	452	344	314	296	503
一、〇〇八	一、五〇二	一、〇〇八	一、三〇八	一、三〇二	一、五〇二	一、五〇二	六 五〇	六 五〇	一、五〇二
朝 日 新 聞 社	講 談 社	改 造 社	平 凡 社	平 凡 社	中 央 公 論 社	弘 學 館	新 潮 社	新 潮 社	赤 爐 閣
月 二	月 十	月 六	月 六	月 二	月 九	月 二 十	月 九	月 九	月 十
▲片瀬海岸に於ける殺人事件に端を発する青ダイヤの指輪を巡つての不可思議な物語で、都會の病氣外十八章。	▲紳士の假面を被つて堂々帝都を横行し警戒の裏をかいて人もなげなる大犯行を企む天才犯罪者を描ける探偵小説。	▲二月ばかり間をおいて起つた二人の人物の變死事件を發端とし絶海の孤島をめぐる怪奇物語。	▲七つの星と七つの地名の間に隠された百萬圓の秘寶をめぐる善悪邪正の八人の争を描いた七妖星及び「狐薔」外二篇を収む。	▲指輪の紛失、秋子の行方、なぞの死、怪しり成る長篇探偵小説。富豪の秘密外十三項より成る。	▲女肉を料理する男、チャアアイは何處にある、浴槽の花嫁、肉屋に化けた人鬼、モンアルの狼外五篇。	▲診察室、指紋の悔、學位、最後の犠牲者、細菌研究室、紺にそまる手、心の蔓草等七篇を収む。	▲南米の秘境ゴンサレに傳はる千年の秘紙「水晶の座」をめぐる物語及び百仙境の二篇を収む。	▲世にも奇しき言葉で電話を掛ける女をめぐる「葛藤」を描いた探偵長篇。外に「地獄篇」「笠井博士」の二篇を収む。	▲彼が殺したか、死者の權利、悪魔の弟子、殺された天一坊、鳥原繪卷、正義、探偵小説作家の死外四篇。

生方敏郎	吸 <small>悪の毒文庫</small> 血記	上四六判 製入判	360	一、五〇 二、三〇	萬里閣	月一十	▲山莊の一夜、奴隸賣買船内の一事件、アイリス山頂の魔椅子、延び延びにされた結婚式外六篇。
武安・ダイン作 見譯	僧正殺人事件	並四六判 製	422	一、五〇 六	改造社	月九	▲アメリカに於ける最も學究的な文筆家たるライト氏が匿名で書いた長篇探偵小説の譯。
マツケン 泰譯	結婚魔ランドル	上四六判 製入判	314	一、三〇 二、二〇	平凡社	月九	▲市俄古大學生事件、ダイナマイト殺人事件、殺人請負、辯護士ヒュンメル末路、結婚魔ランドル外二篇。
ワット 胤譯	殺人結婚	上四六判 製	312	一、三〇 八	日本書院	月十	▲犯人ワットソンの供述をグラフィックの記者ムイズが筆記せる事實談で、苦い初戀、荒された女外卅篇。
内山賢次譯	夜歩く	並六新 製判四	413	一、二〇 六	天人社	月十	▲パリの賭博場に起つた謎の殺人事件を描けるもので、墓掘りのパトロン、ボーを語る人、口あり外十八項。——密封版——
諧謔小説其他							
佐々木邦	小説 新家庭双六	布四六判 製入判	407	一、七〇 二、三〇	雄辯會本	月三	▲樂天家でのんきもの、里見君の新家庭を佐木氏一流の筆致で描き出したもので、振出し、密月の晦日外十二項。
野口亮	小説 新婚風景	布四六判 製入判	302	一、八五 二、二〇	中村書店	月四	▲新婚の二夫婦を描いた諧謔小説で、岸田君と花村君の悲戀外十四項。嘘の不名人、今様ハンカクの悲戀外十四項。
富士川潔	小説 脱線むすめ	布四六判 製入判	316	一、八五 二、二〇	中村書店	月一	▲モダン娘山本愛子の脱線振りを描いた滑稽小説で、痛快なる退校處分、剣突は戀の自暴脱線又脱線大脱線外十二項。
サトウ・ハチロー	センチメンタルキツス	並四六判 製	297	一、二〇 八	素人社	月六	▲センチメンタル・キツス、文壇スボーツ評判記、モダン珍商賣、ラリルレロ話、高速度ユーモア怪談外ナンセンス物二十篇。

翻譯小説

サトウ・ハチロー	失戀大福帳	並四六判 製	287	九、五 六	素人社	月三	▲失戀大福帳、角刈リテンカン、壁に書いた船、おれきと僕、寒い口笛、不良少年覺書、不良少女雜譯外物語九篇。
長田幹彦	女優部屋	並四六判 製	344	八、〇 六	中央公論社	月四	▲新東京風景(芝浦、深夜の圓タカ外十九篇)及び陽氣な風車、青衿の女、女優部屋、女樂士を収む。
伊藤松雄	半男半女物語	並四六判 製	448	一、八〇 〇	萬里閣	月九	▲半男半女物語、生人形の首、青蜥蜴、人體青年外十三篇。
佐藤進一	支那男をめぐる彼女達	並四六判 製	332	一、三〇 八	先端社	月七	▲賊に捧げた戀、入揚げた姉と姉の罪を引受なした妹、詩の力に生き得た妻、孫の如き愛人を、もつ老公主外六十八話。
口村信郎	王宮羅馬法王	並四六判 製入判	634	一、八〇 二、二〇	萬里閣	月五	▲羅馬法王宮の暴露史で、皇帝入御、帝とバスマンナ、法王レオ三世の悩み、生けいと樂し歡樂の夢の果外六十篇。
水野廣徳	戦争海と空	並四六判 製	150	五、〇 四	海洋社	月六	▲現代海戦に關する小説で、日米開戦の三ヶ月、日米戦争と列國の向背、我艦隊の立體攻撃外十一篇。
森 <small>譯者 註士</small>	法律小説十軒長屋の明渡し	並四六判 製	115	五、〇 四	法律新報社	月四	▲十軒長屋の明渡し事件が結了に至る迄の経路を描いた法律小説。
井原西鶴	日本永代藏	並四六判 製	112	三、〇 二	文藝社	月四	▲西鶴の著した書物の中、町人を主材としてある作品、町人の氣持を取扱つた文學の佳品である。町人の氣持を取扱つた文學の佳品である。
山本賢三編	ラグシーン風景	上四六判 製	475	一、二〇 二、三〇	日本書院	月二十	▲紅葉、蘆花、漱石、露伴、武郎、鏡花、寛正雄、秋聲、潤一郎、草外廿作家の有名な小説中より戀愛の場面五十餘景を選び収む。

日野捷郎	トオマス・マン 短篇集 第一卷	並製	菊半截	126	二〇	岩波書店	月四	▲▲大きな幻滅の正體を徹底的に解析せる「幻滅」及び「墓地へゆく道」トニオ・クレエゲル」の三篇を収めたもの。
日野捷郎	トオマス・マン 短篇集 第二卷	並製	菊半截	114	二〇	岩波書店	月四	▲トオマス・マンの「トリスタンの」二篇を収む。
トーマス・マン	洋服 箆 筒	布製	菊半截	174	二〇	改造社	月三	▲トーマス・マンの「洋服箆筒」「トニオ・クレエルの」鐵道事故」「フリーデマン君」の四篇を収む。
工藤好美	ウオルトア・メイター 短篇集	上製	菊半截	512	三二〇	岩波書店	月一	▲家の花形、ドニ・ロオセルワ外二篇及各篇の註を収む。
佐藤緑葉	蜘蛛の巣の家	上製	菊半截	417	一五〇	尙文堂	月一	▲短篇集で、蜘蛛の巣の家、氣の小さい父親、美しくい家族、外十一篇。
グインシイ	阿片溺愛者の告白	布製	菊半截	181	二〇	改造社	月二十	▲阿片溺愛者の告白、後の阿片溺愛者の手記より、著者の小傳、註、蛇足。
渡邊正知	アペラールとエロイズの愛の手紙	並製	菊半截	230	八〇	木星社	月六	▲中世紀、フランスの僧院に芽んだ宗教家哲學者であるアペラールと若きエロイズの戀の情みを訴ひ合へる二人の手紙。
石川ソウ	懺悔	並製	菊半截	330	六〇	岩波書店	月二十	▲近代思想の一大源泉たるジャン・ジャック・ルソオの性格と歴史と事業とが餘蘊なく述べ盡されてゐる不朽の名著の續譯で、舊版の全譯に修正を加へ、懺悔録翻筆後のルソオに就て記述したものを補遺として附載す。上巻一第一巻より第六巻まで、中巻一第七巻より第九巻まで、下巻一第十巻より第十二巻まで及び補遺。
石川ソウ	懺悔	並製	菊半截	339	六〇	岩波書店	月二十	

バルザック	從兄	並製	菊半截	319	六〇	岩波書店	月三	▲「從妹ベットの」姉妹篇を爲す長篇小説で、二人の老音楽師の友情と彼等の遺産を狙ふ姦悪なる人々を描いた「人間喜劇」中の傑作。
エミール・ゾラ	ルゴン家の人々	洋製	菊半截	383	一五〇	春秋社	月一	▲他くなき肉慾と悦樂に飛びつく現代的な廣大な昂奮を持つてゐるルゴン家の人々を描けるもの。
エミール・ゾラ	罪の罪	青製	菊半截	423	二〇〇	改造社	月一	▲聖ムウレの苦惱に満ちた生活を描いた不幸な人物語「アベ・ムウレの罪」及び短篇「水車小舎攻撃」を収む。
松本泰	新國記	布製	菊半截	392	四〇	改造社	月一	▲佛蘭西の歴史及社會機軸を暴露せる作品で起源、古代、中世及文藝復興、近代、未來外三編。
木村恭一	新國記	布製	菊半截	392	四〇	改造社	月一	▲ジャン・アラン・シヤアル(吉江喬松譯)マリア・ドナ・アイエ(土井逸雄譯)母への手紙(山内義雄譯)野鴨雜記(林証木譯)。
吉江喬松	ルゴン家の人々	洋製	菊半截	383	一五〇	春秋社	月一	▲母と子(山内譯)クロキニヨル(内田譯)モンパルナス(小牧譯)哀れな四つの戀物語(前田譯)二十歳の日記(神部譯)アイリツプ(ジイド)。
エミール・ゾラ	罪の罪	青製	菊半截	423	二〇〇	改造社	月一	▲若くして逝いた佛蘭西文壇の人氣作家が大戦に出征した夫の留守中に於ける妻の爛れた生活を描いた長篇。「發賣禁止」。
波達夫	肉體の悪魔	並製	菊半截	223	一〇〇	アルス	月五	▲たつた十八の少女然も實際的には弟のそして自らの殺人者であるエリザベエトを中心として描ける小説。「幕」附載。
東郷青兒	怖るべき子供達	上製	菊半截	274	一五〇	白水社	月九	▲ランボオの今日迄發見された作品の中散文中で書かれたもの、全部を篇せるもので、地獄の季節十篇。飾畫廿六篇。
小林秀雄	地獄の季節	上製	菊半截	235	一七〇	白水社	月一	▲「夜ひらく」其他でヨロツバから東方諸國を解剖し盡したモオランの小説。新しく脂肪の國▲飯島モオラン正譯作。
飯島モオラン	世界選手	上製	菊半截	309	一七〇	白水社	月二十	▲「夜ひらく」其他でヨロツバから東方諸國を解剖し盡したモオランの小説。新しく脂肪の國▲飯島モオラン正譯作。

有賀宗太郎譯	安谷寛一譯	新居格譯	志摩浪斗譯	松尾邦之助譯	木村グリット譯	大木篤夫譯	祖父江登譯	深尾須磨子譯	堀口大郎譯
寢臺車のマドンナ	獄窓の花婿	熱風	禁慾輪舞	娼婦と暮して一ヶ月	お前の身體はお前のものだ	戀愛無政府	偽救世主ランフィヨン	犬猫の會話七つ	戀の歐羅巴
並四六判製	並四六判製	並四六判製	上四六判製	並四六判製	並四六判製	並四六判製	並四六判製	上四六判製	並六新製判四
357	418	365	423	284	416	462	121	233	411
一、五〇六	一、五〇六	一、七〇二	一、七〇二	一、〇〇八	一、五〇八	一、五〇八	五〇四	一、五〇八	一、〇〇八
一元社	汎人社	先進社	汎人社	新時代社	アリス	アリス	紅玉堂	世界社	新潮社
五月	十月	九月	十一月	十一月	十月	五月	十一月	六月	五月
▲歐米社交婦人の私生活と勞農ロシヤのチエカスパイ政治の暴露小説で、痴鈍極まる紳士金色の矢外十八項。	▲十二年の刑に處せられたバークマンの獄中苦難の記録。	▲支那に新しく生動せる革命的氣流とその交錯を描いた小説で、渦中へ、闘争、ガリンの三篇。	▲修道院の女達、去勢俗人。コラス・ガイル希臘の淫婦、ユダヤ娘、佻儻と醜女等百人をめぐるカザノヴァ情史。	▲女史が賣笑婦の内幕生活を描いたもので、ラシテヴイ屋へ女中奉公外十七章。	▲世界大戦後の歐羅巴の世態人情をよく活寫したフランスの尖端小説。	▲大戦後のフランスの營利と虚榮に満てる社交界と解放された女を赤裸々に描いた長篇小説。――後禁改訂版――	▲偽救世主ランフィヨン、盤獵、暖味俱樂部の選返、影の分離、ギヨム・アボリネエル小傳の五篇。	▲現代佛蘭西女性文壇の統御者コレットの處女作とも稱すべき作で、猫と犬と彼と彼女との會話より成る。	▲今日歐洲各國で行はれる時代的特異性を持つた戀愛の種々相を描いたもの。別に「彼女と彼女」と題する長篇を併載。

河村雅譯	河村雅譯	河村雅譯	河村雅譯	河村雅譯	河村雅譯	河村雅譯	河村雅譯	河村雅譯	河村雅譯	河村雅譯	河村雅譯	河村雅譯	河村雅譯	河村雅譯	河村雅譯	河村雅譯	河村雅譯	河村雅譯	河村雅譯	河村雅譯
フリオ・フレニトとその弟子達	ジャンヌ・ネイの愛	グレート・ラブ	偉大な戀	三代の戀	四十一人目	悲慘のどん底	カラマーゾフの兄弟	大宅壯一	大宅壯一	新居格	新居格	新居格	新居格	新居格	新居格	新居格	新居格	新居格	新居格	新居格
上四六判製	並四六判製	並四六判製	並四六判製	並四六判製	並四六判製	並四六判製	並四六判製	並四六判製	並四六判製	並四六判製	並四六判製	並四六判製	並四六判製	並四六判製	並四六判製	並四六判製	並四六判製	並四六判製	並四六判製	並四六判製
384	491	250	174	103	218	209	315	963	818	357	418	365	423	284	416	462	121	233	411	
一、〇〇八	一、五〇八	一、〇〇八	一、〇〇八	一、〇〇八	一、〇〇八	一、〇〇八	一、〇〇八	一、〇〇八	一、〇〇八	一、〇〇六	一、〇〇六	一、〇〇六	一、〇〇六	一、〇〇六	一、〇〇六	一、〇〇六	一、〇〇六	一、〇〇六	一、〇〇六	
春秋社	春秋社	アリス	世界社	世界社	南登書房	長崎書店	新潮社	中央公論社	天人社	一元社	汎人社	先進社	汎人社	新時代社	アリス	アリス	紅玉堂	世界社	新潮社	
三月	三月	三月	四月	五月	一月	八月	二月	十月	十月	五月	十月	九月	十一月	十一月	十月	五月	十一月	六月	五月	
▲ヨロツバ文明没落期に於ける諷刺的批評小説で、私とフリオ・フレニトとの初対面、僅かな矛盾外卅三章。――普及版――	▲資本主義文化と新興プロレタリア文化とを背景にした戀愛小説で、カストルとホルクス冬にも春もある外四十六項。	▲妻をもつ同志と戀に落ちたコムニユニストの女が次第に男に對する熱情を失つてゆく經過を描いたもの。	▲獸性的な有婦の男性を戀の對象とした一女性を描いた長篇。	▲三代の戀(別名戀愛の道)及び「姉妹」の二篇を収めたもの。	▲一九一八年當時の南露に於ける白軍との戦争のエピソードに取材せる「四十一人目」及び「赤い決死隊」の中篇を収む。	▲シベリヤの曠野に展開された癡病患者の悲惨のどん底に呻吟する生活を如實に寫した小説。	▲第四卷には第十一編兄イヴン(承前)、第十編誤れる裁判、並びに第十三編エヒログ(三項)を収む。――普及版――	▲クラム・サムギンといふ一人の人間の四十年の生涯を通じてみた近世ロシア革命史で第一部はインテリゲンチヤの思想其他を解剖する迄の四十年間を描ける三部作。	▲中産階級の家庭に生れたクラム・サムギンなる主人公としソビエツト・ロシアの建設に至る迄の四十年間を描ける三部作。											

千 葉 ツ 魚 雄 譯 作	井 田 孝 平 譯 作	黒 田 辰 男 譯 作	小 宮 山 明 敏 譯 作	蔵 原 惟 人 譯 作	佐 々 木 孝 丸 譯 作	佐 々 木 孝 丸 譯 作	大 木 篤 夫 譯 作	辻 恒 彦 譯 作	村 田 春 海 譯 作	
戦 の 人 々	醉 ひ ど れ の 太 陽	飢	一 週 間	番 人	ク ラ 下 卷 テ	ク ラ 上 卷 テ	双 頭 の 鷺 よ り 赤 旗 へ 上 卷	セ メ ン ト	母	
並 製	並 製	並 製	並 製	並 製	並 製	並 製	布 製	並 製	並 製	
四 六 判	四 六 判	四 六 判	四 六 判	四 六 判	四 六 判	四 六 判	四 六 判	四 六 判	四 六 判	
166	223	270	208	207	246	225	584	444	360	
三 四	三 四	三 四	三 四	三 四	三 四	三 四	一 八 二	一 五 八	一 〇 二	
平 凡 社	平 凡 社	平 凡 社	平 凡 社	平 凡 社	平 凡 社	平 凡 社	ア ル ス	共 生 閣	ス マ 書 房	
月 三	月 三	月 三	月 三	月 三	月 三	月 三	月 九	月 九	月 一 十	
▲戦場へ、砲火の洗禮、勝利者、同僚(或る日記)の英雄の死、生還の六章より成る「戦の人々」の譯。	▲「醉ひどれの太陽(グラトコフ)トウアタムール(レオノフ)の二篇。	▲セミヨノフの日記小説「飢」を収む。		▲「番人」を始め、轉轍手(セラフイモイツチシコ作)外四篇を収む。	▲七章から成るリベヤンスキイの「一週間」を収めたもの。	▲下巻は「何處へ行く」「荒廢」「まぼろし」「奈落の底より我呼びぬ」「朝」「眼」「グラルテ」等最終章まで収む。	▲「ロマン・ローランと共に人類愛を説くアンリ・バルビュスの傑作で、上巻は「私」私達」「夕暮と曉」等十二章。	▲自ら革命戦に参加し自ら革命を目撃した著者が革命前後に於ける深刻なる社會の全相を描いたロシアの革命小説。	▲荒れ果てた戰場、赤い頭巾、黨委員會、地下室移住、未來への精進外十二項より成る「プロ長篇小説」。	▲革命運動の闘士となつた一労働者の母が、徐々に感染せられ遂に自覺せる殉難者として死に至る迄の徑路を描けるもの「廉價版」

廣 尾 猛 譯 作	杉 本 良 吉 譯 作	蔵 原 惟 人 譯 作	小 宮 山 明 敏 譯 作	黒 田 辰 男 譯 作	杉 本 良 吉 譯 作	黒 田 辰 男 譯 作	松 崎 啓 次 譯 作	西 谷 雅 義 譯 作	蔵 原 惟 人 譯 作
技 師 ガ ー リ ン	産 共 大 學 生 の 日 記	鐵 の 流 れ	叛 亂	裝 甲 列 車	巡 洋 艦 ザ リ ヤ ー	共 産 黨 員	袋 街	ソ ヴ エ ー ト 女 醫 の 手 記 — 十 字 街 上 の 女	壊 滅
並 製	並 製	並 製	並 製	並 製	並 製	並 製	並 製	並 製	並 製
四 六 判	四 六 判	四 六 判	四 六 判	四 六 判	四 六 判	四 六 判	四 六 判	四 六 判	四 六 判
527	353	331	355	314	206	469	467	246	319
一 五 〇	一 〇 〇	八 〇	一 〇 〇	一 〇 〇	七 〇	一 二 〇	一 二 〇	一 〇 〇	七 〇
内 外 社	叢 文 閣	叢 文 閣	ス マ 書 房	ス マ 書 房	ス マ 書 房	ス マ 書 房	ス マ 書 房	世 界 社	戦 旗 社
月 二 十	月 四	月 三	月 四	月 三	月 三	月 五	月 二	月 五	月 一 十
▲資本と科學、英雄主義と集團主義が全世界を舞臺としての全力的な決死の格闘を構想とせる小説。	▲共産主義青年同盟員である主人公コスチヤリヤブツエフの日記の大學の部の全譯で、中等科卒業生外八篇。	▲「ホリシエグアイク」の指導者コジエフが先頭に立つ南露北高架案に於ける革命的闘争を描いたもの。	▲トルキスタン自治社會主義ソウエト共和國確立への過程におけるウエイルヌイ市及び隣接諸町村の暴動を題材とせる小説。	▲異つた土地の人間、支那人シン・ピン・ウ、旗手オバブ、ネセラソフ大尉の死、泡外三章。附録バルチザン。	▲「ラヴレニョフ」の四幕五場より成る戯曲「巡洋艦ザリヤー」及その演出者の覚え書、マヤコフスキーの「南京橋」等を収む。	▲「コンミサール」を改題せるもので、新經濟政策後ソキエトの革命プロレタリアートの生活を描く。一普及版。	▲インテリゲンチヤ出身の一人娘を女主人公として革命の進行を描いた長篇小説。	▲革命ロシアの過渡期における女の悩み婦人問題を中心として、女醫の手記の形式を以つて描けるもので、手紙外廿三篇。	▲バルチザンの闘争を取扱つてゐる長篇小説。

セミヨノフ作 黒田辰男譯	フゲエト作家著 工場の細胞	ソウエト作家著 新しき者と古き者	革命文壇叢書 鐵火の試鍊	革命文壇叢書 労働婦人アンナ	國際最新文學叢書(六)	自動車の一生	國際最新文學叢書(六)	航海一週間	報	オイル!(石油)	資本	ボスト
並 四六判 製	並 四六判 製	並 四六判 製	並 四六判 製	並 四六判 製	並 四六判 製	並 四六判 製	並 四六判 製	並 四六判 製	並 四六判 製	並 四六判 製	並 四六判 製	並 四六判 製
347	217	468	342	374	408	398	635	499	480	一、二〇〇	一、五〇〇	一、五〇〇
鐵塔書院	鐵塔書院	アールス	アールス	内外社	内外社	内外社	先進社	平凡社	日本評論社	改造社	改造社	改造社
月二十	月二十	月二十	月二十	月二十	月二十	月二十	月二十	月二十	月二十	月二十	月二十	月二十
▲工場を巡る諸人物の生活活動を描ける小説。 ▲カラウエロフとイワン及びパビエフの建設期に於けるソヴエトを新階級を代表し、 ▲鑄鉄屋のベエテル・コウクスが後にK.K.軍 團の歩兵となり一九一八年には赤軍に加擔し てチエツコ軍と戦つて販通する迄の物語。 ▲可憐な一労働婦人アンナを主人公とする革 命小説で、若主人、怖しき一日、ケレクス・ザ ンドールの経歴外五項。 ▲自動車の製作過程を描寫しつゝそれを繞る 數萬の人生が機械化し無神経化する有様を描 ける小説で、自動車の誕生外六章。 ▲同じ船に乗り合した十三人の労働者と三人 の女の航海に於けるさまを描いた「三 等船客」の翻譯。 ▲間諜の手先となつた警官、師團參謀長レ ドル大佐の賣國、ドイツ最大の間諜ドクト ル嬢其他間諜物語十篇を收む。 ▲資本主義社會の機構實相をあばいた小説で 巨利外十七項。 ▲如何にアメリカの近代資本主義が構成され て行くかといふからくりの經濟的政的暴露 をテーマとする小説。 ▲サツコ、ヴァンセツチ事件を扱つた長篇で 下巻は第十三章「陪審裁判」から最後の第廿 四章「勝利」までを收む。												

ゴードル作 寺田鼎譯	アメリカ作家著 金のない猶太人	アメリカ作家著 五人の夫と私	イッツト	アメリカ作家著 世間知らず	アメリカ作家著 夜會	尖端短篇集	アメリカ作家著 JAZZ・アロドウエー	モントパリエ變奏曲・カシノ	ベネツト作 愛知謙三譯
並 四六判 製	並 四六判 製	並 四六判 製	並 四六判 製	並 四六判 製	並 四六判 製	並 四六判 製	並 四六判 製	並 四六判 製	並 四六判 製
331	683	352	216	432	453	448	431	326	432
新潮社	大衆公論社	天人社	天人社	新潮社	新潮社	新潮社	春陽堂	春陽堂	春陽堂
月六	月八	月八	月九	月十	月十	月二十	月四	月四	月五
▲惠まれた生活に喘ぐ金のない猶太人の群れ を描いた米國プロレタリア文學の代表作で、 一晚五十仙以下廿二項。 ▲アメリカ文壇の長老であり權威であるドラ イサーの代表的傑作を譯したものである。 ▲猫と女、イッツトを持つ男、二十三番の女、 赤い浴室、情熱の夜、唇と唇等廿項よりなる 戀愛物語。 ▲ミド・ルウエストの農村を背景にして幼年 時代から青年期までのデル自身を物語つたも の。メーブル外三編。 ▲ニナと云ふ裕福な細君が實際的な夫にあき パリ仕立の夜會服を着けて若返るが再び現 實生活に歸る迄を描いた作品。 ▲ウアイオミングの酒(ヒーミングウエー作 外九篇及黒人文學集三篇。(ヘクト作三土漢譯) ▲ウオードピルの踊子をめぐる長篇物語。 ▲フイリツプ・スーボウ作「モン・パリ變奏曲」 とフランシス・ミオマンデルの「カシノ」の二篇 を譯し收む。 ▲フアンニー、自戒の男、水邊のフランシス の宴會外卅七篇。									

文學 (續譯小説)

西ア 宣リ 雄作	北フ 野一 浩作	青ア ンド 木ユ ウス 作	小ハ イリ ンヒ マン 作	深ヘ イワ 正下 策作	谷フ オイ ヒト ワ ンゲ ル作	泰ル マ 豊ク 吉作	辻ハ 一シ 恒エ 彦作	清グ レイ 之助 作	小ヘ ミン グ ウ エ イ 作
世界大都會尖塔ジヤズ文學 ロンドン・パレール ピカデリー	世界大都會尖塔ジヤズ文學 紐育・オン・パレード	世界大都會尖塔ジヤズ文學 組曲・グロテスク パリ	世界大都會尖塔ジヤズ文學 ベルリン・ソナータ	チャアレストンの跛人	猶太人ジユス	西部戦線異状なし	勇敢な兵卒シユベイクの冒険 上巻	一九〇二年級	武器よ・さらば
四六判 上製	四六判 上製	四六判 上製	四六判 上製	四六判 並製	四六判 並製	四六判 並製	四六判 上製	四六判 並製	四六判 並製
433	449	387	561	254	700	343	553	471	583
一、五〇 二二	一、五〇 二二	一、五〇 二二	一、五〇 二二	一、〇〇 六	一、五〇 二二	七、五 六	一、五〇 二二	一、五〇 二二	一、八〇 二二
春陽堂	春陽堂	春陽堂	春陽堂	汎人社	中央公論社	中央公論社	衆人社	萬里閣	天人社
月一十	月一十	月一十	月二十	月一十	月七	月八	月五	月六	月九
▲二十八章より成る長篇物語。	▲紐育を舞臺とした長篇物語。	▲蚤の市場以下十章より成る長篇物語。	▲十六章より成る長篇物語。	▲乞食道華かなりし頃その黄金時代を背負つて立つた騎士であり王者であつた黒人部落の乞食ホギイを主人公とした物語。	▲豊富な智慧袋と残忍性を持ち色魔で冷血漢で典型的の守銭奴たるジユスを主人公とした長篇。	▲歐洲大戰に従事した獨逸の一青年義勇兵の手記。一普及版。	▲勇敢豪膽剛毅たる兵卒シユベイクの世界大戰中に於ける愉快な冒険を描いた長篇、挿畫ヨセフラーダ。	▲世界大戰に勃發した當時十二三歳から十五六歳の少年少女であつた若きドイツ國民の生活や感想を収めた長篇で、嵐、戦争の二部。	▲伊埃戦線の砲火の間で芽生えたアメリカの青年士官と英吉利の看護婦との戀物語。

文學 (續譯小説)

シバ エ ト レ ツ ト 作	ユ ン 雅 雄 作	ヨ ハ ン 高 一 郎 作	ヨ セ フ ・ ロ オ ト 作	ロ レ ン 静 一 作	ク ツ 井 京 次 作	延 原 謙 作	ル イ ト ウ イ ヒ レ ン 作	米 國 陸 軍 大 佐 エ リ オ ツ ト 著	カ ア ル ヘ ン セ ル 作
旅路の終り	鋼鐵のあらし	西部戦線四人の歩兵	脱走者フランク	艦隊送葬曲	航空エキバージュ	何が將軍をさうさせたか	戦	米國武官日米未來戦の見たる	山岳マツターホルンを争ふ小説
四六判 洋布	四六判 並製	四六判 並製	四六判 洋布	四六判 並製	四六判 並製	四六判 並製	四六判 並製	四六判 並製	四六判 並製
390	348	196	253	457	257	241	442	453	220
一、五〇 六	一、五〇 二二	七、〇 六	一、二〇 二二	一、六〇 八	一、〇〇 六	八、〇 六	一、五〇 二二	一、二〇 八	一、五〇 八
第一出版社	先進社	青山堂	天人社	天人社	アルス	朝日書房	世界社	有終會	玉川學園出版部
月九	月九	月十	月十	月九	月十	月七	月二十	月一十	月七
▲歐洲大戰に材をとつた長篇戦争小説。	▲ドイツの軍隊が大戦中如何に戦つたか、實地生活外十五項。	▲戦争の意義、戦争の目的は殆んど知らず、世界觀が語られてあるもの。	▲露西亞生れの埃太利人であるヨセフ・ロオトの小説「脱走者フランク」別名涯しなき逃走の課。	▲世界大戰に材をとつた海戦小説で、一九一四年六月二十三日、ヨット風を孕んで、嵐の前外十五項。	▲虚榮と勇氣とを半々に有つて飛行將校を志願した鳥のやうな青年ジャン・エルピヨンを主人公とする航空小説。	▲陸軍少將セ・ビ・ヘザーストンに關しての物語を収めたもので、ウエスト家の歴史、ヘザーストンを少將外十四項。	▲「エピソード」でも「傾向」でもなく戦争そのものを取扱つた小説で、前進、陣地戦、壊滅の三篇。	▲一九三一年に於ける太平洋戦争—現在其の儘の海陸軍及海兵隊の參戰を如實に描寫せるもので、最初の一撃外十九章。	▲殆んど人間技では登攀不可能であると信ぜられてゐたマツターホルンを征服した英人エトワード・ウインバーを題材とする小説。

文學 (翻譯小説)

中根 榮	戰線の軍犬クラウ	布 四六判	366	一、五〇	誠文堂	月十	▲戰場に於ける軍用犬クラウの活躍を描いた小説。戦線の軍犬クラウ及び軍用犬に關する實話四篇と犬小品十一篇を収む。
益本 重雄	全何處へ行く	洋装 四六判	865	三、〇〇	太陽堂	月二	▲狂ひて飽くことを知らぬ暴帝ネロよりあらゆる迫害を受けつゝ、尙ほ變りなき希望を持つ基督信者達を描いた宗教小説。
上田 行夫	阿片窟にて	並 四六判	107	二、五	紅玉堂	月五	▲阿片窟にて、洞窟奇譚、レイモントに就いて、ボーランド短篇抄(二つの牧場、彼女の愛外四篇)。
浦 宗 絢	西部戦線異状なし	並 菊半裁	91	二、五	紅玉堂	月二	▲ルマルクの著で、秦豊吉氏が譯して大好評を博した名作「西部戦争異状なし」の荒筋を記述したもの。
上田 行夫 譯	世界短篇小説集	並 四六判	127	二、五	紅玉堂	月四	▲生命の呼聲(クヌート・ハムズン作) 臆脂(フレデリク・カリンレイ作) 亡霊(アントン・ペステラシニコフ作) 外六篇を収む。
シエクスピア作 文藝社編輯部譯	ロメオとジュリエット	上 菊半裁	95	三、〇	文藝社	月三	▲沙翁の名作「ロメオとジュリエット」の梗概。
文藝社編輯部譯	ウオーレン夫人	上 菊半裁	112	三、〇	文藝社	月四	▲シヨウは鋭い智力、皮肉、諷刺で、社會の缺陷を發いた。喜劇の裏にも眞面目な哲學がふくまれてゐる同戯曲の梗概。
文藝社編輯部譯	靈物語	並 菊半裁	64	一、五	文藝社	月三	▲クリスマスの前夜、ドクトルの話、青い部屋、幽霊、説明、わたし自身の話等西洋の怪談五篇。

戯曲・脚本

倉田 百三	恥以上	上 四六判	444	二、〇〇	改造社	月五	▲恥以上(おぎんと琴弾き) 犠牲の二篇の戯曲を収む。
-------	-----	-------	-----	------	-----	----	----------------------------

文學 (戯曲・脚本)

中村 吉藏	戯豫言者日蓮	上 四六判	316	一、五〇	近代社	月六	▲道元と時頼、豫言者日蓮の二篇の戯曲及び道元禪師、弘法大師傳の映畫劇二篇を収めたもの。
眞山 青果	戯曲集江藤新平	並 四六判	385	一、二〇	改造社	月七	▲江藤新平(四幕)、颯風時代(三幕)、血笑記(二幕)等三篇を収む。
山本 有三	嬰兒殺し	布 菊半裁	267	三、〇	改造社	月九	▲嬰兒殺し(一幕)、生命の冠(三幕)、雪、父親、同志の人々(二幕)等五篇を収む。
菊池 寛	戯曲	布 菊半裁	468	一、〇	改造社	月四	▲歌舞伎若衆、藤十郎の戀、時勢は移る、袈裟の良人、小野小町、義民甚兵衛、澤村田之助、仇討世譚外十二篇。
菊池 寛	戯曲	布 菊半裁	525	一、〇	改造社	月五	▲盆裁、暴徒の子、屋上の狂人、貞操、夫婦、時の氏神、相似、時と戀愛、地獄のドン・ファン外十五篇。
武者小路 實篤	愛慾	布 菊半裁	200	二、〇	改造社	月七	▲愛慾(四幕)、ある畫室の主(愛慾後日譚)の二篇の戯曲を収む。
武者小路 實篤	劇五篇	並 四六判	189	四、六	日向堂	月五	▲彼の誕生、牛若丸、信長と秀吉、變な村、運命のたげむれ等五篇の脚本を収む。
岡本 綺堂	綺堂戯曲篇	布 四六判	453	二、三〇	春陽堂	月八	▲天保演劇史、篠原合戦、朝鮮屏風、維新小説、直助權兵衛、長崎の兄弟、湯屋の二階、蛇を賣る女等八篇を収む。
面足 千木	青久清伎所	上 四六判	620	二、五〇	先進社	月十	▲天地之青久清伎所(シナリオ) 挽歌、草火葬列(シナリオ) 天國の神樂役者、ミイラ(狂言) 外六篇。
長谷川 伸	戯曲集疵高倉	布 四六判	521	二、三〇	春陽堂	月五	▲中山七里、雪の宿場街、關の彌太ツベ、ラシツ、疵高倉、編蝠安、險の母、河童又介、飛びツちよ外戯曲四篇。

山本勇夫	舟橋聖一	藤森成吉	村山知義	小島島	金子洋文	落合三郎	落合三郎	大隈俊雄
戯曲日蓮上人	愛慾の一匙	何が彼女をさうさせたか?	最初のヨロツバの旗	ケケルン	部落とし金解禁	筑波秘録	慶安太平記後日譚	戯曲集吼えろ支那
洋西四六判 布入判	並六新 製判四	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判
307	257	160	600	191	212	346	180	334
一、八〇 二、二	五〇 六	四〇 四	一、六〇 八	五〇 四	三〇 四	一、〇〇 六	三〇 四	一、〇〇 六
中央出版社	新潮社	平凡社	改造社	文藝戦線	鹽川書房	鹽川書房	鹽川書房	動世界社
月九	月六	月六	月三	月四	月四	月四	月五	月五
▲發憤、求道、修道、郷、法戦、開宗、法難、受難、蒙難、開立の十幕廿八場より成る戯曲。附日蓮上人年譜。	▲運動場とばらのいあ、魃魅、夜のさんるチカ、白い腕外二篇。硝子管の家、鉛色のペ性な主人公とし、中村、池谷、舟橋、坪田、西村諸氏が各幕を描いた七幕物。	▲六幕七場より成る戯曲「何が彼女をさうさせたか」を収む。一普及版	▲最初のヨロツバの旗(四幕八場)カイセリンと商賣者(三幕)やつぱり奴隷だ(七場)上には上(三幕十場)外十四篇。	▲ケケルンの鐘、怖しき搖籃、夜を通して、戦十日間、吾等街路を埋むる時、地平に現れるもの等戯曲と短篇を収む。	▲家賃値下運動(五場)孫悟空(序篇四場、第一女、部落とし金解禁、悪童短篇集、ある裁判と女、部落とし金解禁。	▲慶安太平記後日譚(四幕八場)勸進帳(一幕)荷車(一幕)地獄の審判(二場)より成る戯曲集。	▲大衆座旗上げ公演の爲めに書き下ろされた「三幕十場より成る筑波秘録」や「都會双曲線」「密偵」等三篇を収む。	▲吼えろ支那(九幕)タルキンの死(三幕四十一幕)パルススキイ(四幕十二場)を収めた三篇の戯曲集。

野邊慎一	渡邊誠	高瀬越	吉地昌一	文藝家協會編	往來社編	喜志邦編
黎明を待つ人々	戯曲東洋風雲史	那須野における乃木將軍	田園の榮光	日本戯曲集	映畫脚本集	映畫脚本集
布四六判 裝入判	布四六判 裝入判	布四六判 裝入判	上四六判 製入判	並四六判 製	並四六判 製	並四六判 製
384	290	186	197	386	251	359
二、〇〇 〇	二、〇〇 三	一、〇〇 三	一、二〇 三	一、五〇 二	一、三〇 八	一、五〇 八
東京旭印刷部	二松堂	高文堂	泰文館	新潮社	往來社	往來社
月七	月六	月一十	月二十	月五	月二	月十
▲農村の苦惱は何によつて來り何によつて癒し得るかを扱つた戯曲集で、納屋、異端の夫婦、下男部屋外六篇。	▲今尚國家の爲に活躍されてゐる犬養毅安達謙蔵頭山滿内田良平氏等の辿れる半生の歴史を描いた戯曲。附録黒牡丹綺録。	▲人間乃木としての那須野に於ける乃木將軍の生活を描ける戯曲で、愛二輝く將軍の村、人間乃木としての教育外五幕。	▲地上の樂園を描いた四幕より成る戯曲。	▲母(文子)幻浦島(富子)點呼(村山)子板額時代(北村)彌太郎源七(久保田)バズリ等脚色本間七郎譯)リオ、リタ(武田忠哉譯)等映畫脚本三篇。	▲作者を探す六人の登場人物(ドイツ篇)ドレエプユウス(同上)アンタルジイの犬(フランス篇)愛國者(アメリカ篇)の四篇。	▲宗教改革から點火された三十年戦争を背景とし、の戯曲「ワレンシユタイン」を収めたもの。解題併載。

文學 (翻譯・戯曲)

大村吉藏	中山光太郎	大關修	大村吉藏	中山光太郎	大關修	和氣律次郎	鈴木善太郎	山本有三	モルナール	鈴木善太郎	和氣律次郎	瀧澤五郎	エレンスト・トラア	黒田禮二	佐々木孝丸	ハルツ	川口浩	ベツ恒彦
イブセン全集 第五卷	死の舞踏	戯曲集 男の流行	争	船員と銘酒屋	どっこいおいらは生きてゐる!	どっこい生きてる!	夜	インタナシヨナル	銀行家が戦場を馳驅する	銀行家が戦場を馳驅する	銀行家が戦場を馳驅する	銀行家が戦場を馳驅する	銀行家が戦場を馳驅する	銀行家が戦場を馳驅する	銀行家が戦場を馳驅する	銀行家が戦場を馳驅する	銀行家が戦場を馳驅する	銀行家が戦場を馳驅する
菊半蔵	菊半蔵	菊半蔵	菊半蔵	菊半蔵	菊半蔵	菊半蔵	菊半蔵	菊半蔵	菊半蔵	菊半蔵	菊半蔵	菊半蔵	菊半蔵	菊半蔵	菊半蔵	菊半蔵	菊半蔵	菊半蔵
505	198	319	150	89	216	210	177	240	180	180	180	180	180	180	180	180	180	180
五〇	二〇	二〇〇	二〇	二五	二〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
改造社	改造社	第一書房	改造社	紅玉堂	改造社	平凡社	平凡社	平凡社	平凡社	平凡社	平凡社	平凡社	平凡社	平凡社	平凡社	平凡社	平凡社	平凡社
月六	月九	月九	月四	月七	月六	月三	月三	月三	月三	月三	月三	月三	月三	月三	月三	月三	月三	月三
▲青年同盟(五幕) 大山廣光譯、社會の柱(四幕) 大關修郎譯、人形の家(三幕) 中村吉藏譯の三篇を収む。	▲二部より成るストリンドベリイの戯曲。	▲男の流行(三幕)、悪魔(三幕)、辻馬車(一幕)の三篇を収む。	▲三幕より成る戯曲。	▲海の感情船員の生活を描破せる「船員と銘酒屋」捕鯨船の二篇の戯曲を収む。	▲一九一八年のドイツ革命後八年の反動期の世相とそこに投げ出された小兒病的な魂の憤激とを主題とする戯曲。	▲五幕よりなるトラアの「どっこい生きてる!」を収めたもの。	▲マルチネの五幕より成る戯曲「夜」を収めたもの。	▲アイスマンの政治喜劇「神々の試験」の五幕の及びハルツの四幕からなる悲喜劇「インタナシヨナル」を収む。	▲銀行家が戦場を馳驅する(ベツヘル作)とミユラ一の戯曲「荷車」を収む。	▲銀行家が戦場を馳驅する(ベツヘル作)とミユラ一の戯曲「荷車」を収む。	▲銀行家が戦場を馳驅する(ベツヘル作)とミユラ一の戯曲「荷車」を収む。	▲銀行家が戦場を馳驅する(ベツヘル作)とミユラ一の戯曲「荷車」を収む。	▲銀行家が戦場を馳驅する(ベツヘル作)とミユラ一の戯曲「荷車」を収む。	▲銀行家が戦場を馳驅する(ベツヘル作)とミユラ一の戯曲「荷車」を収む。	▲銀行家が戦場を馳驅する(ベツヘル作)とミユラ一の戯曲「荷車」を収む。	▲銀行家が戦場を馳驅する(ベツヘル作)とミユラ一の戯曲「荷車」を収む。	▲銀行家が戦場を馳驅する(ベツヘル作)とミユラ一の戯曲「荷車」を収む。	▲銀行家が戦場を馳驅する(ベツヘル作)とミユラ一の戯曲「荷車」を収む。

文學 (演劇)

カ・トレイネ	熊澤復	石川三四郎	千田恒彦	ルナチャルスキー	山内房吉	エレンスト・トラア	佐野クレア	シンクレア	フオーゲル	フオーゲル	フオーゲル	フオーゲル	フオーゲル	フオーゲル	フオーゲル	フオーゲル	フオーゲル	フオーゲル
赤旗の下に	舵を左へ!	悪指導者	解放されたドン・キホーテ	新しき改宗	鼠	誰が一番馬鹿だ?	誰が一番馬鹿だ?	誰が一番馬鹿だ?	誰が一番馬鹿だ?	誰が一番馬鹿だ?	誰が一番馬鹿だ?	誰が一番馬鹿だ?	誰が一番馬鹿だ?	誰が一番馬鹿だ?	誰が一番馬鹿だ?	誰が一番馬鹿だ?	誰が一番馬鹿だ?	誰が一番馬鹿だ?
四六判	四六判	菊半蔵	菊半蔵	菊半蔵	菊半蔵	菊半蔵	菊半蔵	菊半蔵	菊半蔵	菊半蔵	菊半蔵	菊半蔵	菊半蔵	菊半蔵	菊半蔵	菊半蔵	菊半蔵	菊半蔵
179	427	171	153	170	153	141	118	174	174	174	174	174	174	174	174	174	174	174
七〇	一三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
黎明社	衆人社	金星堂	金星堂	金星堂	金星堂	金星堂	金星堂	金星堂	金星堂	金星堂	金星堂	金星堂	金星堂	金星堂	金星堂	金星堂	金星堂	金星堂
月二	月七	月四	月四	月四	月四	月四	月四	月四	月四	月四	月四	月四	月四	月四	月四	月四	月四	月四
▲五幕より成る戯曲。原名「リュホーフィ・ヤロワー」。	▲一般労働者を題材とする「舵を左へ!」(四幕十六場)及び「暴風」(四幕十二場)「左側の月」(四幕十一場)の戯曲を収む。	▲佛國近代の文豪オクタヴ・ミルボオが名女優マダム・サラ・ベルナールに書き卸した五幕より成るドラマ「悪指導者」を収む。大衆版。	▲十場より成るルナチャルスキーの「解放されたドン・キホーテ」を収む。大衆版。	▲ステブニツクの四幕より成る戯曲「新しき改宗」及びゴルキーの評論「トルストイ論」を収めたもの。	▲イレツキの四幕五場より成る戯曲「鼠」及び「ハアゲン」の五幕のプリンス・ハアゲンを収む。大衆版。	▲ケベツクにあるザエラント・イスマンの天幕より始まるシンクレアの五幕のプリンス・ハアゲンを収む。大衆版。	▲イレツキの四幕五場より成る戯曲「鼠」及び「ハアゲン」の五幕のプリンス・ハアゲンを収む。大衆版。	▲イレツキの四幕五場より成る戯曲「鼠」及び「ハアゲン」の五幕のプリンス・ハアゲンを収む。大衆版。	▲イレツキの四幕五場より成る戯曲「鼠」及び「ハアゲン」の五幕のプリンス・ハアゲンを収む。大衆版。	▲イレツキの四幕五場より成る戯曲「鼠」及び「ハアゲン」の五幕のプリンス・ハアゲンを収む。大衆版。	▲イレツキの四幕五場より成る戯曲「鼠」及び「ハアゲン」の五幕のプリンス・ハアゲンを収む。大衆版。	▲イレツキの四幕五場より成る戯曲「鼠」及び「ハアゲン」の五幕のプリンス・ハアゲンを収む。大衆版。	▲イレツキの四幕五場より成る戯曲「鼠」及び「ハアゲン」の五幕のプリンス・ハアゲンを収む。大衆版。	▲イレツキの四幕五場より成る戯曲「鼠」及び「ハアゲン」の五幕のプリンス・ハアゲンを収む。大衆版。	▲イレツキの四幕五場より成る戯曲「鼠」及び「ハアゲン」の五幕のプリンス・ハアゲンを収む。大衆版。	▲イレツキの四幕五場より成る戯曲「鼠」及び「ハアゲン」の五幕のプリンス・ハアゲンを収む。大衆版。	▲イレツキの四幕五場より成る戯曲「鼠」及び「ハアゲン」の五幕のプリンス・ハアゲンを収む。大衆版。	▲イレツキの四幕五場より成る戯曲「鼠」及び「ハアゲン」の五幕のプリンス・ハアゲンを収む。大衆版。

岸田劉生	朝日新聞社編	高橋健良二吉	村山知義	石割松太郎	三宅周太郎	吉田謙吉	山本勝太郎	伊原青々園	水木京太
演劇美論	演劇よ何處へ行く	現代演劇論	日本プロレタリア演劇論	人形芝居雜話	文樂之研究	舞臺裝置者の手帳	劇評と隨筆	歌舞伎通	新劇通
布面四六判 裝入判	並四六判 製	並六新 製判四	並六新 製判四	上四六判 製入判	布面菊 裝入判	布面四六 裝入判	布面四六 裝入判	並四六判 製	並四六判 製
258	95	164	150	396	390	151	440	122	128
二〇〇 二二〇	二〇〇	五〇 六〇	五〇 四〇	二五〇 二二〇	三八〇 一八〇	三五〇 一八〇	二八〇 二二〇	七〇 六〇	七〇 八〇
刀江書院	朝日新聞社	天人社	天人社	春陽堂	春陽堂	四六書院	實文館	四六書院	四六書院
月四	月一十	月一十	月一十	月五	月十	月十	月六	月二十	月一
▲舊劇美論(舊劇とは、劇の本質的要素外四篇)觀劇所感(舊劇美の世界へ、京都南座六月狂言所感外七篇)にて述ぶ。	▲昭和五年十月廿八日の演劇講演會に於ける土方與志、中村吉藏、守田勘彌、長谷川如是閑四氏の講演速記を収む。	▲ソグエイト演劇の概観(杉本良吉)現代獨逸演劇論(高橋健二)の二篇を収む。	▲プロレタリア演劇の問題、演劇とメカニズム、九代目市川團十郎、太陽のない街の演出者として外六篇。	▲人形芝居の研究、人形芝居の博物館的保存としての近松の浄るり外十七篇。	▲文樂人形淨瑠璃を研究詳述した書で、文樂物語及び文樂人形物語、批評研究隨筆紹介の二部より成る。	▲舞臺裝置者の手帳、舞臺裝置覺え書、舞臺裝置論その他の三篇にて舞臺裝置者としての吉田氏の記録を収む。圖版四十九葉。	▲四谷怪談考、紙人形繪芝居、社會劇の上演に就て、食道樂と芝居道樂、江戸っ子と下町娘外隨筆十二篇。	▲歌舞伎とはどういふものでどういふ種類を伎とは何んなものか外十一篇。	▲從來の演劇に對してその根本の相違を明らかにせしめるもので、新劇と舊劇、新劇の内容、新劇と女性外八篇。

濱川尻清藏	波多野乾一	外山卯三郎	坪内博士記念演劇博物館編	水谷幻花	尾上梅幸	武田正憲	森律子	川口松太郎	小林鶯里
俳優通	支那劇五百番	舞臺藝術論	良田中舞臺裝置圖集	演藝風聞錄	梅の下風	諸國女ばなし	女優生活廿年	行先端なくレグユー	劇と映畫の話
並四六判 製	並菊製判	背函菊布入判	並判四六倍 製	上四六判 製入判	上四六判 製入判	上四六判 製入判	布判新四六 裝入判	並三五判 製	並四六判 製
154	734	320	48	306	715	315	320	118	100
七〇 六〇	三〇〇 二二〇	二五〇 一八〇	一〇〇 八〇	二五〇 二二〇	三〇〇 二二〇	一三〇 一〇〇	二〇〇 一〇〇	一〇〇 二〇	四〇 四〇
四六書院	支那問題社	建設社	國劇向上會	朝日新聞社	法木書店	鹽川書房	日實業社	誠文堂	文藝社
月九	月二	月二十	月二十	月二	月一十	月四	月五	月九	月五
▲俳優の生活、今日の俳優、日本俳優史、明日の俳優の四篇二八項にて劇通の兩氏が述べたもの。	▲太古、夏、殷、秦、三國、五代、宋、元、明、清、民國、年代不明の諸劇其他六章に互つて支那劇を詳述せるもの。増訂版。	▲演劇總論、俳優の問題、人形劇の問題、舞臺藝術の綜合性、モノドラマの研究、舞臺化の問題外三篇。モノドラマの研究、舞臺化の問題外三篇。	▲田中良畫伯の約十五年間に互る作品を収め懇切なる説明文を附せるもの。	▲明治後期の劇界藝界の裏面史で、小園の人道、浪花節、羽左衛門の清心、樂屋の取締の駄目、梅幸驚く外六百廿四篇。	▲尾上梅幸氏の藝談を収めたもので、仕初式新春の吉例、物狂ひ外九十七篇及び松田青風氏の寫生圖を附載。	▲坪内博士主宰文藝協會出身の俳優武田氏が女優其他多くの女性に關する實話を素少破ぬいた新劇壇の裏面物語。附録四篇。	▲舞臺生活のさまじいと思ひ出を述べたもの、女優を志して、ロンドン便り、役々の思ひ出、故人の面影外十篇。	▲レグユーとは何んなものか、巴里のレグユー、レグユーの踊り子、日本レグユーの誕生、レグユーと映畫外四篇。	▲劇と映畫について常識的に述べたもの。劇の方ば歴史をも述べ採芝居までも述べてゐる。

映畫

森 岩 雄	岩 崎 昶	岩 崎 昶	往 來 社 編	立 花 高 四 郎	古 川 綠 波	佐 々 木 能 理 男 著	佐 々 木 能 理 男 著	飯 島 正 男
映畫藝術	映畫藝術史	映畫藝術史	映畫科學研究 第六輯	映畫通	映畫のABC	映畫監督と映畫脚本論	現代映畫藝術論	前衛映畫藝術論
洋布 三六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 三五判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判
184	248	248	254	176	122	293	156	144
五〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	七〇	一〇〇	一〇〇	五〇	五〇
春秋社	藝文書院	世界社	往來社	四六書院	誠文堂	往來社	天人社	天人社
月二十	月二	月七	月十	月一	月九	月二	月七	月七
▲活動寫眞の誕生より現在の有音映畫形態と今日の映畫の二部。	▲映畫藝術史、映畫美學以前、映畫的展望、トキキに就いて、映畫藝術とモンタージュ等論文五篇。	▲映畫藝術史、映畫美學以前、映畫的展望、トキキに就いて、映畫藝術とモンタージュ等五篇。 普及版	▲映畫科學大系の構成―田中三郎、映畫製作に於ける技師の仕事に就いて―峰尾芳男、映畫脚本の話―村田實外十二篇。	▲映畫の鑑賞要領や映畫の社會性其他に就いて詳述するもの、特種映畫概観其他三篇。附録檢閲申請注意事項外一章。	▲キネマの歴史、製作、宣傳、スターの素情や生活の昔話外八篇。	▲映畫製作の常識を記述せるもので、映畫脚本論(佐々木能理男著)の三章、映畫監督論(映畫村料の特性外四章)。	▲アメリカ映畫論(岩崎)、ドイツ映畫一九三〇年(武田)、フランス映畫のパノラマ(飯島)露西亞映畫の特質(袋)。	▲藝術的前衛と見做される映畫に關する現象論(佐々木能理男著)の三章、映畫藝術論(飯島)。

新 興 映 畫 社 編	新 興 映 畫 社 編	W・ノシツエンベルグ著 薄 島 研 之 譯	吉 井 虹 二 譯	石 卷 良 夫、山 内 光 森、清 水 光 岩、森 崎 雄 譯	森 岩 雄	立 花 高 四 郎	角 倉 則 二	山 村 笑 男	北 尾 錄 之 助
プロレタリア映畫運動の展望	プロレタリア映畫運動理論	プロレタリア映畫基礎理論	ロシヤ革命映畫	トキキ論	トキキ論	トキキ論	トキキ論	發音映畫入門	小型映畫の研究
並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判
361	143	180	113	142	215	163	87	479	477
一、三〇	五〇	八〇	一、二〇	五〇	一、五〇	七〇	一〇〇	二、〇〇	三、五〇
大風閣	天人社	共生閣	白鳳社	天人社	映畫知識社	四六書院	三省堂	往來社	創元社
月七	月一十	月二十	月四	月八	月二十	月六	月二	月一十	月四
▲プロレタリア映畫論、プロレタリア映畫運動の歴史(北川鐵夫)巨論、プロレタリア映畫の國外情勢の三篇に亘つて佐々木元十九氏の論説を収む。	▲プロレタリア映畫運動の歴史(北川鐵夫)制度との闘争(瀧田出)外六篇。	▲プロレタリア映畫の製作と上巻(薄島研之)の二篇。	▲ロシヤ革命映畫(ルナチャルスキー)寫眞に就いて(レナ・ヒルシュ)ロシヤ革命映畫小論の三篇及映畫説明七十四圖。	▲發聲映畫企業の大勢―石卷良夫、ソヴェト同盟に於けるトキキ論―山内光、日本映畫轉變録―森岩雄外二篇。	▲パルマア無聲映畫脚本組立法、有音映畫脚本組立法、映畫脚本に必要な映畫技巧の知識外一部、附録シナリオ用語辭典。	▲トキキの全般に互つて述べたもので、トキキの撮影監督外廿一章。	▲發聲活動寫眞に就いて簡単に説述した小冊子。	▲發音映畫論、發音映畫製作界の現状、光と電氣に關する若干の知識、擴音器其他に於て編述す。	▲目下非常な勢ひで進歩改良されつゝある小型映畫に關する研究で、小型撮影機の種類外廿九章及びシナリオ十篇。

上 山 草 人	尾 崎 士 郎	鈴 木 傳 明	酒 井 眞 人	葛 飾 莊 主 人	根 岸 耕 一	歸 山 教 正	高 田 稔	夏 川 靜 江	朝 日 新 聞 社 編
素顏のハリウッド	チャップリン	映畫王チャップリン —その小傳と旅行記—	映寫幕上の獨裁者	映畫界ローマンス	映畫界の横顔	小説の撮影と映寫	映畫俳優になるまで	映畫女優になるには	日本映畫年鑑 —昭和四年・五年版—
並四六判 製入判	並四六判 製	並四六判 製	並四六判 製	並四六判 製	並四六判 製	並三五判 製	並三五判 製	並三五判 製	並四六判 製
258	338	360	328	235	307	129	110	114	164
一、五〇 三	一、五〇 八	一、二〇 八	八〇	一、二〇 三	一、五〇 三	一〇	一〇	一〇	一、五〇 三
日實 本業 社之	啓 明 社	日 實 本 業 社之	中 央 公 論 社	平 凡 社	超 人 社	誠 文 堂	誠 文 堂	誠 文 堂	朝 日 新 聞 社
月七	月四	月五	月三	月四	月九	月十	月二十	月二十	月四
▲草人氏、米十數年の映畫界生活のさまじく、 畫の特異、行外甘篇。附録二篇。 ▲映畫の名優チャップリンの人と藝術を記述 した書で、藝術論外五章及びチャップリンの 手記「わが外遊記」を収む。 ▲チャップリンの旅の二部。 ▲つて書かれた旅行記の全譯で、彼のりれき 書、歐洲への旅の二部。 ▲スクリーンを慕ふ、映畫の金剛山、海外女 優美代々記、動く虎、映寫幕上の獨裁者、 チャップリン・チャップリン外七十四篇。 ▲梅村蓉子、八雲惠美子、英百合子、松井千 枝子、歌川八重子、筑波雪子、マキノ智子其 他映畫界のローマンスを描けるもの。 ▲映畫界に於ける根岸氏の生活記録で、世界 を走るトキイ、投資事業としての活動寫眞 映畫の使命外四十二篇。 ▲十六ミリ及び九・五ミリ映畫の實用的撮影 法と働き以下九章。 ▲僕の履歴書、映畫俳優の資格、映畫俳優に なる準備、映畫俳優になる経路、映畫俳優の 生活其他。 ▲映畫女優を指して進まれる人々の手引書 で、映畫女優になるには、映畫女優の本當の 姿其他。 ▲昭和三・四年度内に於ける内外優秀映畫の 場面及び解説、内外人氣スマー、其他の寫眞 及び記事を見録せるもの。 ▲日本映畫界概観、日本映畫事業統計、世界 映畫界概観、内外映畫事業興信録、内外映畫 事業便覽外一篇。									

本間久雄著

文學概論 二十六版

定價三・二〇 送料一八 東京堂

内外映畫事業
調査研究所編
日本映畫事業總覽
—昭和五年版—
洋四編
布入判
773
六〇〇
三四
國際映畫
通信社
月七

國漢文參考書

著者	書名	形態	頁數	定價	發行所	月行致	内容大意
小林好日 文壇士	國語學概論	洋装 布入判	353	三、二〇 一八	萬上閣	月六	▲言語と文字、國語の系統、國語の音韻、國語の語彙、國語の文法、國語の文構成、方言と標準語、國語の時代外六章にて論述。索引。
松下大三郎 國學院大學教授	改撰標準日本文法	洋装 布入判	814	六、五〇 三〇	中文館	月四	▲日本文法の体系的な研究で、原辭論(原辭の性質及び分類外三章)詞の本性論(詞の大別外一章)其他四篇より成る。
松下大三郎 國學院大學教授	標準日本口語法	洋装 布入判	444	三、五〇 一八	中文館	月二	▲我が標準口語の正しい相を科學的に考察せしむるの爲め、詞の種類、原辭の種類、活用、動助辭外四章。
松下大三郎 國學院大學教授	標準漢文法	洋装 布入判	849	六、五〇 二四	中文館	月四	▲論語孟子春秋左氏傳史記列傳老子莊子韓非子禮記大學唐宋八家文唐詩選其他より例證を引用して論述せるもの。
岡澤鉦治 第二高等學校教授	言語學的日本文典	布装 布入判	389	三、五〇 一八	教育研究會	月四	▲著者独自の研究による日本文典の講義。高尚にして實用的なことを本書の特色とする。

五、語學

國語學・文法

東京東區一丁目五番五
電話九三三三
振替東京六四二二
三三三四

第一書房

長書の刊行
美觀の装
圖書目錄呈

著者	書名	形態	頁數	定價	發行所	月行致	内容大意
土田杏村	人生論	洋装 布入判	100	一、〇〇	堀口大學詩集	月六	▲言語と文字、國語の系統、國語の音韻、國語の語彙、國語の文法、國語の文構成、方言と標準語、國語の時代外六章にて論述。索引。
土田杏村	文學論	洋装 布入判	100	一、〇〇	詩月下の一群	月四	▲日本文法の体系的な研究で、原辭論(原辭の性質及び分類外三章)詞の本性論(詞の大別外一章)其他四篇より成る。
土田杏村	戀愛論	洋装 布入判	100	一、〇〇	詩青白赤	月二	▲我が標準口語の正しい相を科學的に考察せしむるの爲め、詞の種類、原辭の種類、活用、動助辭外四章。
土田杏村	現代思想研究	洋装 布入判	100	一、〇〇	グウルモン詩抄	月四	▲論語孟子春秋左氏傳史記列傳老子莊子韓非子禮記大學唐宋八家文唐詩選其他より例證を引用して論述せるもの。
土田杏村	マルキシズム批判	洋装 布入判	100	一、〇〇	ジャム詩抄	月四	▲著者独自の研究による日本文典の講義。高尚にして實用的なことを本書の特色とする。
土田杏村	現代哲學概論	洋装 布入判	100	一、〇〇	コクトオ詩抄	月四	
土田杏村	隨筆煙心境	洋装 布入判	100	一、〇〇	歌男ごころ	月四	
土田杏村	生產經濟學より 信用經濟學へ	洋装 布入判	100	一、〇〇	グウル 沙上の足跡	月四	
土田杏村	失業問題と景氣恢復	洋装 布入判	100	一、〇〇	集男	月四	
土田杏村	上代の歌謡	洋装 布入判	100	一、〇〇	グウル 詩人のナブキン	月四	
土田杏村	哲學講話	洋装 布入判	100	一、〇〇	曲オルフエ	月四	
土田杏村	現今の哲學問題	洋装 布入判	100	一、〇〇	曲芝居は眺向き	月四	
土田杏村	隨筆淺人零語	洋装 布入判	100	一、〇〇	曲男の流行	月四	
土田杏村	萩原朔太郎詩集	洋装 布入判	100	一、〇〇	說小町のをんな	月四	
土田杏村	詩の原理	洋装 布入判	100	一、〇〇	上田敏著 上田敏詩集	月四	
土田杏村	虚妄の正義	洋装 布入判	100	一、〇〇	木下著 木下太太郎詩集	月四	
土田杏村		洋装 布入判	100	一、〇〇	室生著 室生犀星詩集	月四	
土田杏村		洋装 布入判	100	一、〇〇	譯郎太善木鈴	月四	
土田杏村		洋装 布入判	100	一、〇〇	大田	月四	
土田杏村		洋装 布入判	100	一、〇〇	青大	月四	
土田杏村		洋装 布入判	100	一、〇〇	國岸	月四	
土田杏村		洋装 布入判	100	一、〇〇	貞野	月四	
土田杏村		洋装 布入判	100	一、〇〇	草野	月四	
土田杏村		洋装 布入判	100	一、〇〇	松岡護著	月四	
土田杏村		洋装 布入判	100	一、〇〇	九萬一著	月四	
土田杏村		洋装 布入判	100	一、〇〇	堀口著	月四	
土田杏村		洋装 布入判	100	一、〇〇	封山	月四	
土田杏村		洋装 布入判	100	一、〇〇	山内	月四	
土田杏村		洋装 布入判	100	一、〇〇	矢野	月四	
土田杏村		洋装 布入判	100	一、〇〇	辰野	月四	
土田杏村		洋装 布入判	100	一、〇〇	外三郎	月四	
土田杏村		洋装 布入判	100	一、〇〇	金田	月四	
土田杏村		洋装 布入判	100	一、〇〇	吉邊	月四	
土田杏村		洋装 布入判	100	一、〇〇	渡邊	月四	
土田杏村		洋装 布入判	100	一、〇〇	治著	月四	
土田杏村		洋装 布入判	100	一、〇〇	現代美學思潮	月四	
土田杏村		洋装 布入判	100	一、〇〇	藝術論	月四	
土田杏村		洋装 布入判	100	一、〇〇	詩學概論	月四	
土田杏村		洋装 布入判	100	一、〇〇	ホオドレエル研究	月四	
土田杏村		洋装 布入判	100	一、〇〇	露西亞革命の	月四	
土田杏村		洋装 布入判	100	一、〇〇	日中出現	月四	
土田杏村		洋装 布入判	100	一、〇〇	遊心錄	月四	
土田杏村		洋装 布入判	100	一、〇〇	エビキユウルの團	月四	
土田杏村		洋装 布入判	100	一、〇〇	葡萄畑の葡萄作り	月四	
土田杏村		洋装 布入判	100	一、〇〇	魚傳集	月四	
土田杏村		洋装 布入判	100	一、〇〇	歌劇大觀	月四	
土田杏村		洋装 布入判	100	一、〇〇	洋樂夜話	月四	
土田杏村		洋装 布入判	100	一、〇〇	音樂藝術史	月四	
土田杏村		洋装 布入判	100	一、〇〇	現代音樂概觀	月四	
土田杏村		洋装 布入判	100	一、〇〇	今日の音樂家	月四	

(5-2)

田中健三	石田吉貞	德木正俊	平野太一	臺北第一中學校編	平野太一	阪倉篤太郎	吉田辰次	石田吉貞	村上才太郎
國語國文法の理論と演習	國文法のコツ	國文法基礎的詳解	新國文法表解	國定口語假名遣文法	新式國文法表解	國文法講義	國文法講義	國文解き方のコツ	國文解釋のコツ
布四六判	革三五判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	並四六判	革三六判	並三六判
380	300	124	93	140	93	100	160	562	131
一、八〇〇	一、〇〇〇	四〇〇	六〇〇	七〇〇	六〇〇	三、五〇〇	五〇〇	一、八〇〇	四〇〇
立命館大學出版部	萬里閣	芳文堂	東興社	新高堂	東興社	日協本會	慶文堂	萬里閣	芳文堂
十一月	五月	四月	十月	十月	十月	十月	十月	三月	九月
▲演習題を多く収めて國語國文法の理論を説く。附録文部省検定試験問題類別其他。	▲練習を多く取り入れて國文法を説いたもの。句と節外廿四章。	▲國文法上の基礎となる要項を網羅し、これに懇切なる解説を施せるもので、文字編、單語編、文章編の三篇。	▲中等程度に於ける諸學校の國文法科學習の品詞各論外三篇。	▲臺北第一中學校國漢部が現に採りつゝある國文法教授の形式的取扱と假名遣の經驗の結果を記録したもの。	▲國文法の複雑多岐な事項を整理して直截簡明な圖表に組織す。附表五。	▲文語を主とし口語を從として單語篇の要點をのみ解説せるもの。	▲受験準備の爲に日本文典を編み、併せて最近の入試問題につき説明を與へたもので、卷末に用語便覧あり。	▲受験的解釋のコツをつかませるやう總説篇(國文解釋の基礎外二篇)解釋篇(鈴屋集外十四篇)練習篇等にて説述す。	▲國文解釋の研究方法を巻頭に掲げて説明にし國文解釋のコツ篇に於て京極殿外八十四篇に解説を施せるもの。

(5-3)

湯地孝	鳥田退藏	岡田稔	山田兼勇	吉田辰次	小林操	佐々木嘉竹	橋宗利	千代延尙壽	田中榮一郎
最新現代文の解釋	現代文選譯	現代文解釋	現代文解釋の力	受験要點の根	國文解釋根柢要語精解	各種國文の解釋	國文重要單語及文例精解	最新簡明國文解釋	國文新釋法
洋布	並四六判	並四六判	洋三六判	並菊半裁	並三六判	洋四六判	並四六判	洋新六判	洋三六判
380	100	159	216	154	197	600	165	306	612
一、三〇〇	三、五〇〇	三、八〇〇	一、三〇〇	五〇〇	六〇〇	一、八〇〇	四〇〇	一、〇〇〇	一、六〇〇
山海部堂	日協本會	正名古屋文館	大望書院	慶文堂	文藝社	光文堂	昇龍堂	健文社	大修館
三月	二月	十月	八月	二月	八月	四月	十一月	十月	十月
▲先づ現代文に對する態度を解明し、解釋の方法を説き、一々實例によりて説述したるもの。	▲幸田露伴、樋口一葉、高山樗牛、藤岡作太郎、坪内逍遙、馬場孤蝶等々、現代模範文の大意、語釋、注意等を附す。	▲受験準備と自學自習を目的として、現代文の要點を解説したるもの。	▲國語力の乏しい人や獨學者の爲に懇切に説けるもので、序説篇、解釋の根柢篇、逐字的解釋篇其他。	▲國語の根柢となる語を集めて、例解したるもの。	▲現代文の粹を蒐め、現代文解釋を指導せるもの。	▲國語の根柢となる語を集めて、例解したるもの。	▲國語の根柢となる語を集めて、例解したるもの。	▲國語の根柢となる語を集めて、例解したるもの。	▲國語の根柢となる語を集めて、例解したるもの。

語學 (國漢文參考書)

慶文堂編輯部	三高教授 阪倉篤太郎	吉田苑三	福永亨吉	石川誠	淺尾芳之助	伊坂出版部編	受驗國漢研究会編	佐藤正範
昭和五年年度講義校 入學試験問題分類集	高受驗講義 國文と漢文	受驗用ボケット要覽 國語及漢文	試論誤り易き漢字の見分け方	複文作漢文典概説	公式漢文のあたまたま	高等學校國語漢文入學 試験問題集	全國高等學校國語漢文入學 試験問題集	高等專門學校國語漢文入學 試験問題解答
並製 四六判	並製 菊判	並製 抽珍	洋布 三五判	洋布 菊判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 三六判
168	180	116	63	128	197	200	116	170
四五	八〇	二五	三五	一八〇	四五	二〇	三〇	五五
慶文堂	青甲社	慶文堂	有精堂	大同館	有精堂	伊坂出版部	昇龍堂	週シグナル社
月九	月十	月九	月五	月五	月一十	月四	月五	月六
▲入試問題を國語、國文法書取漢文作文に分 類編纂せるもの。	▲三十五時間の講義録で、國文法要項、國文 解(本文、讀方、解釋、文法)等。	▲國文及び漢文の重要な單語約四千を選び之 に解釋を施せるもの。	▲普通慣用の文字中から最も誤り易き順字約 七百字を選んで簡易に異同を辨別し五十音順 に排列す。	▲文檢國語科漢文科受驗者の爲めに漢文典を 解支那の修辭論、品詞論、文章論の二篇。附 録。	▲主として漢文の句法修飾法、白文訓讀法等に 就て述べたもので、一般公式、特殊公式、修 辭法による公式外六篇。	▲高校、専校の國語漢文科入學試験問題を集 めて、研究して便なるやう國語、漢文、文法、 作文と分類して收む。	▲國語の部、漢文の部に分け、東京商科豫科 以下全國高等學校專門學校入學試験問題を採 録せるもの。	▲昭和五年年度施行の高等專門學校國語漢文 科入學試験問題に解答を施して採録せるもの。

國漢文解釋

語學 (國漢文解釋)

海野昌平	高木義雄	村上才太郎	村上才太郎	村上才太郎	村上才太郎	村上才太郎	村上才太郎	德本正俊	村上才太郎	村上才太郎	三兼大石	德本正俊
受驗用平家物語選講	受驗用増鏡選講	詳解徒然草	詳解太平記	詳解方丈記	詳解平家物語	詳解神皇正統記	詳解玉勝間	詳解十六夜日記				
上製 四六判	上製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判				
153	162	106	171	125	105	112	10	125				
七〇	七〇	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五				
先進堂	先進堂	芳文堂	芳文堂	芳文堂	芳文堂	芳文堂	芳文堂	芳文堂				
月二十	月二十	月一十	月一十	月二十	月一十	月一十	月二十	月二十				
▲平家一門奇運命の跡を叙した平家物語 を講義せるもので、祇園精舎の事、殿上の間 討の外十三篇。	▲後鳥羽天皇の即位に筆起をせし後醍醐天皇の 還幸に至る迄の十五代百五十一一年間の歴史物 語たる増鏡を講義せるもの。	▲中等學校國語教科書に採用されてある材料 及び増鏡として有名な箇所を殆ど網羅して解 釋を施せるもの。	▲徒然草二百四十三段中各種の教科書に採ら れてある材料、入學試験問題及び徒然草とし て名高い文を一つづつ解釋せるもの。	▲太平記四十卷中、中等學校國語教科書に 採用されてあるもの、及太平記として有名なも のを摘録して解釋を施す。	▲輕妙な文章として古來廣く愛讀されてある 方丈記一編を詳解せるもので、行く川の流、 安元の大火外十四篇。	▲平家物語としての立場からその特長あるも のを掲げて新釋、語解を施せるもの。	▲神皇正統記六卷中より採録して新釋と語解 を施せるもので、國號、神武の東征、義朝の 不孝外卅一篇。	▲徳川時代の國學者本居宣長の隨筆を蒐録し た「玉かつま」を語釋及通解したもの。	▲有名なる日記文學「土佐日記」と「十六夜 日記」とに註解と口譯を加へたもの。			

(5-6)

藤野重次郎	松田好夫	高崎正秀	有馬賢頼	岡田稔	市橋鐸	立松爲一	原田貞江	木村俊逸	中等文科學會編
詳花月文草集紙	萬葉集新釋	伊勢物語新釋	近松世話物新釋	雨月物語新釋	川柳新釋	解	折たく柴の木の解	東西遊記	受驗 徒然草要義
並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判
150	204	174	186	146	205	146	94	122	182
三五	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	三六	三六	三八	五〇
芳文堂	正文館	正文館	正文館	正文館	正文館	正文館	正文館	正文館	光世館
月二十	月二	月五	月八	月六	月七	月七	月一	月二	月一
▲松平定信の花月草紙より卅六章、中島廣足の樞國文集より卅一章を選び通解及び語解を施したるもの。	▲萬葉集を解釋せるもの。	▲伊勢物語を解釋せるもの。	▲近松世話物を解釋せるもの。	▲雨月物語を解釋せるもの。	▲古今の名川柳に解釋を施したるもの。	▲樞國文集、閑田文草、松の落葉等を解釋せる受驗參考書。	▲受驗生の爲に藩翰譜、折たく柴の木の要點急所を詳細に解釋せるもの。	▲受驗準備と自學自習を目的として、東西遊記及常山記談を解釋せるもの。	▲出題傾向の新研究を目的として徒然草を解釋せるもの。

(5-7)

中等文科學會編	中等文科學會編	飯倉篤太郎編	藤崎山之助	澤田總清	鳥田鈞一校訂	村上龍英	村上才太郎	村上龍英	村上龍英
受驗 玉勝間・花月雙紙要義	受驗 樞國文集・琴後集要義	新主義十五時間參考書 江戶名家文選釋	近世四名家國文詳釋	全論語詳解	集論語講本	論語	詳解論語	論語	孟 子 鈔
並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判
162	162	100	410	451	236	74	128	74	114
五〇	五〇	三五	一〇〇	一、五〇	一、二〇	五〇	三五	五〇	七〇
光世館	光世館	日協本會學	伊坂出版部	健文社	有精堂	廣文堂	芳文堂	廣文堂	廣文堂
月一	月一	月二十	月一	月三	月三	月一	月二十	月一	月一
▲出題傾向の新研究を目的として、玉勝間、花月雙紙に詳細なる註釋を施したるもの。	▲樞國文集及琴後集に詳細なる解釋を施したるもの。	▲松屋文集、琴後集、梅園叢集、花月草紙、大鏡、宇治拾遺物語、傷心譜等の通譯、語譯、註釋注意等を附す。	▲玉かつま、鈴屋集、閑田掛筆の語釋、通譯、文法、註釋、注意等を附す。	▲本居宣長の玉勝間、村田春海の琴後集、松平樂翁の花月草紙、中島廣足の樞國文集、中より精粹百篇を選び詳註口譯を施す。	▲學而第一より堯曰第二十迄を古註に泥まず新註に傾かず、諸家の説を參照し採棄して解説せるもの。	▲卷之一、學而第一、爲政第二より卷之十、子張第十九、堯曰第二十迄を収めたもの。	▲論語中百四十七章を厳選して校訂し且難語句に適切な註釋を加へたものである。	▲論語五百章中最も重要なものを選定して解釋を施せるもので、學而第一より堯曰第二十迄まで。	▲孟子百章を厳選して校訂し難語句に註解を施したものである。

語學 (式辭・演説)

小林 登里	小林 登里	青柳 邦彦	兵書研究會編	青柳 邦彦	大日本雄辯會編	大日本雄辯會編	大日本雄辯會編	日本雄辯研究會編	
小品文精選	新しい日記文	昭和書翰文	入替から除隊まで軍人の手紙	應用 附ペン手紙の書方	式辭 十分間演説集	現代青年雄辯集	模範名士大演説集	模範名士大演説集	
並四六判	並四六判	並四六判	布三五判	並四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	袖珍製	
162	174	390	176	304	460	342	282	282	
六〇	六〇	六五	四〇	九〇	一八〇	一五〇	五〇	五〇	
文藝社	文藝社	三輪書店	三輪書店	松榮堂	講談社	講談社	昭文館	昭文館	
月一	月一十	月九	月二十	月二十	月十	月九	月五	月五	
▲文話篇に小品文の語を書き、鑑賞篇には数篇を取つて批評を下し、文範篇には春夏秋冬、雑、人事等に分け多面より取材す。	▲文話篇に於ては、日記文に關する種々の文話を述べ、文範篇には毎月、現代の名士の日記文を掲ぐ。	▲入替から除隊までの軍人の手紙の種々な書體裁例を示せるもので、書翰の要諦、書翰の體裁其他。	▲内容を十七部門に分ちあらゆる候文を網羅したもので、加ふるに、同意味にして異つた語句を配列した。	▲凡て口語體を以て記述したもので前編は作りの常識を述べ後篇は實際文を掲ぐ。	▲祝賀會にて、結婚式にて、歡迎會の席上に、送別會にて、就任の挨拶、落成披露の席上にて其他の範例を收む。	▲學生青年朝員學校教員其他新進青年諸君の演説集で、偉人出でよ！非尻末男、辯舌の力、杉浦西太郎外八十二篇。	▲演説は眞の意氣でやる(永井柳太郎)雄辯家たらんとするには(鶴見祐輔)生活難が替譯難か(太田正孝)外廿二篇。	▲祝文式辭の作り方、送方、祝文式辭の類別講話、挨拶の仕方、座談應對法、演説に就ての講話、五分間演説の心得外作例。	▲衆人の面前で満足に演説や挨拶の出来るやう、その要領を繰込んだもの。

語學 (習字・速記)

高山 溪陽書	羽室 樟園書	後閑 菊野	加藤 樂山書	中村 春堂	雄辯同志會	苦米地 貢	雄辯研究會編	雄辯研究會編
習字 白菊	女子の手紙	女子の手紙	毛筆 三體千字文	手紙の書方	卓上の挨拶と式辭演説	テンプル・スピーチ	五分間席上演説	模範式辭挨拶演説
並四六判	和蘭菊綴入判	和蘭菊綴入判	上三六判	並信菊綴入判	並三五判	並三五判	上四六判	上四六判
80枚	112	132	252	126	266	105	294	240
一、二〇〇	二、五〇〇	二、三〇〇	一、二〇〇	二、〇〇〇	三〇〇	二〇〇	四〇〇	九〇〇
先進堂	先進堂	三成社	文書堂	雄山閣	いろは書房	誠文堂	文陽堂	松榮堂
月三	月七	月四	月二十	月二	月二	月一十	月二十	月一十
▲九條武子夫人の書簡集をペン字にて認めた罪のなげき外廿五篇。	▲故九條武子夫人の歌文を資料として大體の和歌文章の書式やその書方の一般を認めたもの。	▲新年の文、入學の手紙を問合はす、旅より友に、病氣全快の挨拶、物を借りたる禮狀、轉居通知外廿七篇。	▲毛筆書とペン書とを對照して揮毫したる三體千字文にして千字文の讀方をも附す。	▲男子用女子用の一般手紙文を數多掲載し、手紙の書式を詳述す。	▲式辭、挨拶、五分間演説の仕方より實際例を挙げ、其眞髓を説いたもの。	▲偉大なる雄辯の根本問題、セスチエア、各種饗宴懇親會のテンプルスピーチ、練習法等にて詳述す。	▲祝文式辭の作り方、送方、祝文式辭の類別講話、挨拶の仕方、座談應對法、演説に就ての講話、五分間演説の心得外作例。	▲衆人の面前で満足に演説や挨拶の出来るやう、その要領を繰込んだもの。

東京三輪山高等女學校教員 松下太虚	大橋水月編書	加藤樂山編書	高橋觀城編書	高橋觀城編書	高山房美	高山房美	山田愛劍	西脇吳石編書	西脇吳石編書
毛筆女子手紙新選	ペン書き方とくづし方	ペン三體日用文字	現代男子ペン字の書翰文	現代女子ペン字の書翰文	青春のペン字書簡	新らしい若人のために 性のためにもモダンのペン字書簡	新々書翰大辭典	實用ペン習字手本 高等小學程度	實用ペン習字手本 中學程度
背函四六判 布入	背函四六判 洋布入	菊半裁 並製	上四六判 製	上四六判 製	上四六判 製	上四六判 製	洋函四六判 布入	袋折本 入	細長形 上製
100	169	178	105	105	160	164	714	90	90
特一、二、三、 〇〇、〇〇	八五、 八	三六、 四	七〇、 六	七〇、 六	六〇、 六	六〇、 六	特一、二、五、 二〇〇	五〇、 四	六〇、 六
文弘堂	二松堂	芳新堂	松榮堂	松榮堂	網島書店	網島書店	三洋社	大阪屋號	大阪屋號
月四	月九	月十	月十	月十	月二十	月二十	月二十	月二十	月二十
▲女子の日用文を材料に優雅な毛筆、ペン字を収めたもので、清らかなこの曙、復興せる帝都の様を外九十八篇。 ▲ペン文字書き方篇及びペン漢字くづし方篇の二篇にてペン文字の書き方とくづし方を説述せるもの。 ▲日常使用する用語を採り、これを楷行草三體に分け收む。 ▲手紙の参考書であり又ペン文字の手本でもあるやう全部草書で書けるもの。 ▲女子の四季の手紙文や心得等をペン字草書で書かれたもの。 ▲ペン字の書翰文例を示せるもの、 カット挿入 ▲妹に、夜學校から、母校へ、幼き日の心に、詩をおくる、博多人形を、尼寺へ入りし處女等知名の士の文章を收む。 ▲書翰作例(手紙の組立、手紙の禮法、手紙の文法外四項)書翰作例(年賀狀以下二十部)附録日用ペン習字。 ▲運筆より、練習平かなより片かな、進んでは楷書、行書、草書の最も正しき習ひ方を示されたもの。 ▲中學校の生徒を標準とせるペン習字のお手本。									

荒浪清彦	岸芦風	開田鳥涯編書	久保天隨	中山久四郎編	中山久四郎編	日本辭書編輯部編	植松安隆修	東郷昌汀武
習ひ易く直き役に立つ實用速記術	草書日用語辭典 附ペン字のくずし方	習字日用寶典	詳漢和大辭林	新漢和辭典	和英併用新式辭典	實用國語辭典	ペン入いろは大辭典	昭和いろは引辭典
布函四六判 裝入	和四六判 綴	和函綴 綴入判	總三五判 革	總三六判 皮	總三五判 革	洋三五判 布	革三六判 裝入判	洋三五判 布
70	308	78	2060	1050	608	294	862	380
一、二〇、 八	八五、 八	二、八〇、 三	二、四〇、 一八	二、二〇、 二二	一、五〇、 八	一、八〇、 四	一、八〇、 二二	八、 六
文陽堂	いろは書房	精研書院	文理書院	至誠書院	至誠書院	日本辭書社	成光館	網島書店
月一十	月三	月十	月二十	月二	月一	月十	月四	月五
▲速記術を實用本位に説述せるもの。 ▲日用語を草書を以て現らしたもので、終りにペン漢字のくずし方を添ふ。 ▲習字兼用として日常實用に便する爲め行書を基本とし草書の二體にて收めたもので、短冊の書き方十九篇。 ▲草書挿入辭典で、採録熟語四萬二千餘に及ぶ。 音訓索引 ▲科學的で能率的な「一寸ノ巾式」索引を始め在來式部首、總畫、音訓索引等も掲載。 ▲普通の日常辭典で、カナで英語も引け(一)字も知らん(二)又反對に英語から日本語も引ける日本辭典兼和英辭典。 ▲現代活用されつゝある語詞を主とし新語外來語三萬有餘語を収録し五十音順に配列解説せるもの、いろは別五十音別索引。 ▲文章や手紙を書く時に役立つ事を主眼とし語句の排列を發音順に收めた辭典。 ▲死語、廢語(日常の談話文章に使用せざるもの)及び昭和現代の新語を勉めて收録したもの。								

語學 (國漢・外來語辭典)

小島文夫編	下村芳岳	津田異根編	小島徳彌	大西貞治編	學習社編輯所編	至誠堂編輯部編	竹内猷郎編	英文大阪毎日 學習社編輯局編	藤村作編
現代字くづし辭典	ボケット問や此は便利だ	新かくし言葉辭典	現代小辭典	綜合新辭典	日用辭典	中百科辭典	新聞語辭典 一九三一年版	英語から現代語辭典	中掌英語入り新辭典
洋四六判 布入判	洋三六判 布	並三五判	革三五判	洋三五判 布	並三五判	編新袖珍 革	編三五判	洋三五判 布入判	革三五判
811	676	321	700	758	320	800	450	800	1071
二、〇〇〇	二、二〇〇	七〇〇	二、〇〇〇	一、二〇〇	二〇〇	一、〇〇〇	一、三〇〇	一、五〇〇	二、五〇〇
春江堂	平凡社	博進堂	教文社	至誠書院	學習社	至誠堂	竹内書店	大阪 大阪出版社	至誠堂
月一	月一	月二	月九	月九	月十	月二十	月十	月九	月二
▲和漢古代の書聖より現代書家に至る迄の書を渉して草書となし、文字の讀み方並に解釋を附せる辭典。	▲外來語、流行的隱語、最近社會學、主義主張學說上の術語其他を網羅して五十音順に排列解説せるもの。増補改訂版。	▲各方面に涉つての隱語、用語、俗語、符牒等を收めたもので、一般之部の内容、特種用語隱語の部。	▲國語・新語・日用語・外來語殊に尖端的な新時代の語を多く収録し、平易なる解説を附したるもの。	▲日常語新語外來語を綜合網羅したもので、見出し語の下にペン文字行草を掲げ、附録には毛筆楷行草の字くづし辭典を添ふ。	▲國定全教科書中の必要なる語句に日用語、新語、外來語を補充し、活社會の活語二萬を輯む。	▲「近代百科全書」「家庭大學講座」「學生百科詳解」「常識辭典」等の綜合辭典。	▲新聞紙に現はれる政治外交財政經濟法律社會科學映畫音樂スポーツ流行語スラング思想家藝術家の年代代表作を蒐む。	▲新聞雜誌にある新語及び演説や會話に使用する現代語一切を網羅す。	▲各語に一々英語を當て欲め更に假名發音を附し平易明快的な解釋を施せる辭典。

語學 (ローマ字)

ローマ字

小野半次郎編	高野辰之編	長岡規矩雄	桃井鶴夫編	栗津清達編	松浦林太郎編	横山青娘編	モダン辭典	モダン用語辭典
英語から新しい言葉の字引	外國語レフレックス辭典	後勢に新時代用語辭典	スル新語辭典	最新外來語辭典	片假名外國語辭典	全外來語新辭典	モダン辭典	モダン用語辭典
並三五判	洋四六判 布入判	革三五判	革三五判	上三五判	洋四三六判 布入判	洋四三五判 布入判	並三五判	布四三五判 裝入判
163	1330	843	243	341	330	416	328	553
七〇〇	二、八〇〇	一、八〇〇	一、〇〇〇	一、二〇〇	一、三〇〇	一、二〇〇	一、〇〇〇	一、三〇〇
先進堂	寶文館	磯部甲陽堂	アールス	先進堂	平凡社	交蘭社	弘津堂	日本業社
月九	月十	月七	月二十	月五	月一十	月二十	月十	月一十
▲大正の始めより最近の新聞雜誌等より網羅せる外來語の字引で五十音順に收む。	▲外國語、漢字、漢字の檢索表、現代の常用語及びその譯語、前記の外國語及び常用語の増補の五欄にて收めた辭典。	▲文藝用語、運動用語、西洋草花用語、印刷用語、通符、故事、外來語當字其他廿二項目に分け收む。總索引。	▲モダン語、流行語、尖端語、外來語、スポーツ語、トキー語其他を網羅して説明を施せる辭典。	▲日常の新聞雜誌に現はれたり人の話したりする外來語は悉く了解出来るやう廣範圍に互つて蒐集す。	▲日常生活の全野に必要な外國語を五十音順に排列して解釋を施せる辭典。	▲英語を中心として在來から我が國に行はれ或は現在行はれつつある凡ゆる外來語を蒐集して解釋を施せる辭典。	▲外來語、流行語、新聞雜誌用語、各種専門用語等を五十音順に、排列して解説を施せる辭典。	▲スポーツ用語、社會科學用語、映畫用語其他のモダン語を収録して五十音順に排列解釋せる辭典。

語學 (에스ペラント)

川副住一郎	田丸卓郎	鬼頭禮藏	小坂三郎	伊藤三郎	藤澤雪作	村上正行	山下芳三	平時誠	石地治夫	林好美
標準ローマ字手紙の書き方	ローマ字國字論	略ローマ字讀本	エスペラント必携	エスペラント必携	史劇グランドシヤ	嬰兒殺し	日本民族の起源	基本エスと辭典	歐羅巴親類めぐり	
四六判 上製 196	四六判 並製 416	四六判 並製 208	四六判 布製 300	四六判 布製 300	四六判 並製 22	菊半紙 並製 47	菊半紙 並製 16	洋寸布 98	洋四六判 布 334	
五〇六	三〇六	三〇六	二〇〇	二〇〇	二〇〇	三〇〇	二〇〇	三〇〇	九五八	
岡村書店	岩波書店	平野書房	鐵塔書院	鐵塔書院	日本エスベラント學會	日本エスベラント學會	日本エスベラント學會	希望社	日本エスベラント學會	
月六	月六	月二十	月九	月九	月九	月一十	月九	月十	月二十	
▲手紙及び實務上に於けるローマ字通信の必要を説けるもので、ローマ字手紙と其の必要外七篇、附録三篇。	▲國字問題、日本語の世界的書き方、國字問題解決の順序、ローマ字反對論と其の批評、假名論と其の批評等を論ず。改訂版。	▲ローマ字綴方の手ほどき、讀書の練習、ローマ字の應用、ローマ字の知識等四部より成るローマ字讀本。	▲エスペラントを初歩より極めてわかりやすく十九課にて説述した書。附録ロシアに於けるエスペラント運動(雨雀)。	▲細川忠興の妻グラシヤの悲劇を取扱つたもの。	▲山本有三氏作の「嬰兒殺し」をエス譯せるもの。	▲日本民族は朝鮮系の女性と南洋系の男子との結合によつて出来たものとなす時枝氏の論文エス譯。	▲公用語の全部及び比較的よく使はれる單語を収録せる辭典。附エスペラントの歴史、エスペラントの當議。	▲純エスペラント世界旅行の紀行文で、發足の三日外六章。	▲中等一年程度より三年程度迄の譯讀講義、ローマ字講義、英習字講義、英文文講義、英文法講義其他にて講義せるもの。	▲初學者に對する英語の手ほどきで、冠詞、疑問文、代名詞の複數、名詞の所有格、動詞の自他外廿七章。

語學 (英語)

藤木田美廣	岡下芳雄	初等英語研究會	松本環	長岡擴	長岡擴	長岡擴	山川作治郎	篠窪貢亮	米林富夫	鈴木久藏
一、二年の英語讀本	ABCより會話と單語	英語四週間	英語の學び方	英語の學び方	英語の學び方	英語の學び方	自修英語初歩の學び方	初等英語研究	正則英語自修講義	正則英語自修講義
洋四六判 布 384	上製 菊半紙 163	洋四六判 布 434	並製 四六判 214	並製 四六判 195	並製 四六判 193	洋四六判 布 338	洋四六判 布 304	洋四六判 布 943	洋四六判 布 943	洋四六判 布 943
一、五〇八	五〇四	一、五〇八	六〇六	六〇六	六〇六	八〇六	一、五〇八	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇
泰文堂	日昭館	大學書林	三省堂	三省堂	三省堂	昇龍堂	崇文堂	二松堂	二松堂	二松堂
月十	月三	月二十	月五	月五	月五	月二十	月一	月十	月十	月十
▲英語學習者の爲めに正確な基礎知識を説いたもので、英語の綴りと發音、基本文、應用篇の三篇。附録ローマ字其他。	▲新時代のリーダーとして、ABCより會話までをすぐ解る様に書いた獨學書。	▲一日僅か二時間の獨習でABCより文法譯讀作習字等初等英語の一通りを會得出来るやうに説けるもの。	▲二、三年用に引續いて三、四年用に英語學び方を説いたもの。	▲一、二年用に引續き二、三年用程度の學習書。	▲地道に一步一步進めるやうに説いた英語學習書で、本書は一、二年用を收む。	▲英文和譯英文及び英文法が自然に覺えらるやうに説いたもので、英文とその讀方外卅九章。附解答の部、單語索引。	▲初學者に對する英語の手ほどきで、冠詞、疑問文、代名詞の複數、名詞の所有格、動詞の自他外廿七章。	▲中等一年程度より三年程度迄の譯讀講義、ローマ字講義、英習字講義、英文文講義、英文法講義其他にて講義せるもの。	▲初學者に對する英語の手ほどきで、冠詞、疑問文、代名詞の複數、名詞の所有格、動詞の自他外廿七章。	▲初學者に對する英語の手ほどきで、冠詞、疑問文、代名詞の複數、名詞の所有格、動詞の自他外廿七章。

(5-18)

特許電氣工 渡邊軍治	東京英語研究会編	文學士 平野一雄	益本重雄	英語學習能率 編	英語學習能率 編	英語學習能率 編	西脇乃夫彥編	宮野昇次郎	小野圭次郎	中等教育學院編
初電氣英語學び方譯し方	英語讀本急所研究	音標文字の知識 正しい英語發音の方法	誤り單語はこれだけ	初英語基礎單語學習書	新式英語基礎單語の學習	分英語單語新選	分英語單語新選	分英語單語新選	最新英語の單語	最新英語の單語
四六判 洋布	四六判 並製	四六判 並製	四六判 並製	三五判 並製	三五判 並製	三六判 洋布	三六判 洋布	三六判 洋布	三六判 洋布	四六判 並製
168	130	74	110	43	141	320	170	340	156	156
一、五〇六	八〇	三五二	五〇二	一〇二	三五二	一〇〇八	一〇〇八	一〇〇六	一〇〇六	三五二
厚生閣	敬文堂書店	富士書房	大進堂	保立羊我堂	保立羊我堂	積善館	慶文堂	出版部	出版部	出版部
月五	月一十	月八	月五	月四	月三	月十	月二	月二十	月八	月八
▲電氣工學上大切な術語と英文原書雜誌に表はれる簡単な文の譯し方と初等英文法を収めたもの。	▲中等學校用の各種各様今迄出版せられたりもの。	▲英語を研究する者にとつてもはや使用可否の問題を超越してある音標文字に就ての知識を説けるもの。	▲書取讀方作文其他に誤り易い單語を間違はぬやう急所を説いたもので、發音記號とその發音法外四章。	▲自然、動物、植物、礦物、人體、衣食住、運動其他十六項に分け容易に學習出来るやう單語千三百語を収めたもの。	▲地形、職業、政治、運動、名詞、助動詞、副詞等廿六項目に分けて基礎單語の正確なる學習法を収めたもの。	▲中學上級生及び高等程度學校への受験生に必要な單語約六千を網羅して記憶し易いやう採録せるもの。	▲英語の基礎單語三千を語源によつて分解し併記されたもの。	▲英語の基礎單語三千を語源によつて分解し併記されたもの。	▲最近十ヶ年間の各種高等專門學校入學試験問題中より重要問題を蒐録し解答を附して解けるもの。	▲最近十ヶ年間の各種高等專門學校入學試験問題中より重要問題を蒐録し解答を附して解けるもの。

(5-19)

加賀谷林之助	倉長眞	山川作治郎	加藤莊一	赤司繁太郎	岡田實曆	橋村博編	北島美雄編	大塚高信	英文大阪毎日學習編輯局編	齋藤秀三郎著
必出英語熟語と成句の續さらへ	英語基礎熟語八〇〇 其の暗記と解題と運用	最も易い自修英文法の學び方	中學三四年の英文法	解り易最新英文法	英文法着眼點	教科新制の英文法	史的 高等英文法	英文 英文法	前置詞及び動詞の講義	前置詞及び動詞の講義
並六判 製四	上三六判	四六判 洋布	新布四六判	洋三六判	洋三五判	洋三五判	洋四六判	洋四六判	洋四六判	洋四六判
87	292	324	316	526	479	230	351	110	608	608
五〇四	一〇〇六	二〇〇八	一〇〇〇	一、八〇八	一、八〇六	特八〇六 六六五	二、八〇〇	八、五〇六	五、五〇二	五、五〇二
先進堂	出版部	昇龍堂	改進書房	富文堂	開文社	駁々堂	構成社	大阪 大阪出版社	萬里閣	萬里閣
月四	月十	月二	月五	月一十	月九	月六	月三	月六	月六	月六
▲全國高等學校及び專門學校約九十校の英語熟語二千を最近に至る迄の試験問題中の英語熟語現行中等教科書及最近入試問題中より基礎熟語八〇〇を選び其の暗記と解釋と運用に自在ならしめたもの。	▲英文法の必須事項を最も解り易く順序的に説明せる自修書で、文章、品詞、名詞の種類、名詞の變化外十一章。	▲第一篇は語の解説、第二篇九品詞の活用を説き、著名な教科書に例題を取つてある。	▲外國語を研究するに先づ第一に必要な文法を平易に説けるもので、名詞、代名詞、形容詞、動詞其他。	▲實際に英文を讀み又書く上には是非必要な文法の眞隨を平易に理解出来るやう説いたもので、文法の價值其他。	▲教材を系統的に分類配列し簡明に説述せるもので、言語、固有名詞と普通名詞、主要成分と修飾成分外百廿九章。一普及版。	▲英語、英文學の研究に携はる人々の爲に説述せる常識的概論で、音聲論、語形及構文法の二篇。	▲文例を擧げて英文法の要點を記したるもの。	▲世界的英學者齋藤秀三郎氏の遺稿で、Vinton Ann Separation, Comparison, Adaptation and Opposition 外十七章。	▲世界的英學者齋藤秀三郎氏の遺稿で、Vinton Ann Separation, Comparison, Adaptation and Opposition 外十七章。	▲世界的英學者齋藤秀三郎氏の遺稿で、Vinton Ann Separation, Comparison, Adaptation and Opposition 外十七章。

語學 (英語)

川合友次郎 成蹊高等學校教授	入試問英文の解釋 題中心	四六判 上製	112	五〇 六	育英書院	月二十	▲高等學校の入學試験に於ける英語問題を中心として、如何に問題を解き如何に記述し如何に注意を要するかを詳細に解説す。
末日向泰造 東京高等學校教授	受英文解釋の近道	三六判 洋布	374	一、三五 六	二松堂	月六	▲英文の解釋と重要な単語とを相聯絡して研究せるもので、英文解釋編、単語研究編の二篇。附録英文の分解構成の原理外一章。
松本環 明治大學教授	文法を基礎とする英文解釋の基礎	洋判新 布六四	447	一、五〇 六	成武堂	月五	▲文法を基礎とし構文に合理的説明をなせるもので、主語の種類、説明語、修飾語、副詞打消語外九章。
杉浦正一 第三高等學校教授	明確徹底英語解釋法	布六新 裝判四	361	一、五〇 〇	改進書房	月三	▲単語の記憶法より、構文、型文の種類、譯方等系統的に構成された書。
瀧川規一 外二氏	英文解釋と作文	菊判 並製	180	八〇 六	青甲社	月十	▲三十五時間の講義録で、和文英譯、英文和譯、作文等三つに分けて講義す。
南日恒太郎 府立第一中學校教授	訂英文和譯法	四六判 洋布	512	一、五〇 六	有朋堂	月九	▲著者の獨立案による英文和譯の眞義を説けるもので、Arduary Construction, Parts of Speech. 其他。
藤田榮一 東京高等學校教授	要點の英文和譯	菊半截 並製	154	五〇 四	慶文堂	月九	▲最近入學試験問題に表れたる新傾向其他英文解釋上必要な事項を網羅せるもので、英文の組立外一篇より成る。
岡田實磨 明治大學教授	英文和譯着眼點	三六判 洋布	439	一、五〇 八	開文社	月一	▲最近十ヶ年間の各種高等專門學校入試問題中より主要問題を蒐録して解答を附して説けるもの。
中等教育學院編	受英文和譯の公式	四六判 並製	221	三五 四	駿々堂	月七	▲現行中等教科書中の重要問題及最近各種專門學校入試問題中より重要問題を蒐録して解答を附す。
中等教育學院編	受驗の英文和譯	四六判 並製	173	三五 四	駿々堂	月七	▲現在各學校で使用してあるリダー及び最近の入學試験問題のうちから材料を選び文法本位に配列して説述。

語學 (英語)

富山房編輯部編 三高教授	英文和譯問題の研究	四六判 並製	100	三五 四	日協本會	月一十	▲和文を英譯するに當り學生共通の誤謬記憶すべき規則、新しき語句の用法等を説述せるもの。
吉岡源一郎 東京外國語學校教授	和文英譯問題集	四六判 並製	138	六〇 四	保立羊我堂	月一十	▲準備篇(文法の常識、公式一般外一章)實習篇(廿二項)研究篇(廿項)附録關係句集。
山縣五十雄 第三高等學校教授	新和文英譯學修法	新六判 布判四	522	一、八〇 六	春陽堂	月五	▲和譯英譯の兩者を併記し問題を多く收めたもので、比較の As, Anything but No more than 其他。
栗原基 東京府立化學工業學校教授	最新英譯和譯學修法	新六判 布判四	444	一、八〇 六	春陽堂	月七	▲英語を學ぶ人々に一番苦しみとされてゐる和文英譯を説述せるもので、和文英譯の要訣英文の基礎知識外五篇。
米本新次 東京府立化學工業學校教授	自修和文英譯の重點	三六判 洋布	428	一、四〇 六	芳文堂	月三	▲化學原書を譯讀せる者のために所謂譯す時のコツ及び術語其他の説明をなせるもの。
立田謙一	化學英書の譯し方	新六判 製判四	221	一、二〇 八	先進堂	月十	▲英作文に上達する法、和文英譯法、英文の形相、動詞のテンスによる文の類別、語句の用法以下三章。
堀口香洋	誰にも英文の作り方	四六判 並製	125	五〇 四	弘道閣	月二	▲一般的の誤謬や文章の構造等も會得出来るやう英作文の實例に赤インキを以つて添削せるもの。
米本新次 東京府立化學工業學校教授	最新研究英作文活力	四六判 並製	145	七〇 四	芳文堂	月九	▲高等學校、專門學校への受驗參考書。
黒葛原清	受驗必修英作文活力	四六判 並製	470	二〇 八	正文館	月八	

語學 (英語)

千葉英雄 文部省 正しく覚る英語會話入門	石井静人 最新外國貿易實談 及び英語商業通信	前田定之助 實英語商業通信	中等英語研究會編 英語問題解釋とその急所傾向の指摘	横井進太郎 英語試驗問題の合理的的研究	長沼直兄編 高等學校英語問題解釋	英語通信社編 高校英語問題詳解	丹原建男編 官立大學入學試驗	北星堂編 官立學校英語問題集	三省堂編 全國高等專門學校英語問題自習正解
四六判 上製 144	洋函菊 布入判 512	洋函四 布入判 320	並四六 製判 333	洋四六 布判 390	並四六 製判 322	並四六 製判 282	並四六 製判 238	並四六 製判 142	並菊 製判 283
一〇〇 六 太陽堂	四、五〇 一八 丁酉出版社	一七〇 二 敬文堂	六〇 六 昇龍堂	一、三〇 六 賢文館	九〇 六 開拓社	一、〇〇 六 英語通信社	六五 四 泰文堂	三〇 四 北星堂	一、〇〇 八 三省堂
月三	月六	月二	月五	月九	月五	月五	月一	月四	月五
▲初學者にとつての實際日常生活に必要な英語がすぐ出来るやうに説いたもの。	▲外國貿易の手續及び最も新しき商業通信文の實例を掲げて各種通信文作成上の原則を示せるもの。	▲最近各銀行、會社、商店等にて取扱はれたる實際の商業手紙を従とし平易に記述せるもの。各章毎に練習問題を附す。	▲全國高等專門學校の昭和五年度入試英語問題及解釋を収めその急所傾向を指摘せるもの。	▲文法解釋和文英譯の三知識を有機的に合理化し統一化せるもので、英文解釋篇、和文英譯篇の二篇。	▲昭和五年度の官公私立高等專門學校入學試驗問題中の英文和譯、和文英譯、英文法の解答を収めたもの。	▲東京高等師範學校を始め全國高等專門學校入學試験の英文和譯及び和文英譯に就ての模範解答を収む。	▲最近六年間の全國各官公立大學の英語の入學試験問題を蒐めたもの。	▲昭和五年度の官立學校入學試験の英語問題(英文和譯、和文英譯、英文法、書取及聴取)を収めたもの。	▲昭和五年度に於ける全國高等專門學校入學試験英語問題を収め註解譯例を施せるもの。

三五六

語學 (英語)

小野圭次郎 英文週報社 全國高等專門學校英語問題解釋	慶文堂編輯部編 高等學校入學試験問題分類集	三井直樹編 模範的英語模範問題集並註釋	西本正美 帝國大學英文解釋問題研究	川合友次郎 大學入學試験英語問題集	後藤乾吉 高等教員英語科研究者の手引	大土井源編著 英語に受驗生共通の缺陷	J. I. Bryan English Echo Composition Book I	J. I. Bryan English Echo Composition Book II	
並四六 製判 190	並四六 製判 161	並四六 製判 166	並四六 製判 189	上四六 製判 98	布函四 裝入判 443	並四六 製判 195	洋四六 布判 135	洋四六 布判 135	
三五 四 山海部堂	八〇 六 英文週報社	七〇 四 大成書院	八五 六 英語通信社	五〇 六 育英書院	二〇〇 一三 大同館	八〇 四 泰文社	一、一〇 六 式丸會善社株	一、一〇 六 式丸會善社株	
月六	月七	月九	月十	月二十	月二十	月三	月三	月四	
▲五年度出題の百餘校分の問題を特殊の配列により分類集録せるもの。	▲昭和五年度全國高等專門學校入學試験英文和譯問題に解釋を附し註を加へたもの。	▲昭和五年度施行の各種高等專門學校等二百餘校の入學試験問題を和文英譯英文和譯英文法書取聴取に大別して収む。	▲多年編者が集め得たる最新なる材料に依る五百問題を収め註釋せるもの。	▲最近の各官公立大學入學試験と高文外交科試験との英文解釋問題を集めて譯註せるもの。附録解釋問題研究。	▲各大學の入學試験に於ける英語科問題を正確に編纂したもので和文英譯には譯文作例を掲ぐ。	▲文部省高等科教員檢定試験、試験の模様及參考書、問題集等八章。	▲文部時報に掲載された諸學校入學試験官の講評中より受驗生の共通缺陷となすものを抜萃分類補遺説明せるもの。	▲文例は長短様々、種類も多方面に涉り之を幾通にも英譯せるコンホザシヨンの實力涵養書。	▲コンホザシヨンの材料は主に羅馬字を用ひ、文例は長短様々、種類も多方面に亘り、これを幾通りにも英譯せるもの。

三五七

英文學・註釋書

小泉 八雲	小泉 英文學史	洋菊 布入判	1022	六五〇 三〇	北星堂	月二十	▲東京帝國大學に於けるヘルンの講義を田部隆次、落合貞三郎の二氏が校訂したもので、彙に刊行せる二卷を合本して索引を附す。
デル・レイ	シクレットオウレネッサンス	洋菊 布判	200	二五〇 一八	開拓社	月十	▲東京帝國大學に英文學を講ずるデル・レイ氏の「近代英國の人文主義者」希臘の天才」他數篇の論文集。(英文)
ロレンスピニオン	英國の美術及び詩に於ける風景	洋新 判四六	295	二八〇 二二	研究社	月三	▲ブリテイッシュ・ユイザム東洋繪畫部長たる英詩人ピニオン氏が昨秋來朝の節東京帝國大學に於て開きたる講演集(英文)
佐藤 劍之助	アマノシヤクの隨想錄	洋三 布五判	248	一一〇 六	研究社	月一十	▲大阪毎日の英文號に三年近く掲載した著者の英文小品集で、From a New Angle 外六十八篇を収む。(英文)
グレシ・シヨ	大阪スケッチ <small>一浪書の足</small>	布四 判六入	276	二〇〇 二二	北星堂	月一	▲煙と喧騒の浪華の地に詩とユーモアと悲曲傳を見出した著者のスケッチ集で、隨筆、感想
陸 奥 イソ	Kamakura: Fact and Legend	上菊 製判	340	七〇〇 二七	出版タイムス	月五	▲景勝地「鎌倉」を繞る名所、舊蹟、傳説を英文で綴つたもの。
佐々木 達	プロバチエの詩の言語研究	假菊 裝判	106	一一〇 六	研究社	月一十	▲故桂冠詩人フリヂエスの詩の語彙、語法の研究書で、著者の該博なる學識精緻なる蘊蓄を傾倒せる稀有の出版物である。
J. I. Bryan	The Philosophy of English Literature	洋四 布六判	327	二五〇 二二	式會善社株	月九	▲英文學の全分野を透して英國のナジヨナリラーを理解し得るよう全篇を按配せるもの。
高垣 松雄解説	Modern English Essays	洋四 布六判	141	一一〇 六	研究社	月十	▲第十世紀以降の英文學に重要な地位を占めてゐるエッセイ文學を Gardner, 外十家の代表作より收め解説脚註を施す。

大橋 榮三解説	THE CALL OF THE WILD	洋四 布六判	146	一一〇 六	研究社	月十	▲所謂「Gordian Knot」時代のアラスカを舞臺とし人外境の狂暴な生活を後に傑作の王となる猛犬を主人公として描寫せる傑作。
澤村 寅二郎解説	THE MIRROR OF THE SEA	洋四 布六判	156	一一〇 六	研究社	月十	▲近代海洋文學の第一人者コンラッドが十六年の海員生活から得た海と船と船乗りとに關する體験を描けるもの。
松本 惟成編	Model English Prose Vol I	洋四 布六判	214	一六〇 八	式會善社株	月二	▲識見を高邁ならしむる英米大家の論文、抱腹の小説、ワックワックする様な探偵談、向上心を振興する修養篇等々眞に千變萬化の英文學集である。
松本 惟成編	Model English Prose Vol II	洋四 布六判	214	一六〇 八	式會善社株	月三	▲高等學校程度の英文教科書で On Umbre His Morals 以下三十三章。ノート三十頁。
濱林 生之助	アルファ・オヴ・ザ・ブラウ	洋四 布六判	210	一〇〇 六	健文社	月五	▲Baldwin, Bigelow, Stephar, Steed 等々知名な記者評論家十人の時文選集に脚註を施せるもの。
山縣 五十雄脚註	近代英國時文選集	洋四 布六判	119	一一〇 六	研究社	月二十	▲眞の文明は如何にせば建設し得るであらうかを説いたもので、文明に關する謬想、文明と其弘布者外五章。
クワイアベル著 西野 入徳譯註	新文明の建設	洋四 布六判	303	一五〇 二二	敬文堂	月一	▲英文の政治論文を集めて教科參考書に供せるもの。
村瀬 武比古編	英文政治論文集	洋四 布六判	300	三、五〇 二二	保立羊我堂	月五	▲夏目漱石が東京帝國大學文科大學英文學科の講義として讀まれたオセロを收めて評註せるもの。
野上 豊一郎編	漱石のオセロ	上四 判六入	267	二〇〇 二二	鐵塔書院	月五	▲白狐の湯(谷崎) 嬰兒殺し(山本) 伸び支度(島崎) 首が落ちた話、杜子春(芥川) 剃刀、荒絹(志賀)等七篇の原文と英文を收む
エリクエスベル 鶏 飼 盈 治	英本現代日本學選	布四 判六	290	一〇〇 二二	開拓社	月十	

(5-26)

宮森 麻太郎	金子健 二譯註	金子健 二譯註	平田 禿木	安齋 七之介	齋藤 光 勇註釋	土居 光 知註釋	齋藤 勇註譯	澤村 寅二郎註釋
英古今俳句一千吟	英吉利物語詩集	英吉利物語詩集	評ハアデイ小曲集	註現代英米抒情詩選	シエリ抒情詩抄	英詩人書簡集	クリスタベル	十二ポンドの目つき
上四六判 製入判	洋四六判 布入判	洋四六判 布入判	洋判四六 布入判	上四六判 製	洋四六判 布	洋六新 布判四	洋六新 布判四	洋六新 布判四
342	260	405	150	217	138	106	64	62
二、八〇	二、五〇	三、五〇	一、八〇	一、二〇	六〇	六〇	六〇	六〇
同文社	健文社	健文社	研究社	英語通信社	研究社	研究社	研究社	研究社
月九	月一十	月三	月二	月三	月一十	月九	月一十	月九
▲古今俳句三百餘名の秀逸一千餘句を、流暢な英語を以て正確に翻譯し原句の眞意と氣分とを其まゝ傳へたもの。	▲「ローマ七賢物語」の姉妹篇で「フロリスとブランチフロリア物語」を賤しき楯持物語として二篇を収む。	▲「ローマ七賢物語」の邦語譯とその研究とをまとめたもので、七賢人の物語始り、第一物語始り外廿七篇。	▲近代英文文壇の巨匠ハアデイの抒情詩の内特に傑作とせられる卅二篇に我英文學の者宿平田氏の評釋を添へたもの。	▲現代英米の抒情詩を収めて譯註するもので「The Unknown God, Winter Night Fall, A City Park」外七十四篇。	▲シエリの抒情詩及び註釋を収む。——並製金二十五錢	▲バイロン外二詩人の書簡を収め註を附したもの。——並製金二十五錢	▲原文及び註釋を収む。——並製金二十五錢	▲「バリー」の二つの短い戯曲を収め註を附したもの。——並製金二十五錢

三六〇

(5-27)

長澤 英一郎註	久野 朔郎註釋	岡田 美津註釋	澤村 寅二郎脚註	寺西 武夫譯註	平田 喜一譯註	萩原 恭平譯註	舟橋 雄譯註	左右田 實譯註	佐伯 有 三譯註
遺言書及忘れ得ぬ聲	境遇の犠牲	アシナガさん	ゴオルズワアズイ短篇集	アンダーセン童話集	ピイタア・パン	怪談	漂白人種の血	幼年詩園	トルストイ童話集
洋六新 布判四	洋四六判 布	洋六新 布判四	洋四六判 布	洋半截 布	洋半截 布	洋半截 布	洋半截 布	洋半截 布	洋半截 布
90	114	267	152	197	201	241	187	195	203
六〇	六〇	二、一〇	二、一〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇
研究社	研究社	研究社	研究社	研究社	研究社	研究社	研究社	研究社	研究社
月九	月一十	月五	月二十	月四	月四	月四	月九	月九	月九
▲「バリー」の二つの短い戯曲を収め註を附したもの。——並製金二十五錢	▲境遇の犠牲外二篇の原文及び譯註を収む。——並製金二十五錢	▲米國の學生生活を描寫した「Daddy-Lomb」の原文及び註を附す。——特製一圓八十錢	▲英文文壇の元老ゴオルズワアズイの短篇小説集「Caravan」に就き特に傑作「A Fen」以下七篇を選び譯註を解せるもの。	▲ロマンティックな藝術味に於て無類と稱せらるゝ「アンダーセン」の代表作「樺の木」・「小さい人魚」外六篇を収む。——並製五十錢	▲現代童話の傑作として有名な「ピイタア・パン」を収めたもので、公園内の大漫遊、「ピイタア」を収めたもので、並製五十錢	▲日本に憧れ來つて歸化せる小泉八雲が一代の名文を以つて日本の怪談を綴つたもので、耳なし芳一の話外十六篇。——並製五十錢	▲女流作家セルマ・ラゲルウグの「漂白人種の血」其の他北歐三大家の五篇篇を収む。——並製五十錢	▲近代英國文壇に於て最も長く童心を持し得た作家ステイヴンソンの童詩六十餘篇を収む。——並製五十錢	▲文豪トルストイが農村の子弟教化のために捕虜外三篇を収めたもので、カウカサスの

三六一

山口高等商業學校教授 今泉 浦治郎 譯註	田中 俊彦 譯註	青木 庄左衛門 譯	青木 庄左衛門 譯	安藤 一郎 譯註	龍口 直太郎 譯註	淺野 鶴子 譯註	山 田 惣 七
スチブンスン旅行記 第一卷	自殺俱樂部	家から出される其他	懐しき人々	死せる人々	サンタルチア其他	小さい驢馬其他	短篇集 主なき晩餐
洋布 四六判	洋布 菊判	洋布 四六判	並製 四六判	並製 菊半裁	並製 三五判	並製 三五判	洋布 四六判
307	199	215	232	220	159	181	341
二〇〇	一、五〇	一、〇〇	四〇	八〇	八〇	八〇	二、〇〇
警 醒 社	光 學 堂	光 學 堂	光 學 堂	開 拓 社	開 拓 社	開 拓 社	泰 文 堂
月 十	月 一	月 一	月 二	月 十	月 六	月 六	月 五
▲有名な漂流物語で、ロビンソンが初めて海に出たわけと、彼が難破した次第以下九章に並製五十篇	▲遠達蘭目の山川風土又は人事の出来事を種にスチブンスン一流の感想を綴つた旅行記の原文に譯註を施せるもの。	▲英國が生んだ最もすぐれた文豪ロバート・ステイヴンソンの饅頭菓子を持つた青年の話外二篇を譯述す。	▲家から出される、知己の範圍を廣む、サレム・ハウスの新學期、私の休暇等四篇の譯及び原文收載。	▲文豪トマス・ヘアアイ翁の短篇「懐しき人」の原文を収めて講義せるもの。	▲家から出される、知己の範圍を廣む、サレム・ハウスの新學期、私の休暇の四篇の原文を収めて講義せるもの。	▲英國文壇隨一の天才ジョエムス・ジョイス作「ユリウバ」の原文、註釋、譯文を収めた英文學研究者の参考書。	▲我等が爲に譯れ、稲妻、サンタルチア等三篇の物語を譯註せるもの。

高垣 松雄 譯註	加宅 田和明 譯註	オニ、ヘクト 作	杉 木 喬 譯註	笹 谷 雄 三 譯註	羊 我 堂 編	羊 我 堂 編	羊 我 堂 編	山 崎 貞 譯註	山 田 巖 譯註
牛 乳 の 壘	カ リ ブ の 月	質 問 を 持 つ て 歩 く 男	シ エ イ ク ス ビ ャ 物 語	イ ソ ツ プ 物 語	ラ ン グ 童 話	ラ ン グ 童 話	趣 味 の 英 國 史	入 新 イ ソ ツ プ 物 語 解 釋	ラ フ カ ア イ オ ・ ハ ア ン
並製 三五判	並製 三五判	並製 三五判	背洋布 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	洋布 三五判	並製 四六判
123	127	145	210	45	250	43	45	233	34
五〇	五〇	五〇	一、二〇	二〇	一、二〇	二〇	二〇	一、二〇	二〇
木 星 社	木 星 社	木 星 社	保 立 羊 我 堂	保 立 羊 我 堂	保 立 羊 我 堂	保 立 羊 我 堂	保 立 羊 我 堂	北 星 堂	北 星 堂
月 二 十	月 二 十	月 二 十	月 一 十	月 七	月 三	月 七	月 七	月 九	月 六
▲現代アメリカ短篇作家中他に比肩するものなき地位を保つてゐるアンダースンの「哲學者」の「母親」-牛乳の壘」の三篇を譯註す。	▲今日アメリカを代表する劇作家として世界に其の名を志にしてゐるオニールの一幕物「ガリアの月」を譯註せるもの。	▲質問を持つて歩く男、ドン・キホーテと彼の最後の風車、ミシガン・アヴェニエウ外四篇を譯註せるもの。	▲世界最大の劇詩人シェイクスピアの悲劇喜劇六篇を収めて譯註を施したもので、ハムレット、ヴェニス商人其他。	▲鼠の相談、仔山羊と狼、狐と仔羊、狐と山羊、林檎の犬、狼と鶴、狐と獅子、鶏と寶玉外六篇の原文及び註解を収む。	▲フィッツクル王子とヘレナ姫、泥塗れの少女羊飼、魔法の時計、メーシサス王子とポテンテイラ姫外二篇を譯註せるもの。	▲フィッツクル王子とヘレナ姫、泥塗れの少女羊飼の二篇の物語の原文及び註解を収む。	▲昔のブリトン族、ゲユリヤス・シーザの四篇の原文及び註解を収む。	▲世界的に有名なイソップ物語の中、犬とそれを影、父と子と驢馬外七十八篇に譯文と註釋を添へるもの。	▲小泉八雲の日本名によつて有名なハアンの日本のお話を蒐め譯註を附したるもの。第一輯(耳無し芳一の話、葬られたる秘密)

山田 巖譯註	ラフカディオ・ハアン	並製	四六判	34	二〇	北星堂	月六	▲第二輯(居心居士の話、雪女)
長谷川 康譯註	エッセイックス・フオア・ヤンケ・ヒーブル講義	並製	三六判	333	七五	北星堂	月一十	▲昨年来高等程度の學校への入學試験問題に復活してきたEverettのEthics for Young Peopleを講義せるもの。一普及版
清水起 正譯註	ゲーテイナリー・オンセイイング・ブリーズ 其他	洋布	四六判	193	一五〇	學立出版部	月二十	▲ゲーテイナリーの世界大戦以後の作品中から十二篇を選び対譯と譯註を加へたもので、何卒と云ふことに就て其他
濱林生之助監修	パイオグラフイカル ストリーズ講義	布六新	裝判四	324	八〇	健文社	月十	▲ニウトンやクロムウエルやジョンソンや永くその名を歴史に留めた異材の幼き日の面影を傳へた原文に詳密な譯註を施せるもの
濱林生之助監修	ラウンド・ザ・ワールド・ウイズ・ブライズ講義	布六新	裝判四	240	八〇	健文社	月十	▲世界各國を歴遊した一英國人が故國に残した子供達に諸國の風俗習慣等を書いて寄せた手紙で譯註を附す
濱林生之助監修	ファイフティーストリーズ講義	布六新	裝判四	461	八〇	健文社	月四	▲世界的に有名な物語五十篇を原文、譯、註等にて收めたもので、アルフレッド王とパンアトリの鐘外四十八篇
西川 正 身編	サーテイ・モア・フエイマス・ストリーズ	上製	四六判	231	一、二〇	保立羊我堂	月四	▲ボールドウインの名著から選んだ興味深い物語九篇(クリーサスの富外八篇)に註釋及び平易な譯文を收めたもの
羊 我 堂編	サーテイ・モア・フエイマス・ストリーズ	並製	四六判	53	二〇	保立羊我堂	月七	▲最初の印刷者、ジョンソン博士とその父、ゲーテイアスの結び目の三篇の物語の原文及び註解を收む
濱林生之助監修	サーテイ・フエイマス・ストリーズ講義	洋六新	布判四	460	八〇	健文社	月四	▲フイフティーストリーズの中より優秀なる物語三十を選出したもの
佐藤保胤譯註	エレルク・ス・フオア・ヤンケ・ヒーブル講義	並製	四六判	192	六〇	精文館	月二十	▲一頁を三段に分割し、左方に原文、右方に譯文、下段に註解を掲げて、受験生向きに譯註を試みたもの

安齋七之介	對譯 エシツクス講義	並製	四六判	207	八〇	英語通信社	月一十	▲受験界に異常なるセンセイションを惹起してきたエシツクスフオアヤンケヒーブルの講義で、剛毅外十四篇
高田 勝譯編	巨 人	並製	菊判	64	二五	櫻木書房	月一	▲もと悪漢だつたアレックが歐洲戦争に召集されて勳功をたて、凱旋後警察署長に推されてよりの働きを描いた「巨人」の原文對譯
高田 勝譯編	ヴァー・ジニアン	並製	菊判	78	三〇	櫻木書房	月二	▲パラマウント社特作の發聲映畫「ヴァー・ジニアン」の筋書と對話を譯せるもの
高田 勝譯編	だばら成金	並製	菊判	85	三〇	櫻木書房	月四	▲ハリイ・グリーン主演の「だばら成金」のトキーを原文對譯せるもの
高田 勝譯編	サラアと其の子	並製	菊判	88	三〇	櫻木書房	月五	▲可憐な歌唄ひからオペラスタアとして迎へられるサラアと其の子パビイの奇しき運命を取扱つたトキーの原文對譯
獨逸語研究	初等獨逸語研究	洋布	四六判	244	一、五〇	崇文堂	月九	▲發音(字母、子音外六章)、文法(性數格冠詞外二十一章)、讀本(インキ壺外十四章)の三篇にて説述
桃井 鶴 夫	獨逸語 abc の読み方から	洋六新	布判四	270	一、五〇	太陽堂	月二	▲初めて獨逸語を獨習しようとする人の爲めに平易に述べたもので、實習篇、讀本講義の二篇より成る
山田 幸三郎	自修新ドイツ語	洋六新	布判四	638	三、五〇	太陽堂	月五	▲初歩より順次程度を進め自然に文法其他の全般を修了出来るやう説いたもので、發音篇、文法篇、文章論の三篇
西郷 啓 造	新獨逸語四週間	上製	四六判	360	一、五〇	尙文堂	月八	▲從來難解と稱せられつゝある獨逸語を第一週、第二週、第三週、第四週に分けて解り易く講述す。附録符號及略字其他

語學 (獨逸語)

桃井鶴夫	桃井鶴夫	中尾啓太郎	井口連	内田貢	宮下直三郎	小出直三郎	藤原肇	山田幸三郎	桃井鶴夫	佐久間政一
獨逸語常用單語の解釋と應用	獨逸語基礎單語暗記法	獨逸語基礎單語暗記法	獨逸一〇〇〇熟語集	獨逸常用熟語一千句	タイムス版獨逸語基礎單語四〇〇〇	獨逸語發音五時間講義	獨逸語發音五時間講義	休暇中の獨逸語	獨逸語五週間上達法	獨逸文法講話
三六判 洋布	三六判 上製	三六判 洋布	三五判 並製	四六判 洋布	三六判 並製	四六判 並製	四六判 並製	四六判 洋布	四六判 紙裝	四六判 布裝
285	337	302	215	174	728	50	61	269	404	404
一、五〇	一、五〇	一、五〇	一、三〇	一、〇〇	一、三〇	三〇	九〇	一、五〇	二、五〇	二、五〇
太陽堂	太陽堂	南山堂	南山堂	大學書林	タイムス出版	大學書林	南山堂	南山堂	南山堂	日獨書院
月七	月一	月六	月十	月十	月七	月五	月六	月八	月四	月二十
▲獨逸語學習上の基本單語五千數百を選んで文例を以つて其の應用を示せるもの。	▲獨逸語學習上の基本單語五千數百を收めその基本語から由來した關係語を更に五千數百を收めるもの。	▲暗記に便なるやう獨逸語基本五千語を語源的に配列せるもの。	▲高等學校初級から上級程度に必要な熟語一千を收めたもの。附索引。	▲自明の用例を除き殆ど毎句一乃至數個の用例を掲げたる獨逸常用熟語一千句を收めたもの。	▲日常使用度數から見た標準基礎單語四千語を選び暗記に便なる配列、項目別にして聯想し易からしめる項目分類等にて收む。	▲第一時間より第五時間まで獨逸語の發音を覚えられるやう説いたもので、第一時間アルファベット其他。	▲高校初年級時代の休暇中は、とすれば折角修得した獨逸語を大半忘失しがちな時である。本書は此欠を補ふ爲め出たものである。	▲著者は在來の自修書の無趣味にして學習者の目的とする譯讀の方面を無視したるを遺憾とし本書を著はされたものである。	▲凡ゆる内外文法書を憑依してその特色を採り内容の統一を計つた組織的著述文章講話體。	▲強變化動詞を、變化法式に従ひ十餘種類に分類し、之を暗記し易きやうに仕組んだもの。

語學 (獨逸語)

日獨書院	日獨書院	淡川康一	武内大造	山岸光宣	岩本經丸	桃井鶴夫	岡田俊一	尾島鷹市	井口連	中尾啓太郎
帝國獨逸語問題と解答	高等獨作文	和文獨譯の秘訣	新編獨逸語讀本	獨逸小文典	獨逸文法要訣	獨逸文法	暗記用獨逸文法	獨逸語強變化動詞暗記法	獨逸語強變化動詞暗記法	獨逸語強變化動詞暗記法
四六判 並製	四六判 洋布	四六判 洋布	四六判 背布	四六判 布裝	四六判 洋布	新六判 製判四	四六判 並製	三五判 橫形	四六判 並製	四六判 並製
66	249	249	90	120	354	196	100	160	32	32
三五	一、二〇	一、八〇	七〇	一、〇〇	二、〇〇	一、二〇	七〇	一、六〇	七〇	七〇
日獨書院	大學書林	南山堂	日獨書院	大學書林	大學書林	先進堂	大學書林	南山堂	南山堂	南山堂
月二十	月一十	月二十	月一	月四	月九	月六	月六	月九	月三	月三
▲昭和五年度に於ける入試問題及び解答を集録した獨逸語詳解書。	▲高等獨作文に必要な知識を要領よく譯めて説けるもので、文章の成文とその他の配列法外二篇。附昭和五年度試験問題其他。	▲主として昭和四年度の問題を用ひて解答を施せるもの。	▲無味乾燥なる初歩の讀本を、興味本位に習得出来るやう編まれたもの。	▲文字及發音論、品詞論、文章論の三部門に分け收めた第二語學用の短かき文法書。	▲文章の理解に必要な要點を組織的に配列し構成外四講。附獨逸語發音指針。	▲初學者の爲に平易に獨逸文法の一般に涉つて詳述せるもので、聲音、詞の種類、名詞、冠詞外九章。	▲どうしても覚えて置かれなければならぬ獨逸語文法上の知識を初學者にも容易に會得出来るやう説明せるもの。	▲強變化動詞を、變化法式に従ひ十餘種類に分類し、之を暗記し易きやうに仕組んだもの。	▲文法の基礎知識を記憶し易い順序に配列したもので、例題や單語には一々譯を施す。	▲強變化動詞を、變化法式に従ひ十餘種類に分類し、之を暗記し易きやうに仕組んだもの。

獨文學・註釋書

舟木重信編	獨文西部戰線異狀なし	並製 四六判	104	七〇	大學書林	月七	▲ルマルク作「西部戰線異狀なし」を適宜に拔萃したもの。原作の内容、文體を「獨逸新即物主義を學習者に紹介する目的。
山岸光宣編	拔ヱルテルの悲しみ	上製 四六判	110	六〇	大學書林	月七	▲ゲーテ作「若きヱルテルの悩み」を、教材に適當するやう拔萃したもので附録に文法的內容的註譯を附す。
權田保之助譯註	映畫百面鑑	洋布 三六判	163	一、三〇	有朋堂	月二	▲現代獨逸に於ける各部門の權威者の映畫に關する多面性を紹介せるもので、映畫國際性(ルビッチ)外十四篇。
小池堅治譯	獨和 鷗外小品	上製 四六判	218	一、五〇	郁文堂	月六	▲かのロマンテイツクな戀愛を寫した故森鷗外氏の作「文づかひ」「舞姫」と「假面」の三つとを獨逸に譯して對照したもの。
關泰祐 櫻井和共編	詩と人生	布裝 四六判	140	一、〇〇	大學書林	月九	▲現代の獨逸文壇、論壇の代表作家の散文を集録し註解を附す。
大學書林編集部	獨逸新興文學傑作集	並製 四六判	74	四〇	大學書林	月二十	▲大戦後の作家の新作を集録したもの。
柏谷眞洋編	獨逸諧謔小品集	布裝 四六判	140	一、二〇	新撰書院	月三	▲高等學校程度のもので、最近の獨逸新聞から、平易にして面白い諧謔小品廿二篇を輯録し、各篇二個の漫畫を挿入す。
舟木重信編	獨逸古今文選	布裝 四六判	120	一、〇〇	大學書林	月四	▲獨逸古今の文壇、論壇の大家の大文字を集録し註解を施したもの。
山田幸三郎編	級上獨逸散文集	上製 四六判	104	九〇	大學書林	月二十	▲シュテューセマン、イ・ヴォルフ、ライテナウ、ヴェント、フーフエラント、フイヒテ等の名論説を集めたもの。

丸善株式會社編	獨文記論集	並製 四六判	96	八五	式丸會社	月二	▲Diem氏の體育論、及 Parlsen氏の智育論を收む。
村田正太	獨逸の醫學雜誌から	布裝 四六判	340	四、〇〇	金原商店	月二	▲「獨逸の醫學雜誌より、其の要點を抜きとつて、解釋を施したもの。
大學書林編集部	醫學老醫の思ひ出	上製 四六判	120	一、〇〇	大學書林	月二	▲グスマール博士の「或る老醫の青年時代の回想録」の拔萃と、ベルリン新聞所載の通俗醫學講話を集録した醫學讀本。
小原度正編	高等獨文抄釋	布裝 三五判	120	八〇	日獨書院	月二十	▲高等なる難問を文理科兩方面より取り入れて、之に譯註を附したるもの。
杉山茂知譯註	獨和 法律學概論	洋布 三六判	105	九〇	南山堂	月一十	▲法律家の大家グスタフ・ライトブルフ氏の著に譯註を施せるもの。
權田保之助譯註	近世資本主義	洋布 四六判	164	一、三〇	有朋堂	月一十	▲其始期より現在に至る迄の全歐經濟生活の史的系統的敘述で、經濟の多極性と被制的性外二章。
野田淨曜譯註	哲學の概念に就て	布裝 三六判	145	一、二〇	南山堂	月六	▲雜誌ロゴスの創刊號の卷頭を飾つた論文で、リツケルトの哲學的立場を明快に語るもの。
杉山勝年譯註	經濟學	布裝 三六判	183	一、四〇	南山堂	月三	▲經濟學の本質を探求し其歸屬する所を明かにした科學分類論。
生駒佳年譯註	獨逸小論文選	上製 四六判	84	六〇	大學書林	月九	▲初級卒業へたものに與へる中級論文集で生理、心理、教育、哲學等の小論文を集録す。
高坂義之	獨逸小論文選	上製 四六判	84	六〇	大學書林	月九	▲處世訓あり、語學餘談あり、哲學論文あり、隨想あり、凡ゆる種類の論文に慣らさうとの目的の下に編まれたもの。
田代光雄編	クライネ・エッセー	並製 四六判	53	四〇	日獨書院	月七	

丸善株式會社編	獨文記論集	四六判 並製	65	六〇式丸善社株	月三	▲Munth氏の「無爲に就く」Chamberlain氏の「ザンツタニズム」Kosemann氏の「全人論」を収む。
---------	-------	-----------	----	---------	----	--

佛蘭西語

大塚外語教授 廣西大學講師 德尾俊彦	佛蘭西語四週間	四六判 洋布	248	大學書林	月六	▲一日一課宛とし文法譯讀等を當てるやう説述せるもので、第一週發音其他、第二週文法其他、第三週譯讀其他、第四週文法其他。
慶應義塾工學校教授 秋田玄務	獨習佛蘭西語新講	四六判 布裝	478	白水社	月三	▲發音篇(發音上の注意、單子音又は單父音、外十三章)の二篇及讀物十四篇、冠詞外九章)の二篇及讀物十四篇。
文學士 桃井鶴夫	輸入自修佛語讀本	四六判 上製	143	太陽堂	月二	▲英獨何れかの素養があれば全然佛蘭西語の知識なくして理解出来るやう説明せるもので、第四十七課笛吹男迄を収む。
文學士 藤崎俊茂	自修フランス語研究	四六判 洋布	674	太陽堂	月一十	▲初級の人を對照に説けるフランス語研究で(初級自修編(發音の大意外十章) 上級自修編(句讀法の部外十四章)。
丸山順太郎	續和英獨習フランス語捷徑	四六判 洋布	232	白水社	月五	▲普通難解とされてある文法を實例に依つて示せるもので、Le Printemps, La Breve de Saint-Michel 外十七章。
荒川金之助 藤本忠民 安藤忠民 デアン 大塚外語講師 德尾俊彦	佛蘭西語基礎十講	四六判 洋布	729	歐亞社	月十	▲佛蘭西語の初歩よりの學習書に極めて緊要な講義を上下二卷に分ちて上卷三課目、下卷七課目を收録せるもの。
文學士 齋藤一寛	佛蘭西語發音五時間	四六判 並製	92	大學書林	月九	▲初歩からフランス語を學ばふとする者が第一階程として知つておければならぬ發音法の一般について述べたもの。
山田原實	佛蘭西合理的暗記法	三六判 洋布	320	白水社	月四	▲平常必要な語を科學的方法によつて排列し系統をたて自然と單語を記憶出来るやう説いたもので、基礎部外二篇。
桃井鶴夫	佛蘭西基礎單語暗記法	三六判 上製	252	太陽堂	月二	▲佛蘭西語學習上の基本單語五千語を辭書風にABCの順に並べ最も一般的な譯語を附せるもの。
鷺尾猛	タイム佛蘭西語基礎四〇〇〇	三六判 並製	336	タイム出版	月五	▲基礎的な常用單語四〇〇〇語を暗記に便なるやう項目別にして収む。
女子學院教授 井上源次郎	ガリシスムの研究	四六判 洋布	261	白水社	月九	▲實例によりてガリシスムの意味を味得せしめるやうに説述した重要なガリシスムの研究書。
桃井鶴夫	正しく愛佛蘭西文法入門	四六判 上製	155	太陽堂	月二	▲初學者に必要と思はれる規則を細大漏らさず説述せるもので、發音、ことばの種類、名詞冠詞外七章。
東京義塾大學教授 文學博士 後藤末雄	佛文和譯研究	四六判 布裝	298	都文堂	月六	▲古今の名著中より名文を拔萃して文法的見地から分析し、名著紹介的に説明を試みたもの。索引二十頁。
シヤルル・ルイ・ワイリツフ 小牧近江譯	佛蘭西文法譯研究	四六判 洋布	197	白水社	月一十	▲短篇集「小さな町」より「歸宅」「老人の死」その他六篇を抜き詳細に譯註せるもの。

西班牙語・伊太利語

大島政志	西班牙語獨習書	四六判 洋布	304	春陽堂	月七	▲初學者にもスペイン語の知識が容易に習得出来るやう解説せるもので、發音の部、文章に就いて其他。
酒井市郎	獨西班牙語讀本	四六判 洋布	118	岡崎屋書店	月六	▲一般獨習者の爲に西班牙語を説述せるもの、規則動詞の變化其他。

松村重美	松村重美	英語現代米語小辭典	三五判 洋布	323	一、〇〇六 出版	九月	▲現在米國で使用されてある言葉を英語對照にして説ける辭典。
下村重美	獨和保險用語新辭典	新四六 洋布	538	三、五〇二 太陽堂	二月	▲保險並びに會計に關する用語をアルファベット順に、英佛獨語を夫々區別して採録せる辭典。	

H・G・ウエルズ著
加藤朝鳥譯

世界は動く 忽七版

定價 一・五〇 送料 一二 東京堂

日本神學校 高倉德太郎著

最新刊 基督教世界觀

四六版二〇〇頁 定價壹圓
總布裝高雅 送料十二錢

「今日程、思想と生活と信仰とが根本的に動搖し、世を擧げて不安と恐怖とに脅かされてゐる時代は稀である。今は確乎たる信仰と共に明確な世界觀が切に求められてゐる。基督教世界觀の樹立こそ我らの急務である。」とは著者自序の一節である。敢て大方に薦む。

山谷省吾著 第一卷

最新刊 新約聖書新譯

四六版二五〇頁 定價一圓四十錢
總布裝上製 送料十二錢

「嚴密なる學的研究と實際的經驗により著者は多年の研讀の結果、此に新約聖書の本文の新譯と多釋を公にした。其の口語譯は綿密周到なる原典の究の果であり、其の註釋は近代の批評的研究の態度をよく消化して居る。」

征矢野晃雄著 定價十二圓
送料十八錢

信仰と道德

收むる處説教十二篇、論文感想四篇、何れも眞理の探求に忠實であり、絶對の信頼を神に捧げた著者の眞剣な態度が現はれてゐる。

征矢野晃雄著 スチヌスの研究 價二圓半
送料十八錢

羅馬書之精神

聖書中の珠玉羅馬書の講解説教二十三篇を收む。本書に於て羅馬書の眞精神は遺憾なく解明せられた。

今泉源吉著 神社問題の史的考察 近刊

高倉德太郎著 福音的基督教 價十二圓
送料十二錢

三七五

京東替振 店書崎長 田稻早込牛京東 一七四町卷鶴 進日呈錄

帆足理一郎著

東京早稻田大學出版部
電話牛込三四五・三四六
振替東京一三三六八九〇〇

西洋哲學史

四六判六〇〇頁
總布函入美裝
總索引完備
定價貳圓五拾錢
郵稅拾六錢

最新刊

著者は曩に名著「哲學概論」を公にして既に數十版を重ね、今又茲に哲學の史的殿堂を啓く。本書は一讀明快、前著に譲らず、辭藻流麗、筆致簡潔、以てプラトン、アリストテレスの昔より、フッサアル、ラッセルの今日に至るまで、上下三千年の思想的發展を鳥瞰し、これを一卷の裡に縮圖してゐる、人類文化の移りゆく場面に史時代の思想家を一一々拉し來つて、其根本主張を透徹に把握し、明晰に解説し、彼等の性格、生涯をも參照しつゝ兼ねて又時代の背景、時勢の傾向をも洞察し、彼等の熱辯をして劇的に痛烈深刻ならしめてゐる。加之、本書は政治、經濟、宗教、社會思想の諸方面をも忽せにせず、そは宛然一個の文化思想史であり、又あらゆる生活理想の總括である。

六、美術・音樂

美術史・研究・隨想

著者	書名	形態	頁數	定價	發行所	月行設	內容大意
小林亮平	參考世界美術讀本	洋函菊布入判	378	三、五〇 一、八	中文館	月九	▲美術史の體系に従つて取材し作家のエピソッド、作風、傾向等を説明せるもので、原始時代の美術外十篇。
板垣鷹穂	美術史の根本問題	布函菊裝入判	262	二、六〇 一、三	天人社	月六	▲美術の歴史的理解に就いて、歴史學的勞作と歴史家の個性、美術史に於ける價值評價の問題外論文十篇。
板垣鷹穂	伊太利亞美術史	洋函菊裝入判	115	五〇 一、四	春秋社	月一	▲伊太利亞美術研究に就いて、イタリア美術の概観の二篇。附録イタリア美術略表。
川路柳虹	マチス以後	洋函菊裝入判	141	三、八〇 一、八	アトリエ社	月十	▲最近フランス畫壇の展望圖で、野獸性とマチス、奇才ピカソと立體派の分化、自然主義と新印象派畫其他圖版一〇一圖。
外山卯三郎	二十世紀繪畫大觀	並函菊裝入判	275	二、五〇 一、八	金星堂	月一十	▲二十世紀の繪畫を批判せるもので、二十世紀繪畫のイズム概論、野獸主義、立體主義、表現主義外三章、寫真版四十九圖。
平福百穂	日本洋畫の曙光	軟判菊裝入判	130	三〇、〇〇 六〇	岩波書店	月二	▲百穂畫伯が永年業餘の苦心を積んで我國洋畫史上の先覺者達の業績の地下に埋没せるを闡明せるもの、多數の圖版を添えて光彩あり

美術・音樂 (美術史・研究・隨想)

美術・音楽 (美術史・研究・随想)

松本 亦太郎	大隅 爲三	外山 卯三郎	小杉 未醒	アトリエ社編	横川 三果	阿部 金剛	永田 一脩	村山 知義	岡本 唐貴
諸民族の藝術	滿蒙美觀	前田寛治畫論	放庵畫論	最近美術の動き	現代美術を清算する	新藝術論システム	新藝術論システム	プロレタリア美術のために	プロレタリア美術とは何か
布面菊 裝入判	上菊 裝入判	並菊 裝入判	上菊 裝入判	並菊 裝入判	並菊 裝入判	並菊 裝入判	並菊 裝入判	並菊 裝入判	並菊 裝入判
598	169	256	151	317	259	115	127	292	411
七〇〇 二四	二〇〇 一八	二五〇 一八	一八〇 一八	一五〇 一八	一五〇 一八	五〇 一八	五〇 一八	一五〇 一八	一五〇 一八
改造社	中協文	金星堂	アトリエ社	アトリエ社	アトリエ社	天人社	天人社	アトリエ社	アトリエ社
月六	月四	月九	月五	月三	月十	月六	月五	月五	月九
▲主として東洋及び東洋隣接の民族の藝術的 ▲作品に就て究明せるもので、東洋美術品の蒐 ▲集、最近の日本畫外八章。 ▲西方諸國との關係を中心として支那の古代 ▲文化を研究せるもので、鳳凰と麒麟、滿蒙の ▲植物業外一章。 ▲外山卯三郎の前田寛治論及前田寛治の畫論八篇 ▲收めたもの。隨筆八篇、批評五篇、講演四篇を ▲過去の東洋、藝術的日本の位置、院展回顧 ▲遠方より見たる居たる黒田氏の事業外十九篇、 ▲附録清朝畫人の話柄外五篇。 ▲最近巴里畫壇概観(川路柳虹) 超現實派概 ▲觀(外山卯三郎) 新形態美論(仲田定之助) 新興 ▲藝術解説(村山知義) 外九篇。 ▲美術の社會性、既成美術集團の性格と社會 ▲的環境、美術批評不振時代の解剖、現代日本 ▲畫の反時代性外六章。 ▲セザンヌ前期、ダダイズム、純粹派、超現實 ▲派の七篇。 ▲プロレタリア繪畫の基礎、プロレタリア繪 ▲畫の發展と様式の推移、ソヴェート、ロシアの ▲最近の藝術に於ける機械美、アルブレヒト ▲アルトドルフェルの人と藝術、建築を通じた ▲風景外四章。改訂版。 ▲日本のプロレタリア美術と其の運動に就い ▲て論述せるもので、プロレタリア美術とは何 ▲か外四篇、寫眞版廿六葉。									

美術・音楽 (美術史・研究・随想)

板垣 鷹穂	板垣 鷹穂	板垣 鷹穂	黒田 辰男	高橋 栄川	外山 卯三郎	一九三〇年協會編	外山 卯三郎	外山 卯三郎	中川 紀元
新らしき藝術の獲得	優秀船の藝術社會學的分析	機械藝術論	樣式と時代	建築の七燈	造型美術概論	新洋畫研究	新洋畫研究	新洋畫研究	洋畫通
並菊 裝入判	並菊 裝入判	並菊 裝入判	並菊 裝入判	並菊 裝入判	並菊 裝入判	並菊 裝入判	並菊 裝入判	並菊 裝入判	並菊 裝入判
246	181	171	193	344	284	237	163	168	170
二、八〇 一八	三、五〇 一八	五〇 一八	九〇 一八	六〇 一八	二、八〇 一八	二、〇〇 一八	二、〇〇 一八	二、〇〇 一八	七〇 一八
天人社	天人社	天人社	叢文閣	岩波書店	建設社	金星堂	金星堂	金星堂	四六書院
月五	月二十	月五	月一	月六	月九	月四	月七	月十	月六
▲寺院より工場へ、現代建築の史的特質、機 ▲械美の誕生、三つの建築理想論、現代資本主 ▲義と建築外十二篇。 ▲視覺的分析された優秀船、優秀船の藝術 ▲社會學的分析等論文二篇及優秀船の視覺的性 ▲格描寫に就て(四項) 附載。 ▲機械美の誕生(板垣鷹穂) 機械と文學(新 ▲居格) 機械と演劇(村山知義) 機械と映畫(清 ▲水光) 機械と繪畫(中原實) 外五篇。 ▲ソヴェート・ロシアの構成主義藝術を説いた ▲もので、新様式の前提、建築に於ける構成と ▲形式外五章。 ▲藝術評論家としてのラスキンが前半生の諸 ▲著作中の最も重要なもの、一つで、犠牲の ▲燈、眞實の燈外五章。 ▲造型美術一般に關する全問題を綜合的に取 ▲扱つたもので、造型美術の起源、造型美術總 ▲論、純粹繪畫論外十章。 ▲世界現代繪畫概観(外山卯三郎) 現代フラン ▲ス作家論(中山巖) 野獸主義作家論(前田寛治) ▲キリコ論(伊原宇三郎) 外廿篇。 ▲現代繪畫の概論(外山卯三郎) 立體派 ▲の研究(前田寛治) 構圖と色彩(中山巖) 群 ▲像の研究(伊原宇三郎) 外三篇。 ▲第三卷は現代繪畫の技法研究で、繪畫技 ▲法(トイドラア) 寫眞版二十八圖。 ▲原宇三郎外六章。寫眞版二十八圖。 ▲洋畫と日本畫、水彩畫の話、藝術史の知識 ▲に就いて、日本の洋畫の歴史、風景畫と靜物 ▲畫外十三項。									

アトリエ社編	アトリエ社編	アトリエ社編	アトリエ社編	アトリエ社編
海外美術家印象記	海外美術家印象記	海外美術家印象記	海外美術家印象記	海外美術家印象記
並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判	並製 四六判
231	283	203	271	241
一、五〇八	一、五〇八	一、三〇八	一、五〇八	一、五〇八
アトリエ社	アトリエ社	アトリエ社	アトリエ社	アトリエ社
月二	月八	月三	月七	月五
▲海外を巡歴せられた多くの美術家の土産話で、巴里初歩(小寺健吉)春の伊太利旅行(三宅克己)外廿六篇	▲海外美術家達の印象記及び評傳逸話的記述其他作家自身の手紙記の類を収めたもので、ロオトの人と藝術―黒田重太郎外廿六篇	▲日本の各地を美術家が親しく探訪し、跋渉してその紀行的話題と共に寫生地としての案内を示せるもので、鎌倉小觀(椿貞雄)外廿九篇	▲美術を中心とした諸家感想隨筆の類を収めたもので、附録美術家十諸篇、畫生活隨筆十篇外二篇	▲明治初年の洋畫(淡島寒月)附録同時代のひとなど(富岡鐵齋先生)正宗得三郎)外九篇

東洋・日本美術研究

野田九浦	内田實	山名格藏	織田一磨	小室翠雲	横川三果	太田三郎	小出楢重	南薫造
狩野探幽	廣重	日本の浮世繪師	浮世繪の知識	田崎草雲先生の生涯	日本畫通	油繪の描き方	油繪新技法	水彩畫の描き方
洋画四六判	布判四六判	背画菊布入判	並製 四六判	布画四六判	上 四六判	背画四六判	上画四六判	背画四六判
198	582	493	210	300	185	228	181	162
二、〇〇〇	一、八〇〇	一〇、〇〇〇	一、五〇〇	二、〇〇〇	七〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇
泰東書院	岩波書店	第一書房	アトリエ社	日本南畫院	四六書院	崇文堂	アトリエ社	崇文堂
月八	月五	月四	月四	月一十	月二十	月八	月十	月九
▲探幽齋以前の狩野家外六章にて徳川初期の繪畫史を飾つた狩野探幽齋に就て記述したもので、國版廿二圖	▲日本の風土を驚くべき印象の技巧を以て如實に書き寫した廣重の藝術に就ての全解剖書木版色刷三圖、寫眞版三百九十九圖	▲アール・モリスン氏の世界的大著を骨子とし、我が浮世繪及び浮世繪師を檢討解剖せるもので、岩佐又兵衛外十八篇、挿畫百廿六	▲浮世繪の精神、初期浮世繪時代、錦繪時代、錦繪石版の概観、明治時代等にて詳述、附日本藝術史版の概観	▲八十四年の數奇なる運命と戦ひつゝ、南畫の爲に氣を吐ける田崎草雲氏の生涯を述べたもので、その出世時代外六十五篇	▲日本畫壇の素描、帝展の解剖日本畫の主要る、流派、帝展作家群の展覧、日本美術院を語る、院展同人の風貌其他	▲實技そのものに即して説いたもので、用具の五篇、作品廿二圖、靜物畫、風景畫、人物畫	▲油繪新技法、ガラス繪雜考、私のガラス繪に就いて、洋畫ではなげ裸體畫をかくか、近代洋畫家の生活斷片外十四篇	▲水彩畫を描く上に就ての諸注意を述べたもので、用具、實物寫生、構圖、調子、靜物、風景外三篇

アトリエ社編	鍋井克之	東郷青兒	アトリエ社編	西澤笛畝	小室翠雲	山本元譚	西田武雄	岡本一平
水彩・パステル・版畫の研究	新しき風景畫の進路	洋畫の描き方	日本畫の研究	日本畫の新しい描き方	日本畫の描き方	芥子園畫傳國譯釋解	エツチングの描き方	新らしい漫畫の描き方
並四六判	背四六判 洋布入判	並三五判	並四六判	上四六判	並三五判	和紙新編 絹入判	並四六判	布四六判 裝入判
320	242	105	279	184	105	408	112	432
一、五〇 八	二、五〇 三	一、〇〇 二	一、五〇 八	一、八〇 〇	一、〇〇 二	六、五〇 二四	八〇 四	一、五〇 二
アトリエ社	文啓社	誠文堂	アトリエ社	崇文堂	誠文堂	芸艸堂	木星社	先進社
月二	月六	月九	月一	月一	月二十	月九	月五	月一十
▲雑誌「アトリエ」誌上に掲載された水彩、パステル、版畫に關する製作上の記事を蒐めた書で、水彩畫入門(南薫造)外廿九篇。	▲油繪を主體として著者の經驗を語るもの外二部。新洋畫研究のノオト、油繪新技巧の研究	▲洋畫の描き方を説くと同時に洋畫そのものを述べたもので、洋畫の起源、繪畫の要訣寫生外廿一章。	▲日本畫研究に是非とも必要な眞諦を最も簡潔平易に、川端氏、鏑木氏、小杉氏外現畫界の錚々たる諸氏が説かれたもの。	▲古來の東洋畫の畫法に、西洋畫の長所を加へ最も新しい修得の技法によつて説かれたもの。	▲材料、一般畫法、彩色法、四君子の畫法、風景畫の一般心得、附録芥子園畫傳要譯(美術)	▲多くの圖を入れて漢畫の方式を説いた「芥子園畫傳」の譯で、これに註解が收めてある。堅八寸五分横五寸和紙二冊。	▲エツチング略史、エツチングとは、道具及種類外十一章。	▲新しき漫畫の描き方集、論文隨筆集、單篇漫畫集の三篇。

圖

案

藤野光風	野澤秀雄	岡登貞治	板橋安五郎編	津田青楓	熊岡美彦	日本藝術學會編	石井鶴三	日本藝術學會編
新ら圖案の描き方と其資料	畫と文字の圖案化資料	新選圖案集	抒情カット圖案集	裝幀圖案集	熊岡美彦滯歐畫集	里見勝藏畫集	石井鶴三素描集	中山巍畫集
布四六判	上四六判	布四六判	背四六判 洋布入判	入四六判 布裝入判	布四六判	並四六判	幀四六判	並四六判
140	388	10	116	30	178	62	24	55
一、七〇 二	二、五〇 二	二、八〇 二	二、〇〇 一八	一、三〇 三六	六、〇〇 二四	二、五〇 一八	三、五〇 一八	二、五〇 一八
富文館	富文館	大同館	實文館	芸艸堂	美術新論社	建設社	光大社	建設社
月一十	月二十	月一十	月八	月二	月六	月一十	月五	月二十
▲圖案に就いて、圖案の構成、色彩感覺について、廣告圖案の描き方、陳列窓の廣告圖案の價値外十九章。	▲圖案の基本構圖、圖案作成様式、鳥類圖案、クショカド圖案、クリスマス用ウキンドパツク圖案其他を收めた圖案資料集。	▲植物、動物、人物、器物、景色、天象地文文字等一千三百十八個を集録せる圖案集。	▲竹久夢二、加藤まさを、岩田専太郎、須藤重、川上四郎、田中良、落谷虹兒氏の抒情カット圖案を收めたもの。	▲津田青楓畫伯の裝幀圖案集で、夏目漱石著新潮社發行の「色鳥」の表紙カンバス地木版刷及同箱等三十圖を收む。	▲水瓶を持てる女、ルクサンブル公園晚秋、カニエの水車小屋、漁村外六十六葉。附録紀行及感想。	▲男の肖像、室内、娘の化粧、女と花外作品廿四。里見勝藏論(外山卯三郎)里見の肖像畫(三岸好太郎)外四篇。	▲裸體習作、きやり、夜相撲、信濃男、忠臣藏五段目、アイヌ部落、ひげをそる男、一萬米鏡走外十六圖を收む。	▲フランス風景、家族、青背座婦、フキレン、チエノ街、文書く人外作品廿九及び「中山巍論」四篇。

畫集・圖錄・遺墨

美術・音楽 (畫集・圖録・遺墨)

三八四

朝日新聞社編	大觀渡伊スケツチ集	四六倍判並製	42	一、八〇八	朝日新聞社	月八	▲今春ロイマで開かれた日本美術展覽會に代表委員として使ひされた横山大觀畫伯の十五點及び大智勝觀畫伯の二十點を収む。
アトリエ社編	現代滯歐作品選集	上菊製判	28圓	一、五〇二	アトリエ社	月六	▲讀書—黒田清輝、リヨン・ド・ベルフ、石井柏亭、山下新太郎の作を収めたもの。
アトリエ社編	現代日本畫家傑作選集	上菊製判	28圓	一、五〇二	アトリエ社	月二十	▲現代日本畫壇の主要な人々の作品を網羅したもので、栖鳳の「蹠合ひ」大觀の「夜櫻」其他二十六圖
アトリエ社編	泰西名家傑作選集	上菊製判	28圓	一、五〇八	アトリエ社	月二十	▲泰西名家の傑作を原色版で収めたもので、婦人像—グレンコ、風景—セザンヌ、扇を持つる女—ドンケン外廿五圖
アトリエ社編	風景畫選集	上菊製判	28圓	一、五〇八	アトリエ社	月二十	▲現代日本洋畫家のものを中心とし、若十の佛郎外二十七圖
アトリエ社編	静物畫選集	上菊製判	28圓	一、五〇二	アトリエ社	月九	▲現代洋畫家の作品を中心として、外國作品若干及洋畫の静物畫に類する日本畫家の作品を添へたもので、薔薇—山下新太郎外廿七圖
アトリエ社編	人物畫選集	上菊製判	28圓	一、五〇二	アトリエ社	月九	▲人物畫家としての現代の洋畫界の名手の作品を蒐めたもので、小憩—満谷國四郎、裸體田邊至外二十六圖
外山卯三郎編	パブロ・ピカソ	並判四六倍製入倍	60	一、〇八二	金星堂	月一十	▲パブロ・ピカソ(ギヨム・アポリネール)の最新原色版一冊、寫眞版十六圖
美術新論社編	新ドラマン畫集	布判四六倍製入倍	32圓	一、五〇二	美術新論社	月二十	▲少女、ピエロとアルカン外原色版二冊、佛酒を飲む男、裸體素描、葡萄のある静物、南風風景外單色版廿四圖
外山卯三郎編	マチス素描集	判並製四六倍	25	二、五〇八	建設社	月十	▲里見勝藏氏の譯に成る、ヴラマンクノ詩及び風景以下廿五作品を収めたもの。モーリス・ド・ヴラマンク規矩男

美術・音楽 (畫集・圖録・遺墨)

三八五

外山卯三郎編	近代素描選集	上菊製判四六倍	48圓	一、五〇二	アトリエ社	月九	▲エコール・ド・パリのグラン・メトルとして知られてゐるマチスの素描作品三十圖を収めたもの。マチスの素描—外山卯三郎
美術新論社編	ルオ素描集	布判四六倍製入倍	38	一、五〇二	美術新論社	月六	▲近代に於ける泰西名家のデッサンを集めたもので、アンダール、ゼリコロ、ドラクロア、コロオ外四十四圖
柳瀬正夢	柳瀬正夢畫集	判並製四六倍	100	一、五〇八	叢文閣	月二	▲原色版二枚寫眞版三十二枚の畫集で、ルオの作家としての言葉も掲載
日本プロレタリア美術家同盟編	プロレタリアカット漫畫集	判並製四六倍	32	二、三〇二	戦旗社	月五	▲柳瀬正夢氏の戰闘的漫畫集で、さあ兄弟手を握らう、農村の暴風、中々よく踊るぞ、此の暴風と戦へ外九十六圖
林唯一	林唯一挿繪選集	判布製四六倍	67	三、〇〇二	ユウヒ社	月八	▲日常闘争の中に於て重要な役割を果してゐる漫畫やカットを集約するもので、象徴的かつト、記念デ、其他廿七圖—發賣禁止
清水多嘉示	清水多嘉示作品集	並製菊倍判四六倍	68	並特、二、〇〇〇、二、一〇〇	木星社	月二	▲東京日々及び大阪毎日新聞紙上に發表された小説「麗人」この太陽の挿繪五十九圖を収めたもの
美術工藝會編	帝國美術展覽會原色畫帖	判併入四六倍	90	七、〇〇八	美術工藝會	月一十	▲清水多嘉示氏の滯歐作品集で、原色版十四葉、寫眞版四十葉を収む
巧藝社編	第十回帝國展集	並製菊倍判	64	一、〇〇二	巧藝社	月一十	▲帝國美術第十一回美術展覽會出品中會員、委員、無鑑査特選其他優秀畫等、我國現代美術大家の傑作を収めたもの
山下新太郎編	二科畫集	判並製四六倍	64	一、〇〇八	二科會	月九	▲日本畫之部、洋畫之部、彫刻之部、工藝之部より成る第十一回帝國展集

美術・音楽 (畫集・圖録・遺墨)

朝日新聞社編	第九回南畫展	四六倍 判並製	64	六〇 一八	朝日新聞社	月九	▲第九回南畫展出品を収めたもので、惠風 ▲赤松雲嶺、池趣、蘆蕪、清溪、福田浩 湖外八十二。
日本自由畫壇編	日本自由畫壇第十回展覽會圖録	四六判 上製	27	三〇〇 一八	芸艸堂	月十	▲昭和五年十月展覽會の出品全部登載。
菊池契月塾編	菊池塾第六回展覽會畫集	菊倍判 和綴	120	七〇〇 二七	芸艸堂	月六	▲昭和五年五月展覽會出品全部登載。
西山翠嶂塾編	青甲社第七回展覽會圖録	菊倍判 上製	81	七〇〇 二七	芸艸堂	月七	▲昭和五年五月展覽會出品全部登載。
中央美術社編	歌舞伎繪大成 <small>寛政期</small>	四六判 布製	165	六〇〇 二四	中央美術社	月七	▲二人又平、東洲齋寫樂筆外六十二圖及び伊 原青々園氏の寛政期の歌舞伎劇、山村耕花氏 の解説、春山武松氏の上方の芝居繪等を収め れたる肉筆浮世繪展覽會の圖録。
博物館蔵版	浮世繪展覽會圖録	四六判 紙製	50	三〇〇 四五	大塚巧藝社	月九	▲圖版百五十八圖解説五十頁。
彰美會	浮世繪人化粧美傑作圖録	四六判 紙製	208	一〇〇〇 三六	芸艸堂	月五	▲圖版百四十圖解説二十三頁。
彰美會	國芳版畫傑作集	四六判 紙製	160	九〇〇 三六	芸艸堂	月十	▲三原氏蒐集中の逸品六十餘點が帝國美術院 附屬研究所に於て展覧され、其の名品六十餘點を原色 版畫に附し収録したるものである。
美術研究所編	浮世繪版畫展覽會日録	菊倍判 並製	46	八〇 六	岩波書店	月十	▲南蠻船渡來を題材として取扱へる當時の風 俗屏風の畫集なり。
永見徳太郎編	南蠻屏風大成	四六判 紙製	132	二八〇〇 二〇	巧藝社	月七	

美術・音楽 (畫集・圖録・遺墨)

京都博物館蔵版	抱一上人畫集	四六判 紙製	62	八〇〇 五四	芸艸堂	月六	▲昭和五年四月恩賜京都博物館にて抱一上人 遺墨の特別展覧會開催其の名品六十餘點を原色 版畫に附し収録したるもの。
西澤笛詠編	石澤花卉畫譜	四六判 紙製	22	一五〇 一八	芸艸堂	月七	▲石澤及び李輝の描ける花卉の小品圖を鮮明 なるコロタイプ刷に附したるもの。
日本工藝學會編	現代陶磁工藝圖集	菊倍判 洋布	30	一五〇 八	日學本會工	月十	▲東西名作圖案模様中より花鳥に關するもの 々みを集輯せるもの。
日本工藝學會編	花鳥圖案模様集	菊倍判 洋布	30	一五〇 八	日學本會工	月五	▲魚介類の眞を寫し精巧なる原色版に附し詳 細なる解説を加ふ。
田子勝彌編	日本魚介圖譜 <small>第三輯</small>	大判 紙製	20	六〇〇 二七	芸艸堂	月三	▲故高橋博士の蒐藏品、千二百餘點の内より 精選して約一千點を収む。
高橋健自編	古瓦圖鑑	菊倍判 紙製	200	三五〇〇 四五	大塚巧藝社	月十	▲正編以外の徳川中期時代の小袖振袖の逸品 百點を精巧なる原色版印刷に附したるもの。
野村正治郎編	續誰が袖百種	大判 紙製	100	七〇〇〇 一〇〇	芸艸堂	月一	▲李朝五百年間に、朝鮮が生んだ工藝美術中 の木工に關する作品にして、諸名家秘藏に係 るもの二百三十餘點を集載す。
岡田三郎助編	李朝木工作品集	菊倍判 紙製	93	八〇〇 六〇	巧藝社	月四	▲啓明會創立十週年記念として開催された展 覽會の圖録で、琉球、朝鮮、波斯、中央亞細 亞、及一般事業成績の五部に分ち収む。
大岡三郎編	時代木工作品集	菊倍判 紙製	93	八〇〇 六〇	巧藝社	月四	▲裝飾彫刻の寫眞を網羅したもの。
小場恒吉編	東洋工藝集粹	菊倍判 紙製	129	八〇〇 二四	巧藝社	月一十	
啓明會編	東洋工藝集粹	菊倍判 紙製	129	八〇〇 二四	巧藝社	月一十	
構成社編	裝飾彫刻	四六判 紙製	36	一五〇 二二	巧藝社	月一	

大熊喜邦編	續古鐔圖録	四六判 上製	102	三、三〇	洪洋社	月十	▲桐文紗綾形透圓形鐵鐔以ト鐔百一圖を掲げ之に圖柄の説明と意匠の批判をなしたものの。
土井撰美堂	現代大家色紙百趣	四六判 判上製	50	三〇〇	芸艸堂	月四	▲現代畫壇の大家執筆の色紙百點を鮮明なるコロタイプ印刷に附したるもの。
高野隆雅	名人俳畫千熊	和蘭菊 綴入判	105	二〇〇	刊日本 行會書	月一十	▲古今名人の名句を選びこれに俳畫を添へたもの。
伊藤松宇	誹諧師手鑑	和蘭菊 綴入判	231	八〇〇	厚生閣	月一十	▲前集には俳諧の鼻祖守武、宗鑑を始め貞門の一派其他、後集には青蓮院尊澄法親王殿下をはじめ當代の凡ゆる階級の人々を網羅す。
勝峰晋風編	芭蕉翁遺芳	和蘭菊 綴入判	78	三〇〇	春陽堂	月五	▲諸家秘藏の俳聖芭蕉翁の遺蹟中より文獻的に考證の確實なものを撰び寫眞版として掲げたもの。
日本美術協會藏版	文晁遺墨集	和蘭菊 綴入判	118	七〇〇	巧藝社	月七	▲畫聖文晁先生の傑作六十八點百二十七面全部を精巧なコロタイプ版に複製せるもの。
青山會館編	安政大獄關係志士遺墨集	和蘭菊 綴入判	112	七〇〇	巧藝社	月五	▲安政大獄に關係せる橋本左内、頼三樹三郎、梅田雲濱、梁川星巖其他數十烈士の遺墨遺品集。
伊藤博文公遺墨集	伊藤博文公遺墨集	和蘭菊 綴入判	146	一五〇〇	巧藝社	月一十	▲伊藤博文公の遺墨として現存する揮毫、記録、書簡等を蒐集せるもので、六風一首選大山總司令官出征其他。
支那書道史概説	支那書道史概説	洋函菊 布入判	588	五、八〇	大同館	月三	▲支那書道の變遷、沿革を時代的系統的に敘述し古來の書家を評論し其の作品を解説品階せるもの。

岩田冠平編	書道秘訣集成	和蘭菊 綴入判	318	一、三〇	文書堂	月五	▲解し易く書道の秘訣を説いたもので、自己に忠實、用筆の術語、我國書道、假名の練習篆書と隷書外四十八編。
尾上柴舟	日本書道史	和蘭菊 綴入判	99	二〇〇	雄山閣	月七	▲始源より今日に到る迄の大家の書を掲げて詳論せるもの。
樋口銅牛	晋唐名法帖	和蘭菊 綴入判	122	二〇〇	雄山閣	月五	▲晋唐時代の王羲之顔真卿其他の大家の法帖を範例とし、百餘點を掲載解説せるもので支那書道史要を附録とす。
岡山高蔭	高蔭假名帖	和蘭菊 綴入判	120	二〇〇	雄山閣	月八	▲假名の本體名書研究用筆其の運筆法點畫用墨紙硯等の研究方法を詳述す。
樋口銅牛	碑帖の研究	和蘭菊 綴入判	124	二〇〇	雄山閣	月一	▲名碑帖の範例を掲げて古碑法帖の概念、文貯及學習法を講述したもので、各時代の名人墨蹟の蒐存状態にまで論及す。
中村春堂書	書鑒	和蘭菊 綴入判	222	二〇〇	雄山閣	月一十	▲蘭亭序(楷書)、歸去來辭(行書)、楠公淡川碑(草書)、徒然草ぬきほ(かな交り文)の四冊より成る習字帳。
丹羽海鶴	楷書の書方	和蘭菊 綴入判	116	二〇〇	雄山閣	月四	▲教育勅語を範例となし楷書の書き方、姿勢、執筆法、腕法、筆の選擇等を詳解す。
丹羽海鶴	行書の書方	和蘭菊 綴入判	115	二〇〇	雄山閣	月十	▲諸葛孔明の出師表を略解し、之れを一字々々の點畫に得る迄筆法を詳解す。
比田井天來	天來習作帖	和蘭菊 綴入判	131	二〇〇	雄山閣	月二十	▲漢字の眞髓をなす王羲之初め、諸大家の臨書を滿載したもの。
千葉胤明	色紙の書方	和蘭菊 綴入判	120	二〇〇	雄山閣	月一十	▲色紙の書方及び型を詳述したもので古來能筆家の逸品色紙百餘の範例あり。

美術・音楽 (書道・工芸)

阪正臣	後藤朝太郎	市河米茶編 松雲堂編輯所註解
短冊懐紙の書方	硯及筆墨研究	新註墨場必携
菊倍判 並製	菊倍判 並製	新判新四六 洋函布入判
122	122	1120
二、〇〇 二二	二、〇〇 二二	二、五〇 二二
雄山閣	雄山閣	松雲堂
月六	月九	月二
▲範例として古筆者の名品を掲げ、各體及び流儀を示して詠草短冊懐紙の書方や折方等を詳述す。	▲日支の硯筆墨紙等をあげて比較研究せるもので、古來支那名硯端溪其の他を詳述す。	▲經書、諸子類の語、漢魏六朝から唐宋元明清に至る諸家の詩句を収録し書畫家に珍重せらるる墨場必携の註解書。

工

藝

藤井達吉	アトリエ社編	今田謹吾	大森光彦	上田恭輔
美術工藝の手ほどき	工藝美術を語る	陶器の鑑賞	陶窯巡り	支那陶磁雑談
並四六判 製入判	並四六判 製	布函四六判 裝入判	洋函四六判 布入判	布函四六判 裝入判
328	329	220	582	380
二、〇〇 二二	一、八〇 二二	二、六〇 二二	三、五〇 二二	三、五〇 二二
博文館	アトリエ社	厚生閣	太陽堂	大阪屋號
月一	月七	月六	月五	月三
▲圖案について、言葉、漆工、刺繍、染色、皮革細工、焼物、七寶、木工、金工、雜の部等にて説述。	▲現代佛蘭西工藝の推移―田邊孝次、工藝美術といふ概念―青山民吉、作る者から觀る者へ―高村豐周外卅七編。	▲陶器に就ての鑑賞を一般的に説いたもので、陶器の製作過程の話、支那陶器の話外四篇。	▲一般素人の人の爲めに面白く陶器の知識を得られるやう説いたもので、瀬戸の素焼、洞の入口外十三篇。	▲茶碗と茶經、支那の骨董屋の話、キッチンナリ元帥の支那陶器に關する挿話、支那陶磁の研究を薦む外十三篇。

美術・音楽 (工藝・刀劍)

清水孝敦	川口陟	高瀬羽阜	西川友武	武井武雄	武井武雄	原文次郎	富本憲吉	大宅經三	
諸傳名刀鑑別法	新刀古刀大鑑	増補刀劍鑑定備考	新らしき玩具の構成	日本郷土玩具 ―西の部―	日本郷土玩具 ―東の部―	尾張の古陶	樂焼工程	李朝風の窯跡と油壺の研究	
洋函三六判 布入判	背函菊革入判	洋函四六判 布入判	布函菊裝入判	布函菊裝入判	布函菊裝入判	布函四六判 裝入判	上函四六判 裝入判	布函四六判 裝入判	
338	2756	304	279	404	341	297	193	261	
二、〇〇 八	三、〇〇 九〇	一、八〇 二二	三、五〇 一八	三、五〇 一八	三、五〇 一八	三、五〇 二二	二、〇〇 二二	二、八〇 二二	
太陽堂	南人社	嵩山房	資文堂	地平社	地平社	萬里閣	采文閣	大阪屋號	
月五	月二十	月六	月五	月三	月一	月十	月十	月一	
▲初心者にも分り易きやう術語に一々註解を加へて刀劍の新らしき見方を説いたもので、良刀を早く見分ける法外十二章。	▲上下二巻に分け刀劍鑑定につき詳説せるもので八百有餘掲げたり。	▲古刀新刀の總てに涉り鑑定の特長を比較研究せるもの。	▲玩具の史的考察、原料材料關係、或は生産方面より販賣に關して等より説述せるもので、玩具の趣味と必需性外五章。	▲滋賀、三重、奈良、京都、大阪外十九縣及び臺灣、朝鮮等各地の郷土玩具について多くの寫眞を挿入して説述。	▲北海道、東京其他二十一縣の各地さまざまの郷土玩具に就て多くの寫眞を挿入して記述したものである。	▲尾張の陶磁器に就て述べたもので、尾張窯業藝術の史的回想。陶祖春慶翁の入宋に就て犬山の道平外七篇。	▲樂焼及びそれと類を同じうする陶器の工程に就て述べたもので、工房及び備品、素焼前の裝飾外十章。	▲朝鮮から渡來した李朝の陶工がその技を揮つたその系統を汲む窯場の研究で、他に津に就て、油壺外二篇併載。	▲朝鮮から渡來した李朝の陶工がその技を揮つたその系統を汲む窯場の研究で、他に津に就て、油壺外二篇併載。